福岡県バドミントン協会五十年史



福岡県バドミントン協会

Fukuoka Badminton Association

50th Anniversary

はばたく



福岡県バドミントン協会50年史副題について

「 は ば た く 」

この度、福岡県バドミントン協会50周年記念誌編纂委員会の一人として、みんなで記念誌の副題を考えて来て欲しい旨の話があり、提出したのがこの「はばたく」でした。

「はばたく」の発想は、“羽をたたく”と言う単純にゴロ合わせ的な発想なのですが、辞書を引きますと“羽撃く”と載っています。即ち、鳥が飛び立つ際に両方のつばさを大きく広げて、ばたばたと撃ち振るう様を形容した言葉であります。

バドミントン競技は、大正時代にすでにわが国に伝えられたスポーツなのですが、一般には認知も低く振興スポーツの感があるのを中々拭えなかったのが現実であります。そうした意味合いからも、この50周年間に福岡県バドミントン協会の歩んで来た道のりは、鳥の“羽ばたき”にも似て力強いものであり、真に相応しいものではなかったろうかと考えます。

皆さんの同意が得られて「はばたく」が副題に採用されこの上ない喜びです。

苣木　章

写真で見る50年



西園富吉県協会会長（左）と和田寿
（昭和25年）



屋外バドミントンを観る西園富吉（左）
今雪美千恵（中央）、中村高治（右）
（昭和30年代　福岡市中央区小笹）



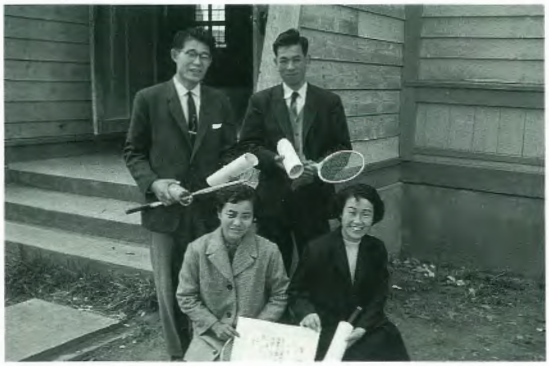
屋外バドミントン試合風景
（昭和30年代　福岡工業高校）



九州大学教養部（福岡市）の体育館で行われたバドミントン大会
（昭和33年11月６日）

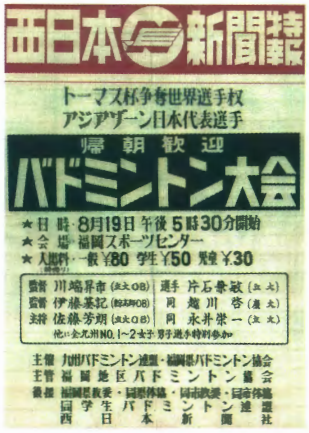




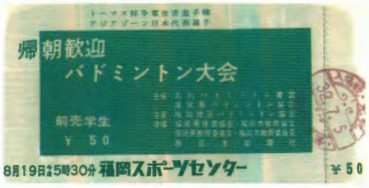


トーマス杯争奪世界選手権 帰朝歓迎バドミントン大会

（昭和32年８月19日　スポーツセンター）



ポスター（たて77.3cm×よこ 54.4cm）





（プログラム）



後援賞の
ネクタイピン

全日本学生選手権大会（昭和33年11月　久留米市）



左から和田寿、秩父宮妃殿下、西園富吉



（プログラム）

第３回日韓親善バドミントン大会（昭和38年９月26日　久留米市）



日韓両国の役員・選手団石橋文化センター体育館前



（プログラム）

第15回全日本実業団
バドミントン選手権大会
（昭和40年６月18～22日　北九州市）



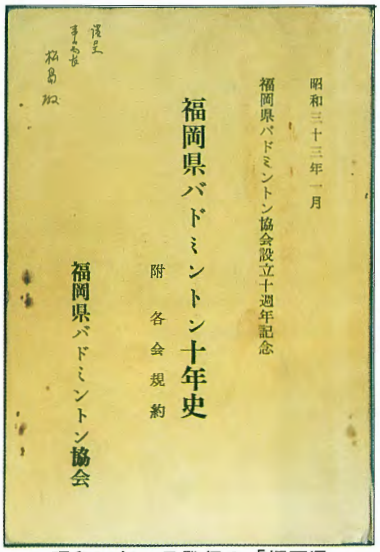
秩父宮妃殿下御招待レセプション
吉田北九州市長　森福岡県バド協会長　秩父宮妃殿下　和田福岡県バド協会理事長



選手宣誓をする淵上英紀



秩父宮妃殿下をお迎えした、新装の北九州大学体育館



昭和33年１月発行の「福岡県
バドミントン協会十年史」
（サイズはＢ６）



昭和32年　ポスター（たて38cm×よこ53.3cm）



北九州市役所バドミントン部、連日猛練習
（昭和43年）

国際学生選手権
国際親善大会



第３回国際学生選手権大会
（昭和42年８月21日　セイロン　コロンボ市）



第４回国際学生選手権大会（昭和43年）
本田日本バドミントン協会会長（左）と和田寿



第４回国際学生選手権大会（東京）のセイロン選手一行。１週間福岡県各地で親善試合を行う
（和田宅前で撮影）

第１回日本セイロン国際親善バドミントン福岡大会（昭和43年　福岡市九電記念体育館）







韓国に九州学生バドミントン連盟の学生を連れて遠征。釜山・ソウル・春川にて交歓試合を行う。団長は和田寿。
（昭和44年８月）

第４回日中バドミントン競技
北九州大会（昭和50年）



第４回日中バドミントン競技
北九州大会の入場券



第４回日中バドミントン競技北九州大会
（昭和50年）









第６回中日バドミントン競技福岡大会（昭和55年５月）









福岡県バドミントン協会創立30周年記念 第７回国際バドミントン競技福岡大会（昭和53年１月22日　福岡市民体育館）







昭和53年発行の「30年のあゆみ」（サイズはＢ５）

中国＆福岡県
ジュニアバドミントン合同合宿



久留米市バドミントン協会主催の歓迎夕食会
（昭和64年１月２日）





中国ジュニア遠征合宿
（平成元年　中国上海市）





福岡県バドミントン協会
のネクタイ、タイピン、
カフスボタンと協会会報





福岡県バドミントン協会会報
「バドミントンふくおか」
（昭和59年創刊。平成９年
９月１日発刊のVol.17 No.4
が通刊第136号となる。



家庭婦人大会



第１回　全日本家庭婦人大会
（昭和58年11月９日　東京代々木）



クラブ対抗で水曜会が優勝
（平成元年）



第15回全九州家庭婦人大会（熊本）

第22回西日本家庭婦人大会（平成７年11月　福岡市民体育館）





台湾での招待試合に参加した福岡県チーム（平成元年４月）

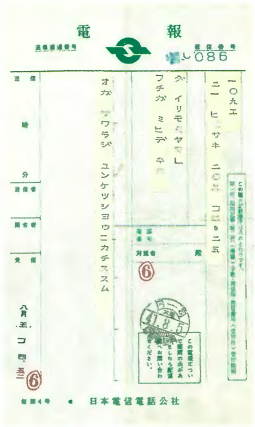


屋外のバドミントンコートで指導を受ける
小川末子



優勝トロフィーを手にした福岡県チーム

高校生大会



第17回全国高校選抜の個人戦
女子シングルで門司商業の小笠原悦子が
「ジュンケッショウニカチススム」の一報
が入る。　（昭和41年８月）



平成４年度全国高校総体
個人復　準優勝
坂本諭美　吉富桂子組（精華女子部）



平成７年度全国高校総体
団体３位精華　単２位森　復３位吉富・大石



第14回全国高校選抜大会（昭和61年）で八幡大学附属高校女子部が初優勝。熱戦中の間庭由美（写真左）、藤原有紀子



第41回かいじ国体（昭和61年）で
少年少女（田村・田島・間庭）優勝











国体10回出場表彰
桶本　百合子殿
昭和59年10月13日
（財）日本バドミントン協会



国体10回出場を果たした桶本百合子に県協会が贈った記念の楯。回りに出場記念メダルが埋めてある。
（デザインは苣木　章）

第45回国体（とびうめ国体）
平成２年10月





第45回国体バドミントン競技会審判監督会議であいさつをする四島司









第45回国体レセプション
櫻内義雄日バ会長（左）と和田寿

あいさつ

50th Anniversary



福岡県バドミントン協会
会長　四島　司

このたび、福岡県バドミントン協会が創立50周年を記念して、「福岡県バドミントン協会50年史」の編集を企画し、発刊を致しますことは、誠に意義深く喜びにたえません。

福岡県バドミントン協会は戦後まもない昭和23（1948）年に創立されました。本協会は歴代の会長はじめ役員の献身的な努力により発展し続けてまいりました。現在、160加盟団体と3,000名の登録会員を擁し、福岡県内におけるバドミントン界の統括団体として、バドミントンを振興し、その普及と発展のため様々な事業を展開致しております。

近年、余暇を楽しむ、いわゆる生涯スポーツが大いに関心を持たれていますが、このバドミントン競技は室内競技で、運動量も自分の体力・年齢に応じて楽しむことができます。よって、その普及・発展はめざましく、特に家庭婦人への普及は特筆するものがあります。

また、競技力におきましても、平成２（1990）年の「とびうめ国体」での男女総合第２位を期に大きな飛躍をなしております。各種全国大会における優勝者、国際大会における上位入賞者が次々と輩出され、これもひとえに指導者ならびに選手の皆様の日々の努力の成果であります。

今後、(財)日本バドミントン協会、福岡県をはじめ行政機関、(財)福岡県体育協会などのご支援・ご協力をいただきながら、関係団体との連携を図り、さらに発展しなければならないと思います。

この小史がバドミントンを愛好される方々の間で広く活用され、来るべき21世紀に向けての本協会の指針となることを期待致します。なお、編集にあたり貴重な資料ならびに原稿をご提供いただいた数多くの皆様方に心から感謝の意を表して発刊のあいさつといたします。

あいさつ

50th Anniversary



福岡県バドミントン協会
理事長　横　溝　安　伸

福岡県バドミントン協会が創立されて50周年を迎えることとなりました。歴代会員および役員、そして会員の皆様の献身的な活動により、今日、160の加盟団体、3,000名の登録会員を擁する協会に発展いたしました。私は平成３(1991)年に第８代理事長として就任いたしましたが、私のバドミントンとの出会いは、大学卒業直後の昭和45(1970)年に福岡県立京都高等学校(定時制)教諭として赴任し、バドミントン部顧問を命ぜられたことに始まります。全くの素人の私にバドミントンを教えてくれたのは、当時の在校生で国鉄小倉工場の生徒達(秋満政輝君ら)でした。また、熱心に指導に通ってくださった宮崎洋一郎氏(元理事・運道具店)、遠山励氏(元参与・安川電機)でした。さらに、女子部員(広門恭子・安達みどり)を連れて、北九州市役所や三菱化成にでかけ、渕上英紀氏(現理事・北九州市役所)、池田明男氏(三菱化成)にバドミントンの面白さと指導方法を教えていただきました。その結果がすぐに現れ、前述の両名がインターハイ出場を果したのです(当時は定時制も高体連に参加)。さらに、同校の全日制に転任してバドミントン部を創部し、インターハイに出場することができ、いよいよバドミントンの虜になってしまいました。昭和55(1980)年より福岡県高等学校体育連盟バドミントン専門委員長の任をいただき11年間勤めましたが、その間はまさに「とびうめ国体」の11年間でした。鎗水浩吉強化委員長と<よこ(横)・やり(鎗)コンビ>として選手強化にとりくみましたが、本文中の報告の通りすばらしい成果がありました。

今日、全国的に活躍する選手を作り出しているのは、日夜、我を忘れて熱心に指導されている、ジュニア・中体連・高体連のそれぞれの指導者とそのみごとな連携にあるのもと、深く感謝する次第であります。

福岡県バドミントン協会の創立50周年を期に、さらに協会の組織力を強化し、初心者からトッププレーヤーまで真にバドミントンに親しめる福岡県バドミントン協会に発展させるべく取り組んで参ります。今後とも関係各位のご指導をよろしくお願いして、50年史発刊のあいさつと致します。

祝　辞

50th Anniversary



財団法人　日本バドミントン協会
会　長　**櫻　内　義　雄**

福岡県バドミントン協会が、この度創立50周年を迎え、数々の記念行事とその一環として、ここに「福岡県バドミントン協会50年史」の刊行をみるに至りましたことを心からお慶び申し上げます。

福岡県バドミントン協会におかれましては、いまだ戦後の混乱期にあった昭和23年１月に創立され、以来、役員各位と会員がともに幾多の困難を乗り越えて今日まで確固たる基盤を築いてこられました。今や会員数が2,500名をこえ、全国的にも有数な協会に成長されましたことは、誠に喜ばしい限りです。また、平成２年「とびうめ国体」を機に競技力の水準も高く、日本国内のみならず国際大会において活躍する多くの選手を輩出させ、日本のバドミントン界にも大きく貢献されています。

申すまでもなく、日本バドミントン協会の発展は、都道府県バドミントン協会の充実がその礎となっており、その意味からも、福岡県バドミントン協会の今日までの輝かしい50年の歴史は大変に意義深く、今や九州有数の伝統あるバドミントン協会として発展を見るに至っておりますが、今日の確たる礎を築いてこられた歴代会長をはじめ関係各位のバドミントンに寄せる深い理解と情熱に対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

ここに記念すべき創立50周年を迎え、これまでに至る福岡県バドミントン界の発展の足跡が本史に収録され、次代を担う若人に引き継がれることは誠に意義深く、わが国のバドミントン界にとってもかけがえのない財産となるものと確信いたしております。

どうか福岡県バドミントン協会におかれましては、本史の発行を機に、さらなる底辺の拡大と組織の充実ならびに競技力の向上を目指し、来るべき21世紀に向け、大いなる飛躍・発展を遂げられますよう祈念申し上げ、発刊に寄せるお祝いの言葉といたします。

祝　辞

50th Anniversary



福岡県知事
麻　生　　渡

福岡県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれては、昭和23年１月20日、我が国６番目の県バドミントン協会として発会以来、半世紀にわたり、県内のバドミントンの振興と、その健全な普及発展に多大な貢献をされてこられました。この間の関係者の皆さんの並々ならぬご努力とご労苦に対し、心から敬意を表します。

昭和23年は、第３回国民体育大会が福岡市を中心に開催された年であり、展示競技としてバドミントンが初めて国体に登場した年でもあります。その後の県内のバドミントンの振興は目覚ましいものがあり、平成２年の「とびうめ国体」での、総合２位、成年女子の優勝という素晴らしい成績にその成果が表れていると思います。

バドミントンは、それぞれの年齢、体力に応じて楽しむことができる生涯スポーツとして、子どもから高齢者まで多くの人々に親しまれています。

人生80年時代といわれる今日、生涯にわたって充実した生活を送るためには、健康であることが何よりも大切で、日頃の健康管理と体力づくりがますます重要になっており、このような面での福岡県バドミントン協会の役割も大きくなってきています。

ここに記念すべき50周年を迎え、福岡県バドミントン協会がその足跡を50年史として収録し、時代を担う若人に引き継ぐことは、誠に有意義であると確信します。

福岡県バドミントン協会の今後ますますのご発展を心からお祈りして、お祝いの言葉とします。

「福岡県バドミントン協会50年史」発刊に寄せて

50th Anniversary



福岡県教育委員会
教育長 光安常喜

「福岡県バドミントン協会50年史」の発刊を、心からお祝い申し上げます。

福岡県バドミントン協会が、昭和23年に日本で６番目の県バドミントン協会として設立されて50年の歴史を数え、その輝かしい足跡を記念史として残されることは、誠に意義深いものがあり、喜びにたえません。

御承知のとおり、本県のスポーツ界は、近年飛躍的発展を遂げてまいりました。

特に、国民体育大会では、平成２年の「第45回国民体育大会（とびうめ国体）」での優勝以後、常に10位以内という素晴らしい成績を納め、全国に「スポーツ雄県福岡」の名を轟かせています。

バドミントン競技におかれましても、とびうめ国体の成年女子優勝をはじめとして毎年、多くの大会において入賞の実績を挙げ、本県の躍進に貢献されております。

このような実績を挙げてこられた協会関係者の皆さんの御尽力に、心から敬意を表する次第であります。

福岡県バドミントン協会関係者の皆さんにおかれましては、これまで築き上げてこられた伝統と豊富な御経験をもとに、今後とも本県スポーツの振興と発展に御尽力いただきますようお願いいたします。

福岡県バドミントン協会のさらなる御発展と、ますますの御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

50th Anniversary



財団法人福岡県体育協会
会　長　中牟田　喜一郎

このたび、福岡県バドミントン協会が「福岡県バドミントン協会50年史」を発刊されましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和23年福岡県で開催されました第３回国民体育大会を契機に発会され、節目の50周年を迎えられる時に、半世紀を振り返り、記録とともに歩まれた道を50年史にまとめられましたことは誠に意義深いものでありご同慶にたえません。これもひとえに、歴代の会長さんはじめ関係者の皆さんの協会発展にかけられたたゆまぬご尽力の賜物と深く感謝するところです。

平成２年本県で開催しました第45回国民体育大会「とびうめ国体」では、バドミントン競技はじめ県内競技団体、開催市町村の格別のご支援、ご協力により盛会裡に終了するとともに、スポーツ雄県福岡を県内外に強くアピールすることができました。特に、バドミントン競技においては、成年女子の優勝、成年男子の強豪を破っての３位と選手の活躍はめざましく、男女総合、女子総合ともに第２位の成績を挙げられ賜杯獲得にご貢献いただきました。以後の国体でも上位入賞を果たされるとともに、各種の全国大会で優勝者を輩出されていますが、関係者の選手強化にかけられた熱意が、今、実を結んでいるものと思います。

これからは、競技力の向上はもとより、余暇時間の増大に伴いスポーツを楽しむ人々が増加の一途をたどっている中、生涯スポーツとしてのバドミントン競技の果たす役割は、さらに重要になってくるものと考えます。

今後の福岡県バドミントン協会のますますのご発展とご活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。


50th
Anniversary

目　次

福岡県バドミントン協会旗
あいさつ・・・・・・・福岡県バドミントン協会会長　四島　司
福岡県バドミントン協会理事長　横溝　安伸
祝辞　・・・・・・・財団法人日本バドミントン協会会長　櫻内　義雄
福岡県知事　麻生　渡
福岡県教育委員会教育長　光安　常喜
財団法人福岡県体育協会会長　中牟田　喜一郎

第１章　福岡県バドミントン協会の50年――5
第１節　福岡県バドミントン協会の歩み……7
１．福岡県バドミントン協会の設立……7
２．福岡県バドミントン協会の足跡……7
（１）　初期の県バド協会
（２）　昭和30年代の県バド協会
（３）　昭和40年代の県バド協会
（４）　県バド協会創立30周年を迎えて
（５）　県家庭婦人バド連盟設立
（６）　昭和60年代の県バド協会
（７）　県実業団バド連盟設立
３．とびうめ国体までの道程……10
４．福岡県バドミントン協会の未来像……11
第２節　支部協会の歩み……13
福岡地区バドミントン協会……市　川　之　善……13
北九州地区バドミントン協会……淵　上　英　紀……16
筑後地区バドミントン協会……苣　木　　章……20
筑豊地区バドミントン協会……野見山　弘　次……24
第３節　連盟の歩み……27
福岡県家庭婦人バドミントン連盟……小　川　末　子……27
福岡県実業団バドミントン連盟……坂　田　雄　二……29
福岡県教職員バドミントン連盟……村　尾　　隆……30

第２章　座談会（50年をふりかえって）――33

第３章　想い出の記――53
私とバドミントン……和　田　　寿……55
熱中の日々……野見山　弘　次……59
国際大会を福岡で……細　川　孝　雄……61
日中大会の思い出……後　藤　　研……62
協会の歴史を振り返って……増　田　靖　文……63
想い出の記……小　川　末　子……65
とびうめ国体の感激！……鎗　水　浩　吉……66

もう一つのバドミントンの思い出……今　雪　美千恵……67
バドミントンを世話して46年間……平　木　武　美……68
回想50年……伊　藤　篤　治……71
バドミントンの思い出（小さな備忘録より）……淵　上　英　紀……72
国体と私……桶　本　百合子……75
創立50周年に寄せて……小　谷　桂　一……76
第4章　資　料——79
1．「福岡県バドミントン協会規約」「福岡県バドミントン協会理事選出規程」「福岡県バドミントン協会表彰規程」「福岡県バドミントン協会表彰規程細則」「福岡県バドミントン協会表彰推薦書」「旅費支給早見表」「福岡県バドミントン協会50年史編集委員会規程」「福岡県バドミントン協会役員名簿(平成９・10年度)」「福岡県バドミントン協会福岡支部規約」「福岡地区バドミントン協会役員名簿（平成９・10年度)」「北九州市バドミントン協会規約」「北九州市バドミントン協会組織図」「北九州市バドミントン協会役員名簿(平成９年度)」「筑後地区バドミントン協会規約」「筑後地区バドミントン協会役員名簿(平成９·10年度)」「県協会選出役員(筑後地区)」「福岡県家庭婦人バドミントン連盟規約」「福岡県家庭婦人バドミントン連盟役員名簿(平成９年度)」「福岡県実業団バドミントン連盟規約」「福岡県実業団バドミントン連盟登録規程」「福岡県実業団バドミントン連盟規約細則」「福岡県実業団バドミントン連盟役員名簿(平成９年度)」「福岡県教職員バドミントン連盟規約」「福岡県バドミントン協会審判委員会規定」「福岡県バドミントン協会審判委員会名簿」
2．福岡県バドミントン協会委員会組織の変遷……村　尾　　隆……104
3．指導委員会のあゆみ……野見山　弘　次……107
4．福岡県中学生バドミントン大会のあゆみ……村　尾　　隆……109
5．中国ジュニアチームを迎えて－中国・福岡県チーム合同合宿－……横　溝　安　伸……111
6．福岡県バドミントン協会創立10周年記念及び50周年記念表彰者……113
7．福岡県バドミントン協会創立10周年記念「福岡県バドミントン協会10年史」抄……113
8．「和田ノート」抄録……128
9．軟式バドミントン競技の解説……132
10．新聞に見る福岡県バドミントン界（昭和30年代）……135
第5章　栄光の記録——141

編集後記……藤　本　俊　史

題字および副題の字　和　田　　寿（福岡県バドミントン協会第５代理事長）

第 1 章

福岡県バドミントン協会の50年

第1節 福岡県バドミントン協会の歩み

1．福岡県バドミントン協会の設立

1946（昭和21）年11月、日本バドミントン協会が設立され、理事に福岡在住（大博運動具店経営）で福岡YMCA体育理事であった中村高治が就任した。彼はYMCAを中心として発展していたバドミントン競技を広く普及しようと考え、賛同者を探していたところ、たまたま当時福岡市厚生部長であった西園富吉の力強い支持を得ることができ、急速に協会設立の気運が漲った。1948（昭和23）年1月20日福岡市役所厚生部長室に発起人が集まり、規約を制定し、役員を決定、ここに福岡県バドミントン協会（以下、県バド協会とする）は呱々の声をあげたのである。日本バドミントン協会設立の1年3ヵ月後のことであった。

初代の役員は、◎会長＝西園富吉◎副会長＝大塚正男◎理事長＝野村義門◎常任理事＝渡辺盛一・中村高治◎理事＝伊之坂盛男・安部政一・石塚啓助・秋山正孝・高橋忠雄・清水五郎・高山三夫・衛藤義雄・船津茂であった。

県バド協会の事務所を西日本鉄道株式会社福岡支社に置き、1948（昭和23）年2月26日、日本バドミントン協会に加盟申請を行った。

またこの年は、第3回国民体育大会が福岡市を中心に開催された年であり、バドミントン競技は展示種目ではあったが、国体に初めて登場した記念すべき年でもあった(1)。ちなみに展示種目としておこなわれたバドミントン競技は東公園の屋外コートであった。

加盟申請から7ヵ月のちの9月16日、県バド協会は日本バドミントン協会から、宮沢宏之・岡淳一・高橋基を招き、福岡高校（現中央区六本松にある九州大学教養部）の体育館で、最初のバドミントン講習会をひらき技術指導を行った。そして早くも翌10月26日、同体育館で第1回全九州バドミントン大会を開催した。参加団体は、福岡YMCAなど9団体で優勝は男女ともに西鉄小倉支社であった。

(1) 日本バドミントン協会が（財）日本体育協会に正式加盟が認められた1948（昭和23）年の翌年の第4回国民体育大会で公開競技となり、1950（昭和25）年の第5回国民体育大会からバドミントンが正式種目となる。

2．福岡県バドミントン協会の足跡

（1）初期の県バド協会

1949（昭和24）年、常任理事の渡辺盛一（西日本鉄道福岡支社）が2代目の理事長になった。しかしこの頃の県バド協会は、およそバドミントン愛好者が集まりただただ何かしようといった状態のものであったが、暗中模索しながらも基盤づくりと指導と普及に努めた。そしてその4月には、福岡支部・小倉支部・久留米支部の3支部を設置（以後、県バド協会は支部制をとる）することで組織の整備・拡充を図り、10月には、東京で行われた第4回国体に初出場したのである。監督は、中村高治であった。

朝鮮戦争が勃発した1950（昭和25）年、県バド協会の事務所を中村が経営する大博運動具店に移し引き続いて運営がなされた。このころの福岡県は九州地区ではAクラスであったが、全国的レベルには、まだ遠かったようである。

1951（昭和26）年4月、直方支部と飯塚支部が設置され県下5支部となる。

1952（昭和27）年7月、第2回九州地区大学体育大会にバドミントン競技が加わり、福岡学芸大学体育館（現福岡教育大学）において開催され、審判長には中村高治が委嘱された。そして4ヵ月後の11月に九州学生バドミントン連盟が設立され、会長に西園富吉（福岡商大教授）、副会長に和田寿（久留米大教授）がなっている。

1953（昭和28）年3月に、公認審判員認定講習会を開き、4月には、門司支部が設置され県下6支部となり、翌年7月には、九州バドミン

トン連盟が設立された。またこの年、県バド協会の第３代理事長として中村高治がなった。

（２）昭和30年代の県バド協会

1955（昭和30）年６月に、福岡県学生バドミントン連盟が設立され、◎会長＝西園富吉◎副会長＝和田寿◎委員長＝若林保男（福岡商大学生）がなった。同月、県バド協会支部の組織改変が行われ、それまでの６支部を北九州支部・福岡支部・筑後支部・筑豊支部の４支部とし、各支部長を県バド協会の副会長とした。またこの年、松延陽一が県バド協会４代理事長となり、事務所も西南学院大学体育研究室に移った。

1956（昭和31）年に入ってまもなく長崎県バドミントン協会から県バド協会に、九州バドミントン連盟の本部を移管したいとの申し入れが文書（１月10日付）であり、県バド協会は昭和31年度から引き継ぐことを承認した。その役員は、◎会長＝西園富吉◎副会長＝各県協会の会長◎理事長＝松延陽一◎理事＝各県２名推薦であった。

1957（昭和32）年、県バド協会第５代理事長に和田寿が就任し、事務所を西園富吉宅に、昭和34年からは今雪美千恵宅に移し、細々ながらも遂行された。

この当時、九州のバドミントン界は中央に比べレベルは低く、指導者も少なく、中央バドミントン界からはまだまだ後れをとっていた。この中で昭和31年５月に東京都で行われた、第１回全日本壮年バドミントン選手権大会で、鶴田徳太郎（大日本製糖）・伊藤基記（熊本女子大）がダブルスで優勝、また昭和33年１月に岡山で開かれた第７回西日本バドミントン選手権大会の成年ダブルスで馬場君夫・遠山励（安川電機）が優勝したのは快挙のことであっただろうし、県バド協会もこの頃から新しい力の新生を予感していた。

1958（昭和33）年11月に第９回全日本学生バドミントン選手権大会が久留米市で開催されることになった。山下哲也（福岡大昭34年卒）はこう語る。「大会を開くにあたってその資金集めをどうするかで頭を痛めた。スポーツセンター（福岡市中央区天神）でダンスパーティーをしたり、久留米で演奏会を催したり、乳製品やゴムのメーカーなどから寄付を集めたりして資金集めにみんな東奔西走。しかしなかなか資金は集まらず苦労していたところ、秩父宮妃殿下の西下決定。この決定で寄付金集めは大成功。万全の体制で大会に臨み、運営もすべからくうまく進行し大成功。どこからも苦情一つなかった。」

このとき県バド協会理事長の和田が同時に福岡県学連副会長を兼務していたことで県バド協会と福岡県学連とがまさに車の両輪のごとくに走り、成功をもたらしたのであろう。

優秀な選手が高校・大学で育ち、そのころ全九州では福岡がトップをいっていたが、これは県バド協会が設立後およそ10年にしてやっとつかんだ手応えであった。

1963（昭和38）年、それまで15年間会長を務めた西園に代わって、県バド協会第２代会長に森俊雄（西日本相互銀行社長）が就任し、同年９月26日に久留米市石橋文化センター体育館で第３回日韓親善バドミントン大会を行った。主催は、日本バドミントン協会と九州バドミントン連盟で、主管は福岡県バドミントン協会がおこなった。日韓あるいは南北問題が今以上に緊迫していた時代のことで、和田理事長は相当に神経をすり減らしながらの日韓の交流であった。この時、福岡県バドミントン協会会長の森俊雄は、この大会要項の挨拶で「大韓民国は九州とは一衣帯水の間にあり、かつては同胞として、その苦楽を友にしたのであります。現在遺憾ながら政治的にはまだ未解決の問題も色々ありま

すが、国民感情としましては非常な親密感があるのでありまして、恰も里帰りをしてきた兄弟に会う様な懐かしさを覚ゆるものであります。（中略）こうしたスポーツの交流により益々親善の度を深くし、両国民が互いに助け合いながらその発展と世界平和のために進むことのできる日が一日も早く来ることを念願してやみません。」と述べている。

翌昭和39年に事務所を福岡市役所に移した。東京オリンピックが開催された年で、日本全体がスポーツに手に汗した年であった。

その後九州王座を熊本県に移すことになるのだが、しかしながら県バド協会は着実に成長していった。というのも昭和30年代はバドミントンができるところと言えば企業が持つ体育館あるいは大学の体育館ぐらいであったのが、30年後半から40年代にかけて県内のあちらこちらに体育館ができはじめ、その結果小学校の体育館を借りてのバドミントン教室などができるようになったという社会的な要因も手伝い、県バド協会が行う指導と普及が容易にできるようになったのである。

（3）昭和40年代の県バド協会

1965（昭和40）年代にはいると、福岡がアジア競技大会に名乗りをあげはじめた頃とも相俟って国内の全国大会はもちろん海外ともバドミントンを通じての交流や大会などをさかんにおこなった。

1967（昭和42）年8月、第3回国際学生バドミントン選手権大会（セイロン）に理事長和田寿が日本選手団団長として選手団を引率して参加。

1969（昭和44）年、県バド協会の第3代会長に四島司（福岡相互銀行社長）が就任。その6月、東京で開催された第7回世界女子選手権（ユーバー杯）に参加したアメリカチームを福岡市九電体育館に迎え、日米交歓バドミントン大会を開催。日本のトッププレーヤーと対戦させ、観衆にバドミントンの醍醐味を味合わせた。

同年8月、韓国学生との交歓試合で、福岡大学・熊本女子大学・長崎短大の学生を引率（団長＝和田寿・コーチ＝伊藤基記）して韓国に遠征する。

1972（昭和47）年の9月におこなわれた日中共同声明調印（田中角栄）によって日中国交が樹立されたこともあって、1973（昭和48）年、日中国交正常化1周年を迎える9月に、第1回日中親善バドミントン大会を催すこととなった。その第6日目を福岡大会として福岡市民体育館で開催し、日中女子選手による世界最高水準の技術を展開した。1975（昭和50）年11月には第3回同大会を北九州市総合体育館で開催している。

県バド協会は、国内にとどまらず国際的に活躍しているトッププレーヤーをたびたび福岡県に招き、その一流の技を身近に体感させているが、これは福岡県のバドミントンの質の向上はもちろん、バドミントン競技審判員の審判技術のレベルアップをも目的としていた。

（4）県バド協会創立30周年を迎えて

1977（昭和52）年1月、県バド協会は設立30周年を迎えた。これを祝して記念式典（於：西鉄グランドホテル）とジャパンオープンのため来日していたヨーロッパ選手団を迎えて、県バド協会創立30周年記念第7回国際バドミントン競技福岡大会（欧州選抜対日本選抜チーム）を福岡市民体育館で開催した。

同年11月には第1回全九州小学生大会も開催した。またこの年、第6代理事長として辰市祐昭（福岡市役所総務部総務部長）が就任した。

1982（昭和57）年6月には、第22回全九州総合バドミントン競技大会、1984（昭和59）年11

月は、第６回日本リーグ福岡大会を催した。

（５）県家庭婦人バド連盟設立

1983（昭和58）年８月、東京都で第１回全日本家庭婦人バドミントン競技大会が開かれた。それまで各種競技種目に「ママさん○○」として活躍していたものが、この頃から「家庭婦人大会」として組織化されるようになってきた。この第１回大会の開催にあたって、（財）日本バドミントン協会会長桜内義雄は、「あいさつ」のなかで「バドミントン競技を通じて家庭婦人の体力増強・健康増進を図るという大切な目的をもっておりますが、できうればこの活躍を一歩進めまして、近い将来、日本のバドミントン界を背負う小中学生たち若きエース達の、より良き環境づくりに役立てたいと考えております。」と述べているが、福岡県もこの大会に三浦ひろ子監督を筆頭とした代表チーム（10人）を送り込んでいる。そのときの思い出を小川末子（現福岡県家庭婦人バドミントン連盟理事長）は、「とにかく有名一流選手しかできないと思っていた東京代々木の体育館でプレーできることに感激した。そして関東関西とのレベルの差を痛感しました。」と語っている。それからおよそ８ヶ月後の1984（昭和59）年に、三浦ひろ子を運営委員長として福岡県家庭婦人バドミントン連盟が発足した。同会長は1988（昭和63）年から辰市祐昭があたっている。この結成記念大会として1985（昭和60）年１月に第７回九州家庭婦人親善バドミントン大会を行った。

（６）昭和60年代の県バド協会

1985（昭和60）年、県バド協会の第７代理事長として後藤研（九州大学教授）が就任した。８月には第２回日韓ジュニアバドミントン交流会、1987（昭和62）年11月、第９回日本リーグ福岡大会（福岡市民体育館）、同月第33回全九州実業団バドミントン選手権大会、1988（昭和63）年12月には、第37回全日本学生バドミントン大会（福岡市中央体育館）と日中ジュニアバドミントン交流会（久留米大学）を行なった。またこの年の８月、盛岡市でおこなわれた第18回全国中学生選抜バドミントン大会男子シングルスで岡垣中学校の満石忠博が優勝している。

1992（平成４）年、ベスト電器の女子チームが日本リーグ２部入りし、1993（平成５）年には、念願の１部入り、そして1995（平成７）年には、１部で男子４位・女子５位と好成績を収めた。

（７）県実業団バド連盟設立

1993（平成５）年３月20日に行われた県バド協会理事会で長年の懸案であった福岡県実業団バドミントン連盟設立が承認され、翌月24日各チームの代表者が集まっての結成大会で正式に発足した。主な役員は次の通りである。

◎会長＝北田葆光（ベスト電器）◎副会長＝横溝安伸（筑前高校教諭）◎理事長＝坂田雄二（ベスト電器）

現在九州各県で実業団を結成しているのは長崎県・熊本県・沖縄県と福岡県の４県で、全国都道府県の実業団加盟数からしても九州の加盟数はまだまだ低く、坂田理事長の将来構想は、「早々に九州実業団バドミントン連盟を設立し、加盟数を増やし、実業団という環境の中で選手を育成し、活性化を図ること」だという。

福岡県実業団連盟結成の翌年1994（平成６）年６月15日～19日まで、秩父宮妃賜杯労働大臣杯第44回全日本実業団バドミントン選手権大会が福岡市民体育館他４会場で行われた。

３．とびうめ国体までの道程

1990（平成２）年10月、第45回国体を福岡県で開催することになり、バドミントン競技は筑紫野市で行われることとなった。42年前の第３

回福岡国体で展示種目として福岡市東公園の屋外コートで行われたバドミントン競技からすると技術も用具もすべてが新しく改善された現代スポーツとしてのバドミントンとなり、県バド協会も一層新たな気持ちでこの福岡国体の準備にとりかかった。

とびうめ国体開催年から遡ること７年前の1983（昭和58）年、県バド協会は、鎗水浩吉（浮羽高校教諭）を強化委員長とするとびうめ国体強化委員会を設置。開催までの年次計画を立て、それを全般・成年・少年に分け、現状でのトッププレーヤーの強化・選手層の拡充・有望選手育成ルートの確立・学卒など若手有望選手の把握と強化・拠点校に於ける指導者の確立などを内容として盛り込んだ選手強化計画を実施した。

また審判委員の養成も国体を成功させるための重要課題であり、福岡県国体準備委員会は、「本県の将来における各種スポーツ普及振興の意味からも、レベルの高い多くの審判員を養成確保することは重要な課題」とした審判員養成基本方針を出した。県バド協会もこの基本方針が出される以前から福岡県で行われた日本リーグや国際大会などで審判の経験をつませたり、審判講習会を開き審判の資質の向上にあたってきていたが、国体の準備に入ってさらに審判技術の磨きにはいった。日本各地で行われる大きな大会（全日本社会人・全日本高校選抜など）に審判員として派遣させ、審判の強化にあたったのである。

当時の福岡県のバトミントンのレベルは成年女子が長野国体で準優勝しているぐらいで、成年男子、少年男子、少年女子は九州国体で勝てるかどうかといったところで、福岡国体での上位入賞をイメージできるような状態ではなかった。鎗水強化委員長は横溝少年男子監督（現県バド協会理事長）と合宿をしながら、「どうしようか」「なんとかなるだろう」と愚痴をこぼしあったそうだ。そういう中で、NTT東京の尾崎コーチの「全員の協力とチームワークを大切に‼」を合い言葉にして47都道府県の対抗戦に臨んだ福岡県チームであったが、幸いしたのは福岡県チームの恵まれた指導陣とその指導陣のチームワークだった。桶本成年女子監督・有田コーチ、横溝少年男子監督・古賀コーチ、浜司少年女子監督・樽野コーチ、佐田成年男子コーチ、沙海平特別コーチ（ベスト電器）、池田・尾崎中央コーチ（NTT東京）といったすばらしいメンバーが指導にあたったのである。

その結果、成年男子は、３位決定戦で福岡県が日本リーグで活躍している宮城県の選手を破り、3位。成年女子は、静岡県との決勝戦で延々３時間半にも及んだ末、逆転優勝。少年男子も大健闘で４位、少年女子も５位と当初の予想を大幅に上回る成績を収め、総合で２位という大躍進だった。

この福岡国体以後、国体で息吹いたそれぞれの芽が、花を咲かせている。インターハイでの精華女子高校の活躍、成年男子のエースだった荒木選手の全日本教職員大会での単複制覇、成年女子のエースだった田村選手と少年男子の補欠選手だった吉武選手の全日本社会人大会での混合ダブルス優勝など。

４．福岡県バドミントン協会の未来像

県バドミントン協会は発足して半世紀を迎えた今、福岡支部・北九州支部・筑豊支部・筑後支部の４支部に分け、さらに組織を総務委員会・競技委員会・強化委員会・指導委員会・審判委員会の５委員会に分け運営されている。

◎会長＝四島司◎副会長＝辰市祐昭、寺岡良隆◎理事長＝横溝安伸◎理事＝16人

県バド協会の未来像について、1991（平成３）

年に第８代理事長に就任した横溝安伸は次のように語る。

「1948（昭和23）年１月20日、わが国６番目に誕生した本県バドミントン協会は、1998（平成10）年に創立50周年を迎えます。今日、160団体と3,000名の登録会員によって組織されている本協会は、福岡県内のバドミントンを振興し、その健全な普及発達を図るを以て目的とする（協会規約第３条）競技団体であります。未登録者を含めると、バドミントン愛好者は10,000名を優に越すものと考えられます。

バドミントンの先祖はインド・ボンベイ地方のプーナで盛んだった遊びです。1873年にイギリスのボーフォート公の領地バドミントンハウスで宴会が開かれたとき、インド帰りの士官が余興に、この遊びを紹介したといわれています。それがきっかけで、この遊びがバドミントンと名付けられ、世界中に広がったものです。日本には大正時代に紹介され、戦後、全国に広がりました。シャトルコック（羽根）は男子の選手が打てば、初速は新幹線なみ（時速200～350km）ですが、空気の抵抗で次第に遅くなり、ついには失速します。目も眩むようなスマッシュも、デリケートなネットプレーも楽しめる、このスピードの変化がバドミントンの特徴です。また、年齢に応じて楽しむことができる競技でもあります。試合時間は男子シングルスで平均40分ぐらい。動きは激しく、マラソン選手の心臓とボクサーのフットワーク、この二つが必要な競技です。

今日、余暇を楽しむ、いわゆる生涯スポーツが大いに関心を持たれますが、このバドミントン競技は室内競技であり、またその運動量も自分の年齢・体力に応じて楽しむことができる最適のスポーツであると考えられます。どこの体育館を見ても、その利用はバドミントンに集中していることからしても、その普及・発展は爆発的です。特に家庭婦人への普及は目覚ましく、このことが更に、ジュニア層へと期待されます。

福岡県バドミントン協会の競技力の向上もこの普及・発展と機を一にするものがあります。平成２年のとびうめ国体はその大きな飛躍のきっかけとなりました。成年男子３位、成年女子優勝、少年男子４位、少年女子５位。それまで関係者が考えもつかなかった好成績でした。７年間の強化事業の賜物です。しかも、当然のことながら、選手はすべて県内の選手です。この強化事業とその実績が、以後の数々の全国大会優勝者を輩出しました。その優勝者は、全国中学校大会男子単（満石忠博＝岡垣中）、全日本ジュニア中学新人単（川合大咲）、同大会中学新人女子単（森かおり＝小倉城南中）、全日本社会人選手権大会女子複（田村富士美＝ヨネックス）、同大会混合複（田村富士美、吉武祐史＝吉松歯科医院）、全国高校選抜大会女子団体（九州国際大学附属高校）、全日本学生選手権大会女複（吉富桂子＝四条畷短大）。

今日、国体においても、毎年上位入賞を果たしており、今後、更なる競技力の向上を目指し、本県バド協会からオリンピック選手を送り出したい。また、協会の組織力を強化し、初心者からトッププレーヤーまで、真にバドミントンに親しめる福岡県バドミントン協会に発展させ、国際大会の誘致など国際親善も積極的に推進したいと考えます。福岡県バドミントン協会は今後ますます大きく成長し、世界に向け飛翔するものと確信します。」

第２節　支部協会の歩み

福岡県バドミントン協会は、1949（昭24）年４月に、福岡支部・小倉支部・久留米支部の３支部を設置。1951（昭和26）年４月、直方支部と飯塚支部が加わり５支部となる。その後1953（昭和28）年４月、門司支部が設置され６支部となるが、1955（昭和30）年６月の組織改変で、福岡支部・北九州支部・筑後支部・筑豊支部の４支部となり、現在もこの４支部制で運営がなされている。

福岡地区バドミントン協会



市　川　之　善

福岡県バドミントン協会福岡支部は、福岡県バドミントン協会が創設された翌年の1949（昭和24）年４月に、小倉支部・久留米支部とともに、３支部の１つとして設立された。初代支部長は県協会の会長でもある西園富吉（当時福岡市厚生部長）、理事長は県協会常務理事の中村高治（当時福岡ＹＭＣＡ理事）である。その後、県協会は1951（昭和26）年に５支部制、1953（昭和28）年に６支部制となったが、1955（昭和30）年６月に、福岡支部、北九州支部、筑後支部および筑豊支部の４支部制となり現在に至っている。この時の福岡支部の支部長および理事長は、福岡支部設立より引き続き西園富吉と中村高治である。

当時は一般社会人がバドミントンの練習を行う場所も十分でなく、バドミントン活動の主体は、福岡市を中心とする大学や社会人事業所に限られていたようである。このような環境の中で、関係者はバドミントンの普及発展のため尽力し、1957（昭和32）年には市民大会、社会人大会および実業団等各競技会を開催するまでに至っている。1958（昭和33）年には、団地バドミントン講習会を開催し、その後も各地で講習会を開催するとともに、初心者大会を行っている。

1960（昭和35）年４月１日に、福岡県バドミントン協会福岡支部規約が制定され、支部の通称を福岡地区バドミントン協会と称することとなった。包含する市郡は、福岡市、春日市、大野城市、筑紫郡、粕屋郡、糸島郡、及び宗像郡である。（この後、地区協会は、1981（昭和56）年の宗像市、1982（昭和57）年の太宰府市の市制移行をうけ、1985（昭和60）年４月１日施行の規約改正でこの２市を加え、６市４郡に所在または居住する学校各種団体又は個人のバドミントン愛好者によって組織されることになる。）

1961（昭和36）年には、福岡地区総合バドミントン選手権大会を創設している。

森俊雄（当時西日本相互銀行社長）が２代目会長に就任したのは、1963（昭和38）年である。1964（昭和39）年には、九電記念体育館（福岡市）が完成し、一般社会人の活動がやや目立つようになってきた。1965（昭和40）年には、西日本相互銀行の男女チームが、九州実業団大会で優勝している。

四島司（当時福岡相互銀行頭取）が３代目会長に就任したのは、1969（昭和44）年ある。同年、ユーバー杯に出場したアメリカ女子チームを迎えて、国際大会を九電記念体育館で開催している。

1970（昭和45）年には、福岡市バドミントン協会が規約を制定し、福岡地区バドミントン協会の下部組織として発足した。1973（昭和48）年には、日中親善バドミントン大会を福岡市民体育館で行った。

1976（昭和51）年には、第１回西日本ママさんバドミントン大会が西日本新聞社共催で始まっている。

1977（昭和52）年には、福岡県バドミントン協会創立30周年記念第７回国際バドミントン競技福岡大会を、福岡市民体育館で開催している。1980（昭和55）年には、日中バドミントン大会を行っている。

1981（昭和56）年は、九州国体（九州ブロック大会）が始まった年である。この第１回大会は、福岡市東体育館で行われた。この頃になると、福岡地区内の公立体育館建設が進んできている。福岡市民体育館、春日市スポーツセンター（昭和47年）、ももちパレス（昭和48年）、太宰府勤労者体育センター（昭和52年）、福岡東体育館（昭和55年）、福岡南体育館（昭和57年）等である。

これら体育館の増加や公民館サークルとしての小学校体育館の利用、またバドミントン関係者の努力や熱意の成果もあり、1980年頃を境に、従来の大学、官公庁、実業団主導型であったバドミントン形態は、一般社会人や家庭婦人の多数参加型へと移行しつつあった。地区協会の団体登録数も1982（昭和57）年で90団体となり、また県協会への福岡地区からの個人登録数も700を超えるに至った（大学・高校を除く）。地区協会が主催する各大会への参加数も増加してきた。小・中学生交歓会も春秋の年２回の開催であったが、毎回の参加数が小学生300人、中学生400人規模となるにおよび、普及の意味での交歓会の意義はほぼ達成されたものと考えられ、1983（昭和58）年度より年１回の開催とした。また社会人の初心者交歓会も、同年から各市郡の開催にゆだねることとした。

また、福岡地区バドミントン協会会員と福岡市バドミントン協会会員は、ほぼ重複していたことから、それぞれの協会の役員も両協会の役員を兼ねることが多かった。しかし、バドミントン競技人口の増加や各市郡への分散化に伴い、1983（昭和58）年度より福岡地区バドミントン協会理事長と福岡市バドミントン協会理事長の兼務を解くことが協議された（昭和57年度福岡市バドミントン協会評議員会）。

1985（昭和60）年には、第４代会長に辰市祐昭（当時福岡市住宅供給公社理事長）が就任し、福岡地区で開催されるとびうめ国体に向けての体制作りを、積極的に推進することになる。

1987（昭和62）年には、第９回日本リーグ福岡大会を福岡市民体育館で開催し、３年後に迫った国体のための組織強化の一助としている。

1989（平成１）年は、とびうめ国体を翌年にひかえたリハーサル大会として、第32回全日本社会人バドミントン選手権大会を、国体のメイン会場となる筑紫野市農業者トレーニングセンター他４会場に、1,200人の参加者を得て４日間にわたって開催し、大規模大会の運営経験を重ねた。

1990（平成２）年は国体の年である。競技会場の筑紫野市農トレのほか練習会場６会場を用意した。期間は、前年のリハーサル大会と同様４日間であったが、リハーサル大会が猛暑の８月に行われたのに対し本国体は10月であったので、関係者の緊張と心労は別として、大会運営は前年より楽に感じられた。福岡県選手団の活躍も見事で、特に成年女子が優勝した時の感動は忘れられない。成年男子３位／（16県）、少年男子４位／（16県）、少年女子５位／（47県）の好成績を大会前に誰が予想出来ただろうか。各自仕事を持ちながら、大会成功のために活動した役員、関係者にも感謝したい。

1991（平成３）年には、第13回日本リーグ福岡大会を、福岡市民体育館で開催した。

1994（平成６）年には、第44回全日本実業団バドミントン選手権大会を、福岡市民体育館ほか３会場、練習会場４会場で５日間にわたり開催した。男子131チーム、女子76チームの参加があり、それぞれＮＴＴ東京、サントリーが優勝した。地元ベスト電器チームは、男女とも５位の成績を挙げている。

1995（平成７）年には、第41回全九州社会人バドミントン選手権大会を、アクシオン福岡で２日間にわたり開催した。参加選手は391名である。

1997（平成９）年11月には、県協会創立50周年を記念して、第14回全日本シニア選手権大会が３日間にわたり福岡市民体育館ほか２会場で開催される。また記念式典も大会前日に挙行される。

さて、バドミントン人口の増加とともに、地区協会発足当時、福岡地区イコール福岡市と考えてよかった時代は過ぎ、現在では各市郡で独自の活動を活発に行うようになった。福岡市では市単位の活動のほか、区単位でもそれぞれの行事や大会を開催している。

このような状況の中で、県協会の中での福岡地区協会の役割は何か、福岡地区の各市郡にとって地区協会の存在意義は何であるか、またどのような方向に向かうべきか。緊急に検討すべき重要課題が提起されている。

	福岡地区協会会長	福岡地区協会理事長	福岡市協会会長	福岡市協会理事長
1949（昭和24）年	西園　富吉	中村　高治		
1958（昭和33）年	西園　富吉	松島　　慧		
1961（昭和36）年	西園　富吉	井上儀平次		
1963（昭和38）年	森　　俊雄	井上儀平次		
1965（昭和40）年	森　　俊雄	宮山　昇三		
1969（昭和44）年	四島　　司	後藤　　研		
1970（昭和45）年	四島　　司	後藤　　研	四島　　司	後藤　　研
1973（昭和48）年	四島　　司	増田　靖文	四島　　司	増田　靖文
1975（昭和50）年	四島　　司	木下　一郎	四島　　司	木下　一郎
1977（昭和52）年	四島　　司	伊藤　篤治	四島　　司	伊藤　篤治
1979（昭和54）年	四島　　司	増田　靖文	四島　　司	増田　靖文
1981（昭和56）年	四島　　司	市川　之善	四島　　司	市川　之善
1983（昭和58）年	四島　　司	岡　　節郎	四島　　司	副島　　力
1985（昭和60）年	辰市　祐昭	伊藤　篤治	辰市　祐昭	副島　　力
1987（昭和62）年	辰市　祐昭	伊藤　篤治	辰市　祐昭	市川　之善
1991（平成３）年	辰市　祐昭	多田　英則	辰市　祐昭	市川　之善
1994（平成６）年	辰市　祐昭	三浦ひろ子	辰市　祐昭	市川　之善
1995（平成７）年	辰市　祐昭	市川　之善	辰市　祐昭	市川　之善
1997（平成９）年	辰市　祐昭	市川　之善	辰市　祐昭	緒方　蓉子

北九州地区バドミントン協会



淵　上　英　紀

５市合併以前に、門司、小倉、八幡の３市が、大会を開くなど活動をしており、協会発足までに、特に活躍した団体は、昭和23年、第１回全九州バドミントン大会に団体優勝した西鉄小倉支社、昭和25年第２回全九州職場対抗（現実業団対抗）26年の第３回大会と連続優勝の安川電機、昭和36年全九州実業団社会人大会団体、個人優勝の門司市役所ほか朝日新聞社、大日本製糖、北九州大学、高校では昭和34年九州高校大会男子団体優勝の小倉西高、35年女子団体優勝の門司南高（現門司商業高）などがあげられる。

個人では九州大会以上に出場、活躍した選手に鶴田徳太郎・真崎光明（日糖）岸正穂・馬場君夫・大林重行・遠山励（安川電機）三澤英二・淵上英紀・山村隆・勝野雅文（門司市役所）学生では九州学生優勝の藤岡（現竹内）一代・中野（高熊）絹恵、九州総合ダブルス２位の中村寛・吉永一彦・九州インカレ優勝の松原（豊瀬）正枝（以上いずれも北九大）らがいる。

協会設立

北九州市が誕生したのを受けて、北九州市バドミントン協会も、会長近藤一雄、理事長兼事務局長、箱崎正夫（西鉄）を中心に、昭和38年度より発足した。

協会発足後の主な事業、活躍した選手

▽昭和38年度

九州実業団大会青年複に、淵上、勝野組が二連勝。門司商高が、北九州地区の高校女子として、国体に初出場した。また第６回全日本社会人選手権で、三澤・鶴田組が、男子40代複で初の全国制覇に輝いた。

▽昭和39年度

第14回全日本実業団選手権で、三澤が40代単で優勝。

この年、第２回市民体育祭（第１回種目別大会）が開かれたが、バドミントン競技での最初の各級優勝者はつぎの通りである。

男子Ａ級　淵上英紀、勝野雅文（北九州市）
男子Ｂ級　平賀義二、荒木昭雄（安川電機）
男子Ｃ級　原　穂美、本多義宏（北九州市）
女子Ａ級　山下富子、富永豊子（門司商高）
女子Ｂ級　東　敏子、岡本康子（門司商高）

▽昭和40年度

当協会にとって、大変充実した年である。秩父宮妃殿下をお迎えして、第15回全日本実業団選手権大会を、新装成った北九州大学体育館と小倉体育館で開催。出場59団体。三澤が40代単で二連勝。また複でも坂本良（北九州市役所）と組んで優勝した。

高校生の筒井（現桶本）百合子と古賀（現奥田）幸子（門司商業高）は第16回全国高校バドミントン選手権大会シングルスの部で共にベスト16に残り大健闘した。これは当時の九州バドミントン界では初めてのことだった。

▽昭和41年度

当協会主催の国際試合（非公式）第１号は、７月７日小倉商高体育館で開催した日韓親善高校男子競技会である。

三澤は全日本実業団40代単で三連覇の偉業を達成した。

▽昭和42年度

３月に市教育委員会主催で初めてバドミントン教室を門司体育館で開催。協会も日本協会から中央講師として世界選手権出場の宮永講師を招聘して４月に講習会を開催した。

７月31日～８月６日青森県弘前市で開催され

た第17回全国高校選手権大会女子団体戦で門司商業高校はベスト16まで勝ち進み、個人戦女子シングルスでは同校の小笠原（現増田）悦子がベスト４、準決勝に残る快挙を成し遂げた。本大会過去16回のうち九州地区から準決勝に進んだことがなく大活躍であった。

▽昭和43年度

第19回全日本実業団バドミントン選手権大会（６月22～26日、諫早市）に男子30才代ダブルスに淵上・勝野組が準優勝（翌年も同様）した。シングルスでは淵上が３位（翌年も同様）に入賞。

▽昭和43年度～48年度

住友金属に大久保加代、丸山富江（門司商高）、三澤百合子（門司北高）と優秀な選手が順次入社し、全九州実業団で三連勝（44年～46年）するなど、黄金時代を築いた。

この頃活躍した女子で玉水典子、松崎栄子（西日本相互銀行）は昭和40年、43年全九州実業団社会人大会で団体優勝。門司商OGの筒井百合子、古賀幸子らが九州大会で単複に43年～45年と連続王座を占め続ける活躍ぶりをみせた。

▽昭和49年度

行政区別にみると、活動拠点がなく一番停滞していた戸畑区を重点的に指導強化した。また家庭婦人に対して、本格的なバドミントン教室を実施した。

▽昭和50年度

待望の本格的な国際大会として、第４回日中バドミントン北九州大会を、11月26日、市立総合体育館で開催。約3500人の観衆は、世界一流の中国選手の妙技に酔った。

▽昭和51年度

第33回長野国体に、桶本（旧姓筒井）上野（同丸山）石井峰子（同山口）が九州地区代表として出場、準優勝した。

▽昭和52年度

第一回北九州市ママさん大会が住友金属体育館で開かれた。各級の優勝者はつぎの通りである。

Ａ級　　木下・南　（グリーンシャトル）
Ｂ級　　中島・利根（黒崎クラブ）
Ｃ級　　三木・井上（守恒クラブ）

▽昭和53年度

北九州市ママさんクラブ対抗大会が14チームの参加により初めて開かれた。団体優勝チームはつぎの通りである。

Ａ級　　水鳥クラブ
Ｂ級　　さつき会

▽昭和54年度～60年度

第18回全日本教職員選手権大会を北九州市で開催、全国より700人が参加、盛会だった。

昭和54年から日本リーグがはじまったが、昭和57年９月25日（土）第４回日本リーグ北九州大会が北九州市で初めて開催された。対戦カードは、男子カワサキ対高岡市役所、女子ヨネックス対三洋電気であった。

昭和58年には北九州市家庭婦人連盟（初代委員長石橋まるみ）が発足、その後会員も増加し、現在では36団体（現委員長　小野加代）660人で組織されている。

また、ジュニアを地道に育成した努力が実り、昭和59年ごろより八幡大学付属高女子部、61年ごろには同男子部が強くなり、現在でも男女とも県高校界をリードしている。

▽昭和61年度

第14回全国高校選抜大会で、八幡大学付属高女子部（田村富士美、間庭由美、藤原有紀子、田島由美）が初の全国制覇をなしとげ、また同年の山梨国体でも、田村、田島、間庭のメンバーで、県バドミントン界初の国体団体優勝を飾った。

▽昭和63年度

第38回全国高校選手権大会において、男子シングルスで３位に伊藤誠（八幡大学付属高男子部）が入賞。

平成になるとこれまでの協会とは様子が相当変わってきた。家庭婦人とジュニアのバドミントン人口の増加と活躍である。

▽平成元年度

近年小学生からの育成が実り、高校のレベルが上がってきた結果、10月15日開催された第27回市民体育祭のＡ級ダブルスにおいて、初めて高校生のアベック優勝であった。この年の主な市内大会の優勝記録は次の通り。

第26回クラス別大会（６月18日総合体育館）

男子

Ａ級ダブルス　古田、水口(西戸畑ク、運動具店)
Ａ級シングル　石井　（さつき会）
Ｂ級ダブルス　小松、高野　（八幡西高）
Ｂ級シングル　宮崎　（九工大）
Ｃ級ダブルス　浦野、長谷場　（ガット）
Ｃ級シングル　城戸　（どんぐり）

女子

Ａ級ダブルス　桶本、藤原　（それいゆ）
Ａ級シングル　桶本　（それいゆ）
Ｂ級ダブルス　柴田、野間　（黒崎クラブ）
Ｂ級シングル　野中　（九国大附属）
Ｃ級ダブルス　赤星、丸田　（九国大附属）
Ｃ級シングル　赤星　（九国大附属）

第27回市民体育祭（10月15日総合体育館）

男子

Ａ級ダブルス　中森、藤村　（八幡西高）
Ｂ級ダブルス　上野、久留　（九国大附属）
Ｃ級ダブルス　津崎、末次　（さつき会）
中学生ダブルス　岩丸、岩原　（城南中）

女子

Ａ級ダブルス　野中、桜本　（九国大附属）
Ｂ級ダブルス　小関、村上　（八西勤青）
Ｃ級ダブルス　植田、日隠　（ヤング若）
中学生ダブルス　下村、白石　（城南中）
小学校ダブルス　森、森　（城野クラブ）

第６回総合選手権

男子

ダブルス　石井、堂山　（アダチス、市役所）
シングル　堂山　（市役所）

女子

ダブルス　石井、津崎　（一般、どんぐり）
シングル　末永　（フリークラブ）

またこの年８月大阪府で行なわれた第１回全日本家庭婦人大会のクラブ対抗の部で北九州市のメンバーを中心とした「水曜会」が優勝。メンバーは伊藤信子、津崎由起子、佐田睦子、古森智恵子、川口益代、中村豊子であった。

▽平成２年度

第12回日本リーグ北九州大会が総合体育館で開催され、約3000人が観戦した。

男子　　ＮＴＴ東京―ＮＴＴ関西
女子　　三協アルミ―ベスト電器

▽平成３年度

ジュニアのシングルの一層の強化を図るため新規事業としてジュニアシングル大会を取り上げ、１月19日小倉南体育館で開催した。

石川国体の少年女子の部で福岡県が３位入賞したが選手に野中享子、伊藤　麗（九国大附属高）の２人がいた。

▽平成４年度

全国高校選抜で女子シングルス３位吉武由香里（九国大附属）男子ダブルス３位秋山龍彦、小澤　旭（八幡西高）シングル３位秋山龍彦（八幡西高）が入賞。

高校生の男女とも大活躍の年でもあった。

▽平成５年度

昭和43年より25年間続いた三澤理事長、淵上

事務局長ラインの若返りを図るため組織改正を行い、新たに副理事長、事務局次長制を平成５年４月１日より敷く。

会　　長　　小森　哲郎（留任）
副 会 長　　三澤　英二（新任）
　　竹内　久雄（新任）
理 事 長　　淵上　英紀（新任）
副理事長　　村尾　　隆（新任）
事務局長　　服部　秀喜（新任）
事務局次長　　門司　政廣（新任）

これまでの行事に新たに混合ダブルス大会を加え第１回大会は、Ａ、Ｂ、Ｃのクラス別で11月14日に開催した。

同じ11月に全日本ジュニア大会のシングルスで森かおり（城南中）が優勝した。

インターハイでは、秋武さとみ（九国大附属）がシングルス３位に入賞。

▽平成６年度

４月１日より、小森哲郎会長より柴田一郎会長（北九大教授）が就任。

８月には全日本中学校大会の個人戦で森かおりがまたも２位に入賞。

スポーツレクリエーション祭が11月に北九州市（若松体育館）で開催され、各都道府県のバドミントン愛好者が一堂に会し、大変有意義な祭典であった。これまでは、県単位での開催であったが今回初めて、政令指定都市単独開催のため競技面以外で色々の苦労があった。

▽平成７年度

これまで市内で団体戦の大会が開かれていなかったため、第１回北九州市クラブ対抗大会を開催した。

島根でのインターハイ及び、全日本ジュニア大会で森かおり（九国大附属）が共にシングルス３位。稗田華子（九国大附属）は福島国体少年女子の部で３位入賞のメンバーであった。

小学生では、12月に行なわれた全日本小学生大会、５年生ダブルスで楢野有希、和田真以子（北九州ジュニア）組が３位に入賞した。

小学生の全国大会での入賞は北九州市バドミン協会では初の快挙である。

▽平成８年度

ジュニアが大活躍をした年でもあった。高校では、森かおり（九国大附属）が８月にインターハイでシングルス、ダブルス（パートナー古谷充峯）で共に２位入賞。

中学生では８月の全国中学生大会で田邊理恵（南曽根中）がシングルス３位、田ノ上永利子、石井奈緒（共に千代中）のペアがダブルスで３位に入賞。

小学生では、８月に行われた全国小学生クラブ対抗北九州ジュニア団体２位、12月の第５回全国小学生大会で５年女子シングルスで楢野有希が２位に入賞。

本年度からジュニア育成のためスタートした全国小学生都道府県対抗大会で、県代表チーム（４人編成）として参加した楢野有希、和田真以子、風間ゆり（以上北九州ジュニア）が見事チャンピオンに輝いた。

▽平成９年度

現在、北九州市バドミントン協会の登録団体は125団体、約3,500名（うち家庭婦人連盟35団体700名）であるが、ジュニアの活躍、家庭婦人の活動に比べ、成年の男女の一層の活躍が望まれる。

今後、バドミントンの普及発展には、会員の協力も大切であるが、協会組織の強化と役員の一層の努力が必要である。当面の１つの目標は、福岡県下では初めての日本リーグの開幕戦（11月15～16日北九州市立総合体育館、男女16チーム出場）を成功させることである。

指導者

昭和40年代後半から活躍していた実業団チームは北九州市役所、住友金属、三菱化成、安川電機、国鉄小倉工場などがあったが、教室などの指導者としては、和田寿（九歯大）、遠山励、三澤英二、淵上英紀、筒井悟（三菱化成）、庄野重信（国鉄OB）、池田智彦（市役所）、中体連で熱心に指導している村尾隆（本城中）らがいる。忘れてはならないのは住友金属のチームづくりに尽力した故本田義種がいたことである。

今後の目標

現在、北九州市内で開催されているバドミントン大会は、区内大会を含めると月２回平均にもなっており、合併時と比較して隔世の感がある。市民体育祭の参加者をみても、第２回146人（第１回は種目別競技大会なし）第10回389人、第20回744人と急増している。今後21世紀に向けて、ハードではあるが、生涯スポーツにも最適なバドミントンの普及、発展、市民の健康増進と市の活性化のため、より前向きに活動していきたい。

歴代役員

会　長	近藤　一雄	S38
	岡崎　春雄	S39～48
	荻原　　弘	S49～55
	小森　哲郎	S56～H５
	柴田　一郎	H６～H９.９.30
	池田　　弘	H９.10.１～
副会長	浴田　　薫	S49～55
	三澤　英二	H５～現在
	竹内　久雄	H５～現在
理事長	箱崎　正夫	S38～42
		（事務局長兼任）
	三澤　英二	S43～H４
	淵上　英紀	H５～現在
事務局長	淵上　英紀	S43～50
	原　　穂美	S51～53
	淵上　英紀	S54～H４
	服部　秀喜	H５～現在

設立後５年を経て、競技人口の増加と組織強化をはかるため、理事長、事務局長の分担制を明確にした。

特に次の方々は、理事として永年にわたり協会発展のために尽力している。

協会発足以来

・三澤英二（市役所OB）・淵上英紀（市役所）

20年以上

・伊藤英雄（国鉄OB）・庄野重信（国鉄OB）
・筒井　悟（三菱化成OB）・村尾　隆（本城中学）
・後藤崇行（市役所）・服部秀喜（安川電機）
・片山次男（住友金属）・池田智彦（市役所）

10年以上

・後藤泰男（安川電機）・伊藤信子（さつき会）
・南貴美子（高見クラブ）・内山英美（JR九州）

筑後地区バドミントン協会



菖木　　章

1946（昭和21）年２月、太平洋戦争終結から僅か半年、まさに戦後間もない混乱期に日本バドミントン協会が設立されたことは本当に驚きでした。家を焼かれ肉親を失って生活にも事欠く時代だったからです。新しいもの好きの国民性とは言いながら何処にそんな余裕があったのかと信じられない気持ちが先にたちます。それから遅れること２年、漸く生活にも落ちつきを取り戻したとは言うものの物が無く、筆者は当時小学６年で手縫いのグローブと手縫いのボール棒切れを振り回していた頃、1948（昭和23）年

に福岡県バドミントン協会が発足した訳です。

更に、その翌年筑後地区バドミントン協会の前身とも言うべき久留米支部が発足し、当地からは福岡県バドミントン協会理事として、守田良夫・高橋英雄（日本ゴム(株)・現在アサヒコーポレーション）新村友太郎（日華ゴム(株)・現在月星化成(株)）の各氏が就任しております。

又、当地には久留米が九州におけるバドミントンの草分けであり、日華ゴムの倉田雲平氏（当時常務取締役・後に７代と10代の社長を歴任）が、インドネシアの国技であったバドミントン競技を持ち帰り紹介したとの風聞もあるのだが、定かなところは判っていません。

この様に、筑後地区に於けるバドミントン協会の生い立ちは、福岡県バドミントン協会久留米支部として始まった模様であるが、バドミントン競技が一般の人達から知られる様になったのはかなり後のようで、この頃は極一部の事務所で細々と活動していたに過ぎなかった様です。しかしながら、競技力は県内においてもかなり上位を占めていたと思われ、前述の日本ゴム及び日華ゴムの選手達は、全日本選手権や国体にも出場していたとの記録があります。

1950（昭和25）年、明善高校での練習会を契機として、市内の高校・事業所を中心に徐々にではあるが普及しはじめ、1952（昭和27）年には日本ゴムと明善高校が共に国体出場を果たしました。この後、明善高校については14年間にわたりインターハイ団体戦連続出場、個人戦を加えれば、男子22回、女子20回の多きを数えインターハイ30年史の記録によると全国高校で男子No.1、女子No.4の出場数を数え1979（昭和54）年、全国高等学校体育連盟より表彰を受けた事でも、筑後一円がバドミントン発展の中心となったことが頷けます。

さて話しは戻りますが、1953（昭和28）年には県協会の役員改選で前記守田良夫（日本ゴム）和田寿（久留大学助教授・前年より就任）三原邦吾（明善高校教諭）の３氏が県協会の理事に就任しました。

その後の紆余曲折はあるのですが、大きな事柄と言えば1955（昭和30）年、県内の各支部を四地区に整備、福岡・北九州・筑豊・筑後に別け、この時を期に久留米支部も筑後支部に改められたのではないかと推察致します。支部長に和田先生が就任し、それぞれの地元で活動されている方々（大牟田北高：平木武美先生、久留米裁判所：楢原駒太郎氏、久留米郵便局：尾関正春氏）が理事として起用されました。当時はバドミントンをしていた職域と言えば、諸官公庁が主体で前記裁判所、郵便局の他、電電公社、市役所、そしてブリヂストン、日本ゴム、日華ゴムなど限られた職場と高校・大学等でした。

1958（昭和33）年には、全日本大学バドミントン選手権大会（インターカレッジ）が、当時西日本一と言われた久留米大学御井学舎体育館に秩父宮妃殿下をお迎えして開催されました。又、同33年と翌34年には前述の明善高校で大活躍をされた丸山信義氏と中原昭嘉氏（当時、久留米大学体育助手、現在同大学助教授）が、２年連続して国体に出場しています。

1960（昭和35）年には、久留米市に県立の久留米総合スポーツセンター体育館が完工して、第11回全国高等学校総合体育大会（インターハイ）バドミントン競技が開かれました。この頃には、明善高校以外にも大牟田北高校、不知火女子高校の活躍も顕著になり、昭和33年、35年、37年と全国大会に個人戦での出場を果たしています。

この様に一部の職域や高校・大学でのバドミントン競技での活躍には目を見張るものがあったにも係わらず、一般的には正月の羽根つき程度のイメージが強く、男性のスポーツとしては白い目で見られる傾向があり肩身の狭い思いをしたのも事実であったと思います。

筆者は残念ながら1954（昭和29）年より4年間の学生生活を久留米で過ごしましたが、その頃は県協会久留米支部の存在すら知りませんでした。卒業後当地を離れた為、詳しい資料も入手出来ず、1967（昭和42）年、久留米市バドミントン連盟が発足した頃は、前記職域を中心に市内の大学・高校が主軸をなし、僅かに地域スポーツとしてのクラブ・団体が誕生していたかに仄聞しています。

1973（昭和48）年には、この地域クラブから森田弘（明善高校および関学で活躍）・吉良悠一（元日本ナショナルチームに在籍）の両氏が千葉国体に出場しています。

この頃から徐々にではあるが一般の地域・校区などにクラブ・団体が広がっていったことは言うまでもありません。

久留米市連盟が発足してから5年後の1972（昭和47）年に大牟田バドミントン協会が誕生しました。ここでは前記大牟田北高校の出身者と不知火女子高校の出身者が中心となり、三井東圧化学や三池鉱業所等職域を主体に働きかけ、普及していったと聞いています。当時飛ぶ鳥を落とす勢いであった熊本県と隣接する大牟田市にとって、日立造船、荒尾市役所、玉名農高など近隣の市郡の選手とも研鑽を積み、県内でもトップにランクされる迄に至ったことは特筆に値することでしょう。県大会・九州大会出場の常連であった小宮孝吉・野田守組は特に名声を馳せておりましたが、この小宮氏も1983（昭和58）年に国体出場を果たしました。

次に筑後地区でバドミントン協会を発足させたのは大川市でした。故中島政人教諭が大川高校で教鞭をとる様になってから、生徒にバドミントンの指導をする傍ら大川市農協・大川市役所に足を運び口説いたと聞いています。昼間は生徒の面倒を見、夜には前述の農協・市役所の人達に大川高校の体育館でバドミントンを教えられたそうです。自ら手をとって育てられたメンバーを中心に大川市バドミントン協会を1979（昭和54）年発足させました。若くして永逝された故中島政人先生を偲んで、中島杯を今に残しております。

1981（昭和56）年には、浮羽郡バドミントン協会が発足しました。ここには当時定時制の教鞭をとっておられた鎗水浩吉教諭がおられ、浮羽高校の体育館で吉井町・田主丸町・浮羽町から有志を集めてバドミントン教室を開いていたのですが、昭和56年に第1回浮羽郡民バドミントン大会を開催したのがきっかけで、協会の発足をみたそうです。

同じころ柳川市に於いても、柳川市バドミントン協会が誕生しています。この辺は大牟田市と大川市に挟まれた地域で周囲の三池郡高田町・山門郡瀬高町・大和町・三橋町・三潴郡大木町と併せて早くからバドミントン競技は行われていました。特に小・中学生部門では都英幸先生や古川憲一先生が指導され、この地域のバドミントン普及に大きな貢献をしておられます。柳川市での協会発足は柳川市体育協会からの勧めもあり、古川先生が尽力されてつくられたかに聞いております。合わせて山三郡と言われる周囲の地域では1984（昭和59）年頃、協会の設立等の話しも聞いておりますが、筑後地区協会には未加入のため詳しくは判りません。

1983（昭和58）年4月に小郡市バドミントン連盟が発足しました。小郡市でも市体育協会の

要請があって、活動を続けていた権藤弘則、吉浦大志博、末次義次氏など小郡市役所のメンバーを中心に組織化されたと聞き及んでいます。
その他、未だ組織化を見てはいませんが、八女市に於いても八女クラブ・すみれクラブ（家庭婦人）等が活動を続けており筑後地区協会に加入をしています。尚、未加入のところも多々あり八女郡広川町でも広川クラブ、筑後市、三潴郡の各地でもグループ単位ながらバドミントン活動が行われている様です。

話しは少し逆上りますが、各地域（市郡）でのバドミントン協会が次々と産声を上げている中、筑後支部の状況は1978（昭和53）年を境に活動が鈍化し、従来より大川・大牟田地区との交流を意図して行われてきた大会も、約２年半にわたり実施されていなかった事から、各地域での批判が高まり、1979（昭和54）年秋口頃に大牟田の小川素光氏・大川の岡利徳氏・柳川からは古川憲一氏の各面々が来久され、久留米市連盟からは中島武久・森光秀行と筆者の６人が久留米大学の体育教官室に集まり検討を重ねた結果、会長の三原先生にお願いして従来県協会からの通達のみであった筑後支部を解体して頂くと同時に、新たに筑後地区バドミントン協会を発足させる事に衆議一決したものであります。支部の業務は協会の一事業として運営する事とし、継続して三原邦吾先生を会長に、各地区（市郡）協会の役員を理事としてお願いし、協会の合議制運営体制を固め、初代の理事長に不肖筆者が就任して、各地区からの意見も反映できる協会の活動を目指して動き始めたものです。

現在の筑後地区バドミントン協会の体制が確立してからは、当初２年の約束で就任した理事長の役職を引き継いでくれる人がなく、1987（昭和62）年森光秀行氏が就任する迄の６年間務めることになってしまいました。森光秀行氏には、第45回国民体育大会をはさむ４年間を頑張って貰ったのですが、国体修了と同時に辞任の意向を強行に申し出られた為、空席をつくる訳にも行かず、氏が理事長を務めていた間、事務局をしていた筆者が再び理事長にひっぱり出されるに至りました。この間、三原邦吾会長も高齢のため体調をくずされ、1990（平成２）年、会長を退かれ、同年４月より現会長の古賀昭氏（久留米市バドミントン連盟理事長を歴任）が就任して今日に至っております。

又、前述の第45回福岡国体には、成年の部鎗水浩吉監督のもと筑後地区から中村正己（大川）・荒木秀文（瀬高）の両氏、少年の部には江口俊広（大牟田高校）選手が出場しております。以上述べて参りました様に、筑後地区からは前述した人達の他にも幾多の優秀な選手が出ており、県大会優勝など会場を沸かせた選手も沢山おられます。大川の梅崎雄二氏、都先生の教え子と言われている古賀蔵氏（現県協会強化委員長）、同氏のパートナーだった目野幸光氏、浮羽からは今村義広氏などが一番に名前が挙げられるところでしょう。惜しむらくはこうした優秀な選手の皆さんの幾人かは、現在まったくラケットを握ることもなく、後進の指導をもされていない事を聞くとき、未だマイナースポーツの域を脱しきらぬバドミントン界にとって、真に残念であり淋しい思いがしてなりません。

終りに、資料をお寄せ下さいました方々に厚く御礼申し上げますと共に、資料収集に筆者の友人が中心になった事から、多少の偏りがあったり、手前味噌になった傾向があるやも知れず、その点、ご了承たまわりたくお願い申し上げます。

なお、福岡県バドミントン協会の益々の発展と、バドミントンを愛好される皆さんの御健勝とお幸福を祈念して筆を置きたいと思います。

筑豊地区
バドミントン協会



野見山　弘　次

1　発足年月日

昭和30年６月
（県下４支部に組織構成時に併せて発足）

2　発足時の役員名

会　長　野上　泰男（直方市　野上鉱業社長）
副会長　森脇　晃治（田川市　田川市役所）
理事長　福田　勝久（直方市　直方市役所）
理　事　宮崎洋一郎（行橋市　宮崎スポーツ店）
　　野見山弘次（鞍手郡）
　　安永　昭夫（飯塚市）他

3　発足の頃

昭和26年４月、直方支部、飯塚支部が発足。

直方支部は、石井正則氏（現直方市名誉会長）を会長として、川崎健次（野上鉱業）吉田静男（直方裁判所）が熱心に直方市の公会堂で直方市役所職員等を指導していた。飯塚支部は、安永照夫が中心になってまとめられた。

その他、田川市役所でもクラブが作られ、上記三市が中心になって筑豊協会が発足し、三市持ち回りで筑豊選手権大会が開催された。特に直方市では、他の地区と同様に練習会場が少いため、野上泰男が会社の工場を練習場として開放。コート一面で床はアスファルトではあったが、週２～３回、夜７時から11時頃まで熱心に練習していた。雪の降る中、遠く田川市からバイクで練習にかけつけていた故川島氏（田川市役所）の姿もあった。

この中から、村上守（県職）、野見山弘次、浜司純一等の選手が県大会でも好成績をあげている。

4　発展期

筑豊支部として組織的に充実・発展していったのは、昭和40年代に入った頃からだろう。支部の中に田川郡、遠賀郡、行橋市、築上郡、豊前市等が加わり、成壮年からジュニアの指導の方にも広がっていった。高校では、京都高校定時制（指導者、横溝安伸現県協会理事長）、鞍手高校、筑豊高校、田川東高校が県大会でも優秀な成績を上げており、小・中学生のいわゆるジュニア指導者が、各地域で情熱的に指導を続けている。田川郡金田町の平井氏、遠賀郡岡垣町の池田明男、森嶋通之などである。そしてこのジュニアの選手が、中学、高校と続けていく中で、全国的に注目される選手となり、県バドミントン界の底上げ、成績向上につながってきている。

この間、森脇会長、寺岡良隆理事長（苅田町）をはじめ各地区理事の連携と地域での根気ある指導・世話があったことはいうまでもない。

5　現在

・役員名
会　長　寺岡良隆（苅田町）
理事長　森嶋通之（岡垣町）（事務局）
理　事　14名

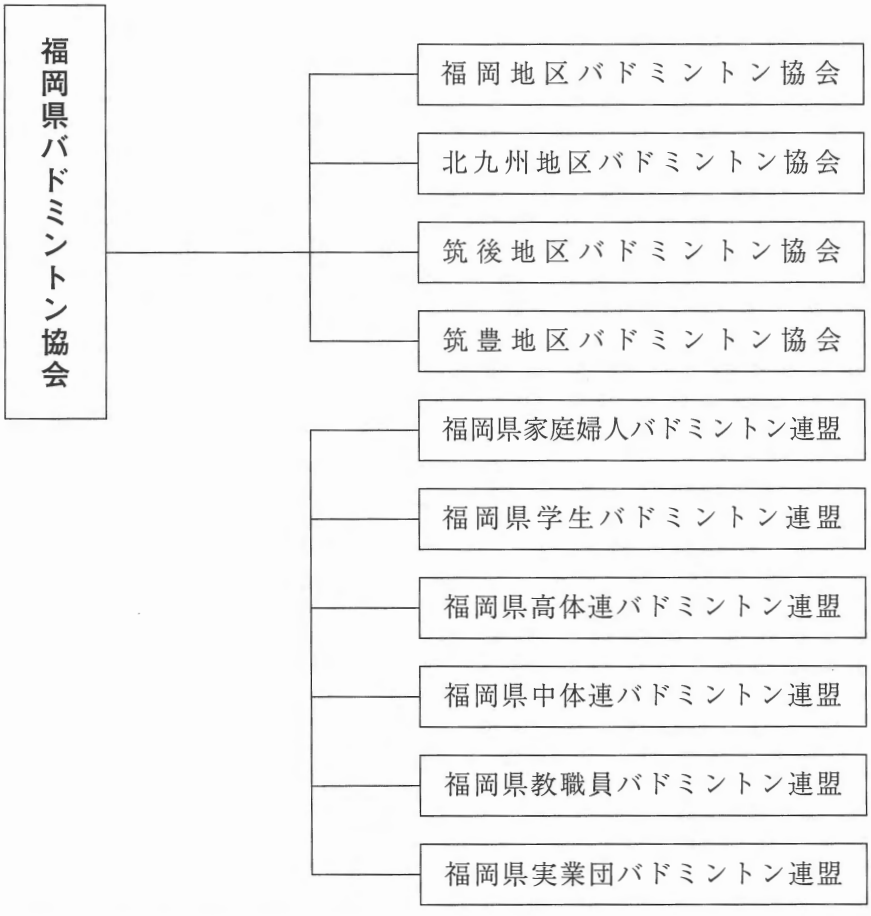
6　将来に向けて

筑豊支部といっても、京筑地区、嘉飯山、直鞍地区、遠賀、中間地区と広域にわたっており、各地域での状況はそれぞれ特色があり、又悩みも抱えている。遠賀郡、築上郡等ジュニアの指導は確固たるものがあり、県下ジュニア選手の

トップを常に維持しており、一方、嘉穂郡、田川市郡では一般社会人の普及発展と地域間の交流に意を注いでおり、全体としては、オープン大会等の開催が各地区であり、大会の数は、過去10年前と比較にならないものがある。

今後、支部の発掘、充実を願う中で、留意すべき点として高齢社会を迎える中、壮・老年層、婦人層が気軽に大会等に出場できるような、種目構成を競技運営者が配慮する中で生涯スポーツとしての健康体力づくりに寄与していくという考え方に立って普及指導をしていかねばならないのではなかろうか。その中から各地区で地域の特性を生かした、活気ある大会、個性ある選手が出てくることを祈って止まない。

福岡県バドミントン協会の組織図



第3節 連盟の歩み

福岡県バドミントン協会は、下部組織として、福岡県学生バドミントン連盟（昭和30年６月）、福岡県家庭婦人バドミントン連盟（昭和59年４月）、福岡県実業団バドミントン連盟（平成５年４月）、福岡県教職員バドミントン連盟、福岡県高校体育連盟、福岡県中学校体育連盟を有する。

福岡県家庭婦人バドミントン連盟



小 川 末 子

発足期

発足年月日 1984（昭和59）年４月１日

発足時の役員名

運営委員長	福岡西区	三浦ひろ子
副運営委員長	中央区	宮地弘子
委員	北九州市	石橋なるみ
		伊藤信子
		宮原姫子
		小金丸恭子
	直方市	時川律子
	遠賀郡	相野テツ子
	久留米市	式 輝子
	朝倉郡	大津篤子
	京築地区	石井治代
	宗像市	赤星京子
	粕屋郡	黒川香代子
	春日市	成吉八千代
	太宰府市	河野治美
	大野城市	権藤由希子
	筑紫野市	甲斐志代子
	筑紫郡	岩本敬子
	福岡市南区	原田久子
	福岡市東区	吉田信子
	福岡市博多区	藤川隆子
	福岡市早良区	宮部敬子
	福岡市城南区	山下シノブ
委員	福岡市	江口マチ子
幹事	福岡市	興膳律子
	北九州市	小金丸恭子

発足に至った経緯

県内の家庭婦人のクラブが増えて来たことと、他府県で家庭婦人の連盟が出来て活動しているのにならって結成した。

発足時の規約

発足時の規約は当時の宮崎県の家庭婦人連盟の規約を送っていただき、参考にして作成された。（林田さん<宮崎代表 九州家婦連副会長>の話）

発足時の組織

昭和63年に辰市祐昭を会長に推挙

思い出の大会と選手

第１回全日本家庭婦人バドミントン大会
（任意）S49.11.8～9（国立代々木競技場）
Aチーム（吉田 小川 財部 安川 宮地）６名
Bチーム（宮山 青柳 古賀 堤 三浦 岸川）６名
・国立代々木体育館でプレイ出来た事。
・他府県のレベルの高さに驚いた事等々。
・遠くからよく参加して下さいましたと堤さん選手宣誓。

発展期

歴代の役員と変遷

昭和59年	運営委員長	三浦 ひろ子
昭和60年	運営委員長	三浦 ひろ子
昭和61年	第８回九州家庭婦人親善大会	
	運営委員長	三浦 ひろ子

連盟の歩み

昭和62年　運営委員長　三浦　ひろ子
昭和63年　会長制度を設ける
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　副運営委員長　宮地　弘子
平成元年　第1回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　副運営委員長　宮地　弘子
平成2年　第2回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　副運営委員長　宮地　弘子
平成3年　第3回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　副運営委員長　宮地　弘子
　有薗　靖子（9月～）
平成4年　第4回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　副運営委員長　有薗　靖子
平成5年　第5回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　理事長制度に変更
　会長　辰市　祐昭
　運営委員長　三浦　ひろ子
　理事長　小川　末子
　副理事長　有薗　靖子
平成6年　第6回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　連盟創立10周年記念大会（12月）
　会長　辰市　祐昭
　副会長　三浦　ひろ子
　理事長　小川　末子
　副理事長　有薗　靖子
平成7年　西日本大会のため休む
　会長　辰市　祐昭
　副会長　三浦　ひろ子(12月没)
　理事長　小川　末子
　副理事長　有薗　靖子
平成8年　第7回福岡県4地区対抗家庭婦人大会
　第14回全日本大会に参加（7月）
　会長　辰市　祐昭
　副会長　（空　席）
　理事長　小川　末子
　副理事長　有薗　靖子
平成9年　会長　辰市　祐昭
　副会長　（空　席）
　理事長　小川　末子
　副理事長　有薗　靖子

発展段階での苦労話・エピソードなど

家庭婦人大会の使用シャトルが、しばらくの間合成球だったので参加しないと言う人達がいたり、九州家庭婦人バドミントン大会の会議では、毎回水鳥球を使用したいという県と合成球で良いとの県で意見が合わなかった。

思い出の大会と選手

H6.12.1　福岡県家庭婦人10周年記念大会
H7　第22回西日本家庭婦人バドミントン大会

この大会の為、資金集めのために会員や理事が、お茶や乾物を販売したが、その時かさばる品物で家の中が狭くなって困った。

現在～将来像

生涯スポーツの一つとして、長年にわたり実践してきた健康作り、仲間作りを通して次の世代の子供達の育成に力を入れていきたいと思います。又、バドミントンは年令性別を問わず楽しめるスポーツなので、高齢者にもさわやかに汗をながし、健康作りが出来るようにお手伝いをしていければと考えています。

福岡県実業団バドミントン連盟



坂　田　雄　二

発足期

発足年月日　1993（平成５）年４月１日

発足時の役員名

会　長…北田葆光　副会長…横溝安伸
理事長…坂田雄二　理　事…西本　孝　有田仁志
入江睦雄　富村道徳

発足に至った経緯

1992(平成４)年７月に福岡県実業団バドミントン連盟結成についてのアンケートを実施。
賛成17　反対１　何とも言えない７
1993(平成５)年３月20日に行われた福岡県バドミントン協会理事会で長年の、懸案でありました福岡県実業団バドミントン連盟結成について承認を得、更に同年３月24日各チーム代表者が集っての結成大会で正式に発足の運びとなった。

発足時に苦労したこと・思い出

福岡県実業団バドミントン連盟発足前は県実業団大会は、福岡県バドミントン協会主催で行われていた。実業団チームの活性化とバドミントン競技の技術向上および普及を目的として福岡県バドミントン協会とは分離独立して、平成５年４月１日に九州各県では初の福岡県実業団バドミントン連盟が発足した。

県実業団バドミントン連盟発足にあたって、大阪まで出向き、当時大阪府実業団バドミントン連盟理事長の池田氏にはいろいろとご指導・アドバイスいただき大変感謝し、また意を強くした。

発足時の組織

福岡県実業団バドミントン連盟準備委員会メンバー
坂田雄二、横溝安伸、西本孝、和田将洋、西本浩一、桑鶴義文、長倉功、中牟田良博、浅川隆敏、濱田和宏、佐田聡

思い出の大会と選手

第44回全日本実業団バドミントン選手権大会が1994（平成６）年６月15日から19日まで全国各地から男子133チーム、女子78チーム計211チームの役員、選手約2,000名をお迎えして福岡市民体育館を主会場にして、福岡市内４会場で盛大に開催された。福岡県で開催されるのは昭和40年度に第15回北九州大会を北九州で開催して以来、実に29年振りのことで福岡市で開催されるのは初めてのことであった。大会は４日間にわたり熱戦が繰り広げられた。特に地元福岡のベスト電器男子チームが準々決勝で本大会準優勝の日本ユニシスチームにマッチポイントを取り、勝利目前のところまでいきましたが、最後は経験の差が出て３対２で惜敗しましたが、第５位の成績で大いに健闘しました。

発展期

発展段階での苦労話・エピソード

1993（平成５）年４月１日に福岡県実業団バドミントン連盟が発足した直後のこと、1994（平成６）年６月に行われる第44回全日本実業団バドミントン選手権大会を福岡市で開催したいとの話が福岡県バドミントン協会を通して県実業団連盟にあった。県実業

団連盟としては県実業団連盟が発足した直後でもあり、まだ軌道にのっておらず福岡市の体育施設も決して十分でなくまた日本経済はバブルがはじけて各企業とも景気後退の中、環境は決して良くなく、福岡市開催は時期尚早との声が､県実業団連盟内で大半であった。

しかし、日本実業団連盟の強い要請で福岡市開催が決まったが、大会開催に向けて一番頭を痛めたのが、大会運営資金をどうやって捻出するかであった。約2,800万円の大会運営資金の内、大会参加料はその50％強で残りの1,400万円相当をどう調整するか大変苦労しましたが、福岡県実業団バドミントン連盟会長北田葆光氏(ベスト電器代表取締役社長)福岡県バドミントン協会会長四島司氏（福岡シティ銀行頭取）および福岡県バドミントン協会副会長辰市祐昭氏、福岡県バドミントン協会理事長横溝安伸氏のご尽力により財政面は解消され、福岡県バドミントン協会ならびに福岡県実業団バドミントン連盟の関係者のご協力、結束もあって５日間の大会日程を無事、終了した。

思い出の大会と選手

福岡県実業団バドミントン連盟主催で1993（平成５）年11月11日～13日、福岡市立南体育館で第15回バドミントン日本リーグ２部大会を開催、ベスト電器チームが男子チーム、女子チーム共に７戦全勝で優勝。そして1994（平成６）年10月１日～４日福岡市立西体育館で日本リーグ加盟の女子選手70名が集まって若手選手の登竜門である'94バドミントンクィーンズサーキット福岡大会ベスト電器シリーズを開催。夕方には陣内貴美子さんや各チーム監督によるバドミントン講習会を実施して、地元バドミントン愛好者を喜ばせた。

1996（平成８）年９月21日～22日には、福岡市民体育館で第42回全九州実業団バドミントン選手権大会を開催。優勝は男子がＹＫＫ九州、女子がＮＥＣ九州、地元ベスト電器チームは男女共２位に終わった。

現在～将来像

1）九州実業団バドミントン連盟発足
2）登録チーム数の増加、特に女子チーム数の増加
3）指導者の養成及び組織の強化
4）技術向上の為の研修並びに講習会の実施
5）バドミントン競技の指導及び普及
6）バドミントン競技大会の増設

福岡県教職員バドミントン連盟



村　尾　　隆

1967（昭和42）年の秋、中島政人（故人：福岡教育大卒。当時門司高校（定）教諭のち大川高校教諭）から相談を受けた村尾隆（現連盟会長：北九州市立則松中教諭）が中心になって規約・組織作りに取組み、当時の福岡県バドミントン協会の和田寿理事長（九州歯科大学教授）の指導や今雪美千恵福岡教育大学教授の支援を受けながら､1968(昭和43）年12月８日、福岡教育大学で設立準備委員会を開き、発足に至る＜会長：和田寿、理事長：村尾隆＞。当時は、教職員の競技人口も少なく福岡教育大学ＯＢや同大職員を中心に、高体連関係者や同好の士の集まりといった感じのものであった。そして理事長の村尾隆を中心に、都英幸（現大牟田市立三池小学校校

長)、中島政人（前述)、野見山弘次（現県立八幡南高校事務長)、鎗水浩吉（現県立浮羽高校教諭）の５人で全日本教職員大会や九州国体予選に参加。その後、元九州工業大学職員福山明則（事務局長を歴任）も加わり、全日本教職員大会前に大川高校や九州工業大学、北九州大学を使っての合宿練習などで、自分たちのレベルアップにも努力し、福岡県の名を揚げるようになった。そして、指導者としても活躍し、都が小学生を、村尾が中学生を、野見山が中・高生を、中島が高校生を、鎗水は地域でと、それぞれが自分の持ち場で指導力を発揮し、すばらしい成果を上げている。福岡県教職員バドミントン選手権大会としては、春・秋の年２回福岡教育大体育館で開催していたが、後に４地区持ち回りとなり、現在では春は福岡地区に固定し、秋だけ他の３地区持ち回りにするようになった。

1972（昭和47）年から、理事長村尾が福岡県バドミントン協会理事として、県協会運営にも関わるようになり、福岡県中学生バドミントン大会を創設。その後、野見山が指導委員長に、鎗水が強化委員長に就任するなどして、協会内でも大いに貢献している。現在も、村尾が審判委員長、都の教え子の古賀蔵（筑後市立筑後北中学校教諭）が強化委員長、上薗幸則（福岡教育大卒：福岡市立城南中学校教諭）が指導委員長として活躍している。又、現在、福岡県バドミントン協会および九州バドミントン連盟の理事長を務めている横溝安伸（県立筑前高校教諭）が、福岡県教職員バドミントン連盟の副会長を務めている。

1983（昭和58）年には、理事長村尾の提唱により九州地区教職員バドミントン大会を創設し、各県持ち回りで開催されている。現在14年連続出場者は村尾と坂本哲（北九州市立香月中学校教諭）の二人だけである。

発足当時役員

会　　長	和田　　寿	（九歯大）
副 会 長	三原　邦吾	（明善高）
副 会 長	林　　昌三	（福教大）
理 事 長	村尾　　隆	（枝光中）
事務局長	今雪美千恵	（福教大）
会　　計	中島　政人	（門司高定時制）
理　　事		
北九州	村尾、中島、鎌田、高祖	
福　岡	今雪、麻生、国次、小島	
筑　豊	野見山	
筑　後	都、山下、河野、今村	
幹　事	前田、徳重	

歴代の役員

会　長	初代	和田　　寿	（昭和43年～平成元年）
	２代	後藤　　研	（平成２年～平成７年）
	３代	村尾　　隆	（平成８年～現　　在）
理事長	初代	村尾　　隆	（昭和43年～平成元年）
	２代	横溝　安伸	（平成２年～平成５年）
	３代	古川　憲一	（平成６年～現　　在）
事務局長	初代	今雪美千恵	（昭和43年～昭和44年）
	２代	中島　政人	（昭和45年～昭和54年）
			死去
	３代	福山　明則	（昭和54年～平成元年）
	４代	古川　憲一	（平成２年～平成３年）
	５代	日高　澄具	（平成４年～現　　在）

発展段階での苦労話・エピソード

全日本教職員大会に向けての夏合宿は、大変なものでした。学校の一般教室の机をかたづけて板ばりの上に毛布で寝るので、蚊がどんどんやってくるし、体は痛いし、暑いしで、疲れがとれるなんていうことはない。蚊取線

香をたいたり、薬を塗ったり、疲れを取ろうと思って酒でも飲めば、尚蚊に愛されるしで、なかなか寝られない状態でした。それでも２泊３日、３泊４日とみんな若さでよく頑張ったと思います。おまけにお金がないので、食事にもいろいろ気を遣いました。

そんな中、竹中（現栂野尾）・相沢組（当時ヨネックス：全英選手権複優勝）に大川高校まで来ていただいてコーチを受けたり、話を聞かせていただいたりして大変有意義な時間を過ごせた思い出もあります。

又、連盟独自で技術講習会を実施し、ヨネックスの選手を講師に招き、多くの会員が汗を流しながら、技量アップに取り組んだこともありました。

思い出の大会と選手

（１）全日本教職員大会

第９回岐阜大会に初参加。第11回秋田大会には新幹線乗り継ぎで行ったが、新幹線が遅延し、上野からの寝台特急に間に合わず、新潟乗り継ぎの普通急行で秋田着。しかし、特急料金払い戻しで選手一同大喜び。旅館では冷房どころか扇風機もなく団扇で我慢。そんな中女子が団体で３位に入賞。

第18回大会を北九州市で開催。成壮年団体Ａ、Ｂチーム揃って３位に入賞、個人戦でも地元の利を生かして30歳男子単で中島政人が３位に入賞するなど大いに活躍。大会前日の懇親会もこの時から始めた。

（２）国体九州予選

当時国体では、教員の部があって九州からは１県しか出られず、予選で熊本にいかにして勝つかが課題であった。昭和41（1966）年村尾・都で出場以来決勝までは進めるのだが、どうしても熊本の壁が破れず、昭和54（1979）年の教員の部最後の年を迎えてしまった。その年は全県出場できたが、肝心な中島が９月に死んだため、１回戦はやっと勝てたが２回戦で敗退してしまった。

今後の課題

全日本教職員大会では、福岡国体で選手として活躍した荒木秀文、明神憲一らが第32回大会以降個人戦で優勝・準優勝するなど活躍が目立つが、それを全体的なレベルアップにつなげられるようにする必要がある。

併せて、会員数の伸び悩み、特に、女子会員の確保、拡大が大きな課題として残されている。

もう一つ、九州教職員バドミントン連盟を結成すること。

平成９年度役員

名誉会長　和田　　寿
　　後藤　　研
会　　長　村尾　　隆（則松中）
副 会 長　横溝　安伸（筑前高）
顧　　問　今雪美千恵
理 事 長　古川　憲一（高田中）
理　　事
北 九 州　柴田英明(折尾高)　成富勝彦(八幡西高)
　　坂本　哲(香月中)　門司政廣(板櫃中)
福　　岡　上薗幸則(城南中)　副島　力(九州大)
　　白石　淳（福女大）
筑　　豊　野見山弘次(八幡南高)　本松裕幸(直方養護)
　　平野清太(田川農林高)
筑　　後　古賀　蔵(筑後北中)　田中泰敏(大川中)
　　島添静治(江浦小)　三谷浩一(荒木中)
幹　　事　西元孝幸（行橋高）　梅崎雄二(三又小)
事務局長　日高澄具（九州大）

第２章

座　談　会

座談会

日時：1996（平成８）年６月22日（土）
場所：アクシオン福岡「研修室」
福岡市博多区東平尾公園２－１－４



緒方　小川　村尾　野見山　淵上　鎗水　横溝　桶本　田尻
辰市　平木　和田　金光　今雪　後藤　伊藤

出席者

横溝　安伸（総合司会）	
和田　　寿	桶本百合子
辰市　祐昭	伊藤　篤治
後藤　　研	鎗水　浩吉
平木　武美	村尾　　隆
野見山弘次	田尻　芳子
金光　政秀	小川　末子
今雪美千恵	緒方　蓉子
淵上　英紀	藤本　俊史

横溝　お忙しい中、本日は『福岡県バドミントン協会50年史』の座談会にご出席いただきまして、ありがとうございました。福岡県バドミントン協会の50周年記念事業の一つとして50年の協会の歩みを纏めようとその編集委員会を組織していますが、その編集委員長を藤本さんにお願いしております。自己紹介を兼ねて、本日の主旨なども含めましてご挨拶申し上げます。

藤本　こんにちは。福岡県バドミントン協会50年史の編集委員長の藤本でございます。現在、私は、福岡市バドミントン協会の理事をしておりますが、仕事が福岡大学で大学史の編集をやってたということと、近刊になります『福岡県体育協会50年史』の福岡県バドミントン協会の箇所を私が執筆したこともあって、福岡県バドミントン協会50年史の編集委員長を仰せつかったわけです。よろしくお願いいたします。

福岡県バドミントン協会が昭和23年に発足いたしましてから平成10年でちょうど50年を迎えます。そこでこの半世紀の歴史を綴ろうと、現在発刊に向けて作業を進めているところでございます。

そこで本日はその50年の足跡を「座談会」形式で皆様方に昔の思い出なり、苦労話なりをお話いただけたらと思いましてお集まりいただいた次第です。あまりかたくならずに皆様で昔話に花を咲かせるという気持ちでお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

横溝　それではまず和田副会長から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

和田　お忙しいところ、皆様にお集まりいただいて、ありがとうございました。こうした50年の歴史を経てきました福岡県バドミントン協会の一つの転機といいますか、それにこうした過去の功労者の皆さんにお集まりいただきまして、いろいろ昔話なりを座談的にお話しいただきまして、なにか参考になればと思います。よろしくお願いします。

横溝　本日の進行はわたくし横溝の方で進めさせていただきます。進め方としましては、先ほど申しましたようにざっくばらんにお話をしていただくという形で、時代を追って進めていきたいと思います。

1948（昭和23）年の１月20日に福岡市役所の厚生部長室に発起人が集まり、福岡県バドミントン協会の規約制定その他を確認して結成をしました。そして同年２月26日に日本バドミントン協会に加盟申請がなされ、福岡県バドミントン協会はスタートしたということになっております。

この昭和23年に第１回の全九州バドミントン大会や北九州と福岡の対抗大会などが催されているようですし、また第３回の国体が福岡で開催され、バドミントンは正式種目ではなくていわゆるオープン競技で屋外で競技がなされたと伺っておりますが、このあたりのことについて和田先生にお話しいただけますでしょうか。



県協会発足まで

（和田　寿）

和田　私が昭和26年に久留米大学の助教授で行ったとき、福岡県バドミントン協会の久留米支部長をされていた新村友太郎さん（日華ゴム）が転勤されるということで、その後任に支部長をやってくれというので昭和27年に福岡県バドミントン協会に入りました。中村高治さんという方がいまして、中村さんは戦時中上海におられました。それで私が昭和21年戦地から帰ってきたときに、家内が結核で倒れて療養所に入院をしたんですが、その同じ部屋に中村さんのお嬢ちゃんが入院されていたもので、知り合いになりました。私はスポーツ関係のことをやっていましたし、中村さんは川端（福岡市）で運動具店をやっておられました。そういうことで中村さんとはしょっちゅうお会いしてました。

その中村さんのところに東京で日本バドミントン協会をつくられた宮澤さん－この方も上海におられて中村さんとも親しかった－が訪ねてこられて、中村さんに福岡県バドミントン協会をつくってくれないかという依頼があった。そこで中村さんは、その時の福岡市厚生部長をされていた西園富吉先生を訪ねて、ひとつ世話をして下さいと頼んだ。西園先生という方は、非常に顔が広い方で、そういう各スポーツ、各団体、西鉄とかいくつかの団体の方を集められて福岡県バドミントン協会をつくったと、そのように中村さんから承っております。

横溝　ただいま福岡県バドミントン協会の設立の経緯についてお話をいただきましたが、昭和24年に福岡県バドミントン協会は福岡支部・小倉支部・久留米支部の３支部ができています。朝鮮戦争の前の年です。

淵上　昭和24年頃のことについて、お話しします。これまで福岡県バドミントン総合選手権は北九州でずっとやってきたわけですよね。最近は持ち回りで行われているようですが。最初はいつだったかと調べてみますと（逆算すると）昭和24年に第１回の福岡県バドミントン総合選手権（当時そう呼ばれていたかどうかわからないが・・）が行われています。その後昭和27年の第４回福岡県バドミントン総合選手権以降、北九州で行われるようになったのは、実業団の関係で北九州の参加者が多いし、北九州が強かったという事で、おそらく北九州で行われるようになったんじゃないかと思います。

それから前年の昭和23年には全九州の第１回バドミントン大会が行われていて、西鉄小倉が男女共に優勝してます。そしてまた、旧小倉市が、新しいスポーツをバックアップするという

こともあって…。

横溝　「福岡県バドミントン協会30年史」では、昭和24年９月18日に第１回福岡県バドミントン選手権兼国体予選が筑紫高校で行われていたと書かれていますが、この大会とは別の大会でしょうか？

淵上　ひょっとしたらそれかもしれません。

横溝　そうしますと、現在の福岡県バドミントン総合選手権は当時福岡県バドミントン選手権と呼ばれていたものということになりますが。第１回の優勝は、安川電機ですね。男子の方はダブルスもシングルスも。女子の方は、吉富製薬が優勝です。それから場所は、北九州ではなく筑紫高校となっています。筑紫高校というとどこにあったんでしょうか？

辰市　今の筑紫ヶ丘高校（福岡市南区野間）のことです。昭和23年に学制改革で筑紫中学校が筑紫高校になって、翌昭和24年筑紫ヶ丘高校に改称した。

横溝　いずれにしても、昭和24年の福岡県バドミントン選手権大会が第１回であることはまちがいないですね。そして昭和25年にはいると、日華ゴムの新村友太郎さん・若林博さんという方が福岡県代表として第３回日本バドミントン選手権大会（石川県）に出場されているようです。そして昭和26年に、福岡県バドミントン協会は直方支部と飯塚支部が加わり県下５支部となったようです。

淵上　昭和25年には、第３回全九州職場対抗バドミントン大会があって、安川電機が優勝してるんですよ。25・26年と連続して優勝しているようです。
昭和27年、高校では明善高校が男女共出場しています。明善高校はインターハイにこのころ連続して出場しています。また九州インカレ（九州地区大学体育大会）では北九州大学が27・28年男子が優勝しています。その後、福岡大学が強くなっています。

横溝　昭和27年の第２回九州地区大学体育大会が福岡学芸大学で行われたと記録にありますが、これは塩原の体育館ですか？

今雪　そうです。27年ならばもう学芸大になっています。でもあそこは狭かったですね。４面です。

淵上　和田先生。久留米大学の体育館はいつ頃できたんですか？

和田　昭和30年では。私が昭和27年頃バドミントン協会に入ったんですが、その時に宮崎で博覧会があったんです。その会場が宮崎大学の体育館で、バドミントンコートが８面とれる非常に大きな体育館でした。これはすばらしい体育館だということで、その思いを福岡に持ち帰りまして、私がいた久留米大学にそのような大きな体育館をつくろうと運動しました。しかし体育大学じゃないんだからと、まわりから随分おこられたりもしましたが、ブリジストンの石橋社長（久留米大学理事長）が、「つくるのなら大きいものをつくれ。」の一言でつくった。昭和30年にできました。８面の体育館です。

横溝　今、昭和30年あたりの話が出ておりますが、昭和27年に九州学生バドミントン連盟が

発足し、会長に西園富吉さん、副会長に和田先生がなられています。そして昭和30年に福岡学生バドミントン連盟も発足し、同じく会長が西園さん、副会長が和田先生となっていますが、この年に久留米大学の体育館ができたんですね。

和田　私が久留米大学にいるときに、福岡商科大学の西木文男さん、それと九州大学バドミントン部主将の長野嘉久さんが私のところに来て、九州学生連盟をつくりたいといわれて私の家で規約とか役員をだいたい話し合い、九州学生連盟は発足したんです。それが昭和27年。その時参加数が非常に少なかったですね。熊本もまだ入ってなかった。10大学もなかった。

それから福岡学生バドミントン連盟は昭和30年発足ですが、それも私のところでつくりました。福岡商科大学の若林保男（明善高校出身）さんを中心にして。その頃は明善高校が全盛時代。そして福岡商科大学ですね。それと九州大学と西南学院大学、北九州大学。その４校が大学では中心ですね。それから女子では福岡女子大学です。

九州バドミントン連盟については、それまでは各県の協会がそれぞれ主催して九州の大会を開催していたんですが、参加者の増加や組み合わせなどでいろいろと問題が出て来はじめたので、つくりました。昭和29年、九州ブロック国体予選が福岡県小倉市であるのを機に、福岡県バドミントン協会会長西園富吉さんの名前で、各県協会代表者を小倉に呼び集めました。そこで本部は長崎の信用金庫の理事長だった加藤錦さんを会長にして長崎においた。理事長は長崎県バドミントン協会理事長の松浦信義さんにお願いした。しかしその頃のバドミントン人口は福岡県が断然多かったんですね。それで長崎県から是非福岡県で世話してくれということでしたので、１年後に福岡県に移りました。そういうことで歴代、福岡県がずっと九州バドミントン連盟を世話するようになったものですから、福岡県バドミントン協会会長が九州バドミントン連盟の会長。福岡県バドミントン協会の理事長が九州バドミントン連盟の理事長、ということでやってきたわけなんです。

横溝　それでは、20年代のことについてはあと一つだけお伺いしまして30年代に入りたいと思います。昭和28年３月に九州大学の第一分校の体育館（福岡市中央区六本松）で初めて公認審判員の講習会が開かれたという事で、東京から、広田兼敏さん・村上忠治さんという方がおみえになっていますが、このことについて…。

和田　私も受けました。３級公認審判員ですね。あの時は体育館とはいいませんで雨天体操場といっていました。バドミントンコート３面のところでしました。



バドミントンのルーツは大牟田にあり!!

（平木　武美）

平木　昭和20年代のことについて少しだけお話しします。昭和26年ですが、その頃私は、大牟田北高校にいたのですが、友達の関係で、バドミントンを始めたようなわけです。昭和27年に伊藤基記先生（熊本県）がバドミントンを教えてくれということで私の高校に来られて、バドミントンをされたのですが、これはおもしろいということでそれまで硬式庭球をされていた

伊藤先生が、バドミントンに転向されたんです。そののち、伊藤先生は、小学校・中学校・高校でバドミントンを盛んにしなければならんということで、県の教育委員会や市の教育委員会に働きかけて、また、とにかくバドミントンができる先生を確保しようと動かれました。

それから昭和29年に、第５回のインターハイ（石川県金沢市）に福岡県代表として団体戦に女子生徒を２人連れていったんですが、石川県に行ってびっくりしたのがですね、当時もう小学生の県大会が行われていたんですよ。その普及の早さには驚きました。

淵上　昭和27年といいますと、日本バドミントン協会が国際バドミントン連盟に加盟した年ですね。昭和28年には、母校の北九州大学が、第３回九州インカレで男女ともに優勝しています。昭和29年のインカレからは、女子は優勝していますが、男子は２位になっています。その後福岡大学が男子はずっと優勝しております。昭和29年といいますと、日本がトーマス杯に初参加という年です。



（横溝　安伸）

昭和30年代の県協会は？

横溝　それでは昭和30年代に入りたいと思います。30年代にはいりますと、福岡県学生バドミントン連盟ができ、また支部が北九州支部・福岡支部・筑後支部・筑豊支部の４支部制になっています。昭和31年に、第１回の全日本壮年バドミントン選手権大会で、鶴田総太郎さん（大日本製糖）・伊藤基記さん（熊本女子大）のダブルスペアが優勝されています。それから昭和32年から和田先生が福岡県バドミントン協会の理事長になられて、この年から日本バドミントン協会の理事・評議員にもなられて東京での理事会総会に出席されています。この時期というのはどういう状況だったのでしょうか？

辰市　まず昭和20年代の前半というのは、旅行ができなかったですね。福岡から東京に行くといったら、一泊、どうかしたら二泊くらいしないと東京にはたどり着かなかった。帰りの切符を考えると、そんなに簡単に動けるものではなかったですね。費用にしても、日本バドミントン協会の会員数が少ないですので、旅費を協会で持てるはずもないですから。個人負担で出ていくには東京と福岡という距離は、ものすごく遠かったですね。ですから昭和30年代に入って、福岡から東京にやっと顔を出せるといった状況ではなかったかと思います。今でも、沖縄の方がなかなか顔を出せないというのもそうではないんでしょうか。したがって地理的なハンディーは非常に大きい。

それから時代の背景をいいますと、昭和20年代の前半というのは、先ほどもお話が出てましたが、YMCA系統で、ほとんどバドミントンをやってきているんですね。旧上海などでされていた方も、YMCAの体育館で練習をやってまして、とにかく日本のトップクラスというのはYMCAとつながりがあったと思います。実は、中村さんもYMCAと関係があったんです。そのルートで、福岡にバドミントン協会ができてくるんですね。福岡のYMCAは、体育館を自分のところでもっているほど強くはない。そして昭和20年代後半になってくると、大学そのものが強くなってきましたから、そこから育ったプレ

ーヤーが出てくる。それで昭和29年、香港であったトーマス杯予選に出ていって惨敗して帰ってくる。そういうことでYMCAからだんだんと親離れしていったのが昭和20年代。じゃあ全国はどうかというと、汽車に乗るのが大変な時代ですから、切符をとるのも一晩くらい並ばなければ行けないし、切符代が相当に高額であった。ですからしょっちゅう東京に行くなんていうのは時間的にも経済的にも無理な時代でした。そういう中に、福岡からオールシャパンに出ていったというのは、大したものです。国体だけは切符がもらえました。ただお米だけ持っていけばよかった。

今雪　その頃の福岡県バドミントン協会の、年間予算というのは100,000円もあれば大したものでした。

横溝　昭和31年から西日本鉄道の松島慧さんが事務局長をされまして昭和34年から、今雪さんのところに協会の事務局を置いていたようですね。



事務局は細々と、そしてすべてひとりで…

（今雪　美千恵）

今雪　どういうわけか西園富吉先生から、事務局長をやらないかという事でお話があり、お引き受けしたんです。その時、バドミントンについては自分では楽しんでいましたが、人のお世話なんて全然わからなかったんです。バドミントン協会では、自分で何もかも一人で全部やらなければならないということを事務局長を引き受けてから知りました。というのは予算も全部。それから試合があるたびに競技場に行ってお世話をする。そしてその前に賞状のお世話から全部一人でやっていました。協会の登録も全部一人で、仕事が休みの日は、登録のことでつぶれてしまった。そして学生バドミントン連盟ができますと、学生連盟の協会登録も私が一手に引き受けて…。休みの日は、ほとんど協会の仕事に追われて、全然自分の研究ができなかったものですから、「あなた大学に勤めてて、それでいいの？」って、周りがとても心配してくださいました。また、この『福岡県バドミントン協会50年史』の通史に、当時「細々」と書いてありますが、本当に細々とやっていました。

昭和38年、福岡県バドミントン協会会長に森俊雄さんがなられてから、私が行かないと予算を下さらないということだったので、森さんのお部屋に行きまして、頭を下げて、たぶん100,000円くらいの予算だったと思いますが、いただいていました。また森さんのポケットマネーも出していただいて、それで学生さんを補助してあげた記憶がございょす。隣に座っていらっしゃる淵上さんや、福岡大学の秋山さん、佐藤さんが、現役で活躍中で、国体でも活躍されていましたので、そのお世話もさせていただきました。そんな状況でして、何から何まで一人でやってきた、というよりも、やらなければいけなかった、という状況でした。

それから旅費の話が出てましたが、理事長が東京に行くときは、やはり自費でいっていたと思います。県協会から補助するだけの力はありませんでした。大変苦労されたと思います。請求もされませんでしたから、甘えていました。

和田　日本バドミントン協会からは旅費が出てました。往復の旅費。当時、寝台特急で行か

ないと、普通急行だと24時間もかかって大変で。“あさかぜ”で行っていました。しかし、特急券などは出ませんから、半分以上は自費ですね。

今雪　それから当時のことで印象深いのは、先ほども平木さんがお話しされましたが、平木さんが伊藤基記さんをご指導なさったという事ですが、短期間に伊藤さんは随分強くなられたなというのが思い出にあります。

昭和39年に、私のところから事務所を福岡市役所に移して分担して協会の仕事をやれるようになったんですが、福岡県バドミントン協会がここまで大きな規模に成長した原因は、ここにあると思います。私宅でできる範囲の協会でしたら、今の発展は見られなかったかと思います。

横溝　じゃあ、それから事務局が福岡市役所に移ることになるんですが、最初の事務局長はどなたになるんですか？

今雪　辰市さんです。

横溝　そうですか。それでは、いま競技の話が主になってますが、当時の事務局長の思い出をお話下さい。

辰市　とにかく体育館がなかったですね。どうやって体育館をつくるかなって。大会の通知を出したはいいけど、会場に行ってみたら、体育館がとれてなかったりして、結局試合は流れてしまう。そうなると次回から大会を呼びかけても参加しなくなる。このままじゃ、バドミントンが消えてしまう。そんな状況でした。

横溝　いま体育館の話が出ましたが、当時、ポストやネットはどうやって張ってたんでしょうか？

今雪　体育館にポールをたてる穴を掘りまして、あけたり閉めたりしたんですが、締め忘れて、けが人が出たりして、とても苦情が多かったんですよ。それから一つの体育館で４面のコートがとれたらいい方ですね。福岡学芸大学（現福岡教育大学）が４面でした。

淵上　木造の…

村尾　天井も低いですね。

今雪　そうです。天井も８メートル以上なければいけないといわれてた時代。とにかく試合場を確保しなければと、九州大学や久留米大学に行ったり。福岡市内にはとにかくなかったですね。

横溝　それからすると久留米大学の８面は、画期的な体育館だったわけですね。

和田　そう。明善高校が６面でしたから。中学・高校というのは、体操は正課だったので、雨天体操場はあった。その頃はバスケットはやってましたが、バドミントンはやってなかったから、天井の高さなんて、あまり気にしなかった。バドミントンの運営規程でも一番最初は天井の高さは６メートルで、それから８メートル、10メートル、12メートルと変わっていった。

辰市　その頃、ポストなんていうのは、運動具店に行っても売ってませんでした。それも、継ぎ足してつないでた。要するに釣竿のようなものを金属でつくってそれを組み立てて、両方からロープで引っ張ってた。

和田　昭和20年代は、私もそうでしたが、久留米大学でも外でネットを張ってバドミントン

をやってました。西南学院大学の松延先生は、キャンパスの松の木の間にネットを張っていて、風が吹いたら、あちこち走り回っていた、と言ってました。そういう時代でした。それからシャトルは昭和36、7年くらいまでは、ほとんど陸鳥、ニワトリの羽根で、日本中ニワトリの羽根でやってましたね。ところがだんだん外国と交流試合をするようになると、外国は全部水鳥でやってましたから、それでは困ると２年間くらい日本バドミントン協会で議論してました。水鳥にするということは、海外から全部輸入しなければならんということで、そう簡単に陸鳥から水鳥に代われなかったんです。そして昭和37、8年頃に、思い切って水鳥に決定しました。私たちは、大会が終わると、折れた羽根を拾って、継ぎ足して修理して使ってました。



陸鳥から水鳥に変わった社会経済事情

（辰市　祐昭）

辰市　そのことについては２つ理由があるんです。一つは、日本に外貨ができ始めたという事。もう一つは、日本のニワトリの食べ方が変わってきた。つまりそれまでは手でニワトリの羽根を剥いていたのが、蒸気で蒸して羽根を剥くようになって、その羽根が使えなくなってしまったことです。それから機械でシャトルを作るのと人が作るのと、どっちが高いか。そして日本経済そのものが変わってきて、輸入した方が、安いということになった。先ほど申し上げましたが、輸出が伸びてきて外貨が増えた。この２つが一緒に影響を及ぼしたんです。

平木　昭和20年・30年代の陸鳥のシャトルですけど、まだ新品のシャトルなのに、空中分解するんですよ。それと、大牟田にシャトルがないんですよ。それでわざわざ博多に出てきて、下川端のハイラックスの中村さんのところで買ってました。シャトルを買うにもラケットを買うにも大牟田にはなかった。久留米にもなかったですね。それからウッドのラケットですが、木なもので強く振ったら折れるんです。まだ買って間もないのに…。粗悪品が多かったですね。



私はハイバック、１級先輩はローバック?!

（淵上　英紀）

淵上　いま用具の話が出てますが、ラケットは当然ウッドでしたが、一部に竹のラケットがあったんですよ。30年の前半に。私の学生時代に、竹のラケットを使っている部員がいました。

それから昭和30年代の思い出の一つに、ハイバックの事があります。私の大学の１級先輩が、ハイバックハンドではなく、バックハンドを打つ場合に、背中を相手に向け床すれすれに打ってたんですよ。今ですと上で打つのは当たり前ですが…。その時に、ラケットの面がどっちなのかって、議論したことがあります。そういう頃、昭和32年に慶應義塾大学が遠征で来ていたときのことなんですが、ハイバックハンドで打ってたんです。これはすごいなということで、ハイバックを随分研究しました。またその年、

立教大学の片石君という選手が優勝したんですが、彼もハイバックハンドで打ってまして、私は山本（全九州チャンピオン）さんと一緒に、そのハイバックのグリップの握りや、親指の押さえ方を、ずっと見て研究してました。そのおかげで、北九州市で講習会があるたびに、和田先生が、「おまえ来い！」というから、ついて行くと、「はい、淵上、ハイバックやれ！」とやらされてました。

横溝　昭和40年になりますと、第15回全日本実業団バドミントン選手権大会が北九州市で行われて、三澤（北九州市役所）さんも40代単の決勝までいかれていますが…。

淵上　北九州市は昭和38年に５市が合併しまして、新市になった北九州市で行われました。大会には、秩父宮妃殿下がご臨席になられて、私が選手宣誓をしました。会場は、住友金属の体育館（今のではなくて、その前にできたばかりの）で、新しいし、貴賓席もあるという事でそこをメイン会場にして、第２体育館を小倉体育館（美萩野体育館）にしたかったんですが、皇室の方がお見えになるのでしたら、やはり工場見学などで、皇室の方が通られるところをきれいにしておかなければということで、住友金属がボツになったんです。それでメイン会場が北九州大学の体育館になったんです。その大会では、大日本製糖の鶴田さん、市役所の三澤さんが活躍されました。その頃全日本実業団は、個人戦もありまして、北九州大会では三澤さんが40歳代で優勝しました。翌年も優勝しましたので２連勝でした。三澤さんは全日本と名のつく大会でシングルス３連勝してます。また東京から来た電電東京の選手たちは、おそらく遠征費が60万円ぐらいだったと思いますが、コートサイドに蜂蜜やレモンを切ったのをクーラーに入れて、食べたり飲み放題。我々は遠征費は全くなしで、全部自腹だったもので、それがうらやましくて。

横溝　ありがとうございます。そのほかに昭和30年代のことについて何か…？

和田　昭和38年に、日韓親善バドミントン大会をやりました。

辰市　九州の学生と、韓国の学生とで相互に試合をしよう、交流をやろうというのを和田先生が始めたわけですよ。それが協会の正式な事業であるかどうかつきつめると、当時の日本と韓国との関係のやかましい部分に触れてしまうので、その辺はここでは述べませんが、和田先生が大変苦労されたのは、日本の方のスケジュールはきちんと出せるけれど、韓国チームはというと、来るのか来ないのか、というより、出国できるのかどうかがわからない。直前になって「来たよ」という、こんな具合だったんで、先生は苦労されたようです。また北朝鮮との交流をどうやって遮断するか、韓国の選手が来たら、行動を分からなくさせてしまうとか、日本は朝鮮総連とも自由に行き来してますので、裏で全部つながっていますので、韓国がいやがるし、というさまざまな問題があって、その中で和田先生はやってこられたんです。当時、とにかく出国できない時代ですから…。

和田　この翌年には、私が学生を連れて、韓国に行きました。福岡大学の選手や、長崎や、要するに九州の学生の代表を連れて韓国に行きました。その頃は韓国はまだ弱かったんで、九州の学生が全部勝ってました。

淵上　昭和30年から40年にかけてのことで一言。昭和39年、40年、41年の３年連続でインターハイの県予選勝ちまして、その頃私が、門司商業・門司南で、めちゃくちゃ指導しておりました。どうして指導に力を入れたかといいますと、昭和38年に久留米の木造の市営体育館で、インターハイ県予選がありまして、その時、門司南は玉水・松崎というまず県下では大丈夫だろうという選手を連れていったんです。団体戦決勝で明善高校とあたりまして、ダブルスが1-1、シングルスが1-1で第３シングルスがファイナルゲームでのセティングの10オール。それからのサービスオーバーが７回。しかし１点差で負けたんです。相手明善高校の応援がすごかったんですが、その応援団のリーダーが今の吉松歯科の吉松さんでした。それでその接戦で負けたもので、明善高校の生徒には悪いけれども、もう一人もインターハイに出られんようにしようと心に誓って帰りました。それで頑張りまして、翌年から３年間、門司商業が完全に独占しました。横に座っています桶本さんは、３年間の中の２年目の生徒です。それと桶本さんのパートナーの古賀さんもインターハイ全国大会でシングルスで４回戦までいってます。シングルスで２人が４回戦までいったのは、福岡県下では初めてのことでした。また昭和41年には青森県弘前市で行われたインターハイに個人戦のシングルスで小笠原さんがベスト４までいってるんですが、このとき負けた相手が湯木博江さんでした。このころはまだ３位決定戦をやってました。以上が門司商業高校のインターハイの思い出です。

横溝　では次の話題にいきたいと思いますが、昭和44年に日米バドミントン交歓会、これはユーバー杯に参加したアメリカチームを九電体育館に呼んで大会をやったんですが、このことについて、伊藤さんからお話しいただけますでしょうか。



手づくりの日米バドミントン交歓会

（伊藤　篤治）

伊藤　私は当時バドミントン協会には入ってなかったんですが、協会の事務局が福岡市役所にあったもので、それでお手伝いをしてたようなことなんです。日米交歓会の時に、九電体育館に特設の会場をつくったんですよ。ポールなんかも特注して、昭和鉄工に頼んで、いわゆるくわ形のポールでして、下に錘をのせて使った…。錘は、市役所から度量衡の標識かなにかの錘を持ってきて使いました。

コート周辺には、特設の観客席をベニヤ板を張ってつくったりしました。また入場券を売るのも大変だったようです。でも中学生、高校生、大学生も随分観に来てくれてまして、結構たくさん集まりました。とても楽しい大会でした。

村尾　その頃のことですが、昭和46年に全国中学生大会の第１回大会がありまして、それを受けまして福岡県は昭和47年に第１回の中学生大会をしました。それで東京であった全国大会に参加しました。九州からは熊本・長崎そして福岡と３県しか出場してませんでした。で、その３県で九州大会をすることになって、第１回が長崎、第２回が熊本、第３回が福岡でやってます。

横溝　この時期の高体連の専門委員長は、平木先生ですか？

平木　はい。それで、私の前が佐伯先生で、その前が三原先生でした。

横溝　その40年代ですが、高体連関係で、なにか思い出に残るようなことはありますか？

平木　昭和41年の第17回のインターハイが青森の弘前であったときのことですが、その時、明善高校にかわって、大牟田北高校の男子が団体戦で初めていったんですよ。そしてそれまでは高等学校の試合は、バドミントン協会がやってましたが、その41年の大分県の日田市であった第21回国体は、高体連が主催してます。いつ頃から高体連がやるようになったんでしょうか？

淵上　お答えしましょう。昭和41年に先ほど言われた日田市でありました第21回国体から高体連がやってます。そのときのパンフレットに第１回とありますから…。ですからこの大会が高体連関係の最初の大会でしょう。

横溝　記録を見てみると、その41年の第１回大会の男子ダブルスで小倉商業高校の吉田・小野が３位。男子団体戦が、大牟田北高校で３位ですね。門司商業高校の女子が２位になってます。

平木　その41年の第１回九州高等学校バドミントン選手権大会の団体戦の決勝戦で、第３シングルス。これをとったほうが九州代表になるという試合で、私のところの大牟田北高校の生徒の相手が、伊藤基記先生の息子さんだったんですが、伊藤君は貧血を起こし、うちの生徒はけいれんを起こしという大変な試合でした。でもその悲愴な戦いでやっと私のところが勝ったんです。大変な思い出です。

辰市　高体連について、一言。つまり、中学生と高校生はオリンピックには出られなかったんですよ。それで高校生は年に１回、県外大会があった。それが野球で言うと、甲子園野球大会なんですが、全員参加できるのは夏の甲子園大会。片一方は選抜。それまでは高校生の大会は社会体育として社会人大会の中に置いていた。それで社会体育としてやると、それは学校教育ではないんだと、いうようなことがあったんですが、それがだんだん変わってきて、文部省の通達が少しづつ変わっていくんです。世界の中で、水泳なんていうのは、中学生・高校生がトップスイマーで、大学生がその中高生に負ける。日本がまさにそうなんです。オーストラリアやアメリカではもう中学生・高校生がオリンピックで優勝するんですね。それを受けて文部省の通達が変わっていったと思います。それで高体連として、高校生大会はやれるということでそれまでの社会人大会から高校生をはずしていったんだと思います。

今雪　そうですね。高校の体育の指導要領にも、バドミントンが入ってくるようになるんです。選択種目の中に…。

辰市　たぶんそうだと思います。それでバドミントンがぐっと広がっていくんです。今から考えると、不思議な感じがしますが、そういう制約が日本の中にあった。小学生の対外試合は原則として認めないと。だから小学生も社会体育として協会が取り組んできた。また中学生もそうだったんですね。それで中体連の中でやれるようになってから、社会体育の方、つまり協

会は手を引きましょうということになったんですが、いろいろと問題が起こったもので、それで社会体育の道は開いておこうと…。

村尾　中学生の大会の全種目は、昭和39年までは、県内大会が最高でした。昭和40年になって、九州大会が認められた。サッカーでも野球でも。そういうように枠が広がったんです。そして42～43年ぐらいから、全国大会を認めるようになったんです。昭和46年に全国の中学生大会の第１回バドミントン大会が開かれました。

辰市　例外があるのは、特殊な才能を持った人間だけを選抜して全国大会をやるのは、どうかというんで、もうひとつ別に全国大会を設けたんです。野球に春の選抜というのがあるので、他の種目に認めないわけにはいかなくなった。それで選抜という名前をつけて全国大会をやってるんです。それがおかしいことに、選抜の予選があるんですね、今。こんなのは選抜じゃないと思うんですが…。それと高校生のバドミントンの規模が大きくなったもので、協会で高校生大会まで見切れなくなったという現実的な要請があったと思います。

横溝　福岡県バドミントン協会の協会登録人数が昭和45年で1,000人の大台にのってますね。昭和44年が743人で、昭和45年が1,284人、といっきに増えてます。

昭和52年に辰市理事長に代わってますが、その年に福岡県バドミントン協会30周年記念に日欧バドミントン交歓会をやってます。これはどういうものだったんでしょうか？

辰市　これはジャパンオープンで来日していたヨーロッパの選手を呼んだんです。かなり強い選手が来たような記憶があります。背の高い選手がいまして、彼は世界No.1でした。

横溝　金光さんは、高体連の専門委員長をされていましたが、なにか思い出はありますか？

金光　まあ、とにかく体育館がなかったってことですね。試合の会場がなくて困りました。

横溝　金光さんは、学校の体育館、高校の体育館でバドミントンコートが４面とれる体育館がない頃、門司北高校に４面の体育館をつくったと聞いておりますが…。



門司北高だけ、なぜ４面コートがあったか？

（金光　政秀）

金光　それはですね、高体連にバドミントンの専門部ができたときに門司商業高校の先生が、私にその世話を頼むということで、私が北九州方面の世話人になって専門委員長をすることになったんですが、その当時、県立高校の体育館は200坪と制限があったんです。200坪以上の体育館は一つもなかったんですが、門司北高校で体育館を建てるということになったときに、この体育館は門司市が建てる約束でした。それで門司市役所の建築課にバドミントン好きの人がいて、その人が、門司市が建てる体育館だったら、200坪プラス何坪かのものを建てよう、そして設計図にバドミントンコートを４面入れたんです。それが４面とれたいきさつです。また私が体育主任だったんで、授業でも使うからと

バドミントンを主にしてくれといって、バレーボールやバスケットコートもとれるけど、とにかくバドミントンをメインにしてもらった。それと門司市役所の建築課の人が、自分たちがバドミントンをするから、それで使いやすいように設計したんだと思います。それが非常に助かって、北九州の大会は、門司北高校の体育館でやっていたわけです。

それからですね、私が学校を変わるたびに、バドミントンクラブをつくっていったんですが、一番問題は、バレーやバスケットから総スカンをくってですね、たとえば会議でも、部費はいくらぐらいいるかと聞くので、しょうがないので「500円札をもんでそれをラケットでたたいとると思ったらいい、そう思え！」とそう言ってました。これは私が体育をしてたんでできたんだと思います。他の学科の先生ではできなかったと思います。そしてそのころ高校生は授業だけではなく全員クラブ活動をしなければならないということになりまして、そういうこともあって、私が行く先々の高校でバドミントンクラブをつくったんですが、最初は遊びで愛好会からはじまり3年経つと同好会になり、そして5年くらい経ってやっとクラブに昇格していきました。

横溝　それでは後藤さん、理事長時代の思い出をなにか。



財政的な苦労があった国体

（後藤　研）

後藤　そうですね。私は、昭和60年から平成2年まで理事長を務めましたが、その間、第8回日韓ジュニア交流会（60年）、第9回日本リーグ（62年）、日中ジュニア交流会（63年）、そして昭和64年の全日本社会人バドミントン選手権と、平成2年のとびうめ国体を大きな事業としてやりましたが、やはりその中でも、一番の思い出は、とびうめ国体ですね。会場が筑紫野市だったんですが、やはり財政的なことに一番苦労しました。それでもバドミントンは福岡県勢が好成績を残してくれたことが一番の思い出ですね。



指導委員会が果たしたジュニアの強化！

（野見山　弘次）

野見山　国体の準備段階で、鎗水さんが委員長をつとめた強化委員会ができる前に、指導委員会というのがありまして、そこでの課題はジュニアの強化と他の強化をどうするかだったのですが、昭和56年に第1回の福岡県小学生バドミントン選抜大会がありまして、そのあたりから、遠賀郡の岡垣町、田川郡の金田町、それから筑後の三橋町から都先生など、福岡市や北九州以外の地区からもジュニアの熱心な指導者が出て、そして育っていったんです。そして昭和59年の第1回全九州小学生大会が、福岡であったんですが、そこで全九州でトップの熊本の選手と試合をして、どのくらいの練習をしたらいいか、つかんだわけです。そういった中で選手のレベルがあがってきて、その選手たちが中学生でまたがんばる。そして高校生の時とびうめ国体を経験したのが満石君だったんですが、そ

ういうようにジュニアたちは成長していったんです。

横溝　そのあたりを今度は、強化委員長の鎗水さん、いかがですか。とびうめ国体は一枚岩のチームワークで…！



とびうめ国体は一枚岩のチームワークで…！

（鎗水　浩吉）

鎗水　強化委員会ができたのはいいんですが、具体的にとびうめ国体の年に、特に成年男女の誰を中心に据えるかと。特に成年男子が4種目の中のリーダーといいますか一応中心的な役割を果たすわけで、それを誰がするかということが課題だったと思います。毎年、福岡県の成績を見てますと、成年女子は別ですが、私はいつも悲哀感を感じていました。成年男子の監督をしていた私はいつも寂しい思いをしてました。1回戦に勝ってラッキーと喜ぶような状況だったので、果たして福岡国体本番で、成年男子がみんなをリードしていけるのかと不安でした。それでむかし福岡のエースで活躍した選手を連れてこようとして、いろいろな選手にアタックしたりしたんですが、断られたりで、なかなかうまくいきませんでした。しかし辰市理事長が「純福岡県産でいこう！」。弱くても全力投球をして、国体が終わった後のことも考えて福岡県出身者だけでやっていこうといわれ、そうすることにしたんです。これはまあ、NTT東京の尾崎さんや池田さんがいらっしゃったからできたということもありますし、また、福岡県のバドミントンが一つのファミリーといいますか、一つになって協力していただいた結果とも…。まあ、1＋1が3にも4にもなったようなすばらしい大会でした。全国レベルの試合でとても勝つなんて想像もしてなかったんですが、ああいうことができたというのは、みなさんの協力と、一つの目標に向かって、平凡な選手でも力を合わせてやればできるんだな、ということをつくづく実感しました。

横溝　まあ、強化委員会はそうやって比較的見えるところで本当に苦労して頑張ってきたんですが、見えないところで当時、辰市理事長はかなりの苦労があったんでは…？

辰市　いや私は、それより鎗水さんの話を聞いて、非常に嬉しかったのは、小中学生の選抜大会をつくったことなんですよ。これは学年進行していくようにしたんです。小中学生を学年ごとにスタートさせたのは一番下の学年が、国体時にちょうど高校生になるようにセットしたんです。国体の時に少年男女で出る人間はそのとき3年生か4年生だったと思います。それでそういう種目をつくったんです。また指導者の方もやる気が出てきたし、かなり長い期間かけて、結果があいうふうに出て良かったんじゃないかなあ。少年女子なんてどんどん強くなっていったし。

少年女子はどんどん強くなっていったけれど、結果的には、国体のポイントの上で一番少なかったから、かわいそうでしょうがなかった。本当に立派な成績をあげているのに、全県出場の中の組み合わせのいたずらで、ああいう風になってしまったのが一番かわいそうでした。



国体に遺影で参加した中島選手

（村尾　隆）

村尾　国体の話が出てますが、むかしは教員の部というのがあったんです。昭和54年に第18回全日本教職員バドミントン大会を北九州市でやったんですが、教職員連盟の事務局長をしていた中島政人さん（当時大川高校教諭）が個人戦のシングルスで福岡県勢として初めて３位にはいったんです。その年54年が国体教職員の部最後の年だったんですが、その大会に中島さん・鎗水さん・都さんのメンバーででようとしてたところ、その９月に中島さんが死んじゃって、それで私が国体に彼の遺影を持って参加したんです。とても残念な思い出です。

辰市　いろいろあった福岡県バドミントン協会の50年ですが、この50年の中で和田先生の存在と活躍というのは、やはりすごかったと思うんです。それから明善高校の話がでてましたが、三原先生の努力というのも福岡県バドミントン協会の発展においてすごいものだったと思います。国体についていうと、やはり桶本さんでしょう。国体10回出場は特出してると思います。桶本さんの場合、全部ブロック予選を通過して出てきてるんですよ。また、それを国体の強化の中でもイベントとして使わせてもらったんですが、彼女は国体強化の中でも精神的にも最後まであのわがままな選手たちの面倒をよく見てくれたと思います。

横溝　桶本さんのその国体の歴史と、とびうめ国体の優勝の感激をお話ください。



国体10回出場の支えになったものは…

（桶本　百合子）

桶本　私は昭和38年からバドミントンを始めたんですが、昭和40年に高校の時、国体の九州大会で負けたんですよ。全九州で勝ってた相手に。それで国体をめざすようになったのが一つと、昭和41年に社会人になって、自分が実業団に入らなかったものですから、なにをめざすかっていったら、会社で公的に認められている国体しかめざすものが自分にはなかったというのが一つです。昭和41年の大分での国体ですごい不甲斐ない試合をしてしまって、でも地元の国体の歓迎というのがわかりまして、「ああ、国体って、すばらしいものなんだな」と思って、毎年それを目標に頑張りました。

24歳の時に出産しまして引退したんですが、国体の味が忘れられなくて、30歳の時に復帰しました。そのときにメンバーに恵まれて長野国体で準優勝したわけなんです。

それからとびうめ国体の時、NTT東京の尾崎監督から学んだのは、“みんなの協力とチームワーク”でした。これで国体をのりきらないとダメだよ、と教えられました。本当に痛感させられまして、自分が選手時代にできなかったことを、自分が監督になって、そしてみんなに協力してもらって、みんなで勝ち取ろうと頑張ったんです。

また、とびうめ国体が終わって、嬉しいことは、高校男女のレベルがあがったことです。福

岡県の指導者も増えました。ジュニアもとても活躍してます。それぞれ全国的に活躍してますので、福岡県のバドミントンは、安泰かなと思います。

最後に、私一個人が国体を目標にここまで頑張ってこられたのは、みなさまの御協力があったからだと心から感謝しています。ありがとうございました。

横溝　それでは最後に、和田先生。

和田　私ももう80歳を過ぎておりますが、最後に、年寄りの昔話と思ってお聞き下さい。

福岡県バドミントン協会の会長が西園さんから森俊雄さんに変わったのは、西園さんが昭和36年頃から脳軟化症という病気にかかられて、それで会長職ができなくなったので、功績のあった西園さんを名誉会長にして森さんに会長をお願いしたんです。県協会の中で、和田が会長になりたいんで、西園さんをやめさせたとか悪口を言われましたが、そうではない。事実、会長というのは、なんといっても金を出さないといけないことがあるから、それで昭和38年に西日本相互銀行の社長の森さんにお願いしたんです。これはたまたま森さんの息子さんが九州歯科大学におられて、私の教え子で、それで父兄としてよく知ってたので、会長になってくれとお願いしました。しかし森さんはたくさん役職を持ってお忙しい方で会長職をおやめになりたいということだったので、それで当時福岡相互銀行の社長だった四島司さんに、次期会長をお願いしました。

次に、昭和30年頃ですが、皆さんと一緒に大会の進行をしてましたが、一番困ったのが審判の確保でした。大会に負けた選手はどんどん帰っていってしまう。何かいい方法がないものかいろいろ考えて、やっと考え出したのが、“敗者審判”です。負けた者はすぐに帰らないで、一度だけ審判をして帰ると。これを大会の開会式の時に皆さんにお願いしました。最初はなかなか賛成してくれませんで、しぶしぶやってくれてましたが、だんだんそれが習慣になって、また学連にもやらせまして、それでこの敗者審判が日本全国に広がったんです。

それからシャトルのことです。昭和40年に日本の女子選手がニュージーランドであったユーバー杯で初めて優勝したんです。それまではバドミントンはマスコミも全然取り上げなかったですが、日本選手がそういう世界の女王になってから、マスコミも非常に取り上げだして、バドミントン人口も急速に増えた。昭和47～8年頃からシャトルが足らなくて、中国からいくら輸入しても足らない。日本のバドミントンはシャトルから行き詰まるぞと。私は昭和32年から日本バドミントン協会の理事をしてまして、また用具委員をしてましたから、これはひとつ用具委員会で合成球をつくって、大会の使用球にしないと日本のバドミントンは行き詰まってしまうということで、それを委員会に提案をしました。日本バドミントン協会の理事会にもかけまして、競技規則も改正したり、業者に合成球の検定会をしますからといって11種類ほどつくってきてもらい、用具委員会の小委員会で試打をして、これは飛びすぎるとか飛び足らないとか、いろいろ業者に注文を付けて、だいたい合成球が使えるようになったのは３年ぐらい経ってからでした。しばらくは合成球の使用率が50％位にまでなりましたが、最近はまた使用率が減っているようです。家庭婦人にも合成球を使わせていたんですが、だんだん金が裕福になったのか、使わなくなりましたね。

それから私は日本バドミントン協会の理事の

時は毎月理事会に出てました。これは旅費が非常にかかるんですよね。九州は北海道より遠いですから。この旅費のことは日本バドミントン協会に言ってました。昭和30年代には、距離が600㎞以上のところには、特急寝台券を付けるようにと。50年前後には、600㎞以上のところには飛行機のチケットを付けるようにと。

それからですね、バドミントン協会の理事長を辞めた人が、理事長の時は一生懸命働いて、理事長辞めたとたんに、後輩がその人に対して全然知らん顔するんですよ。そういう人はとても寂しい思いをすると言う話を聞いていたので、私が理事長を辞めた人のOB会をつくろうということで、全国の理事長経験者の主な人に趣意書を出しまして、理事長OB会というのを昭和57年につくりました。私が10年間その会長をしてましたが、そういうOBの人たちが常に日本バドミントン協会とつながりを持てるようにしています。ただ、これは最近、少々時勢が変わってきていますが…。

私は日本バドミントン協会には役に立つようなことはしたと思いますが、福岡県バドミントン協会にはあまり役立たなかったんではないでしょうか。

福岡県バドミントン協会が発足して、50年が経ちました。一生懸命育ててきた協会です。これからもこの福岡県バドミントン協会をたくましく躍進させていってほしいと思います。どうもありがとうございました。

横溝　長時間にわたっての座談会もこれをもちまして終わりにしたいと思います。どうも御協力ありがとうございました。









第 3 章

想い出の記

想い出の記

50th Anniversary



私とバドミントン

和田　　寿

日本バドミントン協会と福岡県バドミントン協会設立

昭和20年太平洋戦争終了時に、上海において、バドミントンを行っていた有志宮沢宏之、村上忠次（現存の私の親友）が東京に帰り、バドミントンクラブを作り、進駐軍等と試合をしていたが、昭和21年に日本体育協会に加盟申請をして日本バドミントン協会を作り初代理事長に宮沢宏之氏が就任した。そして各県に支部を作る為に奔走した。福岡県には彼の親友で同じく上海で運動具店をしていた中村高治氏が居たので昭和22年に中村氏に協会設立の尽力を依頼した。中村氏は当時福岡市の厚生部長をしていた西園富吉氏に依頼し、西園氏が各団体のスポーツ関係者を集めて、福岡県バドミントン協会を設立され、昭和23年１月に日本バドミントン協会に加盟した。

私は昭和26年北九州から久留米大学に助教授で転任した時に福岡県バドミントン協会の筑後地区の会長をしていた新村友太郎氏（日華ゴム）が転勤の為、福岡県を去るので、私に後任を依頼して来た。それまで私は他のスポーツ団体の役員を引受けていたが、新村氏の依頼を引受けたのが、福岡県バドミントン協会役員としての始まりである。その頃協会の中心的運営は中村高治氏（福岡市川端で運動具店経営）が行っていたが、中村氏とは昭和21年頃、彼の娘と私の妻が結核の為同じ病院の同室に居た為知り合い福岡に出た時はいつも彼に会い、バドミントンの話は聞いていた。

昭和26年県のバド協会に入り中村氏にも随分お世話になったが、昭和30年頃協会から姿が消えた。以後消息不明。

―― 役　職 ――

1）日本バドミントン協会 理事、常務理事、九州地区代表委員 31年間（現在名誉理事）（顧問）
2）全国バドミントン理事長ＯＢ会　会長　12年間　（現在顧問）
3）九州バドミントン連盟　理事長　34年間（現在顧問）
4）九州学生バドミントン連盟　会長　23年間（現在名誉会長）
5）福岡県バドミントン協会　理事長　24年間以後副会長19年
6）福岡県学生バドミントン協会　会長　23年間　（現在名誉会長）
7）福岡県教職員バドミントン連盟　会長　20年間　（現在名誉会長）
8）宗像市バドミントン協会　会長　12年間（現在名誉会長）

―― 主な業績――

1）敗者審判法考案 昭和30年
2）第３回国際学生選手権大会日本選手団団長（スリランカ）　昭和42年
3）大会に合成球と正式使用球とする提案承認（日本バド協会）　昭和50年
4）日本バド協会より地方協会へ補助金を交付する提案承認　昭和52年
5）全国バドミントン理事長OB会結成 昭和57年

―― 受　賞 ――

表彰状

1）昭和41.10.13　日本バドミントン協会

2）昭和52.3.26　福岡県体育協会
3）昭和53.1.22　福岡県バドミントン協会
4）昭和54.8.7　日本教職員バドミントン連盟
5）昭和56.8.29　九州バドミントン連盟
6）昭和56.10.21　全日本学生、九州学生バドミントン連盟
7）昭和62.2.21　日本バドミントン協会（名誉理事）
8）平成元.8.8　日本教職員バドミントン連盟
9）平成7.1.28　全国バドミントン理事長ＯＢ会
10）平成9.1.13　日本バドミントン協会（顧問依頼）

感謝状
1）昭和55.3.31　福岡県知事
2）平成4.8.22　九州バドミントン連盟

叙　勲
平成5.4.29　勲3等旭日中綬章 日本国天皇

■■■　和田メモ　■■■

このメモは、和田寿先生に項目ごとにお尋ねし、お答えいただいたのもです。

①昭和33年11月　第８回全日本学生選手権大会に秩父宮妃殿下招待の件（久留米）

当時の学連会長西園富吉氏が、副会長の私に妃殿下の招待ができればという希望を伝えられたので、当時日本バドミントン協会理事をしていた私は、早速上京して親交をいただいていた日本バドミントン協会会長本田弘敏氏（東京ガス社長）にお願いに行きましたところ、心よく引受けていただきました。本田氏はすぐ秩父宮家に電話され、本田会長と二人で秩父宮家を訪問し、妃殿下にお会いしたのです。そこで、開会式への御来福をお願いしましたところ、開会式では天皇陛下の認可が出にくい恐れがあるから、赤十字の用件で九州に行くという事で、宮内庁に申請しましょうとの事でした。そこで早速久留米に帰り、ブリヂストンの社長の石橋正二郎氏（久留米大学理事長）にお会いして、妃殿下並びに本田会長の宿泊接待の件をお願いし、宿舎は石橋社長の高良台別荘に決め、開会式はブリヂストンの講堂を借りて行いました。尚接待については当時の久留米市長杉本勝次氏にもお世話になりました。

②昭和40年６月　第15回全国実業団選手権大会に秩父宮妃殿下招待の件（北九州）

昭和33年の招待に準じて、本田日本バドミントン協会会長に御斡旋をいただく事にして、当時の福岡県バドミントン協会会長森俊雄氏（西日本銀行社長）と二人で上京し、本田日バ会長に面接して御願いし、３人で秩父宮家を訪問し、御承諾を得て本田会長の御案内で、北九州に御出願ったのです。

開会式は、北九州大学体育館で、当夜のレセプションは小倉ホテルで行ない、北九州市長、本田会長、森県会長、北九州バド会長他資金援助をいただいた北九州会社々長数十人を招待して、盛大に行いました。

③軟式バドミントンの提案について

私が昭和28年、鹿児島大学において行われた九州体育学会で発表しました。当時は体育館が極度に少なくて、西南学院大学等は校庭の松林にネットを張りシャトルを打たせておりました。ただ旧制福岡高校（現九大教養部・六本松）や新制高校（旧制中学）には雨天体操場という建物があったので、いくつかの学校ではバドミン

トンのポールを綱で支えながらネットを張り、行なっている現状でした。

そこで何とか屋外でできるバドミントンは考えられないかと西園会長と２人でこれを軟式バドミントンと命名して、２年間にわたり用具の研究をいたしました。当時は東京の専門業者との面識もなく、素人の我々の知識ではなかなか目的の品が出来ず、結局は自然消滅の状態に終りました。

④合成球の大会使用球としての使用について

昭和41年日本女子選手がユーバーカップ（世界女子選手権大会）に初出場して優勝しました。以後マスコミが、急速にバドミントンを取り上げ宣伝したので、昭和45年～50年に日本のバドミントン人口が急速に増え、シャトルが不足し、その価格も年々高くなりこのままでは、バドミントンはシャトルから行きづまる状態でした。昭和50年当時私は日本バドミントン協会用具委員をしておりましたので、用具委員会に合成球を大会に使用することを提案し、同意を得て、引続き理事会にも提案承認を得たので全国の業者に英国のカールトン球に近い合成球を作ることを依頼しました。そして同年の用具検定会で試作品を提出させたのです。11種類の合成球が提出されたので用具委員で試打してみましたが、その性能がまちまちで正式使用球には不十分ということで、用具委員会に、「合成球検討委員会」を作り、各地区委員１名ずつで組織し、私が委員長となり、常に業者と連絡をとり改良を加え、３年後に現在の様な合成球が誕生したのです。そこで、日本バド協会で競技規則を改正して合成球を正式大会使用球として用いる事を決定。小・中学生、一般低辺階層にはこれを使用することにしました。これでシャトル不足の危惧は解消され、一時は全国使用量の50％以上合成球を利用した時代もありました。

⑤敗者審判法の考案

昭和30年、私が久留米大学助教授の時に、久留米大学にバドミントンコート８面の体育館を作りました。体育館の少ない時代なので県の大会はよくこれを利用し、大会の運営をしていましたが、一番困ったのは審判員の確保でした。何かよい方法はないかと考えているうちに、ふと思いついたのが敗けて帰る選手に１回だけ次の試合の審判をさせて帰すという方法でした。大会で選手に協力を依頼しましたが当初はあまり歓迎されませんでした。しかし次第に定着し学連にもこれを応用させ、逐次九州から全国に拡がっていったのです。これは選手の審判技術の向上にも役立ったと思われます。

⑥全国バドミントン理事長ＯＢ会結成

昭和57年当時、私はまだ日本協会の常務理事をしていましたが、全国の協会で理事長を退いた方によくお会いしていました。それらの方々の「理事長をやめたとたんに次の時代の者は見捨ててしまって連絡もしない」という悔やむ声を多く聞いたのです。協会の運営に一番責任をもち、苦労した功労者は退いた後も充分関心があるのに見捨てられた不満があったのです。そこで私は全国の理事長ＯＢの有志10数人にＯＢ会結成の発起人を依頼して、大阪市において発起人会を開き、同年秋に熱海温泉で結成大会を開き40数名の参加を得て感激的な会合となりました。役員組織は会長は私がなり、世話役の幹事長には元日本バド協会理事長の森友徳兵衛氏を選び運営をお願いしました。

全国ＯＢ約120名が会員となり、日本バドミントン協会と常に連絡をとり、全国大会や国体等に招待し、年１回の総会、会報の発行で会員

相互の親睦を計っています。私は１年前に12年間の会長職を退き、顧問になっていますが、会は名称をかえて今も運営されています。

⑦第３回国際学生選手権大会遠征記及追記

昭和42年８月、スリランカ（当時セイロン国）で行なわれた大会に日本選手団５名、団長和田で約１ヶ月遠征しました。当時は海外遠征は非常に珍しい事で私が出発する時は九州歯科大学の先生方が多数小倉駅まで見送りに来てくれ、羽田では日本バドミントン協会、選手の父兄等が壮行会を行ってくれ、帰りには歓迎会をしてくれた時代でした。成績はインドネシアが敗れ２位でしたが、日本選手団は注目の的で、スリランカの知識階級の人達が常に離れず、日本選手の所持品を欲しがり、帰りは殆ど着のみ着のままで帰って来ました。帰りはインド、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシアを訪問して帰って来ました。その翌年は第４回大会を東京で行ない私は競技委員長で１週間上京しました。

競技終了後、スリランカの選手が帰りの旅費不足の為、10日後の横浜発の英国船でアルバイトをしながら帰るので、それまでは日本に滞在させてくれと泣きつかれました。大使館に行けといいましたが、受付けてくれないとの事で、仕方なく１行６名を九州に連れ帰り、１週間拙宅に泊めたのです。そして県内各地、九州各県に国際試合で連れ廻るなど、莫大な経費がかかりましたが、彼等は帰国しても一言の挨拶もありませんでした。彼等の心境は富者が貧者にほどこすのは当然という感覚らしい。

⑧韓国遠征（昭和43年７月）

昭和40年代の韓国のバドミントンはほとんど初歩の段階で、時の韓国のバドミントン協会会長　金東培氏（空軍大佐）が学習の為日本に選手15名位連れて東京で指導を受け、帰途九州に立寄られました。私は九州学連の代表選手との国際大会を久留米市で行ないました。その節の約束により翌年九州選手団として団長（和田）コーチ（伊藤）選手（男・福岡大４名、女・長崎女子短大２名）の構成で１週間釜山、ソウル、春川等を連戦してきましたが、まだ九州のレベルの方が上でした。帰りに業者からいただいていたシャトル、ラケット等を韓国に寄贈して帰ってきました。その頃韓国から日本に依頼があり立教大出身の板垣君（現岩手県理事長）が約半年間ソウルに駐在して韓国のバドミントンを指導してました。

⑨日本バドミントン協会葬儀追悼文作製（昭和56年）

昭和56年永年にわたり名会長として協会をお世話下さった本田弘敏氏（東京ガス会長）が急逝されたので、当時日本協会の常務理事で表彰委員長をしていた私に弔文の依頼があり作製。新会長桜内義雄氏に差し上げたが名文だと皆におほめいただいたのでここに再記する。

贈　故本田弘敏殿

昭和56年10月18日、会長御逝去の悲報全国に伝わる――　まさに青天の霹靂！全国バドミントン愛好者にこれ程大きな衝撃はなかったのであります。顧みますと、あなたは昭和31年第３代会長に就任されました。当時の日本バドミントンはまだ揺籃時代で問題も沢山かかえ前途は非常に多難な時でありました。その時「よし俺が日本のバドミントンを世界一のバドミントン国にしてみせる」と豪語されました。爾来その卓越せる指導力と火の様な情熱をもって役員、

選手を叱咤激励され、着々とその実力の充実に力をつくされました。そして遂に昭和41年、ニュージランドで行われた第４回世界女子選手権大会に出場、10年間常勝を誇っていたアメリカを破って優勝し、世界の王座をなしとげ今日に至って居ります。「これで俺が天皇陛下にお約束申し上げたことが半分とげられた」と宮中に選手を連れて行かれ御拝謁されたうれしそうなお姿が眼に浮かびます。今や日本のバドミントンも漸やく斜陽の気配を感ずる時、この偉大なる指導者を失ったことは最大の痛手であります。しかし乍らたとえ巨星地に落つるといえども栄光ある日本バドミントンの父　本田弘敏の名は不朽の功績と共に永久に消えることはありません。あなたによって作り上げられたバドミントンの栄光は、後につづく私共が必ずや守り発展させてゆくことをお誓い申し上げます。どうぞいつまでも日本のバドミントンを見守っていて下さい。

合掌

昭和57年６月27日

財団法人 日本バドミントン協会会長　櫻内義雄



熱中の日々

野見山　弘次

福岡県協会50年の節目に際し、私事で恐縮ですが、回想の一端を述べさせて頂きます。50歳台になって、バドミントンとの係りを振り返れば、一つは、大学のバドミントン部に入ってから30歳前後までの「熱中の日々」と、もう一つは、45国体開催に向けて筑紫野市派遣（県教委より）の３年間の事が思い起されます。

高校までは運動など縁が無く、多少長距離ランニングに自身があった程度でした。そのため、山口大学に進んだとき、何か運動部に入ろうと思い、バド部の公開練習を見て、強烈なスマッシュと、緩やかに変化する羽根の飛球線に見とれ、「これだ！」と決めたのが30数年のバドミントンとのつきあいの始まりでした。

厳しい練習の中で、２年の後半位から、レギュラーになって団体戦にも出られるようになると、大学生活は、ほとんどバドミントン中心でした。卒業後、直方市内の県立学校職員となり、結婚する30歳前後までの10年が、遅まきではあったが、技術的にもっとも伸びた時期だったと思います。直方市の公会堂で週１回（土曜の午後）、野上鉱業の工場で週２回（夜）の合計３回は、みっちりと練習をやりました。特に、工場の練習は、コート一面、床はアスファルトで、靴の底がすぐスレ安く、暗い中で夜８時から11時位まで順番交代でダブルス等を良くやったものです。

良き練習相手として、渡辺・村上・浜司・井浦等の選手がいましたので、練習にも熱が入り、11時過ぎに終って、近くのホルモン屋でビールを片手にバド談義に口角泡を飛ばし、家に帰り着くのは、決まって午前様でした。直方市民大会、筑豊選手権大会、県大会と上位入賞を重ねていった頃から、目標は何といっても国体出場でした。ようやく念願がかなったのは、30歳の年、第29回茨城国体でした。またいまでも思い出すのは、青森国体出場のチャンスを目前にした県予選会シングルスの決勝戦です。７月末の猛暑の中、場所は北九州市の三菱化成体育館でした。相手は、宿敵池田明男氏（三菱化成）でした。ほとんど実力差が無いため、ゲームオールでファイナルゲームとなりました。３分の休憩の間、館外の夕暮れの涼風にあたり、冷えた

のが悪かったのか、第３ゲームが始まって５分過ぎた頃、ラケットを握る指が硬直し、揉みながら続けていたら、今度は両足がつり始めました。どうしようもなくなり、審判に、無念にも「棄権します」と告げた後、途端に相手の池田君も足にけいれんがきたようでした。ついに、私は全身けいれんとなり、救急車で黒崎の年金病院にかつぎこまれました。

当時は、生水を飲んだらスタミナが無くなるからと、レモンをかじりながら試合を続けていたもので、昨今のスポーツドリンクの常用を思うと苦笑では済まされない気がします。その苦い経験から、その後スタミナ、体力向上と、フットワークの早さを身につけ、昭和47年、第18回全九州社会人大会（長崎市）で青年単に優勝することができました。

その時に初めて使ったカールトンラケットがうまく合って、ハイバックが良く飛んだのを記憶しています。

「とびうめ国体」筑紫野市派遣の３年間、福岡国体開催３年前の３月、県教育庁勤務の頃、所属の課長から筑紫野市への派遣（出向）について打診がありました。同市がバドミントン競技の開催決定されていることは知っていたし、一生に一度しか来ない福岡国体に県協会の理事をしていたこともあり、何らかの手伝いはしたいという気持はありましたが、自宅からは相当かかる筑紫野市へ何で自分が？という疑問から、当時の辰市理事長のところへ事情を聞きに行きました。理事長は、「バドミントン競技に詳しい県職員が出向することを、同市も県協会としても望んでいます。」とのことでした。通勤時間等の不安はあったが、県協会とのパイプ役になって福岡国体が成功すれば、との思いでようやく決心し、昭和63年４月、派遣辞令を受け、筑紫野市に出向しました。



国体終了後筑紫野市役所国体課に表敬、報告に来られた監督、コーチ、選手（右が筆者、真中が山村国体課長）

当時、楠田市長は、就任２期目で、この国体開催を市発展の一大契機にしたい意向でしたが、７万余の人口規模では、３競技の開催は、重い負担だったと思います。

当初、バドミントン競技のみの開催受入れでしたが、ライフル、クレー射撃競技の開催受入市町が無く、県国体事務局から懇請され、ようやく引受けた事情があり、私の出向も、県としての協力約束の一環でもありました。

出向一年目は、国体課職員との人間関係に腐心し、又、啓発の為、市内各地区公民館、婦人会、区会長、旅館組合等に回りました。

２年目は、リハーサル大会の年であり、施設担当として、全日本実業団大会の開催に向け、諸準備に当たりました。県バドミントン協会の競技担当として副島力氏（九大）と打ち合せすることが多々ありましたが、共催県の視察等で情報を詳しく入手されていることもあり、精力的に準備をすすめられ、バドミントン競技は競技運営は安心していいと思ったものです。

３年目は、本国体の年で、市職員総動員で事務局体制もでき、市民あげての歓迎をするために、みそ汁に入れるワラビ取りに、婦人会とバスを借り切って九重まで行ったりもしました。リハーサル大会と違って３競技同時開催の為、旅館等も不足することから、企業、宗教団体の

研修施設なども利用させてもらうことになりましたが、何とか対応できたようでした。バドミントン競技会場に、例年のような皇族の視察はありませんでしたが、既設の筑紫野市農業者トレーニングセンターを会場としたため、仮設の観客席などを作り、壁の塗りかえ、照明の変更等できる範囲の対応はしました。しかし、国体会場としては、ギリギリの所で、決して十分なものでは無かったようです。

高円宮様のクレー会場視察、天皇・皇后両陛下の県農業総合試験場視察などの行幸啓もあり、本番１ヶ月前位から睡眠時間は２～３時間位となり、ようやく開始式にこぎつけました。３競技同時の開始式（各競技の開会式）であるため分、秒きざみの進行となり、無事終了し、競技が始まったのを見とどけて、国体本部の市役所に帰り、「ああ、これで終った」とボーとなっていました。

バドミントン競技は最終日に会場に行きましたが、福岡県勢の頑張りで館内は超満員でした。

成年女子の決勝戦は感動的で、優勝の瞬間は、「３年間頑張って良かった。」と思ったものです。平成３年３月まで残務整理で筑紫野市に残りましたが、今思うと、３競技公平対応ということで、バドミントン競技、バドミントン協会に手厚い配慮ができなかったことについて協会の役員の皆さまに不満はあったかと考えます。自分としては、長い、苦しい３年間、しかし思い出の３年間として人生の１ページの中で、決して忘れることはできないだろうと思います。



国際大会を福岡で

細　川　孝　雄

バドミントンを始めて、早や30数年が過ぎてしまいました。

定かでない記憶をたどると、1960（昭和35）年頃、あるバドミントン大会結果の新聞記事が目にとまり、それがバドミントンを始めたきっかけになったような気がします。

ずぶの素人から始めたため、先輩諸氏の厳しい指導のもと、「クリヤー」、「スマッシュ」、「素振り」、「フットワーク」の基本の徹底して教わりました。

ようやくバドミントンらしい形ができたのは、５、６年後でした。1966（昭和41）年、復帰前の沖縄で、第12回全九州実業団・社会人バドミントン大会が開催されることが決まり、数次にわたる合宿・強化練習の成果を出す機会が訪れました。この機を境に本格的にバドミントン競技にのめり込んでしまいました。

この頃、福岡県バドミントン協会の事務局を福岡市役所が受け持つことになり、私が事務局員として協会事務に関わることになりました。

私の記憶では、当時県バド協会としては競技の普及、競技人口の増、競技レベルの向上が大きな課題であり、ひいては協会の基盤強化につながるものとの認識があったと思います。

その行動の一つとして、国際大会の誘致をおし進めることでした。

第１回の国際大会として、1968（昭和43）年セイロン（現スリランカ）との親善試合でした。

会場である広い九電記念体育館の観覧席に如何に多くの観客を入れるか、各クラブに入場者の動員をお願いし、何とか形ができました。

次にユーバー杯出場のアメリカチームと全日本代表チームを迎え、トップレベルの試合を観る機会が訪れました。

この親善大会を機に国際大会を積極的に誘致する基礎ができあがりました。協会としても役員は勿論、愛好者を含めて大きな転期を迎えた様な気がします。

その後、当時世界最強といわれた中国女子チームを迎えての国際親善大会を開催することになりました。この中国選手を迎えるにあたっては、試合会場は勿論宿泊ホテル、会場までの輸送ルートなど現在では考えられない様な警備体制が敷かれたことが印象に残ります。

この様に国際大会開催にあたっては、協会役員をはじめ多くの会員が心を一つにして準備に携わり、入場券の販売をはじめ諸準備に組織としてすばらしい機能を発揮したと思います。私も微力乍ら協会事務局員として又一会員としてお手伝できたことは大変印象深く、そしてたくさんの出会いがありました。

この時期を機に協会の課題である競技の普及、技術の向上、審判員のレベルアップ、大会運営のやり方など数多くの経験を全員が享受できたことは、今考えると貴重なそして楽しい想い出ではなかったかと思います。「当時は大変苦労しましたが。」



日中大会の思い出

後　藤　　研

1973（昭和48）年９月９日、第１回日中バドミントン大会の福岡大会が、まだ新しかった福岡市民体育館で行われた。女子のみの大会であったが、1969年全英大会単優勝の湯木博江さん、1972、1973年全英大会複優勝の竹中悦子、相沢マチ子さん達が全盛のときであった。日中国交が正常化されて間もないときでもあり、県警とも連絡をとり、警備その他大いに神経を使った。私は福岡市協会の理事長だったかと思うが、会場設営、入場券の販売などでは、福岡市協会会員のみなさん、特に福岡市役所の部員のみなさんには大変なご苦労をお掛けしました。なにしろ、全英大会の会場は総黒幕で横からの照明という記憶があり、福岡大会もそれに近いものにしようということで、わざわざ横方向からの照明をレンタルで準備した。まだ新しい体育館の上部照明孔を取り外しての設置だったので、当時の館長の松山さんにはご迷惑を掛けてしまった。この段取りをつけた上で、９月２日の男女の東京大会を代々木第２体育館に見にいったところ、普通の真上からの照明だけだったので、本部からの通達はなんだったのかと思った。不要な出費でもあったし、結局、入場券販売を無理したことになった。

９月７日が長崎大会であり、選手出迎えのため福寿飯店の包子を沢山お土産に持ち、長崎まで出向き福岡まで案内した。選手団の顔ぶれを紹介しておこう。

中　国
　団　長　孫　　藍
　コーチ　陣　福寿
　選　手　陣玉娘　梁秋霞　劉暁征　林有雅
　　丘玉芳　鄭恵明　許慧玲　季芳
日本
　監　督　伊藤基記
　コーチ　山本洋彦
　選　手　湯木博江　竹中悦子　相沢マチ子
　　柴山きよ子　石崎茂子　池田美加
　　西尾真理子　秋本八代美　松尾淑子

松尾さんは、地元福岡の選手で当時、福岡大２年（20才）。1972、1973年九州学生大会の単、複のチャンピオンであった。試合の方は、記憶が定かではないが、竹中、相沢のダブルスペアは圧倒的に強かったが、湯木さんはサービスフォルトを４回も５回も繰り返し（僅かにバックサービスラインを越した）、結局負けてしまった。松尾さんは、中国の季芳さん（長沙市二十



松尾淑子



季　芳

五中学学生　17才）と対戦し、惜敗した。この季芳さんは、1980（昭和55）年５月５日に行われた第６回日中大会福岡大会の主力選手として再来日し（河北省湖南体育学校教師　24才）、上達したプレーをみせてくれた。懐かしかったが、残念ながら私を記憶していないようだった。

日本の出場選手のみなさんは、それぞれ結婚し、湯木さんは歌手の新沼謙治さんの、竹中さんは梅野尾昌一さんの、相沢さんは銭谷欽治さんの奥さんという風に、やはりバドミントンで結ばれている。松尾さんも、福岡大学のバドミントン部の先輩の福岡シテイ銀行の江口さんと結婚し、ミックスを楽しまれているのを拝見したことがある。

その後、1988（昭和63）年12月27日から翌年の１月５日まで、久留米市において日中ジュニアバドミントン交流競技会を開き、お正月の日本家庭へのホームステイを実施し喜んでもらったが、競技の上では日本チームは相当に見劣りしたのが残念だった。

現在は、中国選手の来日にも特別な神経を使う必要もなくなったし、競技会開催も楽になっただろうと思うが、バドミントンでは実力的には日本は三流国になっているので、国際大会などをやっても入場券の消化はますます苦しかろうと想像する。ジャパンオープンもヨネックスの後援のもとに開催できているのであろう。いずれの大会でも金の苦労が付きものなのは困りものであったが、これはなにもバドミントンだけではあるまい。どの大会でも多くのみなさんの協力があって成功したものであった。10数年前の競技会のことではあるが、ここに感謝を申し上げる次第である。しっかりした記録をつけないままの思い出話をお許し願いたい。



協会の歴史を振り返って

増　田　靖　文

協会創立50周年おめでとうございます。福岡県バドミントン協会は、昭和23年の福岡国体を

機に創立され、多くの役員・選手に引き継がれ今年50周年を迎えます。設立当初より選手の育成、協会運営に携わってこられた和田寿・三原邦吾両先生には、特に感無量の思いがあることでしょう。

私がバドミントンと初めて出会ったのは、昭和26年、西南学院大学に入学してからで協会設立４年目の事でした。当時、福岡県内で本格的にバドミントンをしていたのは、ごく一部の企業と高校で、大学はまだ昭和27年の九州地区大学体育大会を目指し、練習を開始したばかりの頃でした。

私が市役所に入った、昭和30年初期における福岡市のバドミントンの状況は、国や地方公共団体の職員が福岡地区公務員大会に備え練習をしている程度で、一般市民及び企業にはまだ普及していませんでした。そのため市協会は30年中期には、家庭婦人を対象に住宅団地での巡回講習会を開催したり、スポーツセンターのバドミントン営業に指導員を派遣する等、積極的に普及に努めました。その結果、一部市民・企業に普及し30年後期には、市民大会及びその他大会を催す程になりました。

昭和40年から50年中期にかけ、福岡地区内においてバドミントンは急速に普及し、市内は勿論のこと地区内の各市・郡に数多くのクラブが出来ました。

その理由としては、（１）昭和41年、日本女子チームがユーバー杯を獲得し、以後２期連続防衛を果したこと及び個人の世界選手権とも言われる全英選手権で、湯木博江・竹中悦子・相沢マチ子の各選手が単・複に優勝したことにより、バドミントンが一躍全国的に有名になったこと（２）福岡市がスポーツ都市宣言をしたことにより、昭和44年から55年にかけ日中女子バドミントン大会等、計４回にわたる国際大会を市に誘致し、世界の一流選手の試合を直接見ることが出来たこと（３）市が社会体育の推進のため、小・中学校の講堂等を市民に開放したのを機に、福岡市内の校区を対象にしたクラブ創設に力を注いだこと等が考えられますが、何れにせよバドミントンの普及が進み地区内の福岡市以外の市・郡に新たに協会が設立されるようになったことはこの上ない喜びと感じました。

県協会は、このような状況に対応するため、昭和50年初期には、評議員の選出方法及び各委員会制度を導入する等組織の充実強化に努め、昭和55年の日中大会を最後に、平成２年の福岡国体に向け取り組みを始めました。

さて前途の国際大会は、和田寿・辰市祐昭両氏の尽力により実現したもので、何れの大会も皆様のご協力により盛会裡に終了できました。協会としては、技術の向上と普及という開催目的を十分達成し、かつ県・地区協会の財政基盤の確立に大きく貢献したと思います。またこの国際大会のうち、今でも忘れることの出来ないのは、昭和48年の第１回日中福岡大会打ち合せのため東京に行った際、同大会の第一戦を見ることができ、中国男子選手の猫の如きジャンプ力、着地して体勢を崩すことなく次の動作に移るスピード等、その足腰の強靱さに驚嘆しました。この中国選手の来日で、その後日本協会が指導方針を変えたことは当然と言えましょう。

私は、昭和59年３月、協会理事を辞任しましたが『とびうめ国体』は、一人のバドミントン愛好者として観戦させて頂きました。県選手団の好成績、大会運営共にすばらしかったと思います。このように、成長を遂げた県協会の姿を見て私は胸が熱くなるのを禁じ得ませんでした。

最後に、県協会の今後の益々の発展及び協会員個々人の健闘をお祈り申し上げます。



想い出の記

小　川　末　子

昭和45年頃、福岡市鳥飼公民館の田岡主事の企画で、まだまだ少数派の競技であったバドミントン教室が、鳥飼小学校で開講されました。

学生時代やっていた運動も子育てで中断していたので、運動不足やストレス解消にと、早速、教室に参加し、今では、夫や子供達にバドキチ症候群と冷やかされるまでになりました。それも、手ほどきを受けた宮山千鶴子先生のおかげと感謝しております。

当時、隣の草ヶ江小学校では、現家婦連の辰市会長や故三浦副会長がやっておられて、お互いの小学校を使い、交流をしながら楽しんでおりました。

またその頃、家庭婦人では、若久地区の吉田・財部組が、無敵を誇りほんとに強いペアでした。春日市で行われた福岡地区大会だったと思いますが、吉田・財部組が、初めて、一般女子の部に出場し、優勝されました事を鮮明に覚えております。

各地で、愛好家が増えてきた頃の昭和48年に、第１回家庭婦人連盟主催の全国大会が東京で開催されることとなり、「参加することに意義がある。行こう行こう」と、誘い合いチームを作り参加しました。

さて、参加はしてみたものの、全国大会のレベルの高さには驚かされるばかりでした。

その時の勝敗はともかく嬉しかったのは、国立代々木体育館で競技ができたことでした。サンバタの須田さんに「国立代々木体育館で競技ができるのは、男性では、全日本でベストエイトまで位ですよ、ママさんだからここで出来るんですよ」と、羨ましがられ、ますます感激したことを思い出します。それをみやげ話とし、東京見物をして帰りました。

それから10年後の昭和58年に、(財)日本バドミントン協会主催の第１回家庭婦人全国大会が、東京駒沢体育館で開催されることとなり、この時も、「１回目と言うのはチャンスよ､行かんと損ばい」と三浦さんの音頭で、遠征？と相成りました。成績は代々木の時と同じでした。



この翌年（昭和59年）福岡県家庭婦人連盟が結成されました。

平成６年、早いもので県家庭婦人連盟創立10周年記念大会を行い、また、第22回西日本大会も主管で開催しました。その22回大会を開催するにあたって、多数の企業や団体のご協力をいただく一方で、連盟としても、資金作りにＴシャツ、お茶、海産物等などの販売、広告取りに取り組むこととなり、会員の皆さんにご協力をいただき、力を合わせて頑張ったことが楽しい想い出として残るとともに、会員の一人一人の行動力に感謝しているところです。

今では、会員も２千人余となり、施設も増え、今後ますます盛んになることでしょう。

ところで、最近テレビを見て、久しぶりに出演している俳優さんの顔がえらく老けて見えま

したが、考えてみると同年配だったりして、時のながれを思い知らされます。

光陰矢の如しと言いますが、私のバドミントン歴はやがて30年になろうとしていますが、これからも、生涯スポーツとして、続けて行きたいと思っております。近ごろでは、夫も、「バドキチ症候群につける薬はない」とあきらめているようです。シメシメ



とびうめ国体の感激！

鎗水浩吉

国体の福岡開催が決まり、強化委員長という大役を命ぜられたものの、７年後の国体のために何を、どこから手を付けて良いのか全く五里霧中という状況でした。当時の福岡県のバドミントンのレベルは成年女子が長野国体で準優勝しているぐらいで、成年男子、少年男子、少年女子は九州国体で勝てるかどうかが精一杯で、本国体での上位入賞をイメージできるような状態ではありませんでした。横溝少年男子監督（現県バド協会理事長）と合宿をしながら、「どうしようか」「なんとかなるだろう」と愚痴をこぼしあったものです。いずれにしても、選手を強化して地元国体で上位入賞を果たすためには、４種目の監督、コーチはそれぞれの選手達と具体的な目標に向かって一心同体になって努力しなければなりません。一枚岩になることが最も大切であると考えました。バドミントンは個人競技ですがある意味では団体競技です。47都道府県の対抗戦になるわけですからチームワークが大切です。特に指導者のチームワークの点では恵まれていました。桶本成年女子監督・有田コーチ、横溝少年男子監督・古賀コーチ、浜司少年女子監督・樽野コーチ、佐田成年男子コーチ、沙海平特別コーチ（ベスト電器）、池田・尾崎中央コーチ（ＮＴＴ東京）などのすばらしいメンバーでした。

３位決定戦で福岡県が日本リーグで活躍している宮城県の選手を破り、３位が確定した瞬間、涙があふれ出てどうしようもありませんでした。この成年男子の活躍が成年女子の劇的な逆転優勝につながったものと確信しています。静岡県との決勝戦は延々３時間半にも及びました。ダブルスをとり、これで勢いにのって第１シングルスもとれると思いましたが緊張のあまり落としてしまい、勝負は第２シングルスまでもつれ込みました。どちらも実力はほとんど同じで、ファイナルゲームになり、一進一退の連続でした。超満員の体育館も固睡をのんで見守っていました。しかし勝利の女神は私たちに味方してくれ、劇的な逆転勝ちを納めることができました。その瞬間館内は騒然として、選手・監督・コーチ・地元筑紫野の人々、まさに涙涙の連続でした。何か強い電流が体の中を走り抜ける感じがしてなりませんでした。少年男子も大健闘で４位、少年女子も５位と当初の予想を大幅に上回る成績を収め、総合で２位という大躍進でした。

最近、このとびうめ国体が残してくれた財産を随所に見ることができて、本当にうれしい思いがしています。インターハイでの精華女子高校や九州国際大学付属高校の活躍や、成年男子のエースだった荒木選手の全日本教職員大会での単複制覇、成年女子のエースだった田村選手と少年男子の吉武選手の全日本社会人大会での混合ダブルス優勝や日本リーグでのベスト電器の活躍など、とびうめ国体以降も福岡県のバド

ミントンのレベルが上がっていることを物語っていると思います。



もう一つのバドミントンの思い出

今　雪　美千恵

競技としてのバドミントンは、オリンピックの正式種目となり、その繁栄ぶりは目覚しく、誠によろこばしい限りである。

筆者が事務局長時代は、年間予算10万円位で、細々と福岡県バドミントン協会の運営を行っていた事を考えると、雲泥の差があり、今日の繁栄は考えも及ばなかった。その当時、研究室で「家庭にあるスポーツ用具と使用状況」について、調査を行ったことがある。その結果、ほとんどの家庭にあるスポーツ用具は、バドミントンのラケットとビニールのシャトルコックのセットであった。しかし、その用具の使用状態は、家の庭にコートを書き、紐をはって打ち合う程度のものであったようである。今日同じ調査をすれば、たぶん野球のバットやボール及びサッカーのボールになるのではないかと思われ、時代の推移をひしひしと感ずる。

また、大会運営で最も苦労したのは、試合場の借用であった。即ち、天井が規定にあって高く、コートが4面以上取れ、オフィシャルが置かれるような体育館といえば、限られており、近くにバス停があり、宿泊所からあまり遠くなく、交通の便のよいところなど、いろいろ条件に合った会場の確保には、大変苦労したものである。

更に、全日本バドミントン選手権などに出場するための予選では、中国の水鳥の羽を1本づつ植え込んだ、高価なシャトルコックで、日本バドミントン協会公認球でなくてはならなく、コートも同じ条件にするために、暗転にして電球で照すなど、余りにもエスカレートした行き方に、不満の声が起こりかけた折、解消のために考えられたのが、もう一つのバドミントン（屋外バドミントン）である。この普及に力を入れられたのが、故西園富吉先生（福岡県バドミントン協会会長）であった。屋外バドミントンは高さを心配しなくてもよく、多くのコートが取れるなどの利点があり、第一健康的であるが、雨や風に大きな影響をうける難点も考えられるため、先ず、小笹団地の奥様に集っていただき、講習会を兼た予備試合をしていただいた。風もなく絶好の秋日和だったので、大変よい結果が得られた。そこで、現在の福岡工業高等学校の運動場を借用して、本試合をすることになった。あくまでも、簡易バドミントンということで早良区の主婦の方を対象にした。各地区ダブルス3組の13チームの参加が得られた。

大会当日は運動場の整備をしてコート作りからはじめた、大変よい春日和で、風もほとんどなく、試合が開始されホッとしたことを覚えている。試合が進むにつれて、やはり屋内で強かったチームが勝ち上がり、試合が盛り上ってきた頃、お弁当をつんだリヤカーや、子供さんを連れた御主人が応援にこられる微笑ましい風景がみられた。しかし、だんだん風が出てきて、比較的風に強いビニールのシャトルコックを使用したにもかかわらず、思うところに打てなくなってきた。即ち、追風のコートのチームは、ハイクリヤーを打つと、風に流されてアウトになり、向い風のコートのチームは、どんなに強く打ってもよい攻撃にならず、また、ハイクリヤーを打つと、風に押されて自分の方に返って

くるなど、風との戦いが試合を左右するようになってきた。そして、コート外のコーチからは、ネットすれすれのスピーディーな打球が有効であることを、指摘する声が盛んにかけられていた。

また、西園先生は、屋外バドミントンの良さを理解してもらうために、ＮＨＫテレビの昼のニュースに放映を依頼されていた、風に影響されない時に撮影されたので、良い場面がニュースになったとのことだった。

しかし、それ以後は風に禍いされて、屋内では折角よい技術を持っている方も、技術を十分に使った試合ができず、（たとえば、ヘヤピンやドロップなど）、屋外バドミントンと風の影響を強く感じた、と同時に屋内の床と異って、石に乗る危険などを考えて、思いきったダッシュがきかず、足を思いきって使えない不便な点も見られた。

結局、屋外バドミントンは、風や雨に大きく支配されるので、うまく風を利用する工夫や、コートを床と同じくらいに清掃する必要があり、細かい技が使えないことを念頭におき、試合に臨まなくてはならないなど、数々のことを知ることができた。また、初歩的段階やレクリエーションとしては、屋外バドミントンの活用も考えられるが、屋内バドミントンの良さを経験した者には技術の使えない不便さから、バドミントンの発展のためには種々改良の余地があると思われた。

第１回の屋外バドミントンの優勝は、屋内バドミントンの経験が豊かで、スマッシュなどの高い技術を持ったチームが順当に勝ち進み、優勝の栄光に輝やいたことから、いかなる状況にも対応できる力を備えていることが、大切であるということが実証された。

また、屋内バドミントンの経験者から「屋外バドミントンの試合を経験したことにより、以後の屋内バドミントンの試合がとても楽に行えるようになった」との声を聞いたことは、大きな収穫だったといえる。

最後に、屋外バドミントンの普及発展のために、情熱をそそがれ、その結果を見ないまま故人となられた西園先生、屋外バドミントン大会は１回で終わりましたが、定着するまで御健勝だったら、きっと良い方法を考案なさったことと思われ、大変残念に思うと同時に、先生の御意志をつぐことができなかった腑甲なさが悔まれます。どうかいつまでもバドミントンの普及発展を見守って下さい。御冥福をお祈りしつつ、筆をおきます。



バドミントンを世話して46年間

平　木　武　美

［１］昭和20年代　小生がバドミントンに関わり始めたのは昭和26年のことでした。当時は福岡県立大牟田北高校で山岳部の顧問（世話役）をしていたが、体育教師の谷口先生からバドミントンを紹介され、同年４月から小生が顧問となり男女生徒12名でバドミントン部が発足した。その頃大牟田市内ではどこにもバドミントンの姿は見られず、指導者も練習相手も皆無で、ただ日本バドミントン協会のルールブックや体育教師のアドバイスを受けながら暗中模索の練習が続いた。体育館も木造で飛行機の格納庫の払い下げの為館内各所で雨漏りや床の損傷があった。又他の部の練習と競合して一面のコート（週３回）しか使用できなかった。その中、兎にか

く一度対外試合の経験をということで、思いきって全九州職域対抗バド大会（佐世保市）に生徒２名を引率して出場（一複二単の団体戦）させた。勿論、１回戦で敗れたがバドミントンのノウハウがいくらか分って、貴重な練習の糧となった。ラケットやシャトルコックは福岡の大博運動具店（県協会の３代目理事長の故中村高治氏経営）で小生がまとめ買いをした。シャトルはサンバタやカワサキの陸鳥であったが価格が安い練習用はすぐボロボロになったので生徒に修理させたり、ウッドのラケットは折れるので修復して使った。昭和27年頃、熊本女子大教授の伊藤基記先生（谷口先生の同窓生）が熊本市に一番近いバドミントンの実施校ということで、九州女学院の生徒４名を引率して来校され、ルールを教え、共に練習をした。これが後に熊本県のバドミントンが隆盛に向った端緒であった。昭和29年第５回全国高校バドミントン選手権大会（以下インターハイと略称）（金沢市）に女子団体戦の県代表として２名出場した。（この大会までは男女学校対抗の団体戦だけで個人戦なし）男子は２複３単、女子は１複２単で出場校も各県２校までであった。成績は初の檜舞台での試合とあって実力を十分出しきれず１回戦で平安女学院に１：２で惜敗した。然し敗れはしたものの生徒にとっては自信と勇気が湧き、今後の練習の参考になったと思った。当日市内で小学生の県大会が開かれていた。

［２］昭和30年代　昭和33年第９回インターハイ（新潟市）に初めて男子生徒２名が個人戦複に出場し１回戦で甲府高（山梨県）のシャトルのスピードと動きの早さに圧倒され涙を呑んだ。昭和35年第７回全九州大会に男子複２組、単２名、女子が複１組、単２名出場したが少年単の２回戦までであった。昭和35年第11回インターハイ（久留米市）には大牟田北高生は個人戦複に出場したが２回戦で前橋高（群馬県）と当り、苦杯をなめた。因にこの大会の団体戦は開催県の為、男子は明善高と明善定時制、女子は明善高と門司南高が出場、明善定時制の代表権獲得は光ったが、男女共１回戦で姿を消した。九州の県では第10回大会より２度目の熊本県の男子と初出場の熊本県女子だけであった。九州勢は県勢を含めてまだレベルが低く、どうしても関東、東北、北陸勢には歯が立たなかった。この大会は地元ということや、小生が高体連や筑後地区協会の役員をしていることもあって競技副委員長を委嘱されたが、人手不足の為、自分の役割以外に多くの世話をさせられ、文字通り天手古舞の忙しさであった。昭和36年福岡県バドミントン大会（八幡市）に男子８名が少年複と単に出場し、複・単とも明善高に決勝で敗れた。明善高が少しは技術が上ではあるが、それにも増して試合馴れして役者が一枚上である。ここぞというチャンスに点がとれなかったのが敗因。昭和37年度第13回インターハイ（高岡市）に男子複１組が出場し、１回戦で秋田高に２：０で快勝したが２回戦で津幡高に敗れた。然し男子の初めての１回戦突破は生徒も喜び大に勇気づけられた。昭和37年度福岡県バド選手権大会に男子生徒６名出場（小倉市）。少年複の１組は準決勝で敗れたが、少年単では決勝で明善の生徒に勝って初の栄冠を獲ち得た。努力すれば少しずつ成果が上ると思った。昭和37年度第17回国民体育大会（倉敷市）に九州代表として男子１名が他校の生徒とチームを組んで出場したが１回戦で敗退した。やはり国体のレベルは高かった。昭和38年に第３回日韓親善バドミントン大会が久留米市で開催された。両国の教員・大学生・高校生・一般女子選手の交流試合があり技術向上と両国親善に役立ったが、韓国の技術の高さには驚嘆した。小生も行き掛り上、競

技委員長を委嘱され大会成功の為微力を尽した。昭和39年度第15回インターハイ（京都市）で男子複が１回戦で北陸の名門金沢高に敗れた。やはり伝統校は試合運びがうまかった。生徒に申し訳ない気がした。残念！

［３］**昭和40年代**　昭和40年度第16回インターハイ（熊本市）に男子複が１組出場し１回戦で四国の名門高松高に敗れた。昭和41年度第17回インターハイ（弘前市）に大牟田北高が永年のライバル明善高に替って県代表校となり、団体戦（男子）と個人戦（複・単各１）に出場した。個人戦は１回戦で敗れたものの、団体戦では第７回大会の優勝校の松江商業（島根県）を３：１で敗り２回戦で第２シードの高岡商業に敗れた。高岡商業は今大会で準優勝であった。２回戦敗退とはいえ、生徒には貴重な経験と励みになったと思った。昭和41年度第１回九州高校バドミントン大会（日田市）に県代表として、団体戦（男子）と個人戦（男子）に出場したが、団体戦では準決勝で大分国体を控えた強化指定校の日田林工高に敗れ３位であった。個人戦は３回戦まで進出した。昭和41年度第21回国民体育大会（日田市）に男子複１組が九州代表として出場し、１回戦で敗れた。昭和44年度第20回インターハイ（桐生市）に男子複１組出場したが１回戦で秋田経大付高に敗れた。対戦相手の１人はこの大会で単２位の猛者でさすがであった。秋田も強い。昭和45年７月第５回全九州高校バド大会が久留米市で開催。男子団体戦の参加校は、福岡県（明善・大牟田北）、熊本県（九州学院）、長崎県（瓊浦）、大分県（日田林工）、鹿児島県（鹿児島商業）、女子団体戦は福岡県（門司商業・明善）、熊本県（熊本市立）、長崎県（長崎商業）、大分県（昭和女子）、鹿児島県（串木野）の男子６校、女子６校であった。個人戦に大牟田北高も複１組と単１名出場したが１回戦で敗退。この大会では男女（団体、複・単）とも長崎県勢の完全優勝で敢闘がすばらしかった。昭和46年度の（カッコ内は45年度）福岡県バドミントン協会への高校生の登録人員は次のとおりで、福岡地区　83（59）、北九州地区　31（18）、筑後地区　101（38）、筑豊地区は０であった。合計46年が215人・45年115人でまだまだ少ない。因に昭和45年度福岡県高体連バド大会の出場校は各地区予選を勝ち抜いた男子が北部地区（小倉南・小倉西）中部地区（第一商業・城南・第一高）南部地区（明善・大牟田北・明善定時制）、女子は北部地区（門司商業・門司北・小倉商業・小倉西）中部地区が（城南・第一商業・九州女子・室見ケ丘）南部地区（筑邦女子・明善・信愛・筑邦）で筑豊地区は田川農林の一校のみであった。昭和47年度は昭和49年に全国高校総体が福岡県で開催されることになったが、バドミントンは何時、誰が、どこで決定されたのか高体連のバド専門委には十分の相談もなく佐賀県の嬉野町になった。このことについては大いに不満であった。49総体に備えて47年から各種目とも強化事業が厳しい統制のもと、わずかの予算割当てで進められた。バドミントン専門委（高体連）も小生を中心に知恵を絞って強化のための練習会や講習会を各地区で開いた。これを47年から49年まで３年間数回開いた。そして各地区の代表選手を男子、女子各６名計12名を引率して長崎市の高校に行き、現地の高校生と交流試合や技術講習会を行い、レベルアップに腐心した。49総体では（第25回インターハイ）の福岡県代表は男子団体戦は明善高定時制、女子は九州女子高が出場したが１回戦で敗れ、個人戦でも京都定時制の女子複と明善の男子複が２回戦で敗れた以外はすべて１回戦で姿を消した。強化事業の成果は十分発揮できず申し訳なく思った。普通高校では大

学受験とクラブの練習時間のむずかしさ、経験ある指導者による日常の強化。練習時間。費用等々が十分でないので強くなるのが困難であると思った。

［4］昭和50年代　昭和50年度の第27回インターハイの県代表には男子団体戦に山門高、女子が明善高、個人戦には男子が山門高３名、大川高３名、女子は北九州高２名、小倉西高３名、大川高１名が出場し代表の顔ぶれが変ってきた。昭和50年には小生が県バド協会より功労者表彰を受け恐縮した。昭和51年になり、県バド協会の高校生強化事業として１・２年生男女の強化講習会が夏休みを利用して４地区で行われ、相当の成果があった。もっと早く開いてほしかった。この年に３年間勤めた県専門委員長を辞し、南部地区専門委員長と筑後地区理事だけになり少しは安堵した。昭和52年４月の教職員異動で小生がバドミントン部のない伝習館高校に転勤したので大牟田北高での26年間のバドミントンの永い世話と高体連での役割は終って、専ら大牟田市のバドミントンだけになった。

［5］大牟田バドミントン協会の創立より今日まで　昭和47年３月に小生を中心に大牟田北ＯＢ・ＯＧや不知火女子高ＯＧ、会社員などが集まり協会が発足した。翌年市体協に加盟した。平成10年で26周年になる。毎年大牟田バドミントン大会を初め年間９回の各種大会や講習会、筑後地区大会や各種県大会を開催又は主管してバドミントンの普及と、技術向上に努めてきた。昭和58年の第38回国民体育大会バドミントン種目成年の県代表に協会員が１人選ばれた。毎年の県民体育大会では一般男子は通算６回の優勝・壮年男子・一般女子も２位・３位を確保。特に青年の部は平成８年度は優勝し、県代表として全国青年大会（一複二単の男女の団体戦）で新潟県と優勝を争い惜しくも敗れたが全国２位の成績をあげた。去る平成３年創立20周年記念事業では記念式典・功労者表彰・記念誌発行・記念パーティ・それに日本バドミントン界実業団チームの雄、トナミ運輸を招いての招待試合や交流試合を行い（平成９年で６回目の来牟）、技術向上と親睦を深めている。小生は創立以来53年までは副会長、それ以後は会長の役にあり結構多忙な日を送っている。平成６年には大牟田市教委より体育功労者として表彰されたが、これは小生個人よりも協会員のお陰であると思っている。思えば46年間の永いバドミントンの世話であった。一流プレーヤーの実績もない小生をこうもバドミントンの世話に駆りたてたのは何か、自分でも不可解である。だがバドミントンを見ていると世間の縮図を見ている気分になるのが楽しい。今日までいろいろ御指導戴いた諸兄にお礼を申し上げ、県協会の益々の発展を祈念します。



回想50年

伊　藤　篤　治

昭和39年福岡市役所バドミントン部に入部したのはバドミントンを楽しむためでしたが、時は「市民スポーツの振興」「競技力の向上」を目標に各競技団体が競って積極的に種々の事業に取り組み始めた頃だったと思います。当部は県協会の事務局を預かっていた（現在も）こともあり、部員の大多数はバドミントン競技の普及発展を願って各種競技大会のお世話など裏方的な仕事を一丸となって取り組んでいたと記憶しています。その後、私が県協会主管大会の運

営に初めて参画できたのは、昭和45年頃、九電記念体育館で開催された全九州実業団選手権大会でありましたが、九電記念体育館の常設コートは６面しかなく、大会運営には10面が必要な状況であったので、特設コート10面を作ることになり、種々のアイデアを集め、ポストを鍬型に作り（製作は昭和鉄工所バドミントン部）、福岡市計量検査所より借用した分銅（20Kg４個）でネットを支える方法を採用した。又、当時は各コートの得点表示器などありませんので、厚紙（白表紙）にラッカーで印字した「点数メクリ式」お手製の得点表示器を使用するなど大会を盛り上げるために多くの人の智恵と工夫が生かされた大会であった。１年以上前からの準備、大会当日の運営方法に至るまで詳しいマニアルが残されたことはその後開催される国際大会などの運営に大いに役立ったことは言うまでもありません。

協会ではバドミントン競技の普及、愛好者の増加、競技力の向上、組織の充実を図るためにその一つとして国際大会などを積極的に誘致したことがあげられます。

昭和44年にはユーバー杯の初防衛に成功した日本女子チームと前チャンピオンのアメリカ女子チームを迎えて九電記念体育館で開催された試合は高校生、大学生など多くの観客を集めて、始めて接するアメリカチームのユーモアあふれた、なごやかなゲーム運びはバドミントンの楽しさを存分に味わえた大会であった。

昭和48年には福岡市民体育館（昭和47年落成）にて第１回日中バドミントン福岡大会を開催、中国女子チームを招き、日本女子チームと対戦、世界最高のレベルの競技は満員の観客に静かなる感動をもたらしたと思います。昭和52年には県協会創立30周年記念事業としてヨーロッパ選抜（男女）チームを招き、日本選抜チームと対戦する第７回国際バドミントン福岡大会を開催した。

昭和55年には再び中国チームを招き、第６回日中バドミントン福岡大会（男女）を開催。その後、韓国ジュニアチームとの交流会、バドミントン日本リーグ福岡大会を２回開催するなど、高いレベルのゲームを福岡の方々に観ていただき、バドミントンへの関心も高められ、愛好者の増加につながったと思います。それぞれの大会を振り返ってみると、どの程度の人が集められるか、入場券は果たして売れるのかなどの心労もあったが結果として成し遂げた充実感の方が強く残っています。長い期間に種々の大会を積み重ねたことが平成２年の福岡国体の成功につながったと思います。私もその一員として参画できた幸運を感謝しております。創立50周年を期に協会の一層の発展をお祈りいたします。



バドミントンの思い出（小さな備忘録より）

淵　上　英　紀

バドミントンを実際に始めて40年を経過した今、わずかな記憶をたどりながら記述してみたい。

昭和27年頃？自宅近くの鎮西女子高校（現鎮西敬愛学園）体育館で、福岡県下市役所関係の大会？（門司・八幡・田川の各市）が開催されていたのを偶然見ることが出来、テニス部で草野球の選手？の少年は何と面白い競技だと感じた時が最初の出会いであった。その後、高校時代は水泳や柔道部に在籍し、バドミントンとは全く無縁であった。

昭和30年に北九州大学に入学した年の夏休み前に、高校時代の２学年先輩の在籍していたバドミントン部（昭和25年創部で既に九州インカレでは男女とも優勝をしていた強豪チームであった）だと気楽に過ごせると思い入部した。

見かけによらずバドミントンはハードであるうえに、九州学生チャンピオンの女子の先輩などに猛暑の夏休みにひっくり返るほどコンクリート床のコート内をまわされた。また、練習の合間には、陸鳥（ニワトリの羽根）のシャトルコックを修理しながら使用していた。

その後、９時頃登校するやすぐに、風が吹けば風が吹く雨が降れば雨が降る木造の体育館（戦時中の兵舎か軍馬小屋）で練習をし、11時頃には弁当を食べ、昼過ぎには食堂で食事、続いて練習、部室で休憩又練習と体育館～食堂～部室の往復の学生生活を真面目に４年間続けた。

何もわからない大学１年生のド素人選手が無謀にも九州総合選手権（久留米大学）に出場し、シングルス１回戦で優勝者の丸山選手（福大）に０（０－15　０－15）30で勿論完敗。

昭和31年２年生の時、門司市の大会で大学の２年先輩を準決勝で破った三澤英二氏（現北九州市協会副会長、昭和39年度より全日本実業団40歳代シングルス３連勝）に競り勝って初めて優勝を経験した。

昭和32年に北九州大学バドミントン部が大分県日田市の三隅川畔に宿をとり、初めて県外で合宿を行い（その後数年続いた）九州インカレ（大分市）に望んだ。決勝戦で福岡大と対戦しダブルスで１勝するも２対３で惜敗。

この年、越川選手をはじめとする慶応大学のメンバーが初めて九州に遠征し、今ではあたり前になっているハイバックバンドを披露し、地元選手をびっくりさせたことも思い出になっているが、この頃は九州地方では、まだローバックハンドの全盛時代であったが、ハイバックハンドのフォーム（指の握りなど）を研究するために全日本インカレ（高松市）で試合は早々に敗れたが、シングルスの優勝者片石選手（立大）のフォームを優勝戦まで研究して帰った。

その後のバドミントン講習会で和田寿先生（当時九歯大）が講義、ハイバックの実技は私が手本を示していた。

昭和33年の九州インカレが小倉市の朝日新聞社体育館で開催され、地元の大学として世話を含めて頑張り、決勝戦まで駒を進めた。私は第１ダブルスで勝ち、第２シングルスで33年度九州学生チャンピオンであった高橋君（熊商大）に０（15－17　12－15）２で敗れたため、北九大は２対３で熊商大（現熊本学園大）に惜敗し、九州大会での優勝を自分自身では経験することが無かった。この悔しさなどが引き金となり42年間もバドミントンと縁が続いたと思う。

この年に全日本インカレが久留米市で開催されたが、その関係で東京に行き、駿河台の明治大学（日本のトップクラス）の練習を見学し、また、ヨネヤマ（現ヨネックス）の社長とお会いして用具などについて話したことも忘れられない年でもあった。

卒業後、バドキチ部員の多い門司市役所（現北九州市役所）に就職し、真面目に練習をしながら仕事に差しつかえのない範囲で種々の大会に出場した。

昭和36年には念願の国体（秋田県）に出場し、その後選手として５回、監督（成年女子）５回、審判員３回も国体に参加することが出来たことは幸せであった。

この年、門司商業高校よりコーチの要請があり指導に行くことになった。（大学４年生から１年半ほど鎮西女子高校のコーチ歴あり）

高校の指導のコンセプトは、後の東京オリン

ピック女子バレーボールの優勝監督鬼の大松博文氏の精神の100分の１の気持であった。その為年間を通じて正月の２日目より練習を開始し、夏休みは毎日炎天下の元でランニング7.5㎞を始め、ハードな基礎トレーニングを課してきた。その結果門司商高の黄金時代を礎くことが出来た。

昭和38年の国体少年女子に九州代表（当時は成年男子のみ１県１チーム、その他の種目は九州ブロック代表で１県であった）選手に玉水、松崎（共に門司商高）が選ばれ活躍した。他の１名は古閑（不知火女子高）であった。

この頃は、自分自身も大会において、全九州実業団・社会人、全九州市役所大会で団体・ダブルス（パートナー勝野雅文君、北九州市役所）・シングルスで念願の九州大会のタイトルを取ることが出来たが、各種目とも二連勝以上であった。これで一応学生時代からの念願であった九州大会での目標は達成することが出来た。

昭和38～40年の全日本実業団大会40歳代シングルスで、仲間の三澤英二氏（北九州市役所）が三連勝したことが、また１つの刺激になり全日本の名の付くタイトルに色気が出てきた。

昭和40年は最もすばらしい年であり、印象に最も強く残っている。秩父宮妃殿下御臨席のもと全日本実業団大会が新装の北九州大学体育館と小倉（三萩野）体育館で開催された。私にとって感激したことは、母校の体育館での選手宣誓、しかもレセプションで「今日の選手宣誓の人は大変姿勢が良かった」と妃殿下におほめの言葉をいただいたこと（和田寿県理事長談）であった。

（主会場は新装成った貴賓席のある住友金属体育館を予定していたが、諸般の事情でダメになった経緯あり）

また、この年に門司商高の筒井（現桶本）百合子と古賀（現奥田）幸子がインターハイでシングルスベスト16に残り優勝者との対戦で前半に大差のリードで大健闘をしたことも印象に残る。

昭和41年門司商高の小笠原（現益田）悦子が４回戦で竹中悦子選手（現全日本女子監督栂野尾昌一氏夫人・元全英チャンピオン）を破りながら勝ち進み、インターハイ（弘前市）の準決勝に残る快挙を成し遂げたことは、過去九州地区で初めてのことであり、教え子の中で個人戦の最高位であったことが思い出される。

昭和43～44年に全日本実業団男子30歳代で挑戦したがダブルス準優勝（パートナー勝野雅文君）・シングルス３位と２年連続全く同じ成績のため、私自身全日本と名の付くタイトルをあきらめ、選手としての目標を断念し、協会の世話（43年度より平成４年度まで北九州バドミントン協会事務局長）に専念することにした。（その後１度だけ選手として団体に出場しているのであるが…）事務局以降の想い出は、昭和50年日中バドミントン北九州大会での競技委員長と教育委員会体育課担当職員との立場で努力をしたが、大会前日に支柱の間が５cm狭いことが発見されあわてたこと。

昭和51年の長野国体では、監督の立場でありながら無責任にも開催地に乗り込む前に観光し、選手の気分転換をはかった。（自分自身これまで選手・コーチ・監督として遠征したが只の一度も大会前に観光をしたことはない）教え子の桶本百合子・上野（旧丸山）富江と山口峰子（住金）のメンバーはリラックスした気分で試合に望み、新潟、岐阜、東京を撃破し、決勝戦まで勝ち進み、決勝では大阪府に敗退するも成年女子が準優勝したことは九州では初めてのことであった。

以降、北九州市に於けるバドミントン教室（午

前・午後）の指導者の確保やカリキュラムの作成、またママさん連盟の育成など、今では考えられない大変な苦労があったのも良き思い出である。

これまで印象の残っている方は、県外にもたくさん居るが、ここでは県内の方に止めたい。

和田寿先生…九州のバドミントン界では、東（政治的に優れている）の和田、西（実技面）の伊藤（熊本県の基記先生）といわれていた。
昭和30年の前半より今日まで公私ともご指導いたゞいた（特に私の方です）。

今雪美千恵先生…昭和30年代、女手一つで県協会を切り盛りしていた。
国体予選会から本大会出場などいろいろお世話をしていただいた。

本村比佐郎君…小倉西高ＯＢ・元朝日新聞社で国体出場メンバーの練習仲間。スマッシュの速さは当時の日本ではトップクラスであった。全日本のチャンピオン小宮好雄選手（トヨタ自動車）は、矢が刺さるようなスマッシュであったが、彼のは体力まかせのバシャという感じであった。

故本田義雄氏…昭和40年前後の住友金属の黄金時代に世話をされていた。
現在県下のジュニアの指導者として活動しているが、当時他県より来北（北九州市）した高卒ルーキーを数日で他社より引き抜いたことあり。

田尻芳子さん…福岡市役所
昭和41年より今日まで県協会の裏方として熱心に世話をされており、これまで県バドミントン協会を本当に支えて来ている。

40年以上もバドミントンで選手（大学・実業団・社会人）・監督・コーチ（高校・大学・社会人）・役員（県・市協会など）として携わったお陰で九州各県の各層の方々と知り合い、特に九州各県の現在の理事長（沖縄県を除く）の皆さんとは20年以上も前から面識があり、いろいろとお付き合いをしてきた仲間である。

この仲間と多くの経験は私の人生の最良の財産で本当に感謝している。

今後は、これまでの経験や人脈を活かしながら、お世話を続けていきたい。当面は日本リーグの開幕戦に向けて…。



国体と私

桶　本　百合子

昭和22年戦後のベビーブームに生れ、育った私は、昭和38年門司南高校に入学。その年の夏休みに、先生の勧めでバドミントン部に入部。入部したその日から、羽球の魅力に取りつかれ、私のバドミントン人生は始まった様な気がします。

私が、国体を目指すようになったキッカケは入部したその年に、先輩の玉水・松崎組が、山口国体に出場し、生まれて初めて見た試合が、国体でした。当時の私にとって、その国体は、雲の上の人達のプレイで、素晴らしく、感動と衝撃が体中を走ったのを覚えています。いつしか私もと先輩達を目標に、国体に憧れるようになったのでした。

当時は、成年男子が毎年全県出場、成年女子・少年男子・少年女子は九州で１県となかなか、予選が厳しいものでした。

昭和40年、高３の時、少年女子で福岡県代表で九州大会に出場。決勝戦で熊本県に２－１で涙をのんだのですが、敗因は、第２シングルス

の私のサーブが急に入らなくなった事でした。皆に迷惑を掛けた事が、とてもショックでした。そして、その惜しさが前よりも増して、国体に対して、執念を抱き、バネとなった次第です。選手としての想い出は昭和41年、大分国体成年女子で初出場（監督：淵上、選手：玉水、松崎）したことです。１回戦、北海道と対戦、玉水さんとダブルスを組んだのですが、私が緊張の余り、上ってしまい接戦の末、ようやくの勝利。その晩、監督に呼ばれ、日田の町を、２時間余りランニングさせられた事が、懐かしく想い出されます。２回戦は、岐阜県で、当時世界チャンピオンだった、高木・天野組との対戦。ダブルス・シングルスで、合計15点取ったと喜んだものでした。

昭和53年、長野のやまびこ国体（監督：淵上、選手：楠本・丸山・山口）で復帰し準優勝。当時30才。３才と１才の２児の母。日本生命に勤める傍ら、国体を目指した私は、スタミナの回復に、早朝３～５キロのランニング。第１回戦は第１シードの新潟県と対戦。大接戦の末、勝利。これをキッカケに、あれよあれよと言う間に決勝戦。しかしながら決勝戦は大阪府に惜敗。この国体で、準優勝出来たのは、チームワークの良さと長野の雄大な大自然に気分転換が計れ、頑張れたのだと思います。

監督としての想い出は、平成２年のとびうめ国体（選手：清水・田村・田頭）。“やれば出来る”“最終日迄残ろう”を合言葉に全員一丸となって、頑張った日々。特に強化練習会に中央コーチのＮＴＴ東京の尾崎氏（元全日本監督）を招聘し、全日本級の指導を受けた事が、この国体を機に、福岡県選手のレベルアップにつながり、また監督として私自身の貴重な経験になりました。

本国体の１試合１試合が、とてもドラマチックで、特に、決勝戦の静岡県との壮絶な戦いは、今でも語り草となっています。この時ほど、地元の人々の応援が、選手の味方となる事を実感した事はありません。優勝した瞬間、まるで、夢を見ている様で、嬉しくて、涙が止まらなかったのを、覚えています。

この時の成年女子優勝、成年男子３位、少年男子４位、少年女子５位の快挙は、将来においても、なかなか破れないと思います。

今振り返って見ると、国体に選手で11回、監督で10回出場。それぞれの国体に数々の想い出があり、又、それは私の大切な宝物となりました。お陰様で多くの人にも巡り会えました。これはひとえに、今まで私を支えて下さった先生、監督、友人、会社の上司、仲間、家族の理解の賜物と、深く感謝を致しております。

最後に、福岡県バドミントン協会の益々のご発展と、ご活躍をお祈り致します。



創立50周年によせて

小　谷　桂　一

昭和53年４月、九州女子高等学校に着任しバドミントン部顧問となり20年間専門部に携わって参りました。福岡県のバドミントン競技の歴史を振り返るといっても、まだ、私の歴史は浅いもので、諸先輩方から多くのことを学び、創設当時のことも聞いて参りました。確かに、50年間の道のりは一口に語れるものではありませんが、たゆまない努力が今日の発展に結びついていることは、言うまでもありません。

1966（昭和41）年、高校体育連盟にバドミン

トン競技が加わり、高等学校にも部活動競技として浸透し始めるが施設設備も十分にはなく、バドミントンができるところと言えば企業が持つ体育館、あるいは、大学の体育館ぐらいでした。少しずつ県内のあちらこちらに、バドミントン競技のできる体育館が出来始め、各地域の小学校体育館等を借りてのバドミントン教室等の普及は、バドミントン人口の増加とジュニアへの指導へと急速に広がっていきました。

昭和40年代から50年代の本県のレベルは、九州管内においても、熊本県、長崎県、大分県などが高く、なかなか団体優勝、個人優勝もできませんでした。唯一、昭和43年の男子ダブルス田中・島田組（明善高）の優勝があり、他は優勝に縁が無くレベルの差を感じるものがありました。また、全国大会においても戦績は同様でした。本県主催の国体５年前となる昭和60年頃から急激に九州・全国大会への入賞が増え始めたことは、本県にとって今までにない大きな変化であり、国体へのボルテージを上げてゆくものとなったと確信しています。

1990（平成２）年、10月、第45回国体の本県開催は、「とびうめ国体」のイメージ通り、飛躍的な結果を残すこととなりました。少年男子４位（横溝少年男子監督・古賀コーチ）、少年女子５位（浜司少年少女監督・樽野コーチ）の成績は、大健闘の結果に終わり総合２位の原動力になったことは、このドラマチックな場面に居合わせ応援していた一人として、忘れることのできない感動的瞬間でした。

この「とびうめ国体」の大きな財産が、やればできるという自信をバドミントン関係者の心に財産として残してくれたことを確信しています。

以降、ますますインターハイに本県高校生が入賞する自信をつけ、レベルの高い取組へと大きく変わっていることは事実です。

本県のバドミントン競技人口も近年爆発的な増加をとげ、その理解度も深く創立50周年という節目にして、加速度的に進歩を遂げてきておりその発展ぶりには、目を見張るものがあります。

今後、ますますレベルの高い発展を期待しています。

第 4 章

資　　料

資　料

1．規約・規程・細則・役員名簿など

福岡県バドミントン協会規約

第　1　章　　総　　則

第１条（名　称）この会は、福岡県バドミントン協会（以下「会」という。）といい、外国に対しては The Fukuoka Badminton Association（略称F.B.A.）という。

第２条（事務所）本会は、事務所を福岡市中央区天神１丁目８番１号に置く。

第　2　章　　目的及び事業

第３条（目　的）本会は、福岡県内におけるのバドミントン界を統括し、代表する団体として、バドミントンを振興し、その健全な普及発達を図ることを目的とする。

第４条（事　業）本会は、前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

（１）バドミントンに関する調査・研究。

（２）バドミントンに関する講習会・講演会・研究会等の開催。

（３）バドミントン選手権大会、その他の競技会の開催。

（４）バドミントンに関する刊行物の発行並びに斡旋。

（５）バドミントンの競技力の強化。

（６）その他、この会の目的達成に必要な事項。

第　3　章　　組　　織

第５条　本会は、学校・各団体（以下「加盟団体」という。）並びに個人会員を以て組織する。

第６条　前条の加盟団体並びに個人会員は、理事会の承認を経て加盟するものとする。

第　4　章　　役員及び評議員

第７条（役　員）本会に下記の役員を置く。

（１）理事15名以上20名以内。（うち、会長１名、副会長若干名、及び理事長１名とする。）

（２）監事２名。

（３）前第１項・２項に定める者の外、名誉役員として名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。

第８条（役員の選任）理事及び監事は、評議員会において選任し、理事は互選で会長、副会長及び理事長を定める。

第９条（理事の職務）会長は、この会を代表し、会務を統括する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序により副会長がその職務を代行する。

３　理事長は、会長及び副会長を補佐し、理事会の議決に基づき業務を執行する。

４　理事長は、必要に応じ理事の内より、副理事長を置くことができる。

5　理事は、理事会を組織し、この会の業務を議決し、執行する。

第10条（監事の職務）監事は、この会の会計を監査する。

第11条（役員の任期）役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

2　補充又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。なお、その選任については、会長に一任する。

3　役員は、その任期満了後も後任者が就任するまで、なおその職務を行う。

第12条（評議員の選出）本会には、評議員を置く。

2　評議員は、加盟団体代表１名をもってこれにあてるものとする。

3　評議員は、理事会でこれを選任し、会長がこれを任命する。

4　評議員が役員に就任したときは、評議員の資格を失う。この場合は、その者の属していた加盟団体からこれに代わる評議員を選出する。

第13条（評議員の職務）評議員は、評議員会を組織し、この規定に定める事項のほか、会長が付議した事項に関して審議を行う。

第　5　章　　名誉会長、顧問及び参与

第14条　本会に名誉会長並びに顧問及び参与を置くことができる。

2　名誉会長、顧問及び参与は、この会に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、会長が委嘱する。

3　名誉会長及び顧問は、重要な事項について、会長の諮問に応じ、意見を述べることができる。

4　参与は会長の必要と認める事項について、その諮問に応じ意見を述べることができる。

第　6　章　　会　　議

第15条（理事会の招集等）理事会は、必要に応じ会長が招集する。ただし、理事現在数の３分の１以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、すみやかに理事会を招集しなければならない。

2　理事会の議長は、会長とする。

第16条（理事会の定足数等）理事会は、理事現在数の３分の２以上の者が出席しなければ、開会し議決することができない。ただし、当該事項について、あらかじめ書面により意志を表示した者は出席者と見なす。

2　理事会の議事は、この規定に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決める。

第17条（評議員会）この規定に別段の定めがある場合を除くほか、この会の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項の決定については、理事会はあらかじめ評議員会の同意を得なければならない。

2　第16条及び前条の規定は評議員会に準用する。この場合において、これらの規定中「理事会」及び「理事」とあるのは「評議員会」及び「評議員」と読み替えるものとする。

第 7 章　会　　計

第18条（経費の支弁）本会の経費は、下記に掲げるもので支弁する。

（1）登録料　（2）加盟分担金　（3）補助金　（4）事業収入　（5）寄付金　（6）その他

第19条（事業計画及び収支予算）本会の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に会長が編成し、理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

第20条（収支決算）本会の収支決算は、毎会計年度終了後会長が作成し、監事の意見を付け、理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

第21条（会計年度）本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 8 章　加盟団体及び会員登録

第22条（加盟分担金）本会の加盟団体は、本会で定める加盟分担金を毎年納入しなければならない。

第23条（登録料）本会に個人登録しようとする会員は、本会で定める登録料を納入しなければならない。

第 9 章　専 門 委 員 会

第24条（専門委員会）本会には、理事会の議決を経て専門委員会を設けることができる。

2　専門委員会は、第4条に掲げる事業のうち、必要な事業を行うものとする。

3　専門委員会の委員、運営その他必要な事項は理事会で定める。

第 10 章　支　　部

第25条（支　部）本会は、北九州・筑豊・福岡・筑後の4地区に支部を置く。

第 11 章　事　務　局

第26条（事務局）本会には、事務を処理するため事務局を置く。

第 12 章　規 約 の 変 更

第27条（規約の変更）この規約は、理事会及び評議員会において、出席者の3分の2以上の賛成をもって決しなければ、変更できない。

附則

1　この規約は、昭和30年6月5日より施行する。

2　この規約は、昭和32年2月24日より一部改正施行する。

3　この規約は、昭和36年3月12日より一部改正施行する。

4　この規約は、昭和50年3月9日より施行する。

5　この規約は、平成9年3月20日より施行する。

福岡県バドミントン協会理事選出規定

第１条　理事は20名以内とする。

理事　20名
- 支部選出理事　８名
- 連盟(部)選出理事　２名
- 学識経験理事　10名

第２条　理事候補者の選出

１　福岡、北九州、筑後、筑豊の各地区は、理事候補者各２名を選出する。

２　福岡県高等学校体育連盟バドミントン専門部、福岡県中学校体育連盟バドミントン専門部、福岡県家庭婦人バドミントン連盟、福岡県実業団バドミントン連盟、福岡県教職員バドミントン連盟、福岡県学生バドミントン連盟は、理事候補者２名を選出する。

３　学識経験者より、理事候補者10名を選出する。

なお､前２項の理事候補者が定数に満たない場合には､学識経験者をそれに充当することができる。

第３条　役員選考委員会の設置

改選にあたっては、選考委員会（以下「委員会」という）を設置することとし、構成員は、第２条第１項に定める支部の選出委員各１名及び第２条第２項に定める連盟（部）の選出委員１名とし、評議員会出席者中より人選する。

第４条　役員改選の順序

１　評議委員会にて委員会設置。

２　委員会で理事候補者の推薦。

３　委員会より評議員会へ答申し、承認を受ける。

４　委員会の解散。

第５条　本規定は、平成９年３月20日より実施し、改廃は理事会において定める。

福岡県バドミントン協会表彰規定

第１条　この規定は、福岡県バドミントン協会（以下「本協会」という）の発展に顕著な功績のあった団体及び個人を表彰することを目的とする。

第２条　表彰は、次のいずれかの基準に該当するものについて行う。

１　本協会の育成、振興のために顕著な功績のあった団体及び個人。

２　本協会の発展のため、関連性のある事項に顕著な功績のあるもの。

３　その他、理事会において適当と認めたもの。

第３条　被表彰者の推薦は、理事が行う。ただし、本協会事務局は、必要に応じ被表彰者を推薦することができる。

第４条　被表彰者は、理事会において審議決定する。

第５条　この規定の改廃は、理事会において決定する。

附　則

１　この規定は、平成９年３月20日から施行する。

福岡県バドミントン協会表彰規定細則

第１項　表彰規定第２条の基準によりこの規定を定める。

第２項　感謝状をあたえる基準

１　10年以上、本協会の育成、振興のために顕著な功績のあった団体及び個人。

２　本協会の発展のため、関連性のある事項に顕著な功績のあるもの。

３　会長、副会長、理事長、理事を10年以上歴任し、その功績顕著なもの。

４　その他、理事会において適当と認めたもの。

第３項　技能賞をあたえる基準

１　各種全日本大会において優勝した団体及び個人、またはこれに準ずる成績をおさめた団体及び個人。

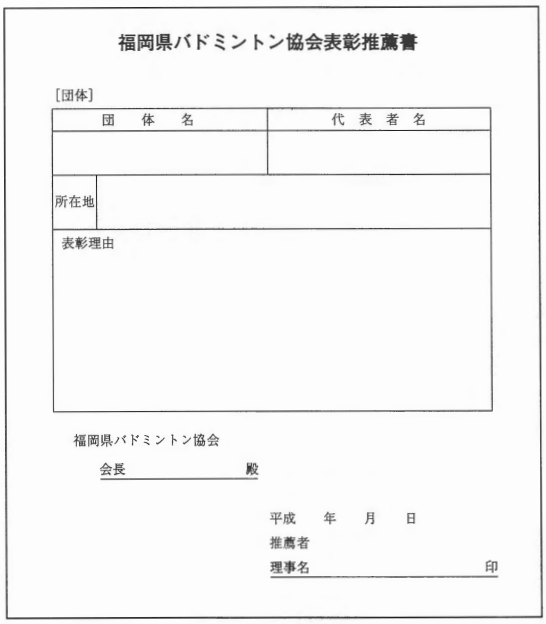
２　国際試合に日本代表として参加し、特に優秀な成績をおさめた団体及び個人。

第４項　表彰は、原則として毎年１回、本協会評議員会の際に行う。

第５項　この細則の改廃は、理事会において決定する。

附　則

１　この規定は平成９年３月20日から施行する。



福岡県バドミントン協会表彰推薦書

［団体］

団　体　名	代　表　者　名
所在地	
表彰理由	

福岡県バドミントン協会

会長　　殿

平成　　年　　月　　日

推薦者

理事名　　印

旅費支給早見表

駅名（地名）	門司	小倉	戸畑	枝光	八幡黒崎折尾	海老津	赤間	福岡地区	久留米	瀬高	大川大牟田	飯塚	田川	直方	苅田行橋	豊前
門司	1000	1000	1000	1000	1000	1500	2500	2500	4000	4000	5000	2000	2000	2500	1500	2000
小倉	1000	1000	1000	1000	1000	1500	2000	2500	3500	4000	4500	1500	1500	2500	1000	2000
戸畑	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1500	2500	3500	4000	4500	1500	2500	2500	1500	2000
枝光	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1500	2000	3000	3500	4000	1500	2000	2000	1500	2000
八幡黒崎折尾	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	2000	3000	3500	4000	1500	1500	1000	1500	2500
海老津	1500	1500	1000	1000	1000	1000	1000	1500	2500	3000	3500	1500	1500	1000	2000	2500
赤間	2500	2000	1500	1500	1000	1000	1000	1500	2500	3000	3500	2000	2000	1000	2500	3000
福岡地区	2500	2500	2500	2000	2000	1500	1500	1000	1500	2000	2500	1500	2000	2000	3000	3500
久留米	4000	3500	3500	3000	3000	2500	2500	1500	1000	1000	1500	1500	2500	2500	4500	5000
瀬高	4000	4000	4000	3500	3500	3000	3000	2000	1000	1000	1000	2000	3000	2500	5000	5500
大川・大牟田	5000	4500	4500	4000	4000	3500	3500	2500	1500	1000	1000	2500	3000	3000	6000	6000
飯塚	2000	1500	1500	1500	1500	1500	2000	1500	1500	2000	2500	1000	1000	1000	2000	2500
田川	2000	1500	2500	2000	1500	1500	2000	2000	2500	3000	3000	1000	1000	1000	1500	2000
直方	2500	2500	2500	2000	1000	1000	1000	2000	2500	2500	3000	1000	1000	1000	1500	2500
苅田・行橋	1500	1000	1500	1500	1500	2000	2500	3000	4500	5000	6000	2000	1500	1500	1000	1000
豊前	2000	2000	2000	2000	2500	2500	3000	3500	5000	5500	6000	2500	2000	2500	1000	1000

福岡県バドミントン協会50年史編集委員会規程

第１条（委員会の設置）福岡県バドミントン協会に、福岡県バドミントン協会50年史編集委員会（以下「編集委員会」とする）を置く。

第２条（委員会の構成）委員会は、次の者で構成する。

1　理事長

2　各地区協会から１人

3　理事長が委嘱する者

第３条（編集委員長）編集委員会に編集委員長を置く。

2　編集委員長は、福岡県バドミントン協会理事長が委嘱する。

3　編集委員長は、会議を招集し、議長となる。

第４条（編集委員会の任務）編集委員会は、福岡県バドミントン協会50年史の編集及び発行をつかさどり、

そしてその全責任を負う。

2　編集に関する必要な調査・資料の収集。

3　原稿の執筆。

第５条（事務局）編集委員会に事務局を置く。

〒814　福岡市早良区原１丁目２番30-505号

藤本　俊史

TEL 092-831-4289

付　則　この規程は、1996年３月20日から施行する。

福岡県バドミントン協会役員名簿（平成９・10年度）

□会　長／四島　司(学経)

□副会長／辰市祐昭(学経)、寺岡良隆(筑豊)

□理事長／横溝安伸(学経)

□理　事／佐竹養一(福岡；審判)　　苣木　章(筑後；総務)

西　正敏(福岡；指導)　　鎗水浩吉(筑後；強化)

市川之善(学経；総務)　　古賀　蔵(学経；強化)

日高澄具(学経；競技)　　森嶋通之(筑豊；総務)

服部秀喜(北九州；競技)　　小川末子(家庭婦人；総務)

村尾　隆(北九州；審判)　　浜司　晃(高体連；強化)

淵上英紀(学経；総務)　　上薗幸則(学経；指導)

門司政廣(学経；指導)　　坂田雄二(学経；競技)

□監　事／今雪美千恵、井上芳実

福岡県バドミントン協会福岡支部規約

第　１　章　　総　　則

第１条　福岡県バドミントン協会（以下「協会」という。）福岡支部（以下「支部」という。）の運営については、協会規約並びに協会支部規定によるのほか、この規約の定めるところによる。

第２条　この支部の通称を福岡地区バドミントン協会という。

第　２　章　　組　　織

第３条　支部は、福岡市、春日市、大野城市、筑紫野市、太宰府市、宗像市、（前原市）、筑紫郡、粕屋郡、

糸島郡及び宗像各郡（以下「福岡地区」という。）に所在又は居住する学校各種団体または個人のバドミントン愛好者によって組織する。

第 3 章　目的及び事業

第４条　支部は、福岡地区ならびに県内のバドミントンを振興し、その健全な普及発展ならびに福岡地区内相互の親睦を図るをもって目的とする。

第５条　支部は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1．バドミントンに関する研究調査。
2．支部内におけるバドミントンに関する講習会、講演会、研究会の開催。
3．支部内におけるバドミントン競技大会の開催。
4．協会主催の競技大会の主管。
5．その他、支部の目的達成に必要な事項。

第 4 章　役　　員

第６条　支部に次の役員をおく。

支 部 長　　１名
副支部長　　２名
理　　事　　若干名（理事長　１名、理事　若干名）
監　　事　　２名

2　前項に定める者のほか、名誉役員として名誉会長、顧問、参与をおくことができる。

第７条　支部長は、理事会において推挙し、協会会長がこれを委嘱する。

2　支部長は、支部を代表し統括し、評議員会および理事会の議長となる。

第８条　副支部長の推挙ならびに委嘱は、前条に準ずる。

2　副支部長は、支部長を補佐し、支部長事故あるときは、その職務を代理する。

第９条　評議員は、各団体より選出し、又は個人会員の中より評議員会において推挙し、支部長がこれを委嘱する。

第10条　評議員は、その互選によって理事長１名、理事若干名を選出し支部長がこれを委嘱する。

第11条　理事長は、支部長の指示をうけ会務を掌理し、理事、評議員は、会務を分掌する。

第12条　監事は、評議員会において推挙し、会計を監査する。

第13条　役員の任期は２ヶ年とする。ただし、重任はさまたげない。

2　役員に欠員を生じたときは、評議員会において選出することができる。

3　補欠役員の任期は、前任者の残存期間とする。

第 5 章　会　　議

第14条　評議員会は、全役員をもって構成し、必要に応じて支部長がこれを招集する。

2　評議員会は、構成人員の過半数によって成立し、議事は、出席者の過半数の決議で定める。

3　評議員会は、次の事項を審議する。
1　役員の選出推挙　　2　規約の改廃
3　スケジュールの決定　　4　予算、決算
5　その他、重要な事項

第15条　理事会は、支部長、副支部長、理事長、理事で構成し、評議員会の委任事項を執行する。

第６章　会　　計

第16条　支部の経費は、加盟団体の分担金、協会登録補助金、事業収入、寄付金その他の収入をもって充てる。

第17条　会計年度は、毎年４月１日より、翌年３月31日に終わる。

第18条　支部の予算は、会計年度開始前、評議員会において決定し、決算は、会計年度終了後監事の監査を経て、評議員会の承認を得なければならない。

第７章　事　務　局

第19条　支部の事務を処理するため、事務局を置くことができる。

2　事務局に関しては、協会事務局規定を準用する。

附　則

1　この規約は、昭和35年４月１日より施行する。

附　則

1　この改正後は、昭和60年４月１日から施行する。

福岡地区バドミントン協会役員名簿（平成９・10年度）

□名誉支部長／四島　司
□支　部　長／辰市祐昭
□顧　　問／宮山昇三、増田靖文、後藤　研
□参　　与／伊藤篤治、木下一郎
□幹　　事／細川孝雄、安川アサエ
□理　事　長／市川之善（総務）
□理　　事／副島　武（福岡市；競技）　木暮澄雄（宗像市；競技）　中村英彦（総務）
藤本俊史（福岡市；総務）　森山武志（筑紫郡；普及・指導）　上薗幸則（中体連；普及・指導）
池田誠司（筑紫野市；普及・指導）　菊池則人（糸島郡；普及・指導）　宮本宏一（普及・指導）
前田洋輔（太宰府市；競技）　西本　孝（シティ銀行；競技）　佐藤　誠（普及・指導委員長）
長野義詔（大野城市；普及・指導）　坂田雄二（ベスト電器；普及・指導）　西　正敏（競技委員長）
銘刈秀明（春日市；競技）　目野俊昭（高体連；普及・指導）　友田政陳（審判）

□理　　事／毛利清美（粕屋郡；総務）　小川末子（家庭婦人連盟；総務）　有薗靖子（普及・指導）
日高澄具（審判）　小谷桂一（高体連；審判）　佐竹養一（審判委員長）
浜田和宏（審判）　興膳律子（総務）　緒方蓉子（総務）
□事　務　局／矢野正人（総務委員長）

北九州市バドミントン協会規約

（名称及び事務局）
第１条　この会は、北九州市バドミントン協会（以下「協会」という）という。
第２条　この協会の事務局を北九州市　　区に置く。　事務局に関する事項は、別に定める。
（目的及び事業）
第３条　この協会は、市内のバドミントン競技を振興し、その健全な普及・発展を図ることを目的とする。
第４条　この協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）バドミントンに関する講習会等の開催
（２）バドミントン選手権大会やその他の競技会の開催
（３）その他この協会の目的達成に必要な事業
（組　織）
第５条　この協会は、第３条の趣旨に賛同する学校、事業所、クラブ等の団体（以下「加盟団体」という）並びに個人会員を以て組織する。
（役員及び任務）
第６条　この協会に下記の役員を置く。
会　　長　１名　副 会 長　若干名　理事長　　１名
副理事長　１名　常任理事　若干名　理　事　若干名
事務局長　１名　監　　事　　２名
２　前項に定める者のほか、名誉会長・顧問及び参与を置くことができる。
第７条　会長は、理事会において推挙する。会長は、この協会を代表し、会務を統轄し、理事会の議長となる。
第８条　副会長は、理事会において推挙し、会長がこれを委嘱する。副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
第９条　理事は、各区代表及び家庭婦人連盟、高校、中学校、学連より各３名以内を選出し、会長がこれを委嘱する。
上記のほか、会長は、学識経験者の中から理事を委嘱することができる。ただし、その数は全理事の数の４分の１を超えてはならない。
理事は、会務を掌理する。
第10条　理事は、互選によって理事長１名、副理事長１名、常任理事若干名を選出する。

第11条　理事長は、理事会の定めるところに従って会務を執行する。理事長は、会長、副会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第12条　副理事長、常任理事は、理事長を補佐し、会務を執行する。副理事長は、理事長に事故あるときは、その職務を代行する。

第13条　監事は、理事会において推挙する。監事は、会計を監査する。

第14条　役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（会　議）

第15条　理事会は、必要に応じて会長がこれを召集する。議事は、出席者の過半数の決議で決する。可否同数の場合は、議長がこれを決める。

（会　計）

第16条　この協会の経費は、下記に掲げるもので支弁する。

（１）登録料　（２）補助金　（３）事業収入　（４）寄付金　（５）その他

第17条　会計年度は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第18条　この協会の予算は、会計年度開始前理事会の承認を得なければならない。

第19条　決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て理事会の承認を得なければならない。

（登　録）

第20条　加盟団体並びに個人会員は、毎年５月31日までに登録を完了しなければならない。

登録料は、別に定める。

（専門委員会）

第21条　この協会に専門委員会を置くことができる。専門委員会の名称、目的及び委員の定数は、理事会で定める。

専門委員会には、委員長１名、委員若干名を置くことができる。

第22条　各専門委員会の委員長は、県協会の専門委員会の委員になる。

（支　部）

第23条　この協会に、下記の支部を置くものとする。

門司、小倉北、小倉南、戸畑、若松、八幡東、八幡西

但し、当分の間、小倉南北区、八幡東西区については夫々１つの支部とする。

支部に関する事項は、別にこれを定める。

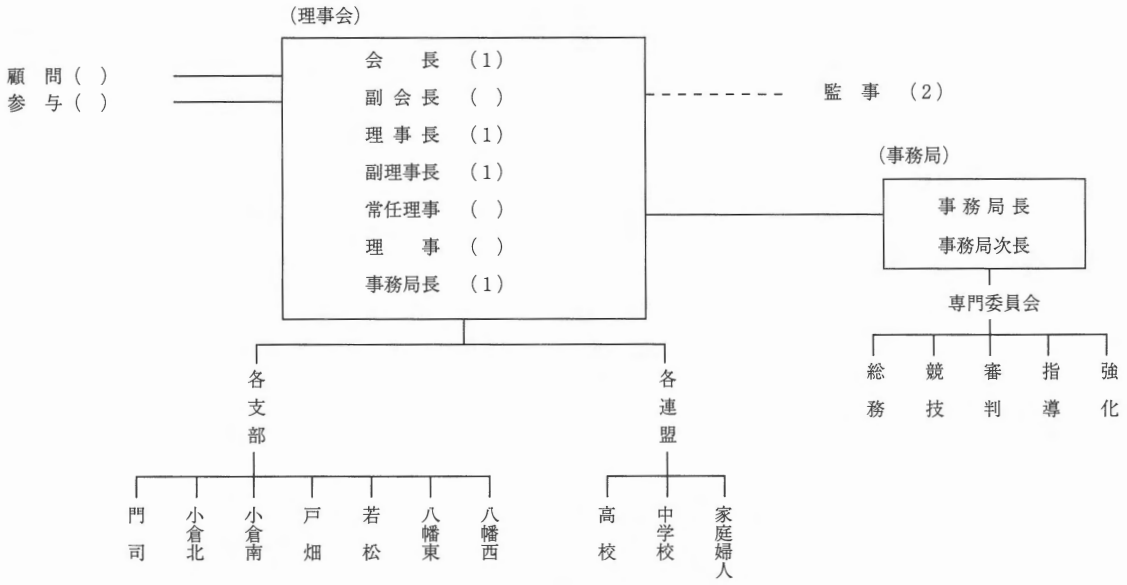
（附　則）

１．この規約は、昭和38年６月５日より施行する。

１．この規約は、昭和43年10月18日より一部改正施行する。

１．この規約は、平成５年６月９日より一部改正施行する。

北九州市バドミントン協会組織図



北九州市バドミントン協会役員名簿（平成９年度）

□会　　長／柴田一郎
□副 会 長／三沢英二、竹内久雄
□参　　与／庄野重信
□監　　事／後藤崇行、原　穂美
□理 事 長／淵上英紀
□副理事長／村尾　隆
□常任理事／淵上英紀（門司区理事）　吉良山智恵子（若松区理事）　成富靖彦（高体連理事）
竹内久雄（小倉区理事）　服部秀喜（八幡区理事）　村尾　隆（中体連理事）
来田英憲（戸畑区理事）　南貴美子（家庭婦人連盟理事）
□理　　事／池田智彦（門司区理事）　内山英美（小倉区理事）　風間　博（八幡区理事）
伊藤信子（門司区理事）　釜瀬洋一（戸畑区理事）　門司政廣（八幡区理事）
桶本百合子（門司区理事）　吉岡えつ（戸畑区理事）　香月美津子（家庭婦人連盟理事）
有田仁志（小倉区理事）　内田紅美子（若松区理事）　光吉千佳子（家庭婦人連盟理事）
奥村英夫（小倉区理事）　筒井　悟（八幡区理事）　矢野豊貴（高体連理事）
村上正之（小倉区理事）　後藤泰男（八幡区理事）　坂本　哲（中体連理事）
堂山　武（小倉区理事）　福原和子（八幡区理事）　栗原博巳（中体連理事）
□事務局長／服部秀喜　　□事務局次長／門司政廣

筑後地区バドミントン協会規約

（名称および事務局）

第１条　この会は筑後地区バドミントン協会と称し、事務局を久留米市御井町1980-3苣木　章宅に置く。

（目　的）

第２条　この会はバドミントンの振興をはかるとともに、その健全なる普及発展を目的として創設したものである。

２．この会は筑後一円に於けるバドミントン競技力の向上と、各々の市郡での円滑なる発展に寄与すべく設けたものである。

（事　業）

第３条　この会は第２条の目的を達成するためにつぎの事業を行なう。

（１）バドミントン大会開催

（２）バドミントンの普及奨励並びに指導者養成・審判員養成講習会等の開催

（３）福岡県バドミントン協会並びに筑後一円の市郡、高体連等が行なう諸事業に対する協力

（４）その他、目的達成に必要な事業

（組　織）

第４条　この会は第２条の目的及び第３条の事業に賛同するものを以て組織する。

２．この会は各市郡に所属するバドミントン競技団体及びクラブ等の団体登録による会費を以て運営される。（各クラブ団体は毎年年度始めに登録を行うものとする）

（役　員）

第５条　この会につぎの役員を置く。

会　長	１名	副 会 長	若干名（地区代表及び高体連）		
理 事 長	１名	理　事	若干名	監　事	２名
専門委員	若干名	事務局長	１名	会　計	１名

２．前項に定める者のほか顧問をおくことができる。

第６条　会長は理事会において推薦する。会長はこの会を代表し、会務を総括する。

第７条　副会長は理事会において推薦し、会長の承認を得なければならない。副会長は会長を補佐し会務を代行する。

第８条　理事長は理事会において推薦し、会長の承認を得なければならない。理事長は会の運営ならびに会議等を総括する。

第９条　事務局長は理事会で推薦し、会長の承認を得なければならない。事務局長は理事長を補佐する。

２．会計は理事会で推薦し、会長の承認を得て会計をつかさどる。

第10条　理事は登録団体及び各地区協会から推薦された者の外、会長の推薦によるものとする。

第11条　監事は理事会において推薦し会計を監査する。

第12条　役員の任期は２ヶ年とする、ただし再任を妨げない。

２．役員に欠員ができたときは、理事会の承認を得て補充することが出来る。但し、前任者の残任期

間とする。

（会　議）

第13条　会の運営等に関する審議決定は、理事会がこれをつかさどる。

（１）役員総会を年１回開催する。

その他、会長の招集による臨時に総会を開くことができる。

（２）必要に応じ理事会を開催し、会の運営について討議を行う。

（３）理事会に代理人を出席させる場合は、その代理人を会議の表決に参加させることが出来る。

（４）会議は出席者の過半数の議決により決める。賛否同数の場合は会長が決定する。会長不在のときは理事長がこれを代行する。

（専門部会）

第14条　この会につぎの専門委員を置き、各々の業務を処理する。

（１）総務委員

運営全般に気を配り、円滑な活動が出来る様に検討する。

（２）競技委員

大会会場等の確保、並びに諸大会等の運営を管理し総括する。但し、各々の大会の執行は市郡の協会が責任をもってこれを行う。

（３）強化委員

一般社会人を中心に競技力の向上外、マナーを始め大会等に向けての練習会等を企画する。

（４）指導研究委員

小・中・高生を主体に競技力向上、実践指導を担当する。

（５）審判委員

審判問題等に関する処理決定。審判講習会を担当する外会員への競技規約他を認知徹底させる。

（会　計）

第15条　この会の経費は、加盟クラブ・団体の年会費、及び大会参加料等をもって支弁する。

第16条　この会の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日までとする。

（附　則）

第17条　この規約は、昭和55年４月１日より制定施行する。

１．昭和59年５月１日規約改定

２．平成元年４月１日規約改定

３．平成８年４月１日規約改定

筑後地区バドミントン協会役員名簿（平成９・10年度）

□会　　長／古賀　昭（久留米）
□副 会 長／内田栄一（久留米）　　重松弘喜（小郡）
　　平木武美（大牟田）　　皆川英二（浮羽）
　　石井正博（大川）　　古川憲一（柳川）
□理 事 長／苣木　章（久留米）
□事務長兼務会計／苣木　章（久留米）
□理　　事／森光秀行（総務）　　出利葉秀二（競技）　　田中泰敏（指導）
　　河島良一（総務）　　井上伸一（競技）　　金坂俊彦（指導）
　　武松　正（総務）　　古賀　蔵（強化）　　山野末春（指導）
　　小形公一（総務）　　鎗水浩吉（強化）　　山田保成（審判）
　　小宮孝吉（競技）　　馬場　解（強化）　　三俣和弘（審判）
　　石橋昌幸（競技）　　田中孝重（指導）　　下山正志（審判）
□専門委員／式　輝子（家庭婦人担当）　福岡清美（家庭婦人担当）
　　田中孝重（高校生担当）　　津留崎薫（高校生担当）
　　田中泰敏（中学生担当）　　目野幸光（中学生担当）
　　田中孝重（小学生担当）　　山野末春（小学生担当）
＊その他　（１）県選出役員は、県協会会議並びに委員会の情報を地区協会に報知のこと
　　（２）県協会会議等に出席不能の場合は、地区担当委員に代行してもらうこと
　　（３）県大会及び地区開催大会に於ける役員を各部門の地区委員が担当すること
　　（４）県大会を各地区で行う場合には、筑後地区役員は開催地区の運営に協力して大会がスムーズに運ぶ様、応援して下さい。
　　（５）個人的事由により、役員としての業務に支障をきたす恐れがあると思われる場合には、速やかに理事長まで御連絡をお願い致します。

県協会選出役員（筑後地区）

□理　　事／苣木　章（久留米）　　鎗水浩吉（浮　羽）　　古賀　蔵（三　橋）
□専門委員／苣木　章（久留米・総務）　鎗水浩吉（浮羽・強化）　田中孝重（大牟田・指導）
　　小宮孝吉（大牟田・競技）　山田保成（大川・審判）
　　古賀　蔵（三橋・強化）　田中泰敏（大川・指導）

福岡県家庭婦人バドミントン連盟規約

（名　称）

第１条　この連盟は、福岡県家庭婦人バドミントン連盟（以下連盟という）と称する。

第２条　本連盟の事務局は、会長の定める所におく。

（目的及び事業）

第３条　本連盟は、家庭婦人バドミントン競技の普及と技術の向上をはかり、会員相互の親睦融和を深めるとともに健康とスポーツ精神の養成に寄与することを目的とする。

第４条　本連盟は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

（１）競技会及び親睦試合などの開催。

（２）研修会、講習会の開催。

（３）その他、本連盟の目的を達成するのに必要な事項。

（組　織）

第５条　本連盟は、本連盟の趣旨に賛同する県内のバドミントンを愛好する家庭婦人団体をもって組織する。

第６条　本連盟は、福岡県バドミントン協会に加盟するほか目的を同じくする全国的又はブロックの組織に加盟することができる。

第７条　加盟団体登録は、５名以上とし、日常活動しているクラブとする。

（役　員）

第８条　本連盟に会長１名、副会長１名、理事若干名を置く。

会長は理事会で推挙し、連盟を代表する。副会長は会長が委嘱する。

理事は加盟団体の代表者の互選により選出し会長が委嘱する。

第９条　理事は、互選により理事長１名、副理事長１名、会計１名を選出する。

第10条　監事は理事会において選任し会計を監査する。

第11条　本連盟の任期は２年とし、再選を妨げない。補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

（会　議）

第12条　理事会は本連盟の運営事項を決定する。

第13条　本連盟の会議は理事の過半数の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛否をもって決定する。

（会　計）

第14条　本連盟の経費は、加盟料及びその他の収入をもってあてる。

第15条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日をもって終わる。

（附　則）

第16条　この規約にない事項は、逐次理事会で補充する。

第17条　本規約は昭和58年４月１日より施行する。

本規約の一部改正は平成５年４月１日より実施する。

本規約の一部改正は平成７年４月１日より実施する。

福岡県家庭婦人バドミントン連盟役員名簿（平成９年度）

□会　　長／辰市祐昭
□理 事 長／小川末子
□副理事長／有薗靖子
□会　　計／友永順子
□理　　事／南貴美子（北九州）　梶原千栄子（西区）　秋山信江（宗像市）
福原和子（北九州）　藤川隆子（博多区）　式　輝子（久留米市）
江口和子（遠賀郡）　吉積智枝（南区）　白石美加子（小郡市）
石井治代（京築）　宮腰優子（粕屋郡）　福岡清美（大牟田市）
時川律子（直方市）　垂水敦子（筑紫郡）　山崎桂子（前原市・郡）
堀　和子（中間市）　小泉奈津子（大野城市）　安倍悦子（宗像郡）
吉田信子（福岡市東区）　合屋小代子（太宰府市）
河内山由利子（早良区）　古賀信子（筑紫野市）
□幹　　事／興膳律子

福岡県実業団バドミントン連盟規約

（名称及び所在地）
第１条　本連盟は、福岡県実業団バドミントン連盟と称し、事務所を福岡市中央区那の津２－１－12におく。
（組　織）
第２条　本連盟は、アマチュア・スポーツ競技団体の性格を有し、福岡県内の官公庁及び事業所を代表するチーム『以下「加盟団体」という。』を以って組織する。
第３条　本連盟は、県内実業団バドミントン競技の統括団体として、福岡県バドミントン協会及び日本実業団バドミントン連盟に加盟する。
（目　的）
第４条　本連盟は、加盟団体の体位向上と相互の親睦を図り、併せてバドミントン競技の育成及び社会体育振興に寄与することを目的とする。
（加盟及び脱退）
第５条　本連盟に加盟しようとする団体は別に定める加盟金及び団体登録料を添え申請するものとする。
加盟団体が次の項に当たる時は、会長は評議員会の議を経て退会させる事ができる。
１．加盟金・団体登録料を滞納した時。
２．本連盟の秩序を乱した時。
３．アマチュア規定等に違反する行為があった時。
４．虚偽の登録申請があった時。
５．その前各号に準ずる行為があった時。

（事　業）

第６条　本連盟は、第４条の目的を達成するために下記の事業を行う。

１．競技の指導及び普及に関すること。

２．競技大会の開催に関すること。

３．技術向上のための研修並びに講習会の実施。

４．必要な印刷物および機関紙の発行。

５．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項に関すること。

（役　員）

第７条　本連盟に下記の役員を置く。

１．会長１名・副会長１名・理事長１名・理事若干名・監事２名・評議員加盟団体１名。

２．本連盟は、必要に応じ、評議員の議を経て、顧問及び参与を置くことができる。

（役員の任務）

第８条　１．会長は評議員会で決定する。会長は本連盟を代表し、会務を統轄する。

２．副会長は評議員会の決議により会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

３．理事長は理事の互選により、会長が委嘱する。理事長は会長の指示を受け本連盟の会務を執行する。

４．理事は評議員会において加盟団体より選出し会長が委嘱する。理事は理事会を構成し、本連盟の会務を執行する。

５．監事は評議員会の決議を経て会長が委嘱する。監事は会計を監査する。

６．評議員は、加盟団体を代表し評議員会に出席し、本連盟に関する諸事項を審議する。

（役員の任期）

第９条　役員の任期は２年とする。但し、平成５年度に限って１年とする。役員の任期は、再任をさまたげない。補充役員の任期は前任者の残任期間とし、増員による役員についても同様とし、任期が満了しても後任者が就任するまで職務を遂行するものとする。

（評議員会）

第10条　評議員会は会長が招集し、本連盟に関する重要事項を審議する。評議員会は、毎年１回開催する。ただし会長は必要に応じ随時開催することができる。評議員会は、会長・副会長・理事・監事及び評議員で構成し、その決議は出席者の過半数を以って決定し、可否同数の場合は会長がこれを定める。

（専門委員会の設置）

第11条　本連盟は評議員の議を得て専門委員会を設けることができる。専門委員会に関する規定は別に定める。

（専門委員の任務）

第12条　専門委員は本連盟の会員から会長が委嘱し、委員長は理事のうちから会長が選出する。委員会は委員長が招集し、それぞれの専門の事項に関し審議する。

（会計年度）
第13条　本連盟の会計年度は毎年４月１日に始まり翌年３月31日を以て終わる。
（会　計）
第14条　本連盟の経費は下記に掲げるもので支弁する。（会費・補助金・寄付金・その他の収入）
（会　費）
第15条　本連盟の会費は次のとおりとする。
　　１．加盟金及び団体登録料。
　　２．前項に規定する加盟金及び団体登録料は、別に定める登録規定によるものとする。
（規約の改正）
第16条　この規約の改正は、構成員の３分の２以上が出席した評議員会において審議し出席者の過半数の賛成をもって改廃することができる。
（細　則）
第17条　この規定に定めのない事項及び施行に関する必要な事項は細則の定めるところによる。
（附　則）
第18条　この規約は平成５年４月１日から施行する。

福岡県実業団バドミントン連盟登録規定

（第１条）　福岡県実業団連盟（以下「本連盟」という）規約第17条の規定に基づき本規定を定める。
（第２条）　加盟手続は本連盟が定めた様式により、加盟金及び団体登録料をもって本連盟に登録しなければならない。
（第３条）　加盟金は新たに団体加盟する１事業所につき15,000円、団体登録は１事業所につき20,000円。団体登録料は毎年度更新するものとする。但し、継続して５年間団体登録がない場合は、新たに団体加盟するものとする。
（第４条）　加盟団体の登録は、同時に２つ以上の都道府県実業団バドミントン連盟から登録することはできない。
（第５条）　加盟団体は、第２条及び第３条の規定による手続は、本連盟に届けられたときを以て登録手続完了とみなす。
（第６条）　加盟団体は、登録完了後所属を変更しようとする会員は、本連盟が定めた所定の様式に従って届出しなければならない。
（第７条）　第２条及び第３条の規定のうち、追加登録に関する事項については、随時本連盟が受付けるものとする。
（第８条）　本規定の改正は、本連盟評議員会において審議し、出席者の過半数をもって改廃することができる。
（第９条）　本規定は平成５年４月１日から施行する。



（福岡県実業団バドミントン連盟旗）

福岡県実業団バドミントン連盟規約細則

（第１条）　福岡県実業団連盟（以下「本連盟」という）規約第17条の規定に基づき本細則を定める。

（第２条）　本連盟に加盟団体より登録完了した後、本連盟登録規定第６条による所属を変更（選手の移籍）する場合は、その相互の事業所の代表者の承認が得られない場合は、その選手は本連盟が主催又は主管する競技会は１年間出場停止とする。

（第３条）　次の各項に該当するものは本連盟が主催又は主管する競技会に出場することができない。

１．本連盟の加盟団体のうち日本バドミントン協会会員登録が未完了のもの。

２．福岡県バドミントン協会に加盟支部として承認を受けた支部のうち本連盟以外の加盟支部。

３．臨時職（雇）員、アルバイト等。

４．学生生徒（夜学生生徒を除く）

（第４条）　外国人選手は本連盟の加盟団体および日本バドミントン協会会員登録完了者であれば、本連盟の主催する競技会に出場できる。出場枠数は設けない。

（第５条）　本細則の改正は、本連盟理事会において審議し、出席者の過半数をもって改廃することができる。

（第６条）　本規定は平成５年４月１日から施行する。

福岡県実業団バドミントン連盟役員名簿（平成９年度）

□会　長／北田葆光

□副会長／横溝安伸

□理事長／坂田雄二

□理　事／西本　孝　　入江陸雄

有田仁志　　富村道徳

□監　事／元重邦博　　山下哲也

□顧　問／内田栄一

福岡県教職員バドミントン連盟規約

第 1 章　総　　則

第１条　本会は福岡県教職員バドミントン連盟と称する。

第２条　本会は日本教職員バドミントン連盟に属する。

第３条　本会の事務局は、原則として事務局長勤務の場所に置く。

第 2 章　目 的 と 事 業

第４条　本会は、バドミントンを通じ県内各種教育機関関係者の親睦を図り、併せてバドミントンの健全なる普及発展に寄与することを目的とする。

第５条　本会は、前条の目的を達成するために左記の事業を行う。

1．福岡県教職員バドミントン大会

2．バドミントンに関する講習会及び研究会

3．その他、本会の目的を達成するに必要な競技会及び事業

第 3 章　会　　員

第６条　本会は、本会の趣旨に賛同する福岡県内の各種教育機関に勤務する教職員及び事務職員を以て構成する。

第７条　本会入会を希望するものは、申込書に会費を添えて申し込み、理事会の承認により、会員となる。又、県協会及び日本教職員バドミントン連盟に登録することを原則とする。

第８条　本会につぎの四つの支部を置く。

1．北九州支部　　2．福岡支部　　3．筑豊支部　　4．筑後支部

第９条　本会の規約及び日本バドミントン協会アマチュア規定に反するものは、理事会の審議により、除名することがある。

第 4 章　会　　計

第10条　本会の経費は、会費・寄付金・その他の収入を以てまかなう。

第11条　本会の会費は、年額500円とし、５月末日までに納入する。

第 5 章　役　　員

第12条　本会に次の役員を置く。

会長　１名　　副会長　若干名　　幹事　２名　　理事　若干名（理事長・事務局長・会計各１名を含む。）　評議員　20名（各支部より５名ずつ）　参与　若干名

第13条　会長・副会長及び参与は、理事会で推薦する。

第14条　会長は本連盟を代表し、会務を総理する。

第15条　４つの支部に５名ずつの評議員を置き、各支部の連絡・運営にあたる

第16条　理事は、各支部評議員の中からそれぞれ２名ずつ計８名を総会の席上において選出し、他に会長推薦のものを若干名置く。

第17条　１．理事長、会計及び事務局長は、理事の互選により、会長がこれを委嘱する。
２．幹事は、会員中より会長が、これを委嘱する。

第18条　事務局長は、会員全体の連絡を図り、また他の団体との連絡をとる。

第19条　１．役員の任期は２年とし重任を妨げない。
２．役員が途中で代わる場合、前任者の残り期間とする。

第６章　会　　議

第20条　定期総会は、毎年６月末日までに行い、左記の事項を審議する。
１．事業報告ならびに会計報告
２．事業計画及び予算
３．規約変更
４．役員選出
５．その他

第21条　会長は、必要に応じて臨時総会を召集することができる。

第22条　理事会は、理事により組織され、必要に応じて会長がこれを召集し、総会から委嘱された事項を執行する。

第23条　評議員会は、評議員により組織され、必要に応じて会長がこれを召集し、急を要する事項についてのみ総会に代わり、これを審議決定することができる。

第24条　各会議は、組織員の２分の１以上の出席（委任状を含む）により成立する。なお議決は、出席者の過半数により議決する。

第７章　補　　則

第25条　本会の事業及び会計年度は４月１日に始まり、翌年の３月31日に終わる。

第26条　この規約は、総会出席者（委任状を含む）の３分の２以上の賛同により改正することができる。

第27条　この規約は、昭和43年12月８日より発効する。

平成４年４月２日　一部改正

福岡県バドミントン協会審判委員会規定

第１条　福岡県バドミントン協会（以下「県協会」という。）は、審判技術の向上と正しいバドミントン競技の運営を図るため、福岡県審判委員会（委員会という。）を設ける。

第２条　委員会の構成は、次の通りとする。ただし委員長は常任理事でなければならない。
委員長　１名　　副委員長　１名　　委　員　若干名

第３条　委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
第４条　委員会は、次の事業を行う。
　　１．３級審判員資格検定会の開催。
　　２．公認審判員資格審査事務の円滑化を図る。
　　３．公認審判員へ伝達講習。
　　４．研修会の開催。
　　５．公認審判員名簿の作成。
　　６．県内における日本バドミントン協会主催大会の審査員の推せん。
　　７．国際試合等における審判長、副審判長及び主審等の推せん。
　　８．その他審判に関する事項。
第５条　この規定の改廃は、委員会の議を経て、県協会理事会の承認を必要とする。
　　この規定に定めのない事項についても同様とする。

附　則
　この規定は昭和56年４月１日より施行する。

福岡県バドミントン協会審判委員会名簿

□委員長／村尾　　隆
□理　事／坂本　　哲（北九州）
　　佐竹　養一（福岡）
　　田中　和弘（筑豊）
　　山田　保成（筑後）
　　明神　憲一（高体連）
　　有薗　靖子（家婦連）

2．福岡県バドミントン協会委員会組織の変遷

村　尾　　隆

◎委員会の新設

常任理事会 ┬ 指導委員会
　　（1977〈昭和52〉年度新設）
　　└ 審判委員会
　　（1980〈昭和55〉年度新設）
　　理事会

1．指導委員会

設置の目的

1978（昭和53）年５月13日の常任理事会で確認

常任理事会は、大会運営を担当する。
指導委員会は、指導・強化を担当する。
（活動内容は委員長に一任）

1977〈昭和52〉年度委員

委員長　吉良　悠一（筑後地区理事）
委　員　金光　政秀（高体連）
　　中島　政人（高体連）
　　野見山弘次（筑豊地区理事）
　　木下　一郎（一般）
　　村尾　　隆（教職員連盟）
　　竜頭　正敏（大学）

1978〈昭和53〉年度委員

委員長　村尾　　隆（教職員連盟）
副委員長　野見山弘次（筑豊地区理事）
　　中島　政人（高体連）
委　員　金光　政秀（高体連）
　　池田　明男（一般）
　　上薗　幸則（中体連）
　　西本　　孝（一般）
　　吉良　悠一（筑後地区理事）

※指導書の作成、発行（講習会で活用）

1979～80〈昭和54、55〉年度委員

委員長　野見山弘次（副理事長）
副委員長　鎗水　浩吉（筑後地区）
　　西本　　孝（一般）
委　員　横溝　安伸（高体連）
　　片山　次男（一般）
　　鯨　　吉夫（教職員連盟）
　　上薗　幸則（中体連）
　　古川　憲一（中体連）
　　池田　明男（一般）

1981～82〈昭和56～57〉年度委員

委員長　野見山弘次（副理事長）
副委員長　鎗水　浩吉（筑後地区）
　　淵上　英紀（北九州地区理事）
委　員　横溝　安伸（高体連）
　　大窪　敏男（福岡地区）
　　鯨　　吉夫（教職員連盟）
　　上薗　幸則（中体連）
　　古川　憲一（中体連）
　　池田　明男（一般）

2．審判委員会

1975（昭和50）年４月１日
日本協会地区審判委員会細則施行

1979（昭和54）年２月17日
九州連盟理事会
九州地区審判委員会の設立を決定。
構成メンバーは20人。内訳は各県２人、学連２人。

1979（昭和54）年３月10日
県常任理事会で設置を検討。
構成メンバーは７人。内訳は各地区１、高体連１、学連１、教職員１。
（常任理事会と同じ構成とする。）

1979（昭和54）年度　準備期間
委員長　村尾　隆（副理事長）
事業計画、委員会規定の策定

1980（昭和55）年度　委員会発足

委 員 長　村尾　隆（副理事長）

6月14日の常任理事会で、事業計画の審議・承認

1981（昭和56）年度

4月4日の常任理事会で、委員の承認及び委員会規定を承認・施行

委 員 長　村尾　隆（副理事長）
委　　員　細川　孝雄（福岡地区理事）
宮崎洋一郎（筑豊地区理事）
庄野　重信（北九州地区理事）
古賀　昭（筑後地区理事）

1982（昭和57）年度

委 員 長　村尾　隆（副理事長）
委　　員　細川　孝雄（福岡地区理事）
後藤　崇行（北九州地区理事）
宮崎洋一郎（筑豊地区理事）
古賀　昭（筑後地区理事）
金光　政秀（高体連）
宮田　俊彦（学連）

◎委員会組織の改変

［目的］

県協会設立後30年経過したこと、又、1990（平成2）年度に福岡国体を迎えるという2つの理由から、1982（昭和57）年度に一年間かけて、常任理事会で審議した（下記［経過］参照）。委員会組織については、現在の2委員会から最初3委員会案が出されたが、最終的には5委員会案になり、1983（昭和58）年3月13日の評議員会で承認され、組織化された。

［経過］

1982年4月25日　第1回常任理事会
原案の提案、作業スケジュールの決定

7月24日　第3回常任理事会
改正内容等について第1自由討議

9月18日　第4回常任理事会
第2回目の自由討議、検討項目を集約

11月14日　第5回常任理事会
常任理事会原案決定

12月18日　第1回理事会
原案の提案、審議　各支部ごとに検討

1983年2月11日　第2回理事会
理事会原案決定

3月13日　評議員会
原案の承認

［組織］

常任理事会
理事会

- 総務委員会＝①予算・経理 ②組織と運営並びに支部の組織 ③評議員会の準備 ④他団体等との交渉・連絡 ⑤事務局の運営 ⑥その他各委員会に属さない事項
- 競技委員会＝①競技会の企画・開催・運営 ②その他競技に属する事項
- 強化委員会＝①強化練習会等の実施（国体選手のみに限らない）理事会 ②その他競技力向上に必要な事項
- 指導委員会＝①指導者の育成 ②指導用資料などの発行・管理 ③普及指導に関すること ④公認指導員制度に関すること ⑤その他指導に属する事項
- 審判委員会＝①審判員の育成並びに技術の向上 ②審判員組織の強化 ③公認審判員制度に関する事項 ④その他審判に属する事項

福岡県バドミントン協会委員会組織の変遷

各委員会の構成メンバー

（1）各理事は、必ずいずれかの委員会に所属する。

（2）人数は、各地区代表（4人）＋若干名＝7、8人程度

（3）委員長は、理事の中から理事会で決定する。

1．総務委員会

1983～84（昭和58～59）年度

委員長　三沢　英二（学経常任理事）
副委員長　苣木　　彰（筑後地区理事）
委　　員　水田　邦夫（筑豊地区理事）
　　三浦ひろ子（家婦連）
　　横溝　安伸（高体連）
　　森下　正信（中体連）
　　岡　　節郎（学経常任理事）

常任理事会に代わる役割を果たす。現在は各地区理事長及び各連盟代表で構成している。予算編成や行事の調整などを行なっている。

2．競技委員会

1983～84（昭和58～59）年度

委員長　細川　孝雄（福岡地区理事）
副委員長　淵上　英紀（北九州地区理事）
委　　員　森光　秀行（筑後地区）
　　西　　政敏（福岡地区）
　　河村　秀樹（筑豊地区理事）
　　真鍋　　聡（福岡地区）

各種大会の組合せ・大会運営に尽力しているが、構成メンバーが揃いにくく、委員の入れ替わりも多い委員会である。

3．強化委員会

1983～84（昭和58～59）年度

委員長　鎗水　浩吉（筑後地区理事）
　　〈全般・一般男子〉
副委員長　鯨　　吉夫（北九州地区）
　　〈ジュニア・高校男子〉
副委員長　高城　智子（北九州地区）
　　〈高校女子〉
委　　員　三宅　孝明（福岡地区理事）
　　〈一般女子〉
　　片山　次男（北九州地区理事）
　　〈一般女子〉
　　河野　通佑（筑豊地区理事）
　　〈ジュニア〉
　　本田　義種（学経理事）
　　〈全般〉
　　桶本百合子（北九州地区）
　　〈一般女子〉
　　古賀　　蔵（筑後地区）
　　〈ジュニア・一般男子〉
　　古川　憲一（筑後地区理事）
　　〈ジュニア〉

4．指導委員会

1983～84（昭和58～59）年度

委員長　野見山弘次（筑豊地区常任理事）
副委員長　西本　孝（福岡地区）
委　　員　庄野　重信（北九州地区理事）
　　横溝　安伸（高体連）
　　小川　素充（筑後地区）
　　目野　幸光（中学校）
　　筒井　　悟（学経理事）
　　上薗　幸則（中体連）

1982(昭和52)年に創設した小・中学生選抜大会（3月開催）を担当し、年々レベルアップしている。

9月に開催している九州小学生大会県予選を5年前から夏季小学生大会に名称変更し、賞状・メダルを授与するようになった。

5．審判委員会

1983～84（昭和58～59）年度

委員長　村尾　　隆（中体連）
副委員長　藤川　　幹（福岡地区理事）

委　　員　服部　秀喜（北九州地区理事）
寺岡　良隆（筑豊地区理事）
古賀　　昭（筑後地区理事）
金光　政秀（高体連）
青木　敏博（学経理事）
立川登志秀（学連）
細川　孝雄（福岡地区理事）

1990（平成２）年度福岡国体を目指して、審判員団の確保・充実、審判技術の向上を目指して、県下各地で講習会や検定会を開催した。併せて、委員会内での研修も行なった。

国体までは、各地区でも精力的に取り組みが行われたが、資格を取っても何らメリットがないということで、資格更新者が少なくなり、何らかの対策を考える必要があると思う。これは、全国的にも大きな問題点であり、日本協会でも方策を検討してほしい課題である。

※1990（平成２）年の筑紫野国体に向けて各委員会が夫々の活動を行なっていった。また、委員会の構成メンバーも変更があった。

国体終了後も委員の変更があったが、委員会組織そのものはこの５委員会で現在も運営されている。

3．指導委員会あゆみ

野見山　弘　次

○　発 足 の 頃

昭和34年、福岡県バドミントン協会が競技委員会と審判委員会に分け、10年以上経たが、全体的な競技力の向上が見られないため昭和50年５代理事長の和田寿先生が、「このままでは駄目だ。熊本に勝ち本国体に出場できる選手の実力向上を図ため、指導委員会を作ろう」と提案され、自ら初代委員長として組織されたのが指導委員会のスタートと記憶している。

昭和54年頃、和田理事長より「野見山君指導委員会を頼むぞ」と委員長に就任要請をされ、全体的なレベルアップ、少しでも多く、本国体出場を、という目標で活動を進めてきた。

しかしながら、実体としては、５～６月の国体県予選終了後から、８月末の九州ブロック予選までの間、１～２回の強化練習会（合宿）を成年男女を中心に実施し、又、本国体の出場前後にもう１度強化練習を行ってきた。熊本から当時九州ナンバー１の工藤選手を招いて合同練習を行ったこともあったが、やはり、技術、体力両面でもう一段レベルアップしなければ駄目だ、と痛感した。

又、指導委員会は、ジュニアの技術向上、指導者養成という任務もあり、当時、高体連委員長の横溝安伸（現理事長）と一緒に各学校の選手を集めて合同練習会などを開いたが、中途半端な面は否めなかった。“二兎を追うもの一兎を得ず”

の格言の通り、これではいけないということで昭和58年に指導委員会を強化委員会と指導委員会の二つに分けて指導委員会は、小中学生のジュニアを対象とした指導者養成と小学生大会等の開催を業務とし、強化委員会は「とびうめ国体」を控え、本格的に強化を図っていくこととした。

○ **発　展　期**

指導委員会のメンバーとしては、野見山の他に、小中学生の指導者として上薗幸則、島添静治、筒井（三菱化成）、竹内久雄、池田明男、和田功夫等が係った。

会議の中で意見の帰するところは「熊本が九州でトップとして他県をリードしているのは、ジュニア層の普及と格段の技術力であり、それを支える指導者層の充実である。福岡県はこれを何とかしなければ。」の思いであった。

その頃、遠賀郡岡垣町、芦屋町、田川郡金田町、福岡市西区、瀬高町などで熱心なジュニアの指導者のもと、ジュニアクラブが育ってきており、その選手達の交流の意味を含め、第１回の県小学生大会を開催し、その後県中学生大会、全九州小学生大会への出場と交流の場を広げ、指導者の情報交換も図られていった。

昭和63年８月全国中学生選抜大会で男子単・満石忠博（岡垣中）が優勝。県小学生大会を開催する中で、地区間のレベル差は歴然としており、岡垣町、金田町のジュニアクラブを中心とする筑豊地区は、抜きんでており、地区での指導者層の充実がその要因であることは、間違いなく九州小学生大会でも徐々に成績を上げていき、全国トップの選手がでたのである。

「とびうめ国体」以後も高校、大学と活躍する県選手はほとんど、このジュニア層の中から輩出しており、強化委員会での練習もさることながら、地道な地域指導者の情熱には改めて敬意を表するものである。

○ **今後に向けて**

指導委員会は、小中学生の先生、地域指導者等からなる少数のスタッフで大会等の運営、指導者講習会を行ってきたが、今日の県選手の国体成績の上位入賞、全国レベルでの活躍等技術力向上の“縁の下の力持ち”の役割を果たしてきたのであり、その地道な活動を今後共期待したいものです。

そして、これからも地域指導者の声が十分に県協会の中に届き、事業の中に反映されるよう橋渡しの役目もお願いしたいと思います。

4．福岡県中学生バドミントン大会のあゆみ

村　尾　　隆

○　発足に至った経緯及びその後の経過

1971（昭和46）年８月に、日本バドミントン協会主催で第１回全国中学生大会が開催されたのを受けて、1972（昭和47）年２月に開かれた県協会評議員会で、県中学生大会の創設が提案され、責任者として県教職員連盟理事長村尾が指名された。計上された予算は総額１万円（２年後に１万５千円にアップ）であった。中学生大会なので、参加料無料で運営しようと県協会和田理事長の応援を受けながら村尾が奔走し、今雪美千恵福岡教育大教授の協力を得て、教職員大会と同時開催することで会場・審判員を確保し、予算不足をカバーして1972年６月４日福岡教育大体育館で第１回大会開催にこぎつけた。但し、出場者には保護者の同意書を提出させたり、保険加入を義務づけたりといろいろな配慮をしての開催であった。

そして、第２回全中大会に初めて県選手団を派遣したが、中体連会長の承認印をもらうのに苦労した。以後、全国大会には毎年出場し、最近では上位入賞を果たしている。併せて、九州中学生大会開設の機運もあり、第２回全中大会の場で長崎・熊本・福岡３県の代表者の話合いが持たれ、開催することに合意した。そして、そのための準備が同時に進められ、第１回大会を長崎県、第２回を熊本県、第３回を福岡県と、３県持ち回りで開催することにした。その結果、８月27日第１回九州中学生大会が長崎大学附属中学校で開催された。第６回大会までは３県だけの参加であったが、以後徐々に参加チームが増えていった。そして、この大会が九州のレベルアップにもつながり、全国の注目を集める結果ともなった。

県中学生大会は県協会主催で10年間続いたが、1980（昭和55）年から県中体連の正式種目として採用され、中学校大会となった。同時に、九州・全国大会も中体連主催大会に変更となった。中学生大会創設から、中体連移行後も村尾が県専門部長を務め、組織の強化・拡大のため講習会を開いて、中学生のレベルアップに努め、大会の充実・発展に尽力した。

尚、村尾は九州中体連の初代専門部長としても九州をまとめ、九州大会に全県出場になるよう各県中体連に働きかけたり、全国大会の出場枠拡大などに努力した。

○　歴代専門部長（県中体連）

初　代　　村尾　　隆
（1980年度～1991年度）北九州市
二　代　　上薗　幸則
（1992年度～1996年度）福 岡 市
三　代　　田中　泰敏
（1997年度～　　）大 川 市

○　将　来　像

スタート当初は九州でも最下位、全国大会でも１回戦で勝てるかどうかという実力でしかなかった本県のレベルも年々向上し、ここ数年は個人戦で全国ベスト４に入れるだけの力をつけてきた。しかし、チームとして九州で優勝するところまでには至っていない。

そこで、先ず中学校での指導者の層を広げるとともに、指導者のレベルアップを図る必要がある。

次に、練習場の確保を図る必要がある。学校の体育館の使用については、バレーボール・バスケットボール優先の考え方があり、バドミン

トンが入り込むには難しいところがある。その考え方を打破し、対等に使用できるようにする方策を見つけ出す必要がある。その一例として、今後中学校の体育館を大規模化する(例えば高校並に)ことを要請することも大切なことだと思う。

要は、生徒たちが、いつでもバドミントンに親しめるような環境づくりをしておくことが課題である。

○　思い出の大会と選手

第４回全国中学生大会

男子団体　３位入賞

期日：1974（昭和49）年８月17～19日
会場：東京都駒沢体育館
監督；都　　英幸
〈現大牟田市立三池小学校校長〉
選手；島添　静治（三橋中）
〈現三池郡高田町立江浦小学校教諭〉
古賀　　蔵（三橋中）
〈現県協会強化委員長、筑後北中学校教諭〉
目野　幸光（三橋中）
〈現山門郡大和町立大和中学校教諭〉
長谷川明男（三橋中）

［出場３年目にして全国大会で初めての入賞という快挙である］

第９回九州中学生（第１回九州中学校）大会

男子団体　優勝

期日　1980（昭和55）年８月10日
会場　佐賀県体育館
チーム／岡垣中学校
監　督／山崎　宏美
選　手／八色・立和田・糸山・石田・石井・鶴田

［第８回大会までは、県選抜チーム（混成チーム）で出場。今大会から単独校出場となる。男女・団体・個人を通して、本県代表チームが九州大会で優勝したのは初めてのことである。
個人戦でも、単で立和田が初めて２位に入賞、八色も３位入賞と健闘した女子団体でも、同じ岡垣中学校が準優勝している。］

少年少女年令別大会の創設

第１回大会
期日　1982（昭和57）年３月25日
会場　北九州市立八幡東体育館

今まで中学生大会を県協会で主催していたが、それが中体連主催になり、県協会としてそれに代わる大会として、小学校高学年・中学生を対象とした選抜大会を、春休みを利用して開催することになった。

種目は10才(小４)、11才(小５)、12才(小６)の各男女複、13～14才(中１、２)は各男女単・複である。その後、小学生にも単を実施するようになった。現在では、年令別ではなく、学年別大会として実施している。また、小学生の部と中学生の部を分けて、期日・会場も別にするようになった。

会場については、当初は持ち回りで開催していたが、小学生の部については筑紫野市農業者トレーニングセンター（福岡国体会場）に固定し、中学生の部については宗像市民体育館に固定して、現在に至っている。





ーベースボール・マガジン社
「バドミントンマガジン」1989.3からー

5．中国ジュニアチームを迎えて

中国・福岡県チーム合同合宿

（1988年12月28日～1989年１月５日）

福岡県協会強化副委員長　横　溝　安　伸

〈中国選手団〉

団　　長／田文恵
通　　訳／李豪傑
コ ー チ／張青松（男子・福建省体育学校）
　　黄鋼偉（女子・湖北省体育学校）
男子選手／呉鍵、鄭強（福建省体育学校４年）
　　陳陽（広東省運動技術学校４年）
　　李栄（潮北省体育学校４年）
女子選手／韓金娜、林嵐（湖北省体育学校４年）
　　彭煥春（上海市虹口体育学校４年）
　　翦君瑜（福建省体育学校４年）
　　曹雅珀京(同３年)

〈福岡県選手団〉

男子選手／浜崎正人、吉武宏道(福岡第一高２年)
　　中村真吾（福大附大濠高２年）
　　中尾正邦（同１年）
　　満石忠博（岡垣中３年）
女子選手／伊藤亜紀子、中村さやか(精華女高２年)
　　桜本幸枝、野中真由美(八幡大附高１年)
　　蜂屋純子（金田中３年）

中国ジュニアチームが日本バドミントン協会の招待で、去る12月27日、来日した。一行は田文恵団長、李豪傑通訳、張青松（福建省体育学校）男子コーチ、黄鋼偉（湖北省体育学校）女子コーチ、選手９名（男子４名・女子５名）の総勢13名である。

福岡空港には小飼日本協会専務理事、川島理事他、福岡県協会役員が出迎えた。選手は全員が1975年生まれの13歳で、全中国大会の成績上位者とのこと。日本では中学１年生に当たるジュニアであるから、まだあどけなさの残る、可愛らしい子供たちである。

福岡空港から久留米市に直行し、久留米大学商学部体育館で実施中の九州ジュニア合宿に合流した。以下その日程と内容について報告したい。

■12月28日

歓迎レセプション。

■12月28日

九州ジュニア（各県男女各３名）と合同練習及び練習試合。高２の宮村愛子（熊本中央女高）と中１の中国ジュニアとの差は大きく、宮村が楽に勝ったが、その他で勝ったのは一部であった。夜は柳食堂合宿所での日中交流歌合戦。各県より自慢の歌を披露し、中国からは“一休さん”など素晴らしい歌を聞かせてもらった。

■12月29日

午前中は九州ジュニアとの練習試合。午後は福岡県ジュニア(中３～高２）との合同練習。張コーチ、黄コーチの指導により、基本的なストローク、パターン練習。フットワークが遅い、肩の入りが悪い、グリップの握りが悪い等、個別の指導を受けた。言葉が通じないので、文字通り手とり足とりの指導であった。夜、ホテルの食堂で、隣のテーブルに運ばれてきた“鯛の活き造り”を見てビックリしていたのが思い出される。

■12月30日

基本的なトレーニングとノック（多球）練習。さまざまなステップ練習をし、速くて連続したノックを受けた。残念ながら、これには福岡県の選手はなかなかついていけなかった。

■12月31日

阿蘇山観光。世界最大の活火山にみんな歓声をあげた。中国には活火山がほとんどなく、初めての経験だったようだ。黄コーチが車酔いで、すっかり疲れきっていた。夜は協会役員宅でホームステイ。

中国ジュニアチームを迎えて

■1月1日

日本の家庭での正月を楽しんでもらった。和服を着て、神社への初詣。

■1月2日

中国チーム単独の練習。ステップ・基本練習・パターン練習・ノック練習。コート内での集中力が素晴らしい。午後映画鑑賞。夜、久留米市協会主催の歓迎夕食会。

■1月3日

福岡県チームとの合同練習及び練習試合。主にノック練習。

■1月4日

福岡市へ移動。福岡第一高校で交流競技会。観衆約150名。男子は3対2で勝ったが、昨年の全中シングルスチャンピオンの満石（岡垣中3年)が敗れたのは､日中のジュニアの差なのであろうか。フットワークの軽快さ、ラケットワークのうまさ、特にネットプレーに大きな差があった。女子は高校生を擁しても全敗で、はっきりと力の差を見せつけられた。スマッシュのコース、クリアーの使い方に、かなりの差があった。夜は送別パーティでなごりを惜しんだ。

■1月5日

福岡市役所表敬訪問。午前中、天神町で買物。福岡空港16時35分上海行きで離日。池田昌道･日本協会理事と、福岡県協会役員等が見送った。

以上の日程であったが、中国選手は張青松コーチの話によると、8年後には世界のトップの選手になることを目ざして、初の海外合宿であったようだ。その練習態度は実に立派で、限られた時間内における集中度は実に素晴らしく、シャトルを追う目、足に福岡県の選手との大きな違いを見た。

13歳というまだ体力のない子供たちが、素晴らしいプレーで私たちを魅了させてくれた。たえずカカトを上げ、大きな歩幅で動きまわるスピードあるフットワークと、手首の軟らかなラケットワークは、年齢を忘れさせるほどであった。

かつてジャパン・オープン、日中大会などで、素晴らしいプレーを見せてくれた張青松コーチにより、親切に指導していただいた地元選手は共通して、上半身のひねり、特に肩の入り方が悪いこと、フットワークでカカトが着いて遅いことを指摘された。

中国ジュニアの日頃の練習時間は、1日に2時間半程度のようで、やや短いほどであるが、限られた時間内に、自らの意志で、どこまで集中した練習ができるか。まさに“やらされる3時間より、やる気の30分”であろう。

今回の合同合宿で、選手とともに我われ指導者も大いに学習した､意義のある10日間だった。

＜中国―福岡交流競技会＞（1989年1月4日　福岡第一高校体育館）

中国男子		2 — 3		福岡男子
呉　鍵	0	(1−15, 5−15)	2	中村　真吾
陳　陽	0	(11−15, 16−18)	2	中尾　正邦
呉　鍵 鄭　強	2	(16−6, 15−5)	0	吉武　宏通 浜崎　正人
李　栄 陳　陽	0	(3−15, 15−18)	2	中村　真吾 中尾　正邦
李　栄	2	(15−9, 15−2)	0	満石　忠博

中国女子		5 — 0		福岡女子
彭煥春	2	(11−1, 12−10)	0	伊藤亜紀子
林　嵐	2	(11−1, 11−2)	0	桜本　幸枝
彭煥春 葛君瑜	2	(15−12, 15−8)	0	伊藤亜紀子 中村さやか
韓金娜 林　嵐	2	(15−10, 15−8)	0	野中真由美 桜本　幸枝
韓金娜	2	(11−5, 11−6)	0	蜂屋　純子

6．福岡県バドミントン協会創立10周年記念及び50周年記念表彰者

創立10周年記念表彰者

昭和32年10月12日の福岡県バドミントン協会理事会において表彰を審議、決定した。

1　渡辺　盛一　　設立以来の功労者として
2　中村　高治　　設立以来の功労者として
3　小林　　茂　　設立以来の功労者として
4　岸　　正穂　　設立以来の功労者として
5　鶴田徳太郎　　協会の名誉高揚者として
6　三原　邦吾　　高校選手育成の功労者として
7　長野　嘉久　　学生連盟発展育成の功労者として
8　吉松　主税　　学生連盟発展育成の功労者として
9　若林　保男　　学生連盟発展育成の功労者として
10　丸山　信義　　学生連盟発展育成の功労者として
11　藤田　伸之　　学生連盟発展育成の功労者として
12　安川電機バドミントン部
　　協会設立以来、中心団体として各大会に出場し､協会の名誉を高揚した功労により

以上、11人と1団体が昭和33年1月11日～12日に行われた、福岡県バドミントン協会設立10周年記念福岡県選手権大会で表彰された。

（但し、「福岡県バドミントン協会10年史」の記載には13人と1団体が表彰決定とあるが、事実は不明）

創立50周年記念表彰者

（理事として永年勤続10年以上）

和田　　寿	三沢　英二
増田　靖文	筒井　　悟
後藤　　研	庄野　重信
宮山　昇三	金光　政秀
伊藤　篤治	森脇　晃治
梶原　嘉郎	三原　邦吾
三浦　ひろこ	竹内　久雄

7．昭和33年１月 福岡県バドミントン協会創立10周年記念「福岡県バドミントン協会10年史」抄

これは昭和33年１月11日発行の『福岡県バドミントン協会10年史』（全140ページ：B6）から、福岡県バドミントン協会の部分を抜粋したものである。

（はしがき）10年をかえりみて

福岡県バドミントン協会長　西園富吉

過去は現在につながり、現在は未来につづく、時の流れは無限であり一瞬もとどまるところはない。この10年間を追憶し将来への発展の因子とする事はあえて無駄ではあるまい。10年前といえば恰も終戦直後であってすべてが画期的の変革をとげ再編成へと着々実現していた時であった。そして30余種のスポーツ団体が或は改組し或は再発足し或は新たに生れるというように、スポーツ界も新興発展したのである。日本バドミントン協会もこの時に創設され、福岡県バドミントン協会も昭和23年に恰も第３回国民体育大会開催を県民挙げて熱望していた時に発足したのである。この頃のバドミントンは未だ一般の認識もなく軽スポーツと称してレクリエーションゲームの一種として遊びの域を脱してはいなかった。其後は急速に普及発達し揺らん期より発展期に入り、国民体育大会にも正式に加えられ漸次競技化するに至り、種々の高い素質が要求されるに至った。即優れた技、強い精神、頑丈な体力、明快な頭脳等で又、あくまで真剣に、あくまで公明に、あくまで堂々と競技し又、コートマナーをも重視するようになり、バドミントンの醍醐味とうるわしい雰囲気がつくられて来た事は喜ばしい極みである。

協会10年の此の進展と選手層の厚味とは全く協会役員諸氏の力強い運営と熱心な指導とに負う処が大であって感謝に堪えない次第である。今

後は一層一致協力一路躍進を誓いたい。

◎ 昭 和 23 年 度

○ルール及技術講習会　　3月21日
中村高治氏を講師に、福岡ＹＭＣＡ主催にて、福岡女学院に於いて開催す。

○バドミントン練習会　　7月25日
西南学院体育館に於いて、男女約25組が練習試合をなす。

成績　男子 第１位　柴田・小木曾（ＹＭＣＡ）
　　第２位　諸岡・高瀬（日本ゴム）
　　第３位　秦　・松元（九大医）
　女子 第１位　園田・城野（筑紫女高）

○バドミントン講習会　　9月16日
福岡市六本松福岡高校体育館にて、日本バドミントン協会より講師として宮沢宏之、岡淳一、高橋基の三氏を招へいす。

○全九州バドミントン大会　　10月26日
福岡市六本松福岡高校体育館に於いて、福岡県協会の主催にて開催。
参加団体は、日本ゴム福岡工場、西鉄小倉支社、九州配電、日本ゴム紙業部、安川電機、九大医学部、西鉄福岡支社、ＹＭＣＡ、筑紫女子高校で優勝は男女共西鉄小倉支社であった。

○第１回　北九州地区　福岡地区対抗試合
昭和24年１月30日警固小学校に於いて挙行、北九州安川電機優勝す。

○第１回勤労者バドミントン大会　　2月17日
警固小学校に於いて、九州地方勤労者文化連盟主催にて挙行。

成績　男子　第１位　諫山・小林（西鉄小倉）
　　第２位　馬場・水落（安川）
　女子　第１位　今石・有角（西鉄小倉）
　　第２位　村崎・山本（長崎三菱造船）

◎ 昭 和 24 年 度

役員　協会長　西園　富吉（福岡市運動場長）
　副会長　未　　定
　理事長　渡辺　盛一（西鉄福岡支社）
　常任理事　中村　高治（大博運動具店）
　〃　守田　良夫（日本ゴム紙業部）
　〃　新村友太郎（日華ゴム）
　〃　小林　茂（西鉄小倉支社）
　理　事　高橋　英雄（日本ゴム紙業部）
　〃　伊之坂 虎男（福岡県体育課長）
　理　事　玉置　忠（安川電機）

行　事

本年４月新村氏の尽力に依り、久留米支部、渡辺、中村両氏の尽力に依り、福岡支部、小林氏の尽力に依り小倉支部を設立、７月の理事会に於いて、承認決定す。

○福岡地区練習大会　　7月10日
場　所　筑紫高校体育館
出場者　日本硝子、日本ゴム、日本ゴム紙業部、キャンプ博多、西鉄福岡約79名
成　績　優勝
　男＝安部（栄）・吉田組（日本ゴム紙業部）
　女＝本田・高折組（　〃　）

○福岡県バドミントン練習会　　8月７日
場　所　筑紫女子高校
出場者　安川電機、麻生産業、日華ゴム、西鉄小倉、西鉄本社、九州建設局、筑紫女子高、日本ゴム、日本ゴム紙業部、九大産婦人科 95名
成　績　優勝
　男子単＝馬場（安川）
　男子複＝有吉・馬場（安川）
　女子複＝今石・有角（西鉄小倉）

○第１回全九州職場対抗試合　　8月28日
場　所　福岡市
参加者　安川電機、日本ゴムＡ、Ｂ、長崎民

業部、熊本ＹＭＣＡ、日華ゴム、筑紫女子高　83名

成　績　男子　１位　長崎民事部
２位　安川電機
３位　日華ゴム
女子　１位　長崎民事部
２位　安川Ａ
３位　安川Ｂ

優勝盃寄贈　男子＝西園富吉氏　女子＝新村友太郎氏

○第１回福岡県バドミントン選手権大会兼国体予選　９月18日

場　所　筑紫高校

参加者　日本ゴム、麻生産業、安川電機、西南大、日本タイヤ、日本ゴム紙業部、西鉄小倉、吉富製薬、日華ゴム、筑紫女子高　65名

成　績　優勝　男子複　岸・須藤（安川）
男子単（安川）
女子複　富永・松永（吉富製薬）
女子単　山口（吉富製薬）

○第４回国体出場（東京）　10月28日～30日

監　督　中村高治

選　手　（男）岸、水谷、馬場、須藤、有吉、小林、諫山
（女）山口、松永、富永

○第１回全九州都市対抗試合　11月26日

記　録　不　明

○福岡県男女混合複大会　12月18日

場　所　警固小学校

参加者　安川電機、日本硝子、日本ゴム、日本ゴム紙業部　55名

成　績　優勝　安部・青木組（日本ゴム紙業部）
シングルス　馬場（安川電機）

◎ 昭 和 25 年 度

役　員　昭和24年度に同じ。但し理事の中、高松英雄氏（福岡製紙）に代り松本良三氏（鐘紡）が役員に選出さる。

協会事務所　福岡市下新川端町大博運動具店

福岡県体育協会事務局　昭和25年２月

行　事

○第２回福岡県選手権大会兼第３回全日本選手権予選　３月26日

場　所　福岡中央高校

参加者　小倉北高校、麻生産業、安川電機、日本ゴム、日華ゴム、西鉄、日本ゴム紙業部　計23組

成　績　男子　１位　岸　・須藤（安川）
２位　有吉・馬場（安川）
安部・山口
（日本ゴム紙業部）
女子　１位　豊島・山本（安川）
２位　江上・本村（安川）

○第３回日本バドミントン選手権大会（石川県　金沢市）　４月中旬

本県より新村友太郎、若林博両氏（日華ゴム）を推選し出場す。

○福岡県バドミントン講習会　４月23日

主催　福岡県体育協会、
福岡県バドミントン協会

場所及び講師

福岡地区　福岡中央高校

講師　安部栄一、吉田憲綱、秦良磨、松延陽一、中村高治、藤岡アサ

小倉地区　小倉市公会堂

講師　小松茂、諫山実、岸正穂、須藤信行、平野松夫、今石順子、山本美和子

久留米地区　明善高校

野村武、野中一馬、新村友太郎、若林博、緒方登

「福岡県バドミントン協会10年史」抄

○福岡県年齢別バドミントン大会　5月14日
　場　所　福岡中央高校
　参加者　西鉄小倉４組、安川電機２組、日本ゴム６組、日本ゴム紙業部４組、筑陽女子高４組、小倉高校７組
　　計27組
　成　績　優勝者
　　19才以下　大島・自見（小倉高校）
　　20才以上　馬場・遠山（安川電機）
　　40才以上　高松･永宮(日本ゴム紙業部)
　　女子　井上・飯田（小倉高校）
○福岡県地区対抗バドミントン大会　6月26日
　場　所　小倉市堺町小学校講堂
　主　催　小倉市及福岡県バドミントン協会
○第２回全九州職場対抗
　　バドミントン大会　7月23日
　場　所　長崎市勝山小学校
　参加者　長崎県７チームの外、本県より安川電機（男）日本ゴム（女子）参加
　成　績　安川電機優勝　　日本ゴム第３位
○第５回国体福岡県予選　9月17日
　場　所　福岡女学院体育館
　参　加　95組
○九州選手権大会（福岡市）10月上旬
　記　録　不　明
○第５回国体出場（名古屋市）10月下旬
　監　督　中村高治　小林茂
　選　手　一般男子　岸正穂、須藤信行、馬場君夫、安部栄一
　　一般女子　山本美智子、江上、松島知子、山下幸江
　　高校男子　自見一嘉、大島俊彦、大坪喜久雄、白石勝（小倉高校）
○福岡、久留米対抗試合　1月４日
　場　所　久留米市公会堂
　成　績　久留米７対福岡３

◎ 昭 和 26 年 度

役　員　協会長　西園　富吉（福岡商大）
　副会長　未　　定
　理事長　渡辺　盛一（西鉄福岡）
　理　事　伊之坂虎男（福岡県体育課）
　〃　須藤　信行（安川電機）
　〃　小林　茂（西鉄小倉）
　〃　守田　良夫（日本ゴム）
　〃　中村　高治（大博スポーツ）
　〃　新村友太郎（日華ゴム）
○直方、飯塚支部結成
　７月11日の理事会に於いて直方支部、飯塚支部結成承認す。福岡、小倉、久留米、直方、飯塚５支部となる。
○全日本バドミントン選手権大会予選会
　3月20日
　場　所　修猷館高校
　参加者　麻生産業、日華ゴム、安川電機、日本ゴム、九州建設局、小倉高校、明善高校、大牟田高校
　成　績　優勝者
　　少年複　自見・大島(小倉高)
　　少年単　大平（小倉高）
　　青年複　馬場・遠山（安川）
　　青年単　遠山（安川）
　　成年複　新村・野中（日華）
　　成年単　野中（日華）
　　女子複　松島・山下（日本ゴム）
　　女子単　山下（日本ゴム）
○第３回全九州職域学校対抗バドミントン大会
　7月29日
　場　所　佐世保市
　参加者　本県より安川電機６人､日本ゴム８人、明善高校12人、大牟田高校12人出場
　成　績　優勝　一般男　安川電機
　　女　子　日本ゴム福岡工場

高校男子　長崎県東高校

○第１回福岡県各支部対抗バドミントン大会
8月19日
場　所　修猷館
参　加　福岡、久留米、大牟田、小倉、八幡
成　績　男　１位　八幡　　２位　久留米
３位　福岡
女　１位　福岡　　２位　久留米
３位　大牟田

○第６回国体予選　　9月23日
場　所　筑紫丘高校
出　場　男31名　女18名　計49名

○第６回国体出場（広島市）　　10月下旬
監　督　中村高治、吉田憲綱
選　手　一般男子　岸正穂(安川)、須藤信行（安川)、馬場君夫（安川）
一般女子　山下幸江(日本ゴム)、松島智子(日本ゴム)、飯田和子(小倉北高)
高校男子　熊沢章（小倉北高)、熊沢武（小倉北高)、大平喜久男(小倉北高)

○第２回福岡県年齢別バドミントン大会
（福岡市）11月11日

○第３回福岡県選手権大会（福岡市）12月９日

○第５回全日本選手権大会福岡県予選
（福岡市）２月中旬

○九州各県対抗試合（福岡市）

◎昭和27年度

役　員

１．久留米支部長新村友太郎氏県外転出の為、久留米大学助教授　和田寿氏を理事に推選承認す。

２．門司市役所社会教育柏原氏を理事に推選承認す。

登録料　登録料は１人（個人）150円（但し学生生徒は100円）とし日本バドミントン協会の会員証及びバッヂを授興する。

行　事

○第２回九州地区大学体育大会　　７月下旬
主　催　九州地区大学体育協議会
会　場　福岡学芸大学体育館
役　員　審判長として中村高治氏依嘱さる。

○第４回全九州職域対抗バドミントン大会
８月23日～24日
主　催　大分県バドミントン協会
会　場　大分市中島小学校
参加者　福岡県より明善クラブ、大日本製糖、安川電機、日本ゴム福岡工場、明善高校、大牟田高校、小倉高校、福岡女学院参加す。

○第４回福岡県選手権大会兼第７回国体福岡県予選　　９月６日
場　所　門司市鎮西女学院
参加者　安川電機、小倉市役所、日本ゴム福岡工場、西鉄小倉、大日本製糖、福岡商大、九大、西南大、大阪毎日新聞、岡野パルプ

○第７回国体出場（宮城県仙台市）
10月19日～　23日
監　督　中村高治、三原邦吾
選　手　一般男子　馬場君夫、遠山励、岸正穂、須藤信行（いずれも安川）
一般女子　山下幸江(日本ゴム）土岐京子（日本ゴム）真崎和子（安川）万福湯子(安川)
高校男子　丸山信義、寺崎慶二、山崎優（いずれも明善高校）
高校女子　中野博子、川口総子、野口孝子、林田眞智子
（いずれも明善高校）

○全日本学生バドミントン大会予選
（福岡市）　10月26日

○福岡県年齢別大会　　（福岡市）　11月23日

○全日本実業団予選（福岡市）　12月14日
○バドミントン公認審判員認定講習会
3月7日～8日
会　場　九州大学第1分校
講　師　日本バドミントン協会より廣田兼敏氏、村上忠治氏
合格者　1級　岸正穂
2級　三原邦吾、和田寿、馬場君夫、須藤信行、遠山　励、力丸隆一、古賀淳平
3級　長野嘉久、吉松主税、小林直人、谷安行、鶴田徳太郎、眞崎光明、浦山武之輔、西木文男

◎ 昭和28年度

○定期理事会　昭和28年3月27日
1、昭和28年度スケジュール
2、昭和27年度会計決算報告及承認
3、登録及登録料は昨年通り
4、門司支部発足
5、役員改選

役　員
協会長　西園　富吉（福岡商大）
副会長　渡辺　盛一（西鉄本社）
理事長　中村　高治（クインシルク）
理　事　伊之坂虎男（福岡県体育課）
井上　和人（安川電機）
守田　良夫（日本ゴム）
小林　　茂（西鉄小倉）
和田　　寿（久留米大学）
和田　　浩（門司市役所）
石井　正則
（直方山内スポーツ店内）
谷口　安則（大牟田高校）
長野　嘉久（九大）
谷　　安行（西南大）
三原　邦吾（明善高校）

行　事
○第5回福岡県選手権大会（北九州）　4月19日
○第1回県民大会（新人）（福岡）　5月17日
○全九州地区大学対抗戦（長崎市）　7月13日
○福岡県年齢別大会（筑豊）　7月26日
○第5回全九州実業団選手権大会及び全九州選手権大会　8月22日～23日
主　催　福岡県バドミントン協会
会　場　福岡学芸大学
○第8回国体予選（北九州）　9月上旬
○第2回県民大会　A級B級別（福岡市）
10月25日
○第8回国体参加（香川県善通寺）　10月下旬
監　督　遠山励、三原邦吾
選　手　一般男子　岸正穂、須藤信行、力丸隆一、馬場君夫
一般女子　眞崎和子、江崎礼子、下津浦幸子、西野京子
高校男子　丸山信義、寺崎慶二、山崎優、大石直行
高校女子　杏屋紀子、久保比佐子、平岡光子、松本純子
○第1回福岡県南北大会（久留米市）11月15日
○全九州学生選手権大会　12月
○西日本選手権大会福岡県予選（北九州）12月
○西日本選手権大会（福山市）1月3日～5日
○全日本実業団選手権大会（長崎市）
2月13日～14日
○福岡県支部対抗戦　3月9日

◎ 昭和29年度

○西日本バドミントン協会設立　1月10日
会　長　山口　武男（香川県協会長）
理事長　佐藤　實一（四国バドミントン協会理事長）
理　事　17府県より選出

（福岡県）中村高治　（長崎県）松浦信義
（大分県）三重野清　（佐賀県）福田芳正

行　事

○地区別新人大会及講習会
（福岡、久留米、北九州、筑豊）　4月
○第5回全日本高校選手権大会県予選
（福岡市）　5月
○全九州学生選手権大会主催全九州大学バドミントン連盟（長崎市）　5月16日
○第9回国体県予選（福岡市）　6月初旬
○国体九州ブロック予選（小倉市）
7月4日
○九州地区大学体育大会（鹿児島市）
7月18日
主　催　九州地区大学体育協議会
役　員　審判長として本県協会より和田寿氏を推薦
○第5回全日本高校選手権大会（金沢市）
7月下旬
本県より明善高校参加
○第9回国体参加（北海道）8月22日～26日
監　督　安川寛、吉田虎次郎、三原邦吾
選　手　一般男子　須藤信行、岸正穂
大林重行、力丸隆一
高校男子　後藤泰男、美和陶二
大石直行
○第6回全九州実業団選手権大会（小倉市）
10月中旬
○全九州選手権大会（小倉市）　10月中旬
○福岡県内学生選手権大会（久留米市）
11月3日
○トーマス杯争奪世界選手権大会アジア予選
11月11日～12日
会　場　香　港
日本代表　監督　門田賢三、川口清
選手　岡道明(慶応大)、望月文男(立教大)、佐藤芳郎（立教大)、杉田博（横浜大）
成績　6対3で香港チームに敗る
○第6回福岡県選手権大会(八幡市）11月14日
○全日本大学選手権大会（京都市）11月下旬
○全九州学生選手権大会（小倉市）12月上旬
主　催　全九州学生連盟
○第5回西日本選手権大会(善通寺)1月上旬
○第4回全日本実業団選手権大会
（名古屋市）2月下旬

◎ 昭 和 30 年 度

○理　事　会
6月4日
1、規約改正　副会長は各地区会長を以つて当てる
2、役員改選
3、スケジュール決定
4、登録について
5、福岡県学生バドミントン連盟創設について
6、29年度決算
9月3日
1、全日本高校選手権大会開催について（否決）
2、第1回全九州実業団高校大会経過報告
3、国体予選について
4、協会本部経費中間報告
5、前年度会計報告について
6、県下支部拡張計画について
31年2月5日
1、明年度九州バドミントン連盟本部引受に関する件（可決）
2、本年度（30年度）全九州選手権引受開催に関する件
3、国体、西日本選手権、公認審判員決定、

県内学生対社会人対抗試合の報告

3月4日

1、全九州選手権大会実施要項の件

2、30年度会計報告

3、新年度協会役員選任の件

4、新年度スケジュールの件

5、九州バドミントン連盟移管引継に関する件

6、九州連盟役員会開催の件

役　員

福岡県バドミントン協会役員一覧（昭30年6月）

◎本部（福岡県教育庁体育課内）

事務局所在地

福岡市西新町西南学院大学体育研究室内

（電④－００６５）

会　長　西園　富吉　福岡市警固町25　福岡商大教授学生課長

副会長　（地区会長　支部長）

小林　茂　小倉市砂津　西鉄バドミントンクラブ

〃　（〃）

山内　浪行　直方市須崎町1丁目

〃　（〃）

三原　邦吾　久留米明善高校教官室

理事長　松延　陽一　福岡市西新町西南学院大学体育研究室

監　事　馬場　君夫　八幡市安川電機ＫＫバドミントンクラブ

〃　大村哲二郎　福岡県教育庁体育課

事務局長　衣笠　止　福岡市西新町44

◎北九州地区

理　事　（支部長）

岸　正穂　八幡市安川電機ＫＫバドミントンクラブ

〃　（〃）

鶴田総太郎　門司市大日本製糖ＫＫ門司工場バドミントンクラブ

◎筑豊地区

理　事　（支部長）

山北　得男　飯塚市麻生産業ＫＫバドミントンクラブ

〃　石井　正則　直方市外町

〃　石田　健一　直方市植木町　帝国火工植木工場

◎福岡地区

理　事　中村　高治　福岡市西警固町6

〃　室井　正中　福岡女子大　体育研究室

〃　堀　修蔵　福岡市西鉄本社　庶務課長

〃　渡辺　盛一　福岡市西鉄本社

◎筑後地区

理　事　（地区会長　支部長）

和田　寿　久留米大学商学部　体育研究室

〃　楢原駒太郎　久留米裁判所バドミントンクラブ

〃　尾関　正春　久留米郵便局バドミントンクラブ

〃　平木　武美　大牟田北高校教官室

◎学連代表

理　事　若林　保男　福岡市春吉7番町569

行　事

○福岡県大学選手権大会　5月28日～29日

会　場　九州大学第1分校

主　催　福岡県学生バドミントン連盟

○福岡県4地区対抗　6月26日

会　場　福岡学芸大学

成績　男子　1位北九州Ａ　2位福岡　3位北九州Ｂ　4位筑後　5位筑豊

女子　1位北九州　2位筑後　3位

福岡

○九州地区大学体育大会（福岡県）　7月中旬
主　催　九州地区大学体育協議会
役　員　協会より和田寿氏を審判長として推薦す
○第6回全日本高校選手権大会（神戸市）　7月下旬
○第1回全九州実業団高校選手権大会（大分市）　8月21日
主　催　九州バドミントン連盟
○第10回国体県予選（福岡市）　8月下旬
○第10回国体九州ブロック予選　9月上旬
主　催　九州バドミントン連盟
会　場　長崎市長崎県立女子短大
○第7回福岡県選手権大会及び第2回南北対抗戦　10月16日
会　場　小倉市体育館
成　績
少年複　1位　池田・牛島（明善）
2位　淵上・浜崎（北九大）
3位　岡崎・片山（北九大）
脇　・大原（小高）
少年単　1位　池田（明善）
2位　浜崎（北九大）
3位　牛島（明善）
野口（大牟田北高）
青年複　1位　松村・遠山（安川）
2位　丸山・寺崎（福商大）
3位　若林・神代（福商大）
中村・豊瀬（北九大）
青年単　1位　丸山（福商大）
2位　大林（安川）
3位　馬場(安川) 中村(北九大)
成　年　な　し
壮年複　1位　菅・眞木（八幡市）
2位　竹内・三原
壮年単　1位　鶴田（日糖）
2位　菅（八幡市）
3位　眞木(八幡市)・竹内(西鉄)
女子複　1位　赤司・小山（明善）
2位　鹿毛・塚本（明善）
3位　高田・原（福女大）
今村・塚本（大牟田高）
〃　単　1位　赤司（明善）
2位　塚本（明善）
3位　古賀（明善）
南北対抗戦　北軍9－南軍6
○第10回国体出場（神奈川県）　10月下旬
監　督　岸正穂
選　手　一般男子　馬場君夫、力丸隆一、大林重行
高校男女、一般女子は長崎に於ける、九州ブロック予選に於いて、敗退参加資格を失う。九州ブロック代表は、いずれも長崎県である。
○全九州大学学生選手権　11月下旬
主　催　全九州大学バドミントン連盟
会　場　久留米市
○第2回全九州バドミントン選手権大会　12月上旬
第1回は本年2月12、13日長崎市に於いて行う。第2回は熊本市にて行う予定の所、都合に依り久留米市に変更、昭和31年3月31日、4月1日にて行う。
○第6回西日本選手権大会（大分市）　1月上旬
○県内社会人学生対抗戦（八幡市）　1月中旬
○第5回全日本実業団選手権大会（富山市）　2月上旬

◎昭 和 31 年 度

○協会機構一覧

福岡県バドミントン協会　昭31年10月30日現在

◎本　　部

福岡県教育庁体育課内　連絡者　大村哲二郎
会　　長　　西園　富吉
勤務先　福岡大学体育研究室（④５９００）
自　宅　福岡市警固町25
事務局　福岡市西新町西南学院大学
体育研究室（④００６５）
理事長　松延　陽一
勤務先　西南学院大学
自宅　福岡市金門町１丁目西南学院大学住宅
事務局長　松島　慧
勤務先　福岡電話局（②６６３１）
自　宅　福岡市藤崎２丁目県営住宅５号

◎福　　岡　　地　　区

福岡電話局
福岡市片土井町4　松島　慧　○地区責任者
松島炭鉱ＫＫ
福岡市大名町164　山本一雄
西日本鉄道ＫＫ本社
福岡市大名町１　中村忠夫
福岡地方裁判所
福岡市大名町１の９　是松義彬
九州石炭鉱業連盟
福岡市大名町23　浜田博己
岩崎商店
筑紫郡春日町
第８戦斗爆撃隊契約事務所　佐藤幸利
福岡市役所
福岡市因幡町５　増田靖文　　衛生課分室
斉藤奨商店
福岡市箔屋町　　和田　淳

◎北　　九　　州　　地　　区

西日本鉄道ＫＫ（小倉）
小倉市砂津　　小林　茂　○地区責任者
朝日新聞西部本社
小倉市砂津　　牧野　武
安川電機ＫＫ
八幡市黒崎　　岸　正穂
大日本製糖ＫＫ
門司市大里　　鶴田総太郎
三菱化成黒崎工場
八幡市黒崎　　伊藤　修
八幡市役所
八幡市中央区　　菅　修男　固定資産税課

◎筑　　豊　　地　　区

直方クラブ
直方市須崎町山内方　山内浪行○地区責任者
帝国火工品製造ＫＫ
直方市植木町　　石田健一
田川クラブ
田川市三井田川病院内　　大塚繁美
麻生産業ＫＫ
飯塚市立岩　　山北得男

◎筑　　後　　地　　区

久留米大学
久留米市御井町　和田　寿　○地区責任者
久留米裁判所
久留米市篠山町　楢原駒太郎
久留米郵便局
久留米市日吉町　芦田克司
瀬高郵便局
山門郡瀬高町　　尾関正春
瀬高電報電話局
山門郡瀬高町　　東　　隆
青木小学校

三潴郡青木村　　納戸　功
明善高校
久留米市篠山町　　三原邦吾
大牟田北高校
大牟田市　　平木武美

◎学　連　関　係
西南大学
福岡市西新町　　安東郁哉　○学連責任者
福岡大学
福岡市七隈　　若林保男
九州大学
福岡市箱崎　　石橋　栄　補導課体育係
福岡学芸大学
福岡市三宅塩原　清原正行
福岡女子大学
福岡市浜男　　高田道子
北九州大学
小倉市北方　　町島元喜
久留米大学
久留米市御井町　苣木　章

行　事

○講習会及び新人戦
4月　各地区毎に開催す
○第1回壮年バドミントン選手権大会（東京郡）
5月4日～6日鶴田徳太郎（大日本製糖）伊藤基記（熊本女子大）組　壮年複に優勝す。
○福岡県4地区対抗試合（筑豊地区田川市）
6月24日男子5組女子3組のダブルスリーグ戦
成　績　男子
1位　北九州地区　2位　福岡地区
3位　筑後地区　4位　筑豊地区
女子
1位　筑後地区　2位　北九州地区
3位　福岡地区　4位　筑豊地区
新人戦を行うも、新人の資格に疑義あり、技術的に非常に差が多かった。
○九州地区大学体育大会（宮崎大学）
7月21日～22日九州学生連盟の行事の中に転載す。
○第7回全日本高校選手権大会（宮城県仙台市）
8月1日～5日本県代表として明善高校
（男子）池田、牛島、内田、小島
（女子）赤司、古賀、塚本、新開出場す。
○第2回全九州実業団社会人高校選手権大会
8月18日～19日九州バドミントン連盟の行事に転載。
○第11回国体福岡県予選（久留米大学体育館）
9月9日
○第11回国民体育大会（神戸市）
10月25日～31日
監　督　岸正穂、三原邦吾
選　手　一般男子　大林重行、美和陶二、後藤泰男（安川電機）
高校女子　赤司由美子、古賀千恵子、新開博子（明善高校）
○第8回福岡県選手権、第3回福岡県南北対抗戦（小倉市）　11月11日
成　績
・福岡県選手権大会
少年の部　複1位　池田・牛島（明善）
2位　小島・内田（明善）
単1位　池田（明善）
2位　牛島（明善）
青年の部　複1位　丸山・若林（福岡大）
2位　美和・後藤（安川）
単1位　丸山（福岡大）
2位　中村（北九大）
成年の部　複1位　馬場・遠山（安川）
2位　佐藤・宮原（岩崎商）
単1位　宮原（岩崎商）
2位　馬場（安川）

壮年の部　複１位　鶴田・佐々木（日糖）
　　２位　縄稚・梅津（西鉄）
　　単１位　鶴田（日糖）
　　２位　縄稚（西鉄）
女子の部　複１位　古賀・赤司（明善）
　　２位　西頭・福島（朝日）
　　単１位　古賀（明善）
　　２位　中野（北九大）

・南北対抗戦

南　軍　４－11　北　軍

○宮原・佐藤15－８　吉松・　関　男子
（岩崎商店）　（九歯大）

鐘江・奥村９－15○中村・吉永　〃
（福大）　（北九大）

楢原・井上13－18○馬場・遠山　〃
（久裁）　（安川）

元田・内村４－15○鶴田・眞崎　〃
（福裁）　（日糖）

池田・牛島15－18○豊瀬・島田　〃
（明善）　（北九大）

藤田・児玉17－18○美和・後藤　〃
（九大）　（安川）

中村・岡崎６－15○淵上・浜崎　〃
（西鉄）　（北九大）

○若林・丸山15－５　山田・浦橋　〃
（福大）　（朝日）

佐藤・安部５－15○三沢・中村　男子新人
（西鉄）　（門市）

岡村・柴田１－15○牧野・大西　〃
（福話）　（朝日）

○赤司・古賀15－５　西頭・福島　女子
（明善）　（朝日）

山田・上原５－15○中野・河村　〃
（福話）　（北九大）

半田・今泉３－15○中畑・野中　〃
（西鉄）　（安川）

峯松・串崎17－18○末永・中野　女子新人
（福話）　（北九大）

○有馬・小林15－５　松野・望月　〃
（明善）　（三菱）

○第３回全九州選手権大会（久留米大学体育館）
12月８日～９日
九州バドミントン連盟行事に転載

○第７回西日本選手権大会（岡山市）
32年１月３日～５日
本県より馬場、遠山（安川電機）出場成年複に優勝す。
他青年の部に茂呂（久大）丸山（福大）、青年女子の部に中野（北九大）原（福女大）高田（福女大）田中（久大）出場。
茂呂、丸山組青年複２位となる。

◎昭 和 32 年 度

評議員会　期日　昭和32年２月24日
場所　福岡市マツノ倶楽部

議題　１決算報告
２役員改選
会　長　西園富吉
副会長　小林　茂（北九州）
三原邦吾（筑後）
山内浪行（筑豊）
理事長　和田　寿
理　事　各地区４名宛（未定）
学識経験理事
中村高治、遠山励、若林保夫
事務局長　松島　慧
日本バドミントン協会理事　和田　寿
〃　評議員　和田　寿
九州連盟理事長　和田　寿
福岡県体育協会理事　和田　寿
〃　評議員　松島　慧
３規約改正について
(1) 昭和31年度より加盟金廃止に伴い、左の条項改正承認
第18条中　加盟金の文字を削除する
第21条を　１．加盟団体及び個人会員

は登録料を、毎年５月31日迄に納めなければならない。２．登録料は別に定めると改正

(2) 第２条事務局の所在地を、福岡市警固25番地と改正承認

○慶應大学対全九州学生選抜軍交歓試合
（久留米市）４月４日
全九州学生連盟の行事に転載

○県内各地区新人大会　４月下旬

○福岡県４地区対抗(飯塚市嘉穂高校) ５月26日
男子７組　女子３組ダブルスリーグ戦
成績　男子１位福岡地区　２位北九州地区
３位筑後地区　４位筑豊地区
女子１位福岡地区　２位筑後地区
３位北九州地区

○第４回全九州選手権大会（久留米大学体育館）
６月22日～23日
九州連盟の行事に転載

○九州地区大学体育大会（大分県）
７月22日～23日
九州学生連盟行事に転載

○世界選手権出場日本選手招待講習会
８月１日～10日
九州連盟行事に転載

○第12回国体予選（福岡市スポーツセンター）
８月18日

○第８回全日本高校選手権大会（松江市）
８月21～25日
本県より明善高校参加

○第６回全九州大学学生選手権大会
８月21日～９月２日
九州学生連盟の行事に転載

○国体九州ブロック予選（熊本市）
９月８日
九州連盟行事に転載

○日本バドミントン協会緊急理事会及総会
（東京都）　９月20日
和田理事長出席
議題　１世界選手権アジア予選第２回戦対タイランド戦を決行するや否や。
２その経費はどうするか。
議決　１日本に於いて11月決行する。
２経費　本部案に依り全国地方協会一丸となって集める。

○第12回国民体育大会（静岡県富士市）
10月25日～30日
監督　鶴田総太郎、三原邦吾
選手　一般男子　島田、豊瀬、中村（北九大ＯＢ）
高校男子　池田、牛島（明善高）
高校女子　赤司、古賀、中野（明善ＯＢ）（北九大ＯＢ）

○日本バドミントン協会理事会及総会（富士市）
10月25日
和田理事長出席
議題　１トーマス杯争奪戦アジアゾーン第２回戦対タイランド戦放棄権に関する件→承認。
２羽球公認料問題→本年度はそのまま来年は考える。

○公認審判員資格審査委員会（富士市）
10月26日
和田理事長出席
福岡県より提出の１級６名、２級15名、３級36名を合格と承認す。
来年秋審査の分より試験は３級のみとし２級１級は所定経験年数後の書類審査とす。

○第８回全日本大学選手権大会（高松市）
11月22日～26日
九州学生連盟の行事に転載

○福岡県大学秋季リーグ戦（久留米市）
12月９日

福岡県学生連盟の行事に転載
○協会発足10周年記念福岡県選手権及南北対抗戦
昭33年１月11日～12日
○日本バドミントン協会理事会及総会
１月18～19日
和田理事長出席予定
○第３回全九州実業団社会人高校選手権大会
（長崎市）　２月上旬
○全日本大学学生選手権大会
昭和33年11月
開催引受に関し９月理事会に於いて決定、準備小委員会を10月の理事会に於いて決定す
協会側　委員長　和田　寿
委　員　山本一雄、三原邦吾、松島　慧
学連側　委　員　遠城寺宗雄、鐘ケ江照夫、藤田伸之、丸山信義、山下哲也、江藤　敬
○第９回県内選手権　小倉
33年１月11日～12日

昭和32年度福岡県バドミントン協会の機構及び登録会員

◎福岡県バドミントン協会役員一覧
（昭和32年５月）

◎本　部　福岡市警固町25番地（電⑤1861）
◎事務局　〃
会　長　西園　富吉
福岡市警固町25（電⑤1861）
副会長　小林　茂
小倉市砂津西日本鉄道北九州営業局（電⑤2631）
副会長　山内浪行
直方市須崎町１丁目（電822）
副会長　三原邦吾
久留米市京町明善高等学校（電2470）
理事長　和田　寿
久留米市御井町久留米大学商学部体育研究室（電2189、5597）
（自宅）久留米市御井町247（電7508）
昭和33年４月より小倉市真鶴町九州歯科大学教養部へ転任
監　事　馬場君夫
八幡市黒崎安川電機製作所（電⑥0480）
監　事　大村哲二郎
福岡市西中洲福岡県教育庁体育課（電②4936）
事務局長　松島　慧
福岡市片土居町福岡電話局労務厚生課（電②6631、0045）
福岡県体育協会理事　和田　寿
〃　評議員　松島　慧
◎北　九　州　地　区
地区会長　小林　茂
理　事　岸　正穂
八幡市黒崎　株式会社安川電機製作所（電⑥0480）
理　事　鶴田徳太郎
門司市大里　大日本製糖株式会社門司工場（電③3411）
理　事　牧野　武
小倉市砂津　朝日新聞西部本社（電⑤2781）
理　事　箱崎正夫
小倉市砂津　西日本鉄道北九州営業局総務課（電2631）
理　事　遠山　励
八幡市黒崎　株式会社安川電機製作所（電⑤0480）
◎筑　豊　地　区
地区会長 山内浪行
理　事　山北得男
飯塚市立岩　麻生産業株式会社（電390）
理　事　大塚繁美
田川市東区　三井田川病院（電231）
理　事　伊藤久次
飯塚市鯰田　飯塚市立第３中学校（電2359）
理　事　島ノ江勝己
田川市東区田川市市役所内田川福祉事務所（電2000）

◎福　岡　地　区
地区会長　山本一雄
福岡市大名町　松島炭坑株式会社（電④0936）
理　事　中村忠夫
福岡市大名町　西日本鉄道株式会社（電④3007）
理　事　是松義彬
福岡市大名町　福岡地方裁判所（電④7431）
理　事　佐藤幸利
筑紫郡大野町白木原　岩崎商店（電雑餉隈506）
理　事　増田靖文
福岡市因幡町　福岡市役所衛生課分室（電④2131）
理　事　中村高治
福岡市上新川端町　小公子内（電③4724）
◎筑　後　地　区
地区会長　三原邦吾
理　事　楢原駒太郎
久留米市篠山町　福岡地方裁判所久留米支部（電5387）
理　事　尾関正春
山門郡瀬高町　瀬高郵便局（電2542）
理　事　成井政一
久留米市御井町　久留米大学商学部（電2189、5597）
理　事　平木武美
大牟田市甘木　大牟田北高等学校（電2262）
◎学　連　代　表
理　事　丸山信義
福岡市七隈福岡大学（電④9536）
理　事　苣木　章
久留米市御井町　久留米大学商学部（電2189、5597）

◎福岡県バドミントン協会各地区別会員一覧
（昭和32年度）

地区別	団体名	登録会員
北九州	北九州大学ＯＢ	4
	大日本製糖ＫＫ	5
	三菱化成ＫＫ	14
	西日本鉄道ＫＫ（小倉）	7
	小倉電話局	10
	安川電機ＫＫ	11
	門司市役所	6
	朝日新聞西部本社	14
	小倉高校	21
	（小計）	92
福　岡	松島炭鉱ＫＫ	11
	福岡電話局	16
	岩崎商店	13
	福岡女子大	11
	九電名島発電所	11
	九州石炭鉱業連盟	7
	西日本鉄道KK本社	8
	福岡相互銀行	5
	福岡市役所	3
	福岡管区気象台	6
	福岡地方裁判所	9
	その他	1
	（小計）	101
筑　豊	麻生産業ＫＫ	12
	田川市役所	10
	その他	6
	（小計）	28
筑　後	久留米クラブ	7
	久留米市役所	4
	筑後電報電話局	6
	瀬高電報電話局	3
	産業工芸試験場	4
	筑邦女子高校	16
	明善高校	33
	明善クラブ	2
	大牟田北高	23
	その他	9
	（小計）	107

地区別	団体名	登録会員
学連	福岡大学	35
	久留米大学	30
	九州大学	23
	西南学院大学	33
	福岡学芸大	19
	北九州大学	38
	福岡女子大学	14
	（小計）	192
	合計	520

◎各県協会登録会員数

（昭和32年12月現在　日本バドミントン協会よりの報告）

年度	福岡県	佐賀県	長崎県
昭和27年度	68	0	116
〃 28 〃	30	8	110
〃 29 〃	91	0	167
〃 30 〃	332	34	101
〃 31 〃	442	25	58
〃 32 〃	535	0	0

年度	熊本県	大分県	鹿児島県
昭和27年度	—	46	—
〃 28 〃	—	60	—
〃 29 〃	0	30	—
〃 30 〃	21	70	—
〃 31 〃	88	0	—
〃 32 〃	42	0	8

8.「和田ノート」抄録



このノートは和田寿（第５代福岡県バドミントン協会理事長）が、日本バドミントン協会・九州バドミントン連盟・福岡県バドミントン協会の会議録を書き綴ったもので、全２冊。その１冊は、「昭和44年～昭和55年」で、他の１冊は、「昭和55年～平成３年」。その中から福岡県バドミントン協会関係のもののみを抄録した。

昭和44年11月７日

福岡県バドミントン協会評議員会

（於：福岡相互銀行会議室）

・日本バドミントン協会研修会参加の件

中原昭義

・二級トレーナー研修会 —

競技力向上委員会

コーチ研修、普及、トレーニングセンター、国際交流

・国体選手費用追加の件

・県規程の一部改正

第３条　必要ある時は２名以上の副支部長を置くことができる。支部評議員若干名。

第４条　支部長は当該支部の推薦により

第７条　支部規程の改廃

・箱根理事会報告 — シャトル不足について

・県体協表彰について —

三原邦吾、西園富吉、中村高治

・１月総会に持ち越す　　登録料　200円、
　　加盟団体費　1000円
・県実業団大会 ―
　ＡＢＣクラス別に各地区で分担しては如何。
・第５回全国私立短期大学体育会開催準備委員会委員の委嘱について

昭和46年度

福岡県バドミントン協会評議員会

・高校選手強化について ―
　　昭和46年度は福岡地区・北九州地区各地区別に高体連と地区協会と話し合ってやる
・小中学生への普及対策
　教師への啓蒙、学校教育の中で課外で行う－中体連に働きかける方法
　クラブ組織、スポーツ少年団をつくる
・日韓大学対抗バドミントン大会－
　　協会として協力
・表彰者－成井政一、山崎良治、宮山昇三
　　井上儀平次

昭和49年３月２日

福岡県バドミントン協会評議員会

・常務理事　　後藤研（福岡）、本田(北九州)、三原（筑後）、宮崎（筑豊）
　平木武美（高体連）
　村尾隆（教職員）
・指導委員　　西本（福岡）、淵上（北九州）、吉良（筑後）、野見山（筑豊）
　上薗（教職員）、
　永原（学連）、中島（高体連）

昭和49年４月６日

福岡県バドミントン協会常務理事会・指導委員会

・指導委員長の選考
　委員長　淵上
　副委員　野見山、行武　　１年間の任期
・シャトルの指定　淵上(北九州)に一任。三原（筑後）、後藤（福岡）

昭和50年３月９日

福岡県バドミントン協会評議員会

（於：福岡市望洋荘）

・会長挨拶　三原副会長
　　議長　和田理事長（選出）
・表　　彰　宮山（福岡）、筒井（北九州）
　　平木（筑豊）
・実業団大会規約委員会創設
・協会規程 ―常務理事会で根本的に検討せよ。
・役員改選
　副理事長　辰市祐昭
　指導委員　池田、横溝、吉良、都、木下
　　西本、野見山、村上、学連（２名）
　　中島、古川、上薗、鎗水

昭和50年４月25日

福岡県バドミントン協会常務理事会

・九州選手権大会について
　　役員の件、会長・九連会長、
　　他の役員は地元一任。
・日中大会について
・指導委員会の会員承認
　　委員長　吉良常務理事とする。
　　会員は吉良氏に一任。
・常務理事　　増田、宮崎、吉良、本田、村尾、金光、小林

昭和50年５月24日

福岡県バドミントン協会常務理事会

・日中大会の件　事務局長より、日本バドミントン協会から福岡県にて開催することの決定通知。実行委員は、県協会と北九州市が旨く調和していくように。期日：11月25、26、27日
・大　　会　第４回県中学生　６月22日（日）
　福岡教育大学　シャトル→メイビス　中体連加盟校の在学生全国予選は、予選会をやる。村尾、吉良両氏で最終選考をして協会に報告。

・国体予選
　6月29日　久留米大学
・実業団の参加区分
　1部　5チーム、2部　5チーム、3部　5チーム、4部　5～7チーム、
　各部の優勝者と最低者は自動的に入れ替える。女子は1W2S→2W3Sとする。
・県総合選手権大会の種目種別について
　本年は現行で行く。
・スポーツトレーナー講習会

昭和51年
福岡県バドミントン協会評議員会

議長　三原副会長
・日本協会、九州連盟報告　和田理事長
・評議員の旅費を各種目団体調査せよ（金光）

昭和51年6月12日
福岡県バドミントン協会常務理事会

参加者　和田、増田、宮崎、吉良、村尾、梶原
・日本協会報告
・福岡県中学生大会報告　　使用球・・・陸鳥
・公認指導員講習会
　各県バドミントン協会推薦1名。
・県体について
・指導委員会の問題（和田）
　国体選手→吉良
　高 校 生→金光
　中 学 生→村尾

昭和52年3月5日
福岡県バドミントン協会評議員会

参加者　22名、委任状　20名
・総合選手権大会の内容は、常務理事会に一任
・昭和52年度予算案　団体加盟分担金　2,000→3,000円
・30年記念行事として、公認指導員・審判員の特別昇級。各支部で候補者を出し、常務理事会で審議し、県の推薦とする。
・県協会創立30周年行事企画は新役員（常務理事）があたる。
・役員改選　選考委員会（三原議長　各地区より1名　計4名）
　会　長　四島　　司
　副会長　4名　和田　　寿
　理　事　木下、本田、吉良、宮崎、村尾
　　金光

昭和52年4月9日
福岡県バドミントン協会常務理事会

・県総合選手権の種目・種別について
　本年度は現行通り（来年度より社会人大会新設）
　男女の差も考える。混合複も考慮する。コートは8コート2日間を限度とする。
・県協会30周年記念行事
　国際試合、記念式典→福岡市で2月上旬開催。
　この行事の成否を至急検討。辰市・木下を中心に検討してもらう。結果が出次第、常務理事会でこの案を検討して、実行可能であればその具体化にとりかかる。
・県実業団要綱審議
・九州バドミントン連盟の理事　2名　辰市・村尾
・県指導委員長　吉良

昭和52年7月30日
福岡県バドミントン協会常務理事会
（於：北九州住友金属体育館）

・国体監督・選手決定
・公認指導員・公認審判員の候補者推薦
・県実業団大会（3部以下）直方市体育館

昭和53年3月12日
福岡県バドミントン協会理事会
（於：福岡市水光園）

・昭和53年度予定行事　日中バドミントン大会

7月、福岡地区、理事会承認、
・県協会の努力目標　地区＝筑後・筑邦の充実
事業＝指導強化陣の充実

昭和53年5月13日
福岡県バドミントン協会常務理事会

・指導委員会　（委員長）村尾、
（副委員長）野見山・中島
・国体予選会　7月16日（日）　直方市体育館　シングルスベスト8まで第1次予選会
・ママさん大会　第1回大会　10月20日（金）
福岡市民体育館　福岡県協会主催
西日本新聞社後援
・3Wの団体戦　15点3ゲーム　使用シャトル＝合成級
参加資格　日本バドミントン協会登録の家庭婦人
・日中バドミントン大会　7月7日　福岡
福岡スケジュール　7／5航空機にて福岡着　全日空ホテル6：00 協会レセプション

昭和53年10月28日
福岡県バドミントン協会常務理事会
（於：福岡市）

・国体報告　成年女子　監督＝淵上、選手＝桶本・丸山・山口　決勝　福岡－大阪
・実業団大会（第3部）　1／28（日）

昭和55年2月20日
福岡県バドミントン協会総会

・日本協会・九州連盟報告＝和田
・福岡県協会報告＝辰市
選手養成の長期計画、大会のあり方について、登録の問題
・社会人大会・総合選手権＝各地区より登録数に応じて推薦する

昭和56年3月15日
福岡県バドミントン協会評議員会
（於：福商会館）

・［報告］和田＝日本バドミントン協会法人化問題、ユニフォームのカラー化について、国体成年男子の教員参加の件

昭和57年3月14日
福岡県バドミントン協会評議員会
（於：福岡市望洋荘）

三原議長
・［報告］和田＝日本協会・九州連盟、辰市＝福岡県協会、指導委員会＝少年少女大会（主管教職員連盟）審判委員会（組織がまだできてない）、各地区＝淵上（北九州）

昭和57年2月11日
福岡県バドミントン協会理事会
（於：福岡市望洋荘）

・協会の組織について
4地区制にするか6地区制にするか、北九州地区で関係方面と打ち合わせてもらいそれを研究する。
［結論］　現状の通りでよい。
・協会内部組織
総　　務＝各地区及び職域団体の代表が1名はいる。
競　　技＝理事はどこかの委員会に所属する。
強化指導＝各委員会の委員長は理事会で選出する。
審　　判＝理事は若干名。
・昭和58年度事業計画
ア．国体を目指し、協会組織を整える。
イ．選手強化計画については、県体協の強化計画の決定に合わせて計画の改定を行う。
ウ．国体競技役員・審判員は、県内でまかなえるよう養成する。

昭和60年3月10日
福岡県バドミントン協会評議員会
（於：福岡市百道パレス）

議長　和田　寿
報告　日本バドミントン協会関係（辰市）、九州バドミントン連盟　ジュニアのブロック推薦について
・競技委員会　小学生の参加料500円
役員選考　各地区より１名の選考委員会
会　長・副会長・理事長・監事は留任。
理　事
［福岡］藤川・副島・泉田・三浦
［北九州］淵上・庄野・片山・服部
［筑後］森光・石橋・小川・古賀
［筑豊］野見山・河野・寺岡・未定(田川)
［学識経験理事］三宅・伊藤・後藤・三沢
本田・筒井・鎗水

昭和61年３月９日
福岡県バドミントン協会評議員会
（於：福岡市望洋荘）

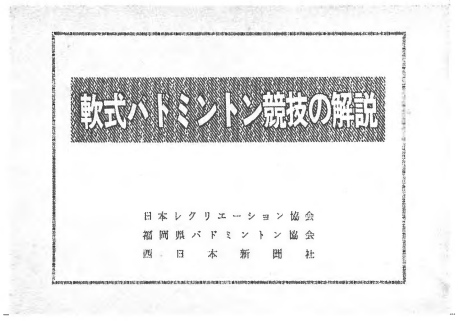
議長　三原
報告　日本バドミントン協会（後藤）、九州連盟（和田）、県協会
・小学生県大会の種別に４年生の部を復活する。

平成２年３月18日
福岡県バドミントン協会評議員会
（於：福岡市百道パレス）

・会長挨拶
報告事項　日本バドミントン協会関係、九州連盟、福岡県協会
・協議事項　平成２年度事業計画
平成２年度予算

9．軟式バドミントン競技の解説

軟式バドミントン競技の解説
日本レクリエーション協会
福岡県バドミントン協会
西　日　本　新　聞　社



（サイズはＢ６）

レクリエーションとしての『軟式バドミントン』

東京オリンピックもいよいよ四年後に近まり各種のスポーツ気運も高まっていますが、直接試合に出場する選手だけでなく、国民の多くがスポーツに親しみ、スポーツの精神を体得することは健康で晴率的な明かるい生活を営むためにも有意義なことであります。
そこでレクリエーションとしてのスポーツとは生活の中にたやすく取り入れられるため、だれでも、手軽に、いつでも、安価にできるものでなければなりません。

さて『軟式（屋外）バドミントン』とはいわゆる室内バドミントンを改善し、そのよさを十分高め、より大衆的スポーツとして国民全部がこぞって参加できるよう研究されたものです。
その特徴としては①動作、用具などが近代的感覚にマッチしている②せまいところでも手軽にできる③運動が全身的で過激にわたらず快適で

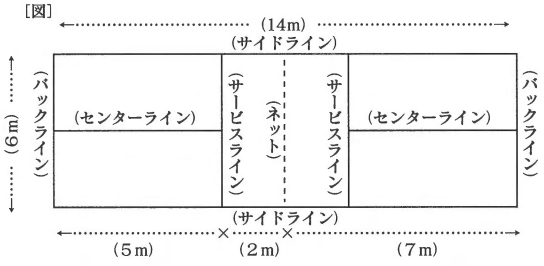
ある④ラケット、シャトル（羽球）があれば楽しめるし、用具が比較的安価である（ラケット400～600円、シャトル１コ30～40円）⑤ルール（規則）が簡易である、などです。

軟式バドミントン競技の解説

１．コート

コートは障害物のない平面で下図のとおりとする。

［図］



２．ポストとネット

ポストはサイドラインの中央に位置し左右のポストは地面より1.55メートルとし、ネットをしっかり保つようにしてサイドライン上同一の距離に垂直に固定する。ネットは２センチ以下の網目とし上端に幅7.6センチの布を二つ折りにしてとりつけ、その布の中に強いひもを通してポストの1.55メートルの高さに強く張る。しかしネットの中央の高さは、1.52メートル以上とする。

３．シャトル（羽球）

シャトルは全重量７グラムないし９グラムとし、直径2.4センチのゴム製打球体にプラスチック製の羽弁を固定したものとする。羽弁は長さ6.5センチ、先端の広がりを７センチとする。

４．サイドとサービスの選択

プレーヤーはお互にネットをさかいにし二人ずつを一組としてその両側に位置する。サービスとサイドの選択は『ジャンケン』によってきめる。『ジャンケン』に勝った方はサービスかレシーブか、あるいはサイドのいずれかを選択する。反対側はその残りのいずれかを選択する。

５．サービスの方法

（１）サーバーはサービスをするとき、その腰より低いところでシャトルを打たなければならない。

（２）サーバーはサービスコート内に立ち対角線上の相手方サービスコート内にシャトルを打ち込む。

（３）サーバーはサービスをする場合歩いたり、とんだりして立った位置を移動してはならない。

（４）サーバーは相手方レシーバーの用意のすむまでサービスしてはならない。しかしレシーバーは故意にゲームをおくらせる行為をしてはならない。

（５）はじめサービスするプレーヤーはまず右側のサービスコートから対角線上の相手方サービスコート内にサービスしてゲームを開始する。このとき相手方が失点した場合は同じサーバーはその左側サービスコートより対角線上の相手方コートにサービスし、もし味方が失点した場合はパートナーは次のサービスコートよりサービスする。このようにしてサービスは得点中は同一のサーバーによってサービスコートを順次移動しながら続け、失点した場合はその順によって移動する。（１）最初のサービス（２）そのパートナー（３）相手方（４）そのパートナー、すなわち同じ側が二人サービスして相手側に移る。

6．レシーブ

（1）各セットの始めに二人のレシーブの順序をきめておくこと。

（2）レシーバーのみがサービスを受けるので他人が打ったり触れてはならない。

（3）レシーバーは自分のコート内でサーバーがサービスするまで静止していなければならない。

7．試合の開始とカウント

（1）試合は審判の『レディ』により各自位置につき『プレイ』の宣告により開始する。

（2）カウントのコールはサービスサイドからこれを数える。ゲームカウントのコールもこれと同じ。

8．得　点

（1）相手の失点はすべて一方の得点となる。

（2）レシーバーが正しく返球できなかったとき。

（3）サーバーがサービスをあやまったとき。

（4）打ったシャトルが相手側コート外の地面に落ちたとき。

（5）打ったシャトルがネットを越さなかったとき。

（6）シャトルが連続二回以上ラケットに触れたとき。

（7）ネットオーバーしてシャトルを打ったとき。

（8）ネットにラケット又は身体がふれたとき。

（9）相手方の打球動作を妨害する行為をしたとき。

（10）手からはなれたラケットで返球したとき。

（注意）シャトルをラケットの木部で打っても失点ではない。

9．ライン上に落ちたシャトルはそのラインによって区切られたコート内に落ちたものと見なされる。

10．ゲーム

（1）1ゲームの勝敗は15点先取をもって決定する。

（2）双方14点ずつを得たとき『ジュース』、その後2点連続先取をもって決定する。

（3）ゲームは3回若くは5回とする。3回ゲームの勝敗は2ゲームの先取を以て決定し双方1ゲームずつを得た場合は次の1ゲームを以て決定する。5回ゲームの勝敗は3ゲームの先取を以て決定し双方2ゲームずつを得た場合は次の1ゲームを以て決定する。

11．コートチェンジ

各ゲームを終る毎にそのサイドをチェンジする。

ファイナルセットの場合はいずれかが8点を先取したときに交替する。

12．次の場合はノーカウントとして採点しない。

（1）不慮の突発事故により試合を妨害されたとき。

（2）特に審判が必要と認めたとき。

13．審判

（1）主審1名、副審2名、線審2名を原則とする。

（2）主審は試合の進行を司り、試合の正否を判断して宣告する。

（3）副審と線審は判定の結果を主審に通告する。

（4）主審はサービス開始前にそのスコアをコールする。

（5）コートにおけるプレーヤーは審判の指示に服しその進行に協力しなければならない。

10. 新聞に見る福岡県バドミントン界（昭和30年代）

「毎日新聞」昭和32年５月９日

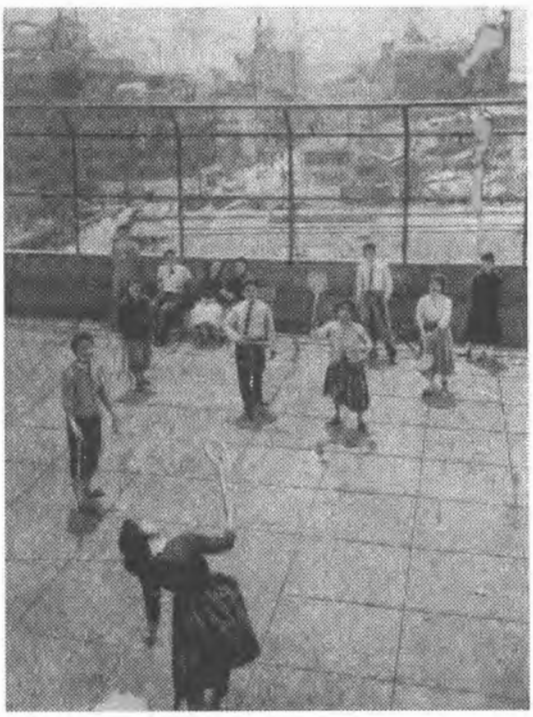
バドミントンの羽根の音

魅力は1年中やれる

対馬からも仕入れに

……この村

昼休みのビルの屋上ばち識火灯すころの商店街の路地にいたるまで、ラケット片手にシャトルコックを打ち合う。このところ福博の町や田舎までちょっとしたバドミントンブーム。（写真は昼休みにバドミントンを楽しむサラリーガール）



……あの町

○…バドミントンはインドに生れたスポーツ。日本で大衆化されたのは戦後、福岡ではやり始めたのは一昨年あたりから。といってもルール通りのゲームをするよりも狭い空地を利用したり、街路灯頼りのナイターをやるレクリエーションとしてであり、ネットなしでシャトルコックをたたき合うだけの幼稚なものがほとんど。

こうした気軽さも手伝っていまでは家庭にまでバドミントンブームの波が押し寄せている。

市内のあるスポーツ店では一日十―十五セット、月で六百セットも出ており、品切れもあるほど。昨年のクリスマスプレゼント、お歳暮にはバドミントンセットが飛ぶように売れた。このごろでは都会から田舎までブームが広がり、対馬の文具商あたりからわざわざ仕入れに来るという。

○…どうしてこんなに盛んになったか、松島福岡県バドミントン協会事務局長に聞いても首をかしげるばかり。一応考えられることはほかのスポーツのように場所をとらず、ちょっとした広場さえあれば出来、シーズンオフというものがなく、一年中いつでもやれる。ワンセット四百五十円（ネットなし）からあってあまり費用がかからずにすむ。しかも、羽子板と似ていて子供からお年寄りにいたるまで男女を問わずやれて、あまりテクニックを必要としないことなど。

○…市内で正式なスポーツとして日ごろから練習しているのは同県バドミントン連盟に加入している八団体、レクリエーションとしてはネコもシャクシもというところだが、スポーツとして取上げているものは意外に少ない。この点に同協会の悩みがあり、いかにしてブームに乗ったバドミントンをルールにのっとったスポーツにまでもっていくかが問題。松島同事務局長は“ここ当分、バドミントンブームは消えそうにないので、いまのうちに講習会を開いて大いに啓発したい”といっている。

新聞に見る福岡県バドミントン界（昭和30年代）

「夕刊フクニチ」昭和32年７月17日

第１回フクニチ バドミントン講習会

最近各職場や学校におけるバドミントンの普及は目覚しいものがあります。本社では福岡スポーツセンターのバドミントンコート新設を記念して“第一回フクニチ・バドミントン講習会”を次のとおり開きます。一般、学生、初心者の多数参加を歓迎します。

△とき　7月28日（日）午前10時―午後5時

△ところ　スポーツセンター・コート（7面使用）【内容】バドミントンのルール解説ならびに実技指導【講師】日本バドミントン協会理事久留米大学教授和田寿氏ほか五名

【講習費】一般＝70円、学生＝60円【申込】本社事業部およびスポーツセンター営業課

主催　夕刊フクニチ新聞社、福岡地区バドミントン協会

後援　福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、福岡市体育協会

「西日本新聞」昭和32年８月５日

日時　8月19日（月）午後5時30分から

会場　福岡スポーツセンター

チーム　△監督＝川端昇市（立大OB）伊藤基記（東京高師OB）△主将＝佐藤芳朗（立大OB）△選手＝片石兼敏（立大）越川啓（慶大）永井栄一（立大）

トーマス杯争奪世界選手権
アジアゾーン日本代表選手
帰朝歓迎バドミントン大会

☆入場前売券は福岡スポーツセンター、市内スポーツ用品店、各プレイガイドで発売中

九州バドミントン連盟
福岡県バドミントン協会
西日本新聞社

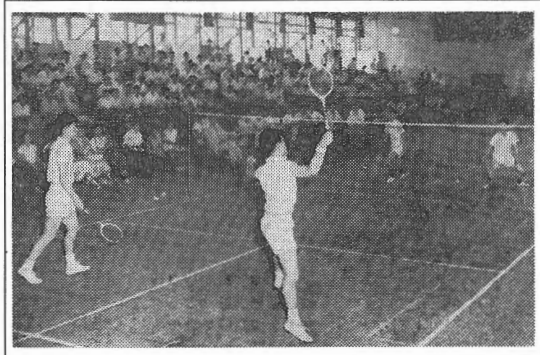
「西日本新聞」昭和32年８月18日

バドミントン　あす模範試合

世界選手権出場代表歓迎大会

トーマス杯争奪世界選手権に出場した日本代表川端、伊藤両監督以下、佐藤（立大OB）片石（立大）越川（慶大）永井（立大）四選手の帰国歓迎バドミントン大会は、あす十九日午後五時半から福岡スポーツセンターで行われる。オールラウンドプレイヤーでは第一人者といわれる佐藤、柔軟なフット・ワークでどこからでも攻撃できる片石、長身を利しての鋭いスマッシュを持つ永井、無理のないフォームを見せる越川とそれぞれ卓越した技術を持ち、これら各選手による試合は好試合が予想される。

「朝日新聞」昭和32年８月12日



圧倒的な強さ

全日本バドミントンチーム

【小倉】トーマス杯争奪戦に出場した全日本バドミントンチーム招待競技会（朝日新聞社後援）は十一日午前十時から小倉市体育館で行われ、北九州選抜軍相手の単複各二試合で格段の差をみせた。また試合のあい間に練習法の紹介などを行った。

全日本　4　複2―0　単2―0　0　北九州選抜

▽ダブルス

佐藤（立教大）（OB）
越川（慶大）
―15―15―4―0―
豊島（北九大）（OB）
瀬田

片石（立教大）
永井
―15―15―2―3―
美和（安川電機）
後藤

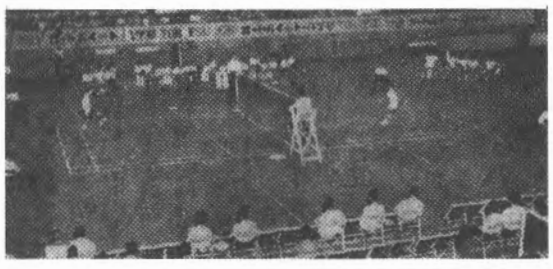
▽シングルス

片石（立教大）
―15―15―0―0―
山本（北九大）

永井（立教大）
―15―15―0―0―
中村（北九大）（OB）

全日本片右（手前右）永井（同左）対安川電機後藤（向側右）美和（同左）の熱戦

「西日本新聞」昭和32年８月20日



みごとなプレイに観衆魅了

片石ら四選手帰国歓迎バドミントン大会

トーマス杯世界選手権に日本代表として出場した川端、伊藤両監督以下、片石、永井、佐藤、越川四選手による帰国歓迎バドミントン大会が十九日午後五時半から福岡スポーツ・センターで行われた。地元選手による前座にひきつづき代表選手と地元選手による交換試合、さらに代表選手によるダブルスが行われたがスナップを巧みにきかせた豪快なスマッシュ、コマネズミのように動きまわる敏速なプレイは会場につめかけた数千の観衆を魅了した

写真は代表選手（左、佐藤）と地元選手（右、大石）のシングルス

「新日本スポーツ」No.81昭和33年２月28日

提唱

軟式バドミントン

西園富吉氏が名乗り挙ぐ

九州（福岡）でこのほど軟式バドミントンを名乗りあげた。これは昨年十一月二十五日久留米市で開催された日本体育学会で発表されたものであるが、提唱者の西園氏は屋外で少々風があってもやれる、手軽るに何処でも試合ができる、羽球が強くて破損しにくい、としていまなお研究中であるが使用ラケット、羽球、ルールなど従来と変らない。

【提唱の趣旨】我が国のバドミントンは凡そ三十年前に米国から伝わり、初めは娯楽的なレクリエーションスポーツに過ぎなかつたが次第に競技化し、所謂バドミントン競技として進展し、今から十余年前には日本バドミントン協会を設立し、国内各地にも同競技団体が組織され、全日本選手権大会をはじめ、もろもろの競技大会がひんぱんに開催されて、いよいよ普及発達の気運が漲つて来たのである。処が世界のバドミントン競技界では、すでに六十年前に発足し世界連盟が成立しているので、我国はスタートに於て半世紀も後れたわけであるが、この十余年間にはすさまじい勢で進展し、競技の実力に於ても最早世界のレベルに追いついたのである。今後は更にピーク（頂点）を高め是等を追い抜くための実力向上こそ今後の問題であろう。このピークを高めるためには広い裾野（底辺）が必要となつて来るわけで、所謂三角形の底辺が強固でなければならない。最近バドミントン人口は急速に増大し、競技者以外の一般大衆にも随分拡がつて行く状況が現われている。それはバドミントンはいつどんな場所でも極めて手軽るに楽しむ事の出来る非常に魅力的な特長をもつているからであるがだんだん上達して来ると自然に競技を試みたくなる。処が屋外でするには、僅かの風にも羽球の飛び方が妨げられるので殆ど不可能である。それで結局体育館等を練習の場所に選ばなければならないがその体育館は学校、工場、其他市町村にも数多くは存在しないし、例へあつても、自由自在に練習や競技のために使用することは至極困難な状態である。

元来バドミントン競技は屋内スポーツであつて正式には必ず体育館で行なわなければならない。しかしこの魅力的なスポーツを、大衆の望みにまかせ楽しまするには、大空のもと、少々の風にも妨げられない羽球を研究することがその先決問題である。従つてこの研究については、既に昭和三十二年十一月二十五日、日本体育学会に於て軟式バドミントンに就てその一端を発表しその後引続き羽球の形状、重量、性能に関しての研究を続け既製のものを改良し、又は新たに試作して、性能の実験を重ね、破損し易い点を考究した結果は、プラスチック製を採用し、又飛力を考慮して打球部はスポンジを使用した。

此の軟式バドミントンによって、バドミントン競技の普及発達に大いに役立ち、更に国民の健康生活の向上にも貢献するものと大いに期待する次第である。尚この軟式バドミントンのルールは全般的にバドミントン競技規則を準用する。ただし羽球の打球部にスポンジを使用しているので、フレームショットは判じ難い。従つてこのルールは省くのが適当である。

又ラケットは現在のものでも差支えないが、羽球が比較的重いので軟式ドミントン用ラケットを研究する必要がある。（提唱者九州バドミントン連盟会長、福岡県協会々長西園富吉）

「新日本スポーツ」No.102昭和33年９月28日



「インカレ」の準備状況

インカレも余す所二ケ月に迫り開催当地としては昨年末から種々協会、学連と話し合のもとに準備委員会を設け、逐次計画を立て、今年の四月からは実行委員会を発足して、目下準備を推進して居ります。資金面に於いては略々見とおしもつき開催現地である久留米市当局も市長を始め全市を挙げて本体会を完全化するべく張切つて居ります。

只これには私共バドミントンに関係して居りますものが常に感ずることは、九州に於いてはバドミントンそのものの認識が非常に薄いのですが、インカレによつて学生を中心としたレベルをあげることが最大の目的で、この際一般の方にもバドミントンそのものの認識を大いにもつて戴く念願です。

また本体会には秩父宮、同妃両杯が出ていますので、是非妃殿下に御観戦戴こうと云う話も出て、我々はそれを具体的に推進して来て居ります。

もしこれが実現すれば地方と云うものがバドミントンと云うものの支流を早く消化すると共に、反面大会そのものの雰囲気も非常にあがるのではないかと思います。

尚会場は文化センター・久留米大商学部体育館の二会場を使用、宿舎は市の観光協会に一任して、歓迎、宿舎の万端など市の責任に於いて遂行する様市の方も非常に張切つております。

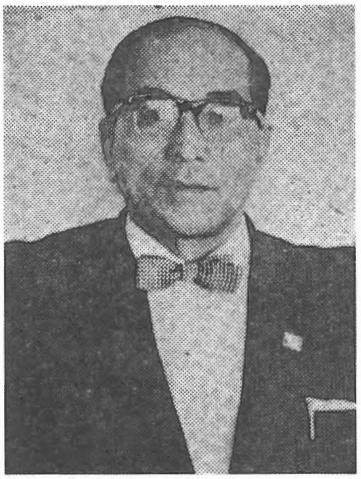
開会式は従来の方法を変えて出来るだけ地方の地名士にご参列願つて大会前日の夕方から久留米市の公会堂で盛大に挙行、引続いて前夜祭に移り遠路から参加された学生諸君並びに役員の方に九州の地方色豊かに織り込んだところのおもてなしに満喫して戴けます様、関係者一同張切つて居ります。

「新日本スポーツ」昭和33年10月8日

「インカレ」が斎す効果！

九州全体の刺戟となろう

福岡県バドミントン協会長　西園富吉



宮沢　年々バドミントンも盛んになり、今年のインカレは例年にない盛況振りではなかろうかと考えて居りますが、今度九州でインカレを開催することになつた動機についてはいろいろあると思いますが、それを開くについてのバドミントン界における影響というものは、啓蒙の点において如何なる効果があるものでしようか、会長さんとしてその点どうお考えでしようか。

西園　九州でインカレを開催することになつてまづ私達の希望としては、第一に学生層のレベルをあげること、第二は学生を通じて九州全体のバドミントンの普及発達という一般のレベルをあげることを考えております。

宮沢　全国的な大会としては、福岡近辺での開催は今回が始めてですネ。

西園　そうです。

宮沢　十年前に比べると相当盛んになつた今日、福岡周辺で行われることは非常に意義あることですネ。

西園　そうですネ。福岡県としてはバドミントン協会を設立したのは第三回目の国体が福岡で行われた時で、その頃は全国的にバドミントンに対する認識が非常に薄く、体協にも加盟しておらず、勿論第三回国体はオープンでしたからネ。あれから十一年ですか…。全国のレベルに刺戟されて九州も非常に普及され、現在登録人員からいつても判る様に全国でも上位を占めております。これには和田理事長の一方ならぬご尽力を得ております。また今度のインカレでは競技のレベルを引上げたいと思つております。

宮沢　結構ですネ。去年までは福岡中心のプレヤーが技術的に抜んでいた傾向がありましたが最近では他の県からも優勝者が出る様になつたことは、非常に結構だと思いますがこれは先づ九州全体に拡がつたものと信じてよいのでしようか。

西園　九州も一番最初は長崎県で、南方でやつていた人が主体になつてやつていた様です。福岡県は全国的に出場する選手が現在でも少ないのですが、九州全体からいえば福岡はレベルが高いですネ。最近では熊本県も伊藤さんのおかげで強い選手が出て来ましたが、やはり大学でも九州全体の半分は福岡で、福岡のレベルをあげなければ九州全体のレベルがあがらないと信じております。

宮沢　全国的にみた場合、九州はおつしやる通りいくらかレベルが低い様ですが、とに角今回のインカレを以つて、レベル的に相当上昇するということが一つの望みでしようか。

西園　是非そうしたいと思います。

宮沢　歴史的には福岡は非常に古いし、九州としては本州と離れているという地理的関係もありましようが、気候の面からいえばバドミントンの発達は他県よりもテンポが早いと思いますが、その点これから非常に期待がもてるわけですね。

西園　バドミントンは九州では福岡が第一を占めていますが、普及の割にピークが高くならない。しかし今度のインカレに出場してからの結果即ち、他の県から参加する優秀選手のプレーを見ていろいろ教えられる点があり、大会後かなり飛躍されるのではないかと思います。

（本紙宮沢主幹との対談記）

「新日本スポーツ」No.111昭和33年12月28日



“競技水準の向上に異常なバド・ブーム”

◇錦秋の久留米を時ならずバドミントン一色で塗りつぶした「インカレ」はいま久留米、福岡は勿論、九州一体に異常なバド・ブームを巻き起している。久留米は古くは有馬二十一万石の城下町として栄え、久留米絣籃胎漆器、久留米つつじなどの特産品で広く全国に知られ、最近ではゴム工業の振興で商工都市として発展を続けている街で人口十五万、ここに全国から千人余の選手、役員が繰り込み、市は数ケ月前から「会期中の街並の清掃や気持のよい応待、交通の混雑防止」などを市民に呼びかけ、すみずみまで行き届いた温い歓迎の気運が市内全体に盛り上つて行つた。特に大会の開幕を彩る開会式は従来にない異色のもので、当日二十一日、選手達はBS記念ホール近くの明善北校舎運動場に集合、BSタイヤブラスバンド、遠来の北海学園大選手を先頭に役員、市民の会員の郷土民謡や児童のバレー、学生選手の飛入り演芸などがあつて六時過ぎまでにぎわつた。

プログラムにあしらわれた「久留米絣」と共にローカルカラー豊かにあふれた幕開きで、翌日からの試合が名実共日本最高技術の熱戦であつたことは云うまでもない。大会閉幕後一カ月、一年間にわたる長い準備の心労で一貫（4キロ）近くも体重が減つて、気落ちガックリの地元役員も、大会成功で巻き起つたブームと競技水準の向上に、重荷を降した肩をたたきながら、心ゆくばり歓んでいる。

引続き行われた前夜祭は市婦人会

「新日本スポーツ」No.110昭和33年12月18日

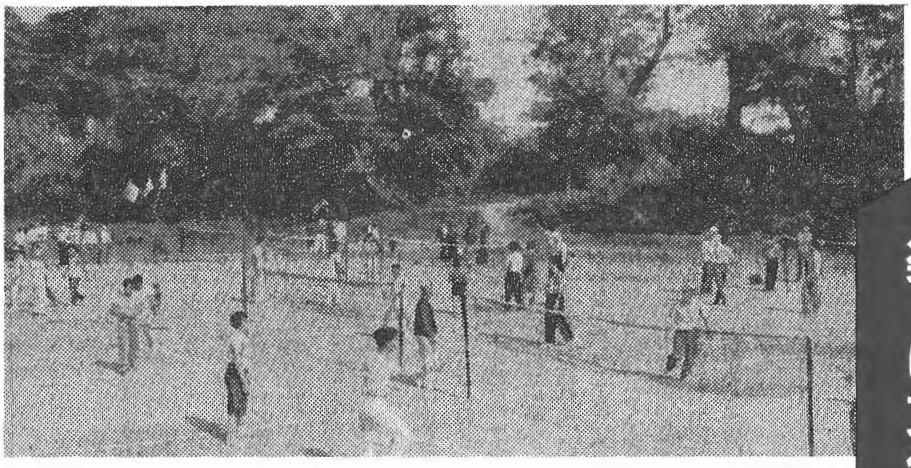
町ぐるみの盛況！

画期的なエポック生む

大学バドミントン界の総決算ともいうべき、本年度の「インカレ」は南の国九州、“クルメガスリ”で名高い福岡県久留米市で全市的な行事として開催され、盛況裡に幕を降した。今度の大会について開催地久留米市の熱の入れようは大変なもので市が卒先して予算に組み込むやら、地元観光地とタイアップして宣伝に乗り出すやら、大会成功に砕心し、文字どおり町ぐるみの大会となつた。これには更にBS（石橋）文化センターの全面的援助と、関係役員の一年間にもわたる長い熱心な努力や、その他多くの人々の惜しまない協力と熱意の結晶がこの大会の成功を生み出したものであろう。そして また遠く九州の会場に秩父宮妃殿下がお姿を見せられ、これまでとかくスポーツ界の片隅に寄せられそうなバドミントン界に明るい陽光を差し、このスポーツを衆目にクローズアップする大きな力となられたことは、バドミントン界最近の快事であつたと歓ばしい。いうまでもなくこの大会の成功は福岡を中心とした九州全域にバドミントンを浸透させ、より高度な技術を生み出させ、一段と高いレベルに引き上げる画期的なエポックとなるであろう。そしてこの大会に参加した選手達も舞台裏で活躍した裏方さんもそれでこそ、また一つ九州に立派な種子をまいたことになる。

「西日本新聞」昭和35年11月４日

あちらこちらで楽しい文化の日



大濠公園のバドミントン大会

スポーツは花ざかり

撮影会やスケッチ会も

三日福岡地方は午後から雲も多くなったが、まずまずのお天気で“文化の日”にふさわしい行事がはなやかにくりひろげられた。

○…県給食会館では午前十時から県下教育関係功労者の表彰がなわれ、午後二時からこんどは市内の教育に尽くした先生、生徒一般市民を表彰した。この中には長浜地区の長欠児童を補導してきた博多水上署のおまわりさん増山万里さんもまじり、異色の表彰をうけた。福岡保健所では午前十時から長く町世話人として市の末端行政事務に尽くしてきた九十三人の町世話人が表彰された。

○…別府小学校（校長柴田六輔氏）は午前十時から開校式。同校は鳥飼小の分校として二十八年九月に発足、ことし四月独立したもの。この日は生徒、父兄が校内をブラスバンドでパレードして開校を祝った。

○…スポーツも花ざかり一平和台では県下中学校陸上競技大会が行なわれ、近くの大濠公園では、福岡市教育委員会、福岡県バドミントン協会および西日本新聞社主催の市民軟式バドミントン大会が行なわれた。家族向きゲームとして夫婦組、親子組、兄弟組も試合に参加し、なごやかなふんい気だった。

○…“しいのみ学園”では不自由なこどもたちがさわやかに運動会を開き、ピラミッドなどみんなが力をあわせてせいいっぱいの運動会を楽しみ、父兄もわが子の成長をみつめ涙と笑いの一日だった。

修猷館高校バレーコートでは山内杯争奪市内選手権をかけたバレーボール大会が行なわれ、八チームがリーグ戦を行なった。

○…秋バラと菊のにおう香椎花園では学童のスケッチ大会が行なわれ、花壇のあちこちに家族ぐるみでスケッチを楽しんでいた。また“花と女性撮影大会”も同時に開かれ、アマカメラマン約六百人が八人のモデルを使って傑作の撮影に懸命だ。この撮影会の応募締め切りは二十日まで、撮影会当日のもの、および期間中の花園をテーマにしたものもよく、西日本新聞社事業部あてとなっている。バドミントン大会の成績はつぎのとおり。

△夫婦の部＝①（市長賞）中村直人、敏子（福岡市大名町）②宮山昇三、千鶴子（同曙団地）③大塚敞、陽子（同飯倉）

△親子の部＝①（市長賞）亀川清、清長（福岡市龍王町）②藤永祢次男、浄（同飛石町）③小橿午郎、伸一（同古小鳥町）

△兄弟の部＝①（市議会議長賞）宮山和久、厳（福岡市住吉町）②野中正光、岩男（同井尻横手町）③高田良広、良勝（同城内町）

△男女混合の部＝①（市教育長賞）山崎篤一郎、篠原操組②飯田峯一、国崎キヨ子組③池田和幸、藤永紀子組

△一般女子の部＝①（市教育委員会長賞）持田比路子、黒田淳子組②勝木千寿子、松崎恂子組③原賀恵美子、木村栄組③吉村キヌ子、武藤シズ子組

△男子壮年の部＝①（県バドミントン協会長賞）木下岩男、近藤猛組②桐田太一、高松和家組③木村清、高山猪之吉組③青木肇、北島文雄組

△男子青年の部＝①（西日本新聞社賞）園田勇吉、小木曽日出雄組②養原勝之、石橋善昌組③矢野彰夫、榎並保二組③辻川勇、成清忠男組

（昭和35年10月12日）

福岡市民バドミントン大会

最近とみに高まった軟式（屋外）バドミントンのオープン競技会をつぎのとおり行ないます。とくに一般家庭からの参加を期待します。

△**日時** 11月3日（祭）午前9時から（雨天のときは6日）

△**会場** 大濠公園補助グラウンド（福岡市大濠公園南東端、市電西公園または六本松下車）

△**競技種目**（個人戦で複のみ）①一般男子青年（40歳未満）②同壮年（40歳以上）③一般女子（年齢制限なし）④一般男女混合（年齢制限なし）⑤親子（年齢、性別制限なし）⑥夫婦（年齢制限なし）⑦兄弟（年齢、性別制限なし）

△出場 一人一種目のみ。試合はトーナメント法、組み合わせは主催者一任、規則は日本レクリエーション協会規則による。

△**参加料** 無料

△**申し込み**①はがきに②出場競技種目、氏名、年齢、性別、住所を明記し③10月15日までに④福岡市中央局区内西日本新聞社事業部「バドミントン大会係」あて⑤満員になりしだい締め切ります。

△**表彰** 各種目とも五位まで。

主催 西日本新聞社・福岡県バドミントン協会・福岡市教育委員会

主管 福岡地区バドミントン協会

後援 福岡県レクリエーション協会

第 5 章

栄光の記録

栄光の記録

福岡県総合選手権大会

【第19回大会】1967(昭和42)年
〈青年男子〉複①今野・山崎(福大)
単①山崎(福大)
〈成　　年〉複①渕上・小野(北九州市)
単①渕上(北九州市)
〈壮　　年〉複①三沢・杉田(住友金属)
単①三沢(住友金属)
〈少　　年〉複①島田・田中(明善)
単①田中(明善)
〈一般女子〉複①筒井(日本生命)・古賀(西銀)
単①筒井(日本生命)
〈少　　女〉複①岡村・金子(門司商)
単①金子(門司商)
【第20回大会】1968(昭和43)年
〈青年男子〉複①森・木田(福大)
単①山崎(福大)
〈成　　年〉複①渕上・勝野(北九州)
単①勝野(北九州)
〈壮　　年〉複①三沢(北九港)・杉田(住友金属)
単①三沢(北九港)
〈少　　年〉複①田中・矢野(明善)
単①桑野(明善)
〈一般女子〉複①筒井(日本生命)・古賀(西銀)
単①筒井(日本生命)
〈少　　女〉複①丸山・畠山(門司商)
単①丸山(門司商)
【第21回大会】1969(昭和44)年
〈青年男子〉複①村田・森(福大)
単①西本(福大)
〈成　　年〉複①多賀(多賀印刷)・片山(住友金属)
単①勝野(北九州市)
〈壮　　年〉複①三沢(北九港)・山田(朝日新聞)
単①山田(朝日新聞)
〈少　　年〉複①田島・吉富(明善)
単①田島(明善)
〈一般女子〉複①筒井(日本生命)・古賀(福岡電算)
単①筒井(日本生命)
〈少　　女〉複①高口・小野(明善)
単①梁瀬(門司商)
【第22回大会】1970(昭和45)年
〈青年男子〉複①伊藤・高尾(九歯大)
単①伊藤(九歯大)
〈成　　年〉複①渕上・勝野(北九州市役所)
単①渕上(北九州市役所)
〈壮　　年〉複①弥吉(月星ゴム)・古賀(久留米市役所)
単①弥吉(月星ゴム)
〈少　　年〉複①田島・吉富(明善高)
単①井浦(八幡西)
〈一般女子〉複①筒井(日本生命)・古賀(福岡電算)
単①筒井(日本生命)
〈少　　女〉複①重盛・三島(門司商)
単①宮崎(明善)
【第23回大会】1971(昭和46)年
〈青年男子〉複①伊藤・穐山(九歯大)
単①野見山(直方)
〈成　　年〉複①河野・梶原(自衛隊)
単①渡辺(直方バド協)
〈壮　　年〉複①蟹江・春田(国鉄小倉)
単①中尾(国鉄小倉)
〈少　　年〉複①井浦(八幡西)・中野(鞍手農)
単①井浦(八幡西)
〈一般女子〉複①桶本(日本生命)・古賀(福岡電算)
単①桶本(日本生命)
〈少　　女〉複①楢原・石橋(明善)
単①楢原(明善)

栄光の記録

【第25回大会】1973(昭和48)年
〈青年男子〉複①野見山・浜司(直方協)
単①池田(三菱化成)
〈成　　年〉複①渕上・勝野(北九州市)
単①都(二ッ河小教員)
〈壮　　年〉複①山田・阿部(国鉄小倉)
単①弥吉(月星化成)
〈少　　年〉複①玉井・大曽(京都高定)
単①玉井(京都高定)
〈一般女子〉複①桶本(日本生命)・丸山(門商OG)
単①丸山(門商OB)
〈少　　女〉複①広門・安達(京都高定)
単①広門(京都高定)
【第26回大会】1974(昭和49)年
〈青年男子〉複①池田・川野(三菱化成)
単①池田(三菱化成)
〈成　　年〉複①原・片山(住友金属)
単①片山(住友金属)
〈壮　　年〉複①庄野・村上(国鉄若松)
単①庄野(国鉄若松)
〈少　　年〉複①久保・権藤(鞍手高)
単①村田(小倉西高)
〈一般女子〉複①徳田・菊池(住友金属)
単①酒井(ベスト電器)
〈少　　女〉複①大内・大山(明治学園)
単①安達(京都高定)
【第27回大会】1975(昭和50)年
〈青年男子〉複①緒方・矢野(西南大)
単①中島(県教連)
〈成　　年〉複①渕上・林辺(北九州市)
単①村上(直方バド協)
〈壮　　年〉複①庄野(国鉄若松)・柏木(北九州市)
単①庄野(国鉄若松)
〈少　　年〉複①鵜池・長谷川(大川商)
単①鵜池(大川商)
〈一般女子〉複①桶本(日本生命)・土屋(住金)
単①桶本(日本生命)
〈少　　女〉複①渡辺・土井(北九高)
単①尾中(筑豊高)
【第28回大会】1976(昭和51)年
〈青年男子〉複①浜司・井浦(直方バド)
単①川野(三菱化成)
〈成　　年〉複①渕上・林辺(北九州市役所)
単①池田(三菱化成)
〈壮　　年〉複①柏木(北九州市)・庄野(国鉄若松)
単①多賀(多賀印)
〈少　　年〉複①長谷川・佐藤(大川商)
単①長谷川(大川商)
〈一般女子〉複①菊池・岩永(住友金属)
単①丸山(丸山工業)
〈少　　女〉複①大貫・高尾(北九州高)
単①後藤(小倉商)
【第34回大会】1982(昭和57)年
〈男　　子〉複①石井・江藤(国鉄)
単①江藤(国鉄)
【第35回大会】1983(昭和58)年
〈男　　子〉複①古賀・目野(三橋クラブ)
単①佐田(西相銀)
〈女　　子〉複①白石・川原(八大附)
単①高見(西相銀)
〈混　　合〉①横溝(小倉工高)・石本(九州女子大)
【第36回大会】1984(昭和59)年
〈男　　子〉複①古賀・目野(三橋ク)
単①重永(福大OB)
〈女　　子〉複①石井(北九州ク)・桶本(日本生命)
単①桶本(日本生命)
〈混　　合〉①生津(大川ク)・近藤(久留米ク)
【第37回大会】1985(昭和60)年
〈男　　子〉複①金(メイケンク)・多賀(九産大)

単①中村(久留米大)
〈女　子〉複①原・古賀(大牟田ク)
単①早川(福大)
【第38回大会】1986(昭和61)年
〈男　子〉複①荒木・目野(三橋ク)
単①佐田(西銀)
〈女　子〉複①高見・浜(西銀)
単①早川(福大)
〈混　合〉①浜司・浜司(博多屋)
【第39回大会】1987(昭和62)年
〈男　子〉複①佐田・中村(西銀)
単①中村(西銀)
〈女　子〉複①磯村・藤(ベスト電器)
単①石井(北九州ク)
〈混　合〉①椋本(西部ガス)・浜口(西銀)
【第40回大会】1988(昭和63)年
〈男　子〉複①宮崎・久住(福大)
単①中村(西銀)
〈女　子〉複①浜・白石(西銀)
単①早川(大野城)
【第41回大会】1989(平成1)年
〈男　子〉複①桜井・石井(ベスト電器)
単①沙(ベスト電器)
〈女　子〉複①藤・渡辺(ベスト電器)
単①藤(ベスト電器)
【第42回大会】1990(平成2)年
〈男　子〉複①石井・東(ベスト電器)
単①椋本(西部ガス)
〈女　子〉複①渡辺・田頭(ベスト電器)
〈混　合〉①江口・平井(福岡シティ銀)
【第43回大会】1991(平成3)年
〈男　子〉複①東•石井(ベスト電器)
単①石井正行(ベスト電器)
〈女　子〉複①金・田頭(ベスト電器)
単①川添(ベスト電器)
〈混　合〉①山田・真名子(ベスト電器)
【第44回大会】1992(平成4)年
〈男　子〉複①藤原・水島(ベスト電器)
単①藤原(ベスト電器)
〈女　子〉複①川添・片岡(ベスト電器)
単①片岡(ベスト電器)
〈混　合〉①山田・田頭(ベスト電器)
【第46回大会】1994(平成6)年
〈男　子〉複①中村・五十嵐(ベスト電器)
単①横沢(ベスト電器)
〈女　子〉複①小早川・稗田(九国大付属高)
単①稗田(九国大付属高)

全九州家庭婦人バドミントン競技大会

【第5回大会 唐津】1983(昭和58)年
〈30才以上〉②福岡A　酒井庸子・山下艶子・伊藤信子・小野加代・川原道子・岡村靖子・南貴美子・田平タズ子
〈40才以上〉②福岡A　内田紅実子・大木千波・赤星京子・利根綾子・真名子栄子・友永順子・野原よし枝・相野テツ子
【第6回大会 宮崎】1984(昭和59)年
〈30才以上〉②福岡　緒方容子・土器園登司美・橋本加代子・末永節子・岩本敬子・西原八重子毛利清美・坂本由紀代
【第7回大会 熊本】1985(昭和60)年
〈30才以上〉②福岡A　益田智子・橋本加代子・毛利清美・岩本敬子・田代正子・西原八重子・永野乃理子
【第8回大会 長崎】1986(昭和61)年
〈40才以上〉②福岡A　南貴美子・山下シノブ・赤星京子・米村咏子・財部蘭子・山田喜代子須藤静子・利根敦子
【第10回大会 唐津】1988(昭和63)年
〈30才以上〉②福岡A　橋本加代子・岩本敬子・西原八重子・山川優子・田代正子・江角和枝・鬼木洋子・武藤千代子

〈40才以上〉①福岡A　友永順子・西大篠和子・脇本英子・樋口定子・有園靖子・吉沢ヤス子・樋口照子・土器園登司美
〈45才以上〉①福岡A　財部蘭子・宮地弘子・赤星京子・米村咏子・早川タカ子・黒川香代子河野治美・一木房枝　②福岡B　西田千枝子・遠山とあ子・山田喜代子・利根敦子・野原淑枝太田善美・末永睦子・羽迫恭子

【第11回大会 桜島】1989(平成1)年
〈45才以上〉②福岡A　有園靖子・江原美智子・赤星京子・米村咏子・財部蘭子・宮地弘子・山田喜代子・利根敦子

【第12回大会 那覇】1990(平成2)年
〈45才以上〉①福岡A　有園靖子・江原美智子・山田喜代子・利根敦子・小川末子・小笹昇枝・財部蘭子・宮地弘子

【第13回大会 福岡】1991(平成3)年
〈40才以上〉①福岡A　友永順子・西大篠和子・江角和枝・田代正子・西村美代子・松下洋子・小森幸子・古川則子
〈45才以上〉①福岡A　有園靖子・樋口定子・山崎靖子・河内山由利子・川野清香・福田フミ大庭千恵子・中嶋美代子

【第14回大会 宮崎】1992(平成4)年
〈50才以上〉②福岡　小川末子・蔵ヶ崎雅子・一木房枝・山下シノブ・山田喜代子・坂原スギエ・太田善美・野原淑恵

【第15回大会 熊本】1993(平成5)年
〈40才以上〉①福岡A　鬼木洋子・安倍悦子・樋口定子・田代正子・江角和枝・鐘ヶ江敏子
〈50才以上〉②福岡　河内山由利子・山崎桂子・原田良子・小川末子・坂原スギエ・一木房枝・山下シノブ・大庭千恵子

【第16回大会 大分】1994(平成6)年
〈50才以上〉①福岡A　樋口定子・河内山由利子友永順子・大庭千恵子・小川末子・有園靖子・原田良子

【第17回大会 佐賀】1995(平成7)年
〈30才以上〉①福岡A　奥村綾子・坂井美智子・脇本英子・堂山貴美子・佐竹豊子・谷脇洋子・梅田真澄・津崎由紀子
〈45才以上〉②福岡　坂元つぎ子・岡元恭子・山崎桂子・若狭伸子・毛利清美・橋本加代子・権藤由紀子・高平勝子
〈50才以上〉①福岡　河内山由利子・友永順子・大庭千恵子・有園靖子・原田良子・樋口定子・南貴美子・内田紅美子

【第18回大会 長崎】1996(平成8)年
〈50才以上〉①福岡　南貴美子・内田紅美子・河内山由利子・友永順子・有園靖子・原田良子樋口定子・熊迫悦子
〈55才以上〉②福岡　山崎桂子・中村一子・加藤好江・丸毛和美・一木房枝・小川末子・坂原スギエ・山下シノブ

福岡県家庭婦人バドミントン連盟県大会

○クラス別A級・B級大会

【第20回大会】1993(平成5)年
〈A級30代〉①光吉(シャトルフレンズクラブ)・津崎(どんぐりクラブ)
②中村(黒崎クラブ)・田辺(水鳥クラブ)
〈A級40代〉①江角(三宅シャトル)・田代(筑紫野レディース)
②香月・田ノ上(黒崎クラブ)
〈B級30代〉①宮脇・竹林(篠栗クラブ)
②川述(さくらクラブ)・片井(弥永西クラブ)
〈B級40代〉①樋口(和白東クラブ)・板倉(香椎クラブ)
②加藤(ホワイトクラブ)・福原(八児クラブ)
〈B級45才以上〉①小笹(美和台クラブ)・梅田(かようクラブ)
②野口(野多目クラブ)・酒井(シャトル赤坂)

【第21回大会】1994(平成6)年度
〈A級30代〉①津崎(どんぐりクラブ)・堂山

（西戸畑クラブ）
②梅田（千早クラブ）・脇本（奈多クラブ）
〈A級45才以上〉①樋口（和白東クラブ）・友永（城南クラブ）
②白川（粕屋クラブ）・毛利（篠栗クラブ）
〈B級30代〉①阿部（平尾クラブ）・篠原（当仁クラブ）②前田・仙波（早良クラブ）
〈B級40代〉①喜多村・岡元（藤崎クラブ）
②水間・奥田（ちくし野レディース）
〈B級45才以上〉①小川・渡辺（春日クラブ）
②古川・広石（藤崎クラブ）
【第22回大会】1995（平成７）年度
〈A級30代〉①梅田（千早クラブ）・脇本（奈多クラブ）②中村（黒崎クラブ）・林（ウィング）
〈A級40代〉①田代（ちくし野レディース）・江角（みやけシャトル）②伊藤・川述（さつき会）
〈A級50才以上〉①樋口（和白東クラブ）・友永（城南クラブ）②南・内田（高見クラブ）
〈B級30代〉①加世田・縄田（グリーンクラブ）
②藤本・末広（フリーバード）
〈B級40代〉①福岡・堀（さつき会）
②西垣・武富（さつき会）
【第23回大会】1996（平成８）年度
〈A級30代〉①梅田（千早クラブ）・脇本（奈多クラブ）
②桶本（それいゆクラブ）・酒井（高見クラブ）
〈A級40代〉①佐竹（南当仁シャトルズ）・西村（春日クラブ）
②田代（筑紫野レディース）・江角（三宅シャトルズ）
〈A級50才以上〉①南・内田（高見クラブ）
②樋口（和白東クラブ）・友永（城南クラブ）
〈B級30代〉①古賀・川谷（クリアレディース）
②大場・筒井（高見クラブ）
〈B級40代〉①岩中（シーガルクラブ）・高橋（バードクラブ）
②権藤・阿比留（大野城クラブ）
【第24回大会】1997（平成９）年度
〈A級30代〉①藤永（千早クラブ）・仁田（A・Aクラブ）②奥村・酒井（高見クラブ）
〈A級40代〉①田代・西村（A・Aクラブ）
②伊藤・縄田（さつき会）
〈A級50才以上〉①樋口（A・Aクラブ）・南（高見クラブ）
②野見山（早良クラブ）・植木（エンドレス）
〈B級30代〉①柳（新幹線クラブ）・有働（春日ママクラブ）
②松山（香椎浜クラブ）・下部（美和台クラブ）
〈B級40代〉①白垣・家村（大池クラブ）
②笹原・木村（築上クラブ）
〈B級50才以上〉①小川（春日ママクラブ）・中村（エンドレス）
②井上・高尾（さつき会）

○クラス別C級大会

【第20回大会】1993（平成５）年
〈C級30代〉①赤池・大山（遠賀リバース）
②大池・井出（スマッシュ）
〈C級40代〉①近藤・安広（築上クラブ）
②岡本・立石（藤崎クラブ）
〈C級45才以上〉①鹿子生・杉（スカイクラブ）
②村上・杉本（筑紫野クラブ）
【第21回大会】1994（平成６）年度
〈C級30代〉①高橋・宮本（中間ウィング）
②吉本・下前（高見クラブ）
〈C級40代〉①出口・宮崎（シャトル）
②鈴木・水落（すずんクラブ）
〈C級45才以上〉①有高・浅津（平尾クラブ）
②上田・谷口（にんじんクラブ）
【第22回大会】1995（平成７）年度
〈C級30代〉①林田・幸野（サンデークラブ）
②岩崎（フェイトクラブ）・中野（水巻クラブ）
〈C級40代〉①堀尾・香原（たんぽぽクラブ）
②高尾・小山（さつき会）

【第23回大会】1996(平成８)年度
〈C級30代〉①藤井・谷村(サーティーズ)
②西・大久保(KALEN)
〈C級40代〉①椎葉(大池クラブ)・白垣(野多目クラブ) ②貞光・石橋(アップルクラブ)
〈C級50代〉①小川(春日クラブ)・吉田(美和台クラブ) ②布引・木村(すみれクラブ)
【第24回大会】1997(平成９)年度
〈C級30代〉①森・正野崎(カトレア)
②岡部・岩崎(中間ウィングス)
〈C級40代〉①仲山・中村(福間クラブ)
②富永(SUNクラブ)・永松(下山門クラブ)

○クラス別D級大会

1993(平成５)年度
〈30代〉①小松(シャトルハウス)・江島(サンデー) ②岩崎・下前(とまとクラブ)
〈40代〉①大森・竹内(遠賀クラブ)
②入江・太田(遠賀クラブ)
〈45才以上〉①黒田・羽迫(ひまわりクラブ)
②倉光・飯田(和白東クラブ)
1994(平成６)年度
〈30代〉①白垣・篠崎(大池クラブ)
②古賀・児島(フライングレディ)
〈40代〉①益田・板床(大牟田家庭婦人クラブ)
②上松・杉崎(大牟田)
〈45才以上〉①杉野・船原(大牟田家庭婦人クラブ) ②福岡・西山(大牟田家庭婦人クラブ)
1995(平成７)年度
〈30代〉①蒲池・宮本(SUNクラブ)
②田中・富永(SUNクラブ)
〈40代〉①加来・鈴木(田島クラブ)
②高尾・郷原(城南クラブ)
〈50代〉①沖(シャトル赤坂)・藤原(南当仁シャトルズ) ②高下・飯田(那珂川家庭婦人)
1996(平成８)年度
〈30代〉①梶原・谷村(ウィングシャトル)
②古賀・上谷(若松クラブ)
〈40代〉①村岡・皆川(フレンズ当仁クラブ)
②大石・植田(ウィングシャトル)
〈50代〉①丸山(フェイントクラブ)・松本(中間ウィング)
②天賀(アップルクラブ)・日高(直方クラブ)
1997(平成９)年度
〈30代〉①一柳・井島(さつき会)
②沖永(城南クラブ)・山口(わかばクラブ)
〈40代〉①川原・古藤(SUNクラブ)
②吉村・宮地(SUNクラブ)
〈50代〉①松本・松延(筑紫野レディース)
②鐘江・合屋(とびうめクラブ)

福岡県家庭婦人バドミントン大会

【第15回大会】1992(平成４)年
〈30才以上〉①梅田(千早クラブ)・脇本(美和台クラブ)
〈40才以上〉①江角(三宅シャトル)・田代(筑紫クラブ)
〈45才以上〉①友永(城南クラブ)・樋口(和白東クラブ)
〈50才以上〉①植木(百道クラブ)・河内山(藤崎クラブ)
【第16回大会】1993(平成５)年
〈30才以上〉①梅田(千早クラブ)・脇本(美和台クラブ)
〈40才以上〉①鬼木(百道クラブ)・安部(FB)
〈50才以上〉①河内山(百道クラブ)・原田(大野城クラブ)

全九州家庭婦人バドミントン競技大会 福岡予選会

【第18回大会】1996(平成８)年
〈30代の部〉 ①脇本(奈多クラブ)・梅田(千早クラブ) ②奥村・酒井(高見クラブ)
〈40代の部〉 ①岩本(新幹線クラブ)・椿(城南クラブ)
②秋山(運道具屋クラブ)・西村(春日クラブ)
〈45代の部〉 ①大庭(百道クラブ)・岡元(藤崎クラブ)
②藤井(香住丘クラブ)・中村(千早クラブ)
〈50代の部〉 ①河内山・熊迫(藤崎クラブ)
②内田・南(高見クラブ)
〈55才以上〉 ①中村・山崎(百道クラブ)
②丸毛(千早クラブ)・加藤(美和台クラブ)

全日本家庭婦人バドミントン競技大会

【第７回大会 大阪】1989(平成１)年
〈クラブ対抗の部〉 ①水曜会(北九州市) [監督] 伊藤信子 [選手] 伊藤信子・川口益代・中村豊子・佐田睦子・石井美季・古森千恵・津崎由紀子
【第13回大会 長崎】1986(平成７)年
〈クラブ対抗の部〉 ②AAクラブ(福岡市) [監督] 脇本英子 [選手] 脇本英子・谷脇洋子 梅田真澄・秋山信江・田代正子・樋口定子

西日本家庭婦人バドミントン大会

【第22回大会】1995(平成７)年
〈１部〉 ③脇本英子・梅田真澄(AAクラブ)
〈２部Ａ〉 ①岡直見(早良区)・廣本(西区)
〈２部Ｃ〉 ②津崎由美子・光吉千佳子(どんぐり)
③武藤千代子・秋山信枝(AAクラブ)
〈２部Ｅ〉 ②有薗靖子(愛好会)・原田良子(大野城連盟)

福岡県教職員バドミントン選手権大会

【第１回大会】1969(昭和44)年
〈男子複〉 Ａ級 ①都(二ツ河小)・鎗水(浮羽高校) ②中島(門司高校)・永岡
Ｂ級 ①平山・須藤 ②麻生・酒井(福教大)
〈混合復〉 ①都(二ツ河小)・田崎
②麻生・谷延(福教大)
【第３回大会】1970(昭和45)年
〈男子複〉 Ａ級 ①都(二ツ河小)・鎗水(浮羽高校) ②中島(門司高校)・野見山(鞍手高校)
Ｂ級 ①山下(九大)・村尾(枝光中)
②酒井・有田(福教大)
〈男子単〉 Ａ級 ①野見山(鞍手高校)
②中島(門司高校)
Ｂ級 ①村尾(枝光中) ②有田(福教大)
【第５回大会】1971(昭和46)年
〈男子複〉 Ａ級 ①野見山(鞍手高校)・中島(大川高校) ②小川・上薗(長尾中)
Ｂ級 ①藤本(北九大)・村尾(枝光中)
②田中・片岡(九工大)
Ｃ級 ①大久保・新村(九工大)
②大島・渡辺(九工大)
〈男子単〉 Ｂ級 ①藤本(北九大) ②村尾(枝光中)
Ｃ級 ①横溝(京都高校) ② 内丸(京都高校)
【第６回大会】1972(昭和47)年
〈男子複〉 Ａ級 ①都(二ツ河小)・中島(大川高校) ②野見山(鞍手高校)・小川
Ｂ級 ①浜野・小江(九州大)
②後藤・石藤(九州大)
Ｃ級 ①横手・江藤(九州大)
②中尾・市川(九州大)
〈男子単〉 Ａ級 ①野見山(鞍手高校)
②都(二ツ河小)
Ｂ級 ①小江(九州大) ② 浜野(九州大)
Ｃ級 ①横手(九州大) ② 佐藤(九州大)

【第 7 回大会】1972(昭和47)年
〈男子複〉 A級 ①鎗水(浮羽高校)・中島(大川高校)
②村尾(沖田中)・上薗(長尾中)
B級 ①中川・今橋(大村小)
②田中・大久保(九工大)
C級 ①若杉・藤波(九州大)
②中野・江藤(九州大)
〈女子複〉 ①入江(東郷中)・天野(福教大)
②北本(北九州高専)・権藤(浮羽高校)
〈男子単〉 A級 ①中島(大川高)
②鎗水(浮羽高校)
B級 ①酒井(福教大) ②横溝(京都高校)
C級 ①筧(大村小) ②水口(北九州高専)
〈女子単〉 A級 ①堤(九州女子高)
②安藤(福間中)
B級 ①入江(東郷中) ②権藤(浮羽高校)
【第 8 回大会】1973(昭和48)年
〈男子複〉 A級 ①都(二ツ河小)・野見山(鞍手高校)
②鎗水(浮羽高校)・中島(大川)
B級 ①大久保・片岡(九工大)
②速水・末岡(九州大)
C級 ①大城・森(九州大)
②兼行・井上(九州大)
〈男子単〉 A級 ①中島(大川高)
②鎗水(浮羽高校)
B級 ①速水(九州大) ②後藤(九州大)
C級 ①若杉(九州大) ②金子(九州大)
【第 9 回大会】1973(昭和48)年
〈男子複〉 A級 ①野見山(鞍手高校)・村尾(沖田中)
②古川(小南中)・上薗(長尾中)
B級 ①筧・今橋(横武中)
②後藤・石蔵(九州大)
C級 ①内田・水口(北九州高専)
②合谷・橋村(北九州高専)
〈女子複〉 ①高丸(久原小)・吉開(鞍手高校)
②森本(鞍手高校)・伊藤(南小倉中)
〈男子単〉 A級 ①野見山(鞍手高校)
②上薗(長尾中)
B級 ①酒井(福教大) ②後藤(九州大)
C級 ①内田(北九州高専) ②水口(北九州高専)
〈女子単〉 A級 ①高丸(久原小)
②伊藤(南小倉中)
【第10回大会】1974(昭和49)年
〈男子複〉 A級 ①上薗(長尾中)・松尾(田島小)
②森下(東谷中)・古川(南小倉中)
B級 ①水口・内田(北九州高専)
②酒井・大峯(福教大)
C級 ①中野・西畑(九州大)
②橋村・合谷(北九州高専)
〈女子複〉 ①井上(西国分小)・高丸(久原小)
②大和・西村(九工大)
〈男子単〉 A級 ①上薗(長尾中)
②野見山(筑豊工高)
B級 ①後藤(九州大) ②横溝(京都高校)
C級 ①大城(九州大) ②合谷(北九州高専)
〈女子単〉 A級 ①井上(西国分小)
②高丸(久原小)
【第11回大会】1974(昭和49)年
〈男子複〉 A級 ①野見山(筑豊工高)・村尾(沖田中)
②鎗水(浮羽高校)・横溝(京都高校)
B級 ①田中・片岡(北九州高専)
②佐藤(九州大)・江藤(九州教大)
C級 ①井上・兼行(九州大)
②中尾・市川(九州大)
〈女子複〉 ①伊藤・西(島門小)
②柴田・和田(島門小)
〈男子単〉 A級 ①野見山(筑豊工高)
②鎗水(浮羽高校)

B級 ①佐藤(九州大) ②内田(北九州高専)
C級 ①合谷(北九州高専) ②中野(九州大)
〈女子単〉 A級 ①中園(中巻南中) ②西(島門小)
【第23回大会】 1980(昭和55)年
〈男子複〉 A級 ①古川(柳城中)・梅崎(木室小)
②前山・日高(九州大)
B級 ①山下・刃根(長尾小)
②鬼木・鯨(九歯大)
C級 ①堀・中島(久留米大)
②柴田・柴田(九州大)
〈女子複〉 A級 ①村井・大村(九州大)
②西原(九工大)・馬渕(久留米歯専)
B級 ①入江・金光(九州大)
②笹岡・徳安
〈混合複〉 ①鯨(九歯大)・内田(戸畑中央高)
②梅崎(木室小)・馬渕(久留米歯専)
〈男子単〉 A級 ①鯨(九歯大)
②梅崎(木室小)
B級 ①蔵内 ②牛島
C級 ①内山 ②横田(九州大)
〈女子単〉 A級 ①馬渕(久留米歯専)
②内田(戸畑中央高)
B級 ①西原(久留米歯専) ②金光(九州大)
【第24回大会】 1981(昭和56)年
〈男子複〉 A級 ①鎗水(浮羽高校)・梅崎(木室小)
②前山・日高(九州大)
B級 ①染谷(九州大)・中村(県教委)
②田中(古賀養護)・石井(稲東小)
C級 ①柴田・柴田(九州大)
②藤井・吉海(九州大)
〈40才以上男子複〉 ①村尾(折尾中)・福山(九工大) ②大島・北井(九工大)
〈女子複〉 A級 ①内田(戸畑中央高)・高城(八大付属校) ②大賀・池田(九州大)
B級 ①古城・崎浴(九州大)
②遠藤(妹川小)・川島(植木小)
〈混合複〉 ①古川(柳城中)・紫牟田(久留米大)
②日ノ下(春日東小)・川上(北野中)
〈男子単〉 A級 ①鯨(九歯大) ②梅崎(木室小)
B級 ①内山(北九州高専) ②高木(九歯大)
C級 ①刃根(長尾小) ②中村(県教委)
〈40才以上男子単〉 ①村尾(折尾中)
②福山(九工大)
〈女子単〉 A級 ①内田(戸畑中央高)
②高城(八大付属高)
B級 ①遠藤(妹川小) ②古城(九州大)
【第25回大会】 1981(昭和56)年
〈男子複〉 A級 ①鎗水(浮羽高校)・古川(柳城中)
②後藤・日高(九州大)
B級 ①江頭・横田(九州大)
②平田・武居(九州大)
C級 ①草野・池田(九州大)
②野瀬・藤井(九州大)
〈40才以上男子複〉 ①後藤(九州大)・鳥井(久留米高専)
②新垣・国宗(福女大)
〈女子複〉 A級 ①村井・大村(九州大)
②浦田(一枝小)・西原(九工大)
B級 ①遠藤(妹川小)・内藤(吉井幼稚園)
②立野(和白小)・井手(九州大)
〈混合複〉 ①杉(金山小)・中野(次郎丸中)
②副島(九州大)・寺山(金桜中)
〈男子単〉 A級 ①鯨(九歯大) ②古川(柳城中)
B級 ①刃根(長尾小) ②武居(九州大)
C級 ①中村(福岡スクール) ②堀(久留米大)
〈40才以上男子単〉 ①村尾(折尾中)
②後藤(九州大)
〈女子単〉 A級 ①内田(戸畑中央高)
②高城(八大付属高)
B級 ①遠藤(妹川小) ②古城(九州大)
【第26回大会】 1982(昭和57)年
〈男子複〉 A級 ①鎗水(浮羽高校)・古川(柳城中)

②鯨(九歯大)・江上(池田小)
B級 ①柴田・仰木(九州大)
②東野・愛甲(九州大)
C級 ①野瀬・藤井(九州大)
②中野・吉田(九州大)
〈40才以上男子複〉 ①国宗・佐久本(福女大)
②桜田・早川(九州大)
〈女子複〉 A級 ①高城(八大付高)・寺山(篠崎中)
②浦田(八大付高)・西原(九工大)
B級 ①仰木・花田(九州大)
②古城(九州大)・小俣(福女大)
〈混合複〉 ①内田・中村(北九州高専)
②向山(大和中)・猿渡(須恵二小)
〈男子単〉 A級 ①梅崎(木室小) ②鯨(九歯大)
B級 ①中村(福間教委) ②園田(九州大)
C級 ①横田(九州大) ②野瀬(九州大)
〈40才以上男子単〉 ①後藤(九州大)
②福山(九工大)
〈女子単〉 A級 ①高城(八大付属高)
②浦田(八大付属高)
B級 ①古賀(白峰保) ②小俣(福女大)

【第27回大会】 1983(昭和58)年
〈男子複〉 A級 ①鎗水(浮羽高校)・鯨(九歯大)
②野見山(県教委)・江上(池田小)
B級 ①池田・藤川(九州大)
②野瀬・藤井(九州大)
C級 ①中野・吉田(九州大)
②笠野・善明(久留米高専)
〈40才以上男子複〉 ①村尾(折尾中)・上村(山門高) ②大島・北井(九工大)
〈女子複〉 A級 ①内田(戸畑中央高)・高城(八大付校) ②浦田(八大付高)・西原(九工大)
B級 ①井手・花田(九州大)
②板井(西南女学院高)・林(八大付高)
〈混合複〉 ①古川(昭代二小)・古川(柳城中)
②向山(大和中)・猿渡(須恵二小)
〈男子単〉 A級 ①島添(手鎌小) ②梅崎(木室小)
B級 ①江頭(九州大) ②高木(九歯大)
C級 ①池田(九州大) ②野瀬(九州大)
〈40才以上男子単〉 ①村尾(折尾中)
②上村(山門高)
〈女子単〉 A級 ①内田(戸畑中央高)
②高城(八大付属高)
B級 ①井手(九州大) ②林(八大附属高)

【第28回大会】 1983(昭和58)年
〈男子複〉 A級 ①筏島(原北中)・手島(西短大)
②江上(池田小)・山本(小倉聾)
B級 ①佐藤・副島(九州大)
②中野・吉田(九州大)
C級 ①石松(遠賀中)・広瀬(芦屋中)
②安田・高田(九州大)
〈40才以上男子複〉 ①後藤(九州大)・国宗(福女大) ②村尾(折尾中)・石井(稲築東小)
〈女子複〉 A級 ①内田(戸畑中央高)・高城(八大付校) ②遠藤(妹川小)・内藤(吉井幼稚園)
〈混合複〉 ①鯨(九歯大)・松田(九工大)
②古川(柳城中)・馬渕(久留米歯専)
〈男子単〉 A級 ①古賀(学業院中) ②目野(御陵中)
B級 ①副島(九州大) ②池田(九州大)
C級 ①吉田(九州大) ②石松(遠賀中)
〈40才以上男子単〉 ①村尾(折尾中)
②後藤(九州大)
〈女子単〉 A級 ①内田(戸畑中央高)
②高城(八大付属高)
B級 ①松田(九工大) ②内藤(吉井幼稚園)

【第30回大会】 1984(昭和59)年
〈男子複〉 A級 ①島添(手鎌小)・古賀(学業院中)
②江上(池田小)・野見山(県教委)
B級 ①梅宮・池田(九州大)
②野瀬・藤井(九州大)
C級 ①日田(青山小)・戸田(赤坂小)
②大倉野・安田(九州大)

〈40才以上男子複〉①後藤(九州大)・国宗(福女大) ②北井・大島(九工大)
〈女子複〉A級 ①堀(篠栗中)・矢野(芦屋東小) ②菊竹(春日高)・浦田(八大付高校)
B級 ①秋吉(鳴水幼稚)・山本(旭ヶ丘幼稚) ②橋本(産業能大)・内藤(吉井幼稚)
〈混合複〉①古川(柳城中)・馬渕(久留米歯専) ②中島・柴田(久大府高)
〈男子単〉A級 ①古賀(学業院中) ②江上(池田小)
B級 ①池田(九州大) ②梅宮(九州大)
C級 ①中島(久大府高) ②戸田(赤坂小)
〈40才以上男子単〉①村尾(折尾中) ②後藤(九州大)
〈女子単〉A級 ①矢野(芦屋東小) ②馬渕(久留米歯専)
B級 ①柴田(久大府高) ②秋吉(鳴水幼稚園)

【第31回大会】1984(昭和59)年
〈男子複〉A級 ①目野(御陵中)・古賀(学業院中) ②鎗水(浮羽高)・野見山(県教委)
C級 ①高田・金子(九州大) ②妹川(筑豊工)・日高(鞍手高)
〈40才以上男子複〉①後藤(九州大)・国宗(福女大) ②稲田(九工大)・高橋(福女大)
〈女子複〉B級 ①的野(筑紫中央高)・東(大溝小) ②中村・平野(柳城中)
〈男子単〉A級 ①古賀(学業院中) ②梅崎(木室小)
C級 ①小野(直方三中) ②金子(九州大)
〈40才以上男子単〉①牛島(筑紫中央高) ②村尾(折尾中)
〈女子単〉B級 ①的野(筑紫中央高) ②古川(昭代二小)

【第34回大会】1986(昭和61)年
〈男子複〉A級 ①荒木(伝習館高)・島添(手鎌小) ②古賀(学業院中)・古川(柳城中)
B級 ①相場(嘉穂工高)・平野(嘉穂農高) ②大久保(小郡養護)・千代田(田主丸養護)
C級 ①迎木・木村(九州大) ②尾木・加来(古賀養護)
〈40才以上男子複〉①後藤(九州大)・国宗(福女大) ②福山(九工大)・村尾(本城中)
〈女子複〉A級 ①石本(キラキラ星幼稚園)・園田(東筑紫短大附高) ②福田(九州共立大)・江島(直方聾)
B級 ①牟田(赤崎小)・松田(医生ヶ丘小) ②石井(藤木小)・花田(本城小)
〈混合複〉①日高・遠江(田主丸養護) ②田中・池田(九州芸工大)
〈男子単〉A級 ①荒木(伝習館高) ②目野(御陵中)
B級 ①平野(嘉穂農高) ②相場(嘉穂工高)
C級 ①仰木(九州大) ②加木(古賀養護)
〈40才以上男子単〉①石井(稲築東小) ②村尾(本城中)
〈女子単〉A級 ①石本(キラキラ星幼稚園) ②日高(南福岡養護)
B級 ①西村(東福岡養護) ②石井(藤木小)

【第36回大会】1987(昭和62)年
〈男子複〉A級 ①坂本(二島中)・成富(八幡西高) ②松枝(大善寺小)・田中(山びこ学園)
B級 ①大久保(小郡養護)・千代田(田主丸養護) ②内野・堀(嘉穂養護)
C級 ①日高・妹川(筑豊高) ②是石(稲築東小)・矢野(甘木小)
〈40才以上男子複〉①石井(稲築西市小)・横溝(甘木小) ②国宗(福女大)・村尾(本城中)
〈女子複〉B級 ①平野(平垣小)・大村(上穂波小) ②高橋(筑後養護)・小川(筑後養護)
〈混合複〉①広瀬・矢野(遠賀中) ②辻・松尾(小郡養護)
〈男子単〉A級 ①成富(八幡西高) ②坂本(二島中)
B級 ①相場(嘉穂工高) ②田中(山びこ学園)

C級 ①妹川(筑豊高) ②津村(筑後養護)
〈40才以上男子単〉 ①横溝(小倉工高)
②村尾(本城中)
〈女子単〉 A級 ①南(小倉聾)
②秋吉(鳴水幼稚園)
B級 ①大村(上穂波小) ②平野(平垣小)
【第37回大会】 1987(昭和62)年
〈男子複〉 A級 ①坂本(二島中)・成富(八幡西高)
②荒木(伝習館高)・古川(柳城中)
B級 ①野瀬・藤井(九州大)
②中野・吉田(九州大)
C級 ①北村・吉嶺(九州大)
②吉本(小倉工高)・矢野(北九州高専)
〈40才以上男子複〉 ①副島・池田(九州大)
②内丸(稲築西小)・横溝(小倉工高)
〈女子複〉 A級 ①江島(直方聾)・矢野(遠賀中)
②大村・梅宮(九州大)
〈混合複〉 ①前山(九州大)・中山(福岡女子高)
②中川・土田(福岡大)
〈男子単〉 A級 ①目野(南福岡女子高)
②荒木(伝習館高)
C級 ①吉本(小倉工高) ②矢野(北九州高専)
〈40才以上男子単〉 ①横溝(小倉工高)
②村尾(本城中)
【第39回大会】 1989(平成1)年
〈男子複〉 A級 ①坂本(二島中)・成富(八幡西高)
②目野(瀬高中)・古賀(筑後中)
B級 ①山下・水城(久留米大)
②泉(蒲池小)・吉武(東宮永小)
C級 ①村山・泊(久留米大)
②沖西・大坪(武蔵台高)
〈40才以上男子複〉 ①池田・副島(九州大)
②横溝(小倉工高校)・古川(蒲池中)
〈女子複〉 B級 ①下村・千代島(久留米大)
②中村・田中(折尾高)
〈混合複〉 ①鹿毛・有富(久留米大)
②平野・江島(筑後養護)
〈男子単〉 A級 ①荒木(伝習館高)
②成富(八幡西高)
B級 ①山下 ②鹿毛(久留米大)
C級 ①村山(久留米大) ②大坪(武蔵台高)
〈40才以上男子単〉 ①副島(九州大)
②横溝(小倉工高)
〈女子単〉 A級 ①豊福(太宰府中)
②楢原(宮の陣小)
B級 ①下村(久留米大) ②田中(小郡高)
【第40回大会】 1989(平成1)年
〈男子複〉 A級 ①荒木(伝習館高)・目野(福岡南女子高) ②坂本(二島中)・相場(嘉穂工高)
B級 ①徳永(三宅小)・田中(馬出小)
②堀・内野(嘉穂養護)
〈40才以上男子複〉 ①池田・副島(九州大)
②横溝(小倉工高校)・古川(蒲池中)
〈混合複〉 ①石井(稲築西小)・大村(上穂波小)
②籾井(田川農高)・藤島(椋本小)
〈男子単〉 A級 ①荒木(伝習館高)
②目野(福岡南女子高)
B級 ①矢野(朝倉農高) ②吉本(小倉工高)
C級 ①才野(九州大) ②花等(九州芸工大)
〈40才以上男子単〉 ①副島(九州大)
②古川(蒲池中)
〈女子単〉 A級 ①楢原(宮の陣小)
②豊福(太宰府中)
B級 ①谷口(田川農林高) ②大村(上穂波小)
【第41回大会】 1989(平成元)年
〈男子複〉 A級 ①成富(八幡西高)・坂本(二島中)
②矢野(朝倉農高)・吉本(小倉工高)
B級 ①村尾(本城中)・江口(太宰部高)
②戸田・桜井(赤坂小)
C級 ①田中・岩崎(古賀養護)
②日高(博多工高)・桜井(赤坂小)
〈40才以上男子複〉 ①池田・副島(九州大)
②横溝(小倉工高)・野見山(県教委)

〈混合複〉①国宗(福女大)・福田(九州共立大)
②金本・田中(九州大)
〈男子単〉A級 ①目野(福岡南女子高)
②荒木(伝習館高)
B級 ①吉本(小倉工高) ②江頭(九州大)
C級 ①河津(九州大) ②金本(九州大)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②横溝(小倉工高)
〈女子単〉B級 ①福田(九州共立大)
②中村(折尾高)

【第44回大会】1991(平成3)年
〈男子複〉A級 ①成富(八幡西高)・坂本(二島中)
②日高・木村(九州大)
B級 ①梅崎(川口中)・田中(大川中)
②平川・三俣(久留米高専)
C級 ①吉嶺・金本(九州大)
②末次(矢留小)・西原(矢留小)
〈40才以上男子複〉①池田・副島(九州大)
②横溝(小倉工高)・古川(教大福中)
〈混合複〉①平田(大牟田高)・平田(明治小)
②前田・古賀(九州大)
〈女子複〉B級 ①服部・相浦(柳川教委)
②福重・嶋(九州大)
〈男子単〉A級 ①荒木(伝習館高)
②目野(福岡南女子高)
B級 ①梅崎(川口中) ②平田(大牟田高)
C級 ①前田(九州大) ②下川(伝習館高)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②古川(教大福中)
〈女子単〉B級 ①福重(九州大) ②平田(明治小)

【第45回大会】1991(平成3)年
〈男子複〉A級 ①永松(八枝中)・坂本(二島中)
②愛甲・西村(九州大)
B級 ①鹿毛(久留米大)・松尾(九州大)
②国宗(福女大)・河津(九州大)
C級 ①増原・畑(九州大)
②笠野・田上(久留米高専)
〈40才以上男子複〉①池田・副島(九州大)
②横溝(小倉工高)・古川(教大福中)
〈混合複〉①成富(八幡西高)・増谷(ひかりの子幼) ②平田(大牟田高)・平田(明治小)
〈女子複〉B級 ①飯田・日高(東福岡養護)
②中村(東郷小)・伊藤(遠賀中)
〈男子単〉A級 ①成富(八幡西高)
②坂本(二島中)
B級 ①田中(福岡大) ②劉(九州大)
C級 ①金本(九州大) ②岩崎(古賀養護)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②上薗(片江中)
〈女子単〉A級 ①増谷(ひかりの子幼)
②菊竹(光陵高)
B級 ①日高(東福岡養護) ②阿部(城山中)

【第46回大会】1992(平成4)年
〈男子複〉A級 ①日高(九州大)・坂本(香月中)
②吉富(久留米高専)・鹿毛(久留米大)
B級 ①平田(大牟田高)・横溝(小倉工高)
②田中・岩崎(古賀養護)
C級 ①笠野・田上(久留米高専)
②門田・黒木(福女大)
〈40才以上男子複〉①池田・副島(九州大)
②村尾(本城中)・広瀬(遠賀南中)
〈混合複〉①緒方(東宮永小)・菊竹(光陵高)
②安永(九州大)・中村(東郷小)
〈女子複〉B級 ①福田(九州共立大)・森山(福女大) ②郷原・細谷(福岡大)
〈男子単〉A級 ①坂本(香月中) ②端野(中間高)
B級 ①鹿毛(久留米大) ②仰木(九州大)
C級 ①田中(古賀養護) ②岩崎(古賀養護)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②横溝(小倉工高)
〈女子単〉A級 ①菊竹(光陵高) ②平田(明治小)
B級 ①森山(福女大) ②中村(東郷小)

【第47回大会】1992(平成４)年
〈男子複〉 A級 ①成富(八幡西高)・坂本(香月中)
②上野(安徳小)・端野(中間高)
B級 ①吉嶺・金本(九州大)
②前田・倉谷(九州大)
C級 ①川崎・日高(姪浜小)
②綿貫(大川中)・久留嶋(大川東中)
〈40才以上男子複〉 ①池田・副島(九州大)
②村尾(本城中)・広瀬(遠賀南中)
〈混合複〉 ①遠江(田主丸養護)・日高(東福岡養護) ②鮎川・二見(九州大)
〈女子複〉 B級 ①岩松(響南中)・福田(戸畑商高)
②田中(大木中)・生津(城島中)
〈男子単〉 A級 ①成富(八幡西高)
②目野(福岡南女子高)
B級 ①吉嶺(九州大) ②倉谷(九州大)
C級 ①緒方(東宮永小) ②古賀(東福岡養護)
〈40才以上男子単〉 ①副島(九州大)
②古川(教大福中)
〈女子単〉 B級 ①鹿子嶋(教大福中)
②福田(戸畑商高)
【第48回大会】1993(平成５)年
〈男子複〉 A級 ①成富(八幡西高)・坂本(香月中)
②日高・劉(九州大)
B級 ①仰木・藤井(九州大)
②後藤(九州大)・吉住(香椎高)
C級 ①笠野・三俣(久留米高専)
②上野・大浦(小池学園)
〈混合複〉 ①古賀・日高(東福岡養護)
②瀬川・田中(福岡大)
〈女子複〉 A級 ①有田(K.P.幼稚園)・成富(小池学園)
②南(自由ヶ丘中)・吉永(高須幼稚園)
B級 ①山脇(遠賀中)・野中(山田小)
②伊藤(遠賀中)・中村(花見小)
〈男子単〉 A級 ①成富(八幡西高)
②坂本(香月中)
B級 ①吉住(香椎高) ②劉(九州大)
C級 ①岩崎(直方養護) ②三俣(久留米高専)
〈40才以上男子単〉 ①村尾(本城中)
②瀬川(福岡大)
〈女子単〉 A級 ①南(自由ヶ丘中)
②吉永(高須幼稚園)
B級 ①山脇(遠賀中) ②嶋(九州大)
【第49回大会】1993(平成５)年
〈男子複〉 A級 ①吉嶺・木村(九州大)
②副島(九州大)・平田(大牟田高)
B級 ①鹿毛・高山(久留米大)
②野見山(県教委)・妹川(朝倉東高)
C級 ①竹下・加倉井(若松商高)
②塚崎(福岡大)・土田(西南大)
〈40才以上男子複〉 ①松尾・仰木(九州大)
②古川(柳川教委)・横溝(小倉工高)
〈女子複〉 B級 ①伊藤(遠賀中)・中村(花見中)
②田中・嶋(九州大)
〈男子単〉 A級 ①木村(九州大)
②平田(大牟田高)
B級 ①妹川(朝倉東高) ②高山(久留米大)
C級 ①三俣(久留米高専) ②平川(久留米高専)
〈40才以上男子単〉 ①野見山(県教委)
②松尾(九州大)
〈女子単〉 B級 ①田中(九州大) ②嶋(九州大)
【第50回大会】1994(平成６)年
〈男子複〉 A級 ①上野(安徳小)・端野(中間高)
②坂本(香月中)・平田(大牟田高)
B級 ①野見山(北九州学園)・妹川(朝倉東高)
②仰木・松川(九州大)
C級 ①末吉・鹿田(朝倉東高)
②今村・富永(久留米高専)
〈40才以上男子複〉 ①池田(九州芸工大)・副島(九州大) ②古川(柳川教委)・横溝(小倉工高)
〈混合複〉 ①瀬川・土田(福岡大)
②鮎川・田中(九州大)

〈女子複〉 A級 ①宮下(姪浜小)・日高(東福岡養護) ②花田・葛目(九州大)
〈男子単〉 A級 ①坂本(香月中) ②木村(九州大)
B級 ①前田(九州大) ②河野(九州大)
C級 ①松川(九州大) ②細坂(直方養護)
〈40才以上男子単〉 ①副島(九州大)
②日高(九州大)
〈女子単〉 B級 ①土田(西南大) ②葛目(九州大)

【第51回大会】 1994(平成6)年
〈男子複〉 A級 ①坂本(香月中)・平田(大牟田高)
②石橋(歴木中)・藤木(柳河小)
B級 ①水城・高山(久留米大)
②金本・前田(九州大)
C級 ①大浜(宮竹小)・梅林(那珂南小)
②今村・浮島(久留米高専)
〈混合複〉 ①古賀・日高(東福岡養護)
②村尾(八児中)・菊竹(太宰府高)
〈女子複〉 B級 ①熊谷・宮下(久留米大)
②千代島・津留崎(久留米大)
〈男子単〉 A級 ①成富(八幡西高)
②柴崎(芦屋町教委)
B級 ①河野(九州大) ②金本(九州大)
C級 ①中尾(九州大) ②倉谷(九州大)
〈40才以上男子単〉 ①日高(九州大)
②副島(九州大)
〈女子単〉 A級 ①菊竹(太宰府高)
②木下(太宰府北高)

【第52回大会】 1995(平成7)年
〈男子複〉 A級 ①上野(安徳小)・端野(中間高)
②坂本(香月中)・柴崎(東鷹高)
B級 ①妙見(西陵高)・日高(博多工高)
②三俣・善明(久留米高専)
C級 ①大嶋・的場(九州大)
②大浜(宮竹小)・青木(那珂南小)
〈40才以上男子複〉 ①前田・日高(九州大)
②池田・副島(九州大)
〈混合複〉 ①古賀(博多中)・日高(東福岡養護)
②藤本(福岡大)・土田(西南大)
〈女子複〉 B級 ①中村(東郷小)・中村(花見小)
②松島・宮下(姪浜小)
〈男子単〉 A級 ①上野(安徳小) ②端野(中間高)
B級 ①田中(直方養護) ②金本(九州大)
C級 ①的場(九州大) ②黒木(福女大)
〈40才以上男子単〉 ①副島(九州大)
②日高(九州大)
〈女子単〉 A級 ①菊竹(太宰府高)
②土田(西南大)
B級 ①中村(東郷小) ②今村(福岡大)

【第53回大会】 1995(平成7)年
〈男子複〉 A級 ①上野(安徳小)・端野(中間高)
②鹿毛・高山(久留米大)
B級 ①的場・萩尾(九州大)
②前田・中尾(九州大)
C級 ①梅林(那珂南小)・上原(那珂小)
②的場・岩隈(九州大)
〈混合複〉 ①石橋(歴木中)・馬場(伝習館高)
②石松・江島(県教育センター)
〈男子単〉 A級 ①上野(安徳小) ②木村(九州大)
B級 ①高山(久留米大) ②中尾(九州大)
C級 ①松本(九州大) ②梅林(那珂南小)
〈40才以上男子単〉 ①野見山(北九州学園)
②副島(九州大)
〈女子単〉 A級 ①菊竹(太宰府高)
②馬場(伝習館高)

【第54回大会】 1996(平成8)年
〈男子複〉 A級 ①上野(安徳小)・端野(中間高)
②植田(福知高)・柴崎(東鷹高)
B級 ①重松・太田(九州大)
②善明・三俣(久留米高専)
C級 ①下瀬(自由ヶ丘南小)・徳永(八幡南小)
②石松・岡崎(県教育センター)
〈40才以上男子複〉 ①前山・日高(九州大)
②池田・副島(九州大)

〈混合複〉①瀬川・田中(福岡大)
②菊竹(県教育センター)・菊竹(太宰府高)
〈女子複〉A級 ①土田(福岡大)・土田(西南大)
②小林(福岡中央養護)・日高(東福岡養護)
B級 ①葛目・瀬戸(九州大)
②田川・松嶋(姪浜小)
〈男子単〉A級 ①龍頭(久留米高専)
②柴崎(東鷹高)
B級 ①多賀(九州大) ②三俣(久留米高専)
C級 ①浮島(久留米高専) ②徳永(八幡南高)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②横溝(小倉工高)
〈女子単〉A級 ①菊竹(太宰府高)
②土田(西南大)
B級 ①葛目(九州大) ②田中(福岡大)

【第55回大会】1997(平成9)年
〈男子複〉B級 ①善明・三俣(久留米高専)
②日高(博多工高)・安永(九州大)
C級 ①桃坂・重藤(田川農林高)
②今村・浮島(久留米高専)
〈40才以上男子複〉①副島・日高(九州大)
②広瀬(遠賀南中)・柴田(折尾高)
〈混合複〉①中川・徳永(八幡南高)
②菊竹(県教育センター)・菊竹(太宰府高)
〈女子複〉B級 ①長野(貫小)・柿本(苅田小)
②本多・松嶋(姪浜小)
〈男子単〉A級 ①坂本(香月中) ②木村(九州大)
B級 ①重藤(田川農林高) ②三俣(久留米高専)
C級 ①徳永(八幡南高) ②安永(九州大)
〈40才以上男子単〉①釜瀬(小倉南高)
②広瀬(遠賀南中)
〈女子単〉A級 ①菊竹(太宰府高)
②矢野(広渡小)
B級 ①中川(八幡南高) ②長野(貫小)

【第56回大会】1997(平成9)年
〈男子複〉A級 ①瀬部(九州工大)・平野(田川農林高)
②的場・萩尾(九州大)
B級 ①末吉(大牟田高)・鹿田(浮羽工高)
②野田(嘉穂東高)・重藤(田川農林高)
C級 ①日高(福岡中央養護)・竹本(福岡中央養護)
②中野(河東小)・下瀬(自由ヶ丘南小)
〈40才以上男子複〉①池田・副島(九州大)
②鹿毛(久留米大)・副島(九州大)
〈混合複〉①釜瀬(小倉高)・高橋(西南女学院高)
②徳永・中川(八幡南高)
〈女子複〉A級 ①麻崎(大野東中)・川口(九州大)
②菊竹・中原(太宰府高)
B級 ①小林・堀(福岡中央養護)
②松嶋・本多(姪浜小)
〈男子単〉A級 ①瀬部(九州工大)
②日高(博多工高)
B級 ①野中(九州大) ②仲(九州大)
C級 ①末吉(大牟田商高) ②寺尾(久留米高専)
〈40才以上男子単〉①副島(九州大)
②日高(九州大)
〈女子単〉A級 ①高橋(九州大) ②川口(九州大)
B級 ①田中(福岡大) ②中原(太宰府高)

全日本教職員バドミントン選手権大会

【第11回大会 秋田】
〈一般女子団体〉 ③福岡県
【第13回大会 熊本】
〈一般女子団体〉 ③福岡県
【第15回大会 東京】
〈30才男子複〉 ①香島正佳・浜司晃
②野見山弘次・都英幸
〈30才男子単〉 ③中島政人
【第17回大会 宮城】
〈30才男子複〉 ③香島正佳・浜司晃
【第18回大会 福岡】
〈成壮年団体〉 ③福岡県A・福岡県B
〈30才男子単〉 ③中島政人
〈50才男子単〉 ③国宗真
【第21回大会 佐賀】
〈50才男子複〉 ②後藤研・国宗真
【第24回大会 福井】
〈40才男子複〉 ①野見山弘次・鎗水浩吉
【第25回大会 広島】
〈40才男子複〉 ③野見山弘次・鎗水浩吉
【第28回大会 坂出】
〈一般女子団体〉 ③福岡県
〈一般男子複〉 ③荒木秀文・目野俊昭
【第31回大会 熊本】 1992(平成4)年
〈60才男子単〉 ③後藤研
【第32回大会 神奈川】 1993(平成5)年
〈一般男子単〉 ②明神憲一
〈一般男子複〉 ③荒木秀文・明神憲一
【第33回大会 石川】 1994(平成6)年
〈一般男子団体〉 ③福岡県A
〈一般男子単〉 ②明神憲一
〈一般男子複〉 ③荒木秀文・明神憲一
〈一般女子単〉 ③野中亮子
【第34回大会 米子】 1995(平成7)年
〈一般男子団体〉 ③福岡県A
〈30才男子複〉 ①荒木秀文・目野俊昭
〈30才男子単〉 ①荒木秀文
〈50才男子単〉 ③野見山弘次
【第35回大会 千葉】 1996(平成8)年
〈30才男子単〉 荒木秀文

九州地区教職員大会

【第8回大会】 1991(平成3)年
〈一般男子〉 **A複** ③上野・端野(福岡)
〈一般女子〉 **A複** ②富来(大分)・矢野(福岡)
B複 ①野中・山脇(福岡) ②綿貫・吉永(福岡) ③中村・村上(福岡)
単 ①矢野(福岡) ②綿貫(福岡)
混合複 ①村尾(福岡)・矢野(福岡) ②平田(福岡)・平田(福岡)

全国高校総体福岡県予選大会

1967(昭和42)年度
〈男子団体〉 ①明善(定) ②門司北 ③明善 ③大牟田北
〈女子団体〉 ①門司商 ②明善 ③門司北 ④不知火
〈男子複〉 ①麻生 茂・平野志津夫(門司北) ②藤吉正昭・倉八正雄(明善/定) ③田中・島田(明善) ③吉持・田中(小倉商)
〈女子複〉 ①岡村智津子・金子玉江(門司商) ②沖本貴美代・三村美千枝(門司商) ③瀬上・藤岡(不知火) ③川場・池田(小倉西)
〈男子単〉 ①麻生 茂(門司北) ②島田 哲(明善) ③藤吉正昭(明善/定) ③椛島真一(明善)
〈女子単〉 ①前間令子(明善) ②沖本貴美代(門司商) ③三沢百合子(門司北) ③金子玉江(門司商)

1968(昭和43)年度

〈男子団体〉①明善 ②門司北 ③小倉西 ③小倉商

〈女子団体〉①明善 ②門司商 ③門司北 ③信愛女

〈男子複〉①田中賢一・島田　哲(明善) ②竹内　茂・山崎伸一(小倉西) ③伊藤・泉(小倉商) ③小田・田代(小倉西)

〈女子複〉①丸山富江・畠山年子(門司商) ②能丸令子・池尻久美子(明善) ③小野・馬場(明善) ③笈木・藤井(門司商)

〈男子単〉①島田　哲(明善) ②田中賢一(明善) ③山崎真一(小倉西) ③竹内　茂(小倉西)

〈女子単〉①丸山富江(門司商) ②畠山年子(門司商) ③友池由喜枝(九州女) ③笈木千恵子(門司商)

1969(昭和44)年度

〈男子団体〉①明善 ②大牟田北 ③福岡第一

〈女子団体〉①明善 ②門司商 ③九州女 ③築上農

〈男子複〉①桑野隆裕・田島龍太郎(明善) ②内田博志・金坂俊彦(大牟田北) ③松原・中村(小倉西) ③日野・塩地(小倉商)

〈女子複〉①高口節子・太宝未利子(明善) ②馬場真智子・小野佳代子(明善) ③田中・荒川(九州女) ③松永・東城(大牟田北)

〈男子単〉①田島龍太郎(明善) ②桑野隆裕(明善) ③日野孝信(小倉商) ③内田博志(大牟田北)

〈女子単〉①高口節子(明善) ②馬場真智子(明善) ③田中典子(明善) ③太宝未利子(明善)

1970(昭和45)年度

〈男子団体〉①明善 ②大牟田北 ③小倉商 ③明善/定

〈女子団体〉①明善 ②門司商 ③信愛女 ③九州女

〈男子複〉①田島龍太郎・吉富知孝(明善) ②中島武久・国分忠好(明善/定) ③田中英彦・中山孝一(明善)

〈女子複〉①重盛治美・三島雅子(明善) ②安藤多美子・花岡邦子(門司商) ③小川清美・梁瀬艶子(門司商)

〈男子単〉①田島龍太郎(明善) ②井浦比呂巳(八幡西) ③中島武久(明善/定)

〈女子単〉①福田悦子(明善) ②辻　久子(門司北) ③松尾淑子(九州女)

1971(昭和46)年度

〈男子団体〉①明善 ②明善/定 ③小倉商 ③第一商

〈女子団体〉①九州女 ②明善 ③明善/定 ③小倉商

〈男子複〉①田中英彦・中山孝一(明善) ②平山勝美・瀬川秀司(小倉商) ③山口敏幸・広川輝美(小倉商)

〈女子複〉①森山博子・松尾淑子(九州女) ②大森啓子・宮崎紀美子(明善) ③松井圭子・荒井多恵子(明善)

〈男子単〉①井浦比呂巳(八幡西) ②国分忠好(明善/定) ③中山孝一(明善)

〈女子単〉①松尾淑子(九州女) ②宮崎紀美子(明善) ③荒井多恵子(明善)

1972(昭和47)年度

〈男子団体〉①明善/定 ②明善 ③筑邦 ③小倉商

〈女子団体〉①明善 ②九州女 ③門司北 ③小倉西

〈男子複〉①国分忠好・牟田義昭(明善/定) ②緒方正朗・緒方光太郎(明善) ③甲斐田道雄・内田達也(第一商)

〈女子複〉①檜原幸子・石橋美代子(明善) ②高島明美・土屋賢子(明善) ③瀬戸口美子・山本まり子(九州女)

〈男子単〉①国分忠好(明善/定) ②緒方正朗(明善) ③井上若司(明善/定)

〈女子単〉①楢原幸子(明善) ②伊藤文代(九州女) ③高島明美(明善)

1973(昭和48)年度

〈男子団体〉①明善 ②大牟田北 ③明善(定)

〈女子団体〉①九州女 ②小倉商 ③小倉西

〈男子複〉①緒方光太郎・弥永典宏(明善) ②謝　由二・牟田義昭(明善/定) ③中西和典・大塚　剛(明善)

〈女子複〉①山本深雪・山中静香(九州女) ②矢頭佳子・田原美幸(小倉商) ③秦　明美・松末千尋(九州女)

〈男子単〉①弥永典宏(明善) ②緒方光太郎(明善) ③牟田義昭(明善/定)

〈女子単〉①山本深雪(九州女) ②矢頭佳子(小倉商) ③横枕由美(明善)

1974(昭和49)年度

〈男子団体〉①明善(定) ②明善 ③小倉商

〈女子団体〉①九州女 ②筑豊 ③大川

〈男子複〉①大塚　剛・権藤弘則(明善) ②野田　守・内野泰三(大牟田北) ③友田浩一・山口高正(明善/定)

〈女子複〉①横田由美子・馬淵瑞子(大川) ②広門恭子・安達みどり(京都/定) ③植村多美子・高井和子(小倉西)

〈男子単〉①大塚　剛(明善) ②山口高正(明善/定) ③権藤弘則(明善)

〈女子単〉①大城順子(第一商) ②馬淵瑞子(大川) ③諫山妙子(小倉商)

1975(昭和50)年度

〈男子団体〉①山門 ②鞍手 ③小倉商

〈女子団体〉①明善 ②小倉西 ③北九州

〈男子複〉①古賀　蔵・島添静治(山門) ②中原稔典・内野泰三(大川) ③前畑敏幸・柴田繁久(大牟田北)

〈女子複〉①土井鈴子・渡辺ひろみ(北九州) ②縄田ふじ子・中山多美子(小倉西) ③馬淵瑞子・古賀裕見子(大川)

〈男子単〉①中原稔典(大川) ②目野幸光(山門) ③片桐敏則(小倉南)

〈女子単〉①馬淵瑞子(大川) ②中山多美子(小倉西) ③青柳公枝(筑豊)

1976(昭和51)年度

〈男子団体〉①明善 ②山門 ③城南

〈女子団体〉①明善/定 ②九州女 ③小倉西

〈男子複〉①中原　浩・花田憲敬(明善) ②魚谷弘之・古賀孝行(明善) ③島添静治・目野幸光(山門)

〈女子複〉①馬場美智子・園田文恵(明善/定) ②藤木静香・待鳥えりか(大川) ③入江順子・瀬川理恵(北九州)

〈男子単〉①目野幸光(山門) ②古賀　蔵(山門) ③花田憲敬(小倉西)

〈女子単〉①西森ひとみ(小倉西) ②井上明子(九州女) ③錦織広美(小倉西)

1977(昭和52)年度

〈男子団体〉①山門 ②城南 ③小倉南

〈女子団体〉①八幡大附 ②九州女 ③明善

〈男子複〉①古賀　蔵・島添静治(山門) ②長谷川明夫・佐藤和幸(大川) ③山下浩二・重松克利(明善)

〈女子複〉①浦田豊子・西原由美(八幡大附) ②木村由美子・楢原美奈子(明善) ③待鳥えりか・矢加部絹江(大川)

〈男子単〉①目野幸光(山門) ②蘭　和真(城南) ③長谷川明夫(大川)

〈女子単〉①楢原美奈子(明善) ②井上明子(九州女) ③後藤美智恵(小倉商)

1978(昭和53)年度

〈男子団体〉①城南 ②大川 ③鞍手 ③科学技術学園

〈女子団体〉①福岡女 ②京都 ③福岡西陵 ③大川

〈男子複〉①蘭 和真・坂本和哉(城南)
②山田洋二・佐田信行(大川)
③在川茂実・渦巻倫明(科技)
〈女子複〉①大町田淳子・村田佳代(福岡女)
②執行美雪・石川真弓(京都)
③広松久美・古賀まり子(大川)
〈男子単〉①蘭 和真(城南) ②池崎智博(常盤)
③山田洋二(大川)
〈女子単〉①執行美雪(京都) ②大町田淳子(福岡女) ③富永裕美(八幡大附)

1979(昭和54)年度

〈男子団体〉①城南 ②八幡 ③筑紫丘
〈女子団体〉①大川 ②八幡西 ③福岡女
〈男子複〉①中田敏郎・佐藤 誠(城南)
②川上正樹・毛利茂喜(城南)
③江田健三・安武公一(明善)
〈女子複〉①浦野美恵子・松島千恵子(小倉西)
②高田理佐子・江頭さとみ(大川)
③徳野明美・陳 秀華(小倉女)
〈男子単〉①目野芳成(大川工) ②田中慎治(大川) ③倉田和裕(田川東)
〈女子単〉①浦野美恵子(小倉西) ②内田雅子(八幡大附) ③松田博子(八幡大附)

1980(昭和55)年度

〈男子団体〉①山門 ②大川 ③北九州
〈女子団体〉①八幡大附 ②大川 ③福岡女
〈男子複〉①川崎裕一・酒井康一(南筑)
②新木秀文・石倉孝則(山門)
③田中敏宏・判 正浩(筑紫丘)
〈女子複〉①北村雅美・古賀ひとみ(八幡大附)
②馬場久美子・松田博子(八幡大附)
③磯村久美・村田千鶴子(福岡女)
〈男子単〉①目野俊昭(山門) ②近藤公輔(大川)
③西川 誠(鞍手)
〈女子単〉①磯村久美(福岡女) ②北村雅美(八幡大附) ③古賀ひとみ(八幡大附)

1981(昭和56)年度

〈男子団体〉①山門 ②大川 ③北九州 ③戸畑工
〈女子団体〉①八幡大附 ②福岡女 ③大川
③城南
〈男子複〉①榎本龍一・村上保法(北九州)
②藤丸知仁・角 祥太郎(山門) ③与田・水口(戸畑工) ③椎木・宝珠山(北九州)
〈女子複〉①渡部真由美・古賀雅枝(八幡大附)
②小谷真由美・山津英子(八幡大附)
③古賀・吉川(大川) ③小橋・松尾(城南)
〈男子単〉①目野俊昭(山門) ②関 勤也(大川)
③榎本龍一(北九州) ③宇都宮 剛(田川東)
〈女子単〉①渡部真由美(八幡大附)
②上原ゆかり(福岡女)
③小橋利美(城南) ③小谷真由美(八幡大附)

1982(昭和57)年度

〈男子団体〉①北九州 ②大川 ③田川東 ③明善
〈女子団体〉①八幡大附 ②明善 ③鞍手 ③春日
〈男子複〉①中村良之・早野孝宏(田川東)
②久保山洋一・畠山侑夫(鞍手)
③藤田・高松(春日) ③中村・島田(大川工)
〈女子複〉①南 久美子・岩津英子(八幡大附)
②石本真粧子・橋本由美(京都) ③清田・白石(八幡大附) ③米倉・川原(八幡大附)
〈男子単〉①中村正巳(大川工)
②宝珠山竜次(北九州)
③田中哲美(山門) ③山崎正三(田川東)
〈女子単〉①南 久美子(八幡大附)
②岩津英子(八幡大附)
③石本真粧子(京都) ③早川幸恵(春日)

1983(昭和58)年度

〈男子団体〉①田川東 ②春日 ③大川 ③山門
〈女子団体〉①八幡大附 ②春日 ③鞍手 ③大川
〈男子複〉①植松 繁・早野孝宏(田川東)
②渡辺正治・増田 浩(苅田工)
③稲付・御幡(春日) ③松尾・木下(山門)

〈女子複〉①清田香苗・白石恭子(八幡大附)
②早川幸恵・安川小百合(春日) ③宮井・小野(豊前農) ③米倉・川原(八幡大附)
〈男子単〉①戸上政治(大川) ②城島一朗(大牟田南) ③竹下 守(大川) ③山部信太郎(田川東)
〈女子単〉①川原美穂(八幡大附)
②清田香苗(八幡大附)
③早川幸恵(春日) ③岡崎和美(大川工)

1984(昭和59)年度

〈男子団体〉①大川工 ②福岡第一
③山門 ③鞍手
〈女子団体〉①八幡大附 ②豊前農
③春日 ③福岡女
〈男子複〉①横地永年・宇都宮弘之(大川)
②西田義弘・龍　貞行(大川工) ③古賀・酒見(大川工) ③山田・広本(大川工)
〈女子複〉①川原美穂・白石恭子(八幡大附)
②田島由美・田村富士美(八幡大附) ③甲斐・上野(福岡女) ③藤原・間庭(八幡大附)
〈男子単〉①大石周司(春日) ②山田將広(大川)
③西本淳一(八幡大附) ③山口正史(八幡大附)
〈女子単〉①白石恭子(八幡大附) ②川原美穂(八幡大附) ③平井扶由子(鞍手) ③田村富士美(八幡大附)

1985(昭和60)年度

〈男子団体〉①春日 ②八幡大附 ③福大附大濠
③鞍手
〈女子団体〉①八幡大附 ②精華女 ③春日 ③大里
〈男子複〉①松永圭五・武藤保雄(春日)
②山口正史・早野裕之(八幡大附)
③末永・原(久留米) ③宮崎・小寺(大牟田南)
〈女子複〉①田島由美・田村富士美(八幡大附)
②藤原有紀子・間庭由美(八幡大附)
③高崎・長崎(春日) ③藤・木村(精華女)
〈男子単〉①末永幸司(久留米)
②宮崎　剛(大牟田南)
③小寺　勝(大牟田南) ③梅崎智行(大川)
〈女子単〉①田村富士美(八幡大附)
②田島由美(八幡大附) ③小島泰子(東筑紫短大附) ③平井扶由子(鞍手)

1986(昭和61)年度

〈男子団体〉①八幡大附 ②山門 ③春日
③福大附大濠
〈女子団体〉①八幡大附 ②精華女 ③田川東
③小倉西
〈男子複〉①荒木邦夫・長瀬幹彦(山門)
②白石貢一・福島勝吾(八幡大附) ③光安・稲富(福岡第一) ③松本・福田(小倉工)
〈女子複〉①田島由美・田村富士美(八幡大附)
②藤原有紀子・三原千恵子(八幡大附) ③長浜・崎本(八幡大附) ③木村・肥山(精華女)
〈男子単〉①吉田義利(福大附大濠)
②山本浩二(福大附大濠)
③白石貢一(八幡大附) ③稲田明弘(大牟田)
〈女子単〉①田村富士美(八幡大附)
②藤原有紀子(八幡大附)
③渡辺順子(精華女) ③田島由美(八幡大附)

1987(昭和62)年度

〈男子団体〉①八幡大附 ②福大附大濠 ③大川
③明善
〈女子団体〉①精華女 ②八幡大附 ③小倉西
③九州女
〈男子複〉①伊藤　誠・平井宏樹(八幡大附)
②四方　学・吉田義利(福大附大濠) ③明神・三浦(八幡大附) ③坂崎・竹井(福大附大濠)
〈女子複〉①高橋さと・米山敦子(小倉西)
②渡辺順子・川鍋真由美(精華女) ③坂本・占部(八幡大附) ③三原・三角(八幡大附)
〈男子単〉①吉田義利(福大附大濠)
②明神憲一(八幡大附)
③稲田明弘(大牟田) ③伊藤誠(八幡大附)

〈女子単〉①渡辺順子(精華女)
②坂本春美(八幡大附)
③川鍋真由美(精華女) ③渋野真由美(精華女)

1988(昭和63)年度

〈男子団体〉①八幡大附 ②福大附大濠 ③大川 ③大牟田
〈女子団体〉①八幡大附 ②精華女 ③小倉西 ③田川東
〈男子複〉①吉田・竹井(福大附大濠)
〈女子複〉①坂本・占部(八幡大附)
〈男子単〉①吉田義利(福大附大濠)
〈女子単〉①坂本春美(八幡大附)

1989(平成1)年度

〈男子団体〉①福大附大濠 ②八幡大附
③九州国際大附 ③福岡第一
〈女子団体〉①九州国際大附 ②精華女 ③九州女 ③田川東
〈男子複〉①藤村・中森(八幡大附)
〈女子複〉①中村・伊藤(精華女)
〈男子単〉①満石忠博(九州国際大附)
〈女子単〉①伊藤亜紀子(精華女)

1990(平成2)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②八幡西 ③大牟田 ③鞍手
〈女子団体〉①九州国際大附 ②精華女 ③田川東 ③伝習館
〈男子複〉①松澤・桑野(福大附大濠)
〈女子複〉①野中・桜本(九州国際大附)
〈男子単〉①吉武祐史(八幡西)
〈女子単〉①大島喜代美(精華女)

1991(平成3)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②福大附大濠
③福岡第一 ③八幡西
〈女子団体〉①九州国際大附 ②精華女
③九州女 ③北九州
〈男子複〉①川合・満石(九州国際大附)
〈女子複〉①吉永・安川(精華女)
〈男子単〉①川合文太(九州国際大附)
〈女子単〉①野中亮子(九州国際大附)

1992(平成4)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②福岡第一
③福大附大濠 ③八幡西
〈女子団体〉①精華女 ②九州国際大附 ③九州女 ③春日
〈男子複〉①村田・末次(九州国際大附)
〈女子複〉①坂本・吉富(精華女)
〈男子単〉①村田真之助(九州国際大附)
〈女子単〉①堀　裕子(精華女)

1993(平成5)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②八幡西
③福大附大濠 ③伝習館
〈女子団体〉①精華女 ②九州国際大附
③福岡南女子 ③北九州
〈男子複〉①杉本・蜂屋(九州国際大附)
〈女子複〉①岩本・吉富(精華女)
〈男子単〉①川合大咲(九州国際大附)
〈女子単〉①秋武さとみ(精華女)

1994(平成6)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②福大附大濠
③福岡第一 ③九州共立大八幡西
〈女子団体〉①九州国際大附 ②精華女
③行橋 ③春日
〈男子複〉①秋山・小澤(八幡西)
〈女子複〉①長谷部・吉富(精華女)
〈男子単〉①秋山龍修(八幡西)
〈女子単〉①吉武由加利(九州国際大附)

1995(平成7)年度

〈男子団体〉①九州国際大附 ②福大附大濠
③福岡第一 ③九州共立大八幡西
〈女子団体〉①精華女 ②九州国際大附
③福岡南女子 ③九州女子
〈男子複〉①野崎・田中(福大附大濠)

〈女子複〉①吉富・大石(精華女)
〈男子単〉①宗野智志(福大附大濠)
〈女子単〉①森　かおり(九州国際大附)

全九州高等学校体育大会

【第１回大会】1966(昭和41)年度
〈男子団体〉③大牟田北高校
〈女子団体〉②門司商業高校
〈男子複〉③吉田・小野(小倉商業)
【第３回大会】1968(昭和43)年度
〈男子団体〉②明善高校
〈男子複〉①島田・田中(明善高校)
〈男子単〉③島田　哲(明善高校)
【第４回大会】1969(昭和44)年度
〈女子団体〉③明善高校
〈男子複〉③桑野・田島(明善)
【第５回大会】1970(昭和45)年度
〈男子団体〉②明善高校
〈女子団体〉②明善高校
【第６回大会】1971(昭和46)年度
〈男子団体〉②明善高校
〈女子団体〉②九州女子高校
〈男子単〉②国分忠好(明善/定)
〈女子単〉③宮崎紀美子(明善)
【第７回大会】1972(昭和47)年度
〈男子単〉③国分忠好(明善/定)
【第８回大会】1973(昭和48)年度
〈男子団体〉③明善高校
【第11回大会】1976(昭和51)年度
〈男子団体〉③明善高校
【第12回大会】1977(昭和52)年度
〈男子団体〉③山門高校
〈男子複〉③古賀・島添(山門)
【第13回大会】1978(昭和53)年度
〈男子複〉③蘭・坂本(城南)
【第17回大会】1982(昭和57)年度
〈男子単〉③中村正巳(大川工業)
【第18回大会】1983(昭和58)年度
〈女子団体〉③八幡大附属高校
【第19回大会】1984(昭和59)年度
〈男子団体〉③大川工業高校
〈女子団体〉③八幡大附属高校
〈女子複〉③田島・田村(八幡大附)
【第21回大会】1986(昭和61)年度
〈女子団体〉③八幡大附属高校
〈女子複〉②田島・田村(八幡大附)
〈女子単〉②田村富士美(八幡大附)
【第22回大会】1987(昭和62)年度
〈男子団体〉③八幡大附属高校
〈女子団体〉③精華女子高校
〈男子単〉③吉田義利(福大附大濠)
【第23回大会】1988(昭和63)年度
〈男子団体〉③八幡大附属高校
〈女子団体〉③精華女子高校
〈男子複〉②伊藤・平井(八幡大附)
③竹井・吉田(福大附大濠)
〈男子単〉①吉田義利(福大附大濠)
③伊藤　誠(八幡大附)
【第24回大会】1989(平成１)年度
〈男子複〉③藤村・中森(八幡西)
〈女子複〉③中村・伊藤(精華女子)
【第25回大会】1990(平成２)年度
〈男子団体〉③九州国際大附属
③福大附大濠高校
〈女子複〉③野中・桜本(九国大附)
〈男子単〉③満石忠博(九国大附)
【第26回大会】1991(平成３)年度
〈男子団体〉②福大附大濠高校
③九州国際大附属
〈男子複〉③川合・満石(九国大附)
〈女子複〉②野中・伊藤(九国大附)
〈男子単〉③川合文太(九国大附)
〈女子単〉③野中亮子(九国大附)

【第27回大会】1992(平成４)年度
〈男子団体〉②九州国際大附属
【第28回大会】1993(平成５)年度
〈男子団体〉③九州国際大附属 ③八幡西高校
〈女子団体〉③九州国際大附属
〈男子複〉①副島・古賀(福大附大濠)
〈女子複〉①吉富・岩本(精華女子)
③秋武・吉武(九国大附)
〈男子単〉②楠野隆行(九国大附)
③川合大咲(九国大附) ③蜂屋八須彦(九国大附)
〈女子単〉③吉武由佳利(九国大附)
【第29回大会】1994(平成６)年度
〈女子団体〉②九州国際大附属 ③精華女子
〈男子複〉③小澤・秋山(八幡西)
〈女子複〉②長谷部・吉富(精華女子)
③吉武・小早川(九国大附)
【第30回大会】1995(平成７)年度
〈男子団体〉②福大附大濠高校
〈女子団体〉③九州国際大附属
〈男子単〉③宗野智志(福大附大濠)
〈女子単〉①吉富明子(精華女子)
③稗田華子(九国大附)

全国高等学校総合体育大会 全国高等学校バドミントン選手権大会

【第39回大会】1988(昭和63)年度
〈男子単〉③伊藤　誠(八幡大附)
【第43回大会】1992(平成４)年度
〈女子複〉②坂本・吉富(精華女)
【第44回大会】1993(平成５)年度
〈女子単〉③秋武さとみ(九州国際大附)
【第45回大会】1995(平成７)年度
〈女子複〉③大石・吉富(精華女)
〈女子単〉③森　かおり(九州国際大附)

全九州高等学校選抜大会

1985(昭和60)年度
〈女子団体〉③八幡大附属高
〈女子複〉②田村富士美・田島由美(八幡大附)
〈男子単〉②長瀬(山門高)
〈女子単〉①田村富士美(八幡大附)

全国高等学校選抜大会

【第14回大会】1985(昭和60)年度
〈女子団体〉①八幡大附属高
〈女子単〉③田村富士美(八幡大附)
【第21回大会】1993(平成５)年度
〈男子団体〉⑤九州国際大附属高
〈男子複〉⑤杉本聖太・蜂屋八須彦(九国大附)
〈女子複〉③吉富桂子・岩本麻衣子(精華女)

全日本高等専門学校選手権大会

【第6回大会】1982(昭和57)年度
〈男子複〉③小野隆則・小島克(北九州高専)

九州中学校競技大会

【第20回大会】1991(平成３)年
〈男子〉単①川合大作(岡垣中)
〈女子〉単③船越千恵子(三宅中)
④吉武由加里(新津中)

全九州小学生大会

【第９回大会】1992(平成４)年
〈男子〉複①岩下・岡田(福岡)
６年生単③池田(福岡)③内田(福岡)
〈女子〉複②木下・大塚(福岡)
６年生単①三好(福岡) ５年生単③奥村(福岡)
４年生以下単②三根(福岡)

全九州小学生大会福岡県予選会

【第 8 回大会】1991(平成 3)年
〈男子〉 複①河野・武智(筑豊)
6 年生単①浅野(筑豊) 5 年生単①池田(筑豊)
4 年生以下単①西原(福岡)
〈女子〉 複①吉永・安永(筑豊)
6 年生単①田代(筑豊) 5 年生単①三好(筑豊)
4 年生以下単①野村(筑豊)

福岡県小学生選抜大会

【第 3 回大会】1984(昭和59)年
〈男子〉 6 年生複①寺本・中村(筑豊)
単①中村(筑豊) 5 年生複①松尾・木葉(筑後)
単①松尾(筑後) 4 年生複①満石・川合(筑豊)
単①満石(筑豊)
〈女子〉 6 年生複①桜本・田中(北九)
単①桜本(北九) 5 年生複①吉田・大嶋(筑豊)
単①吉田(筑豊) 4 年生複①野中・青柳(筑豊)
単①野中(筑豊)
【第 4 回大会】1985(昭和60)年
〈男子〉 6 年生複①石津・高野(北九)
単①石津(北九) 5 年生複①満石・川合(筑豊)
単①満石(筑豊) 4 年生複①村田・末岡(筑豊)
単①村田(筑豊)
〈女子〉 6 年生複①大嶋・吉田(筑豊)
単①大嶋(筑豊) 5 年生複①野中・青柳(筑豊)
単①野中(筑豊) 4 年生複①安川・益野(筑豊)
単①安川(筑豊)
【第 5 回大会】1986(昭和61)年
〈男子〉 6 年生複①川合・満石(筑豊)
単①満石(筑豊) 5 年生複①末岡・村田(筑豊)
単①村田(筑豊)
〈女子〉 6 年生複①赤星・野中(筑豊)
単①蜂屋(筑豊) 5 年生複①安川・益野(筑豊)
単①安川(筑豊)
【第 6 回大会】1987(昭和62)年
〈男子〉 6 年生複①林・村田(筑豊)
単①村田(筑豊) 5 年生複①杉本・吉村(筑豊)
単①蜂屋(筑豊) 4 年生複①川合・菊地(筑豊)
単①秋山(福岡)
〈女子〉 6 年生複①安川・益野(筑豊)
単①安川(筑豊) 5 年生複①牛嶋・秋武(筑豊)
単①牛嶋(筑豊) 4 年生複①吉武・花見(筑豊)
単①船越(福岡)
【第 7 回大会】1988(昭和63)年
〈男子〉 6 年生複①楠野・杉本(筑豊)
単①蜂屋(筑豊) 5 年生複①川合・菊地(筑豊)
単①秋山(福岡) 4 年生複①河井・千手(筑豊)
単①林(筑豊)
〈女子〉 6 年生複①小川・小早川(筑豊)

全日本シニア選手権大会

【第 8 回大会】1991(平成 3)年
〈男子〉30歳以上単①沙海平 50歳以上
単⑤北田葆光 60歳以上単⑤宮部五郎
【第 9 回大会】1992(平成 4)年
〈男子〉30歳以上複③北田葆光・沙海平
60歳以上単⑤宮部五郎
【第10回大会】1993(平成 5)年
〈男子〉30歳以上複③北田葆光・沙海平

全日本ジュニア選手権大会

【第12回大会】1993(平成 5)年
〈男子〉ジュニア単⑤川合大咲(岡垣中)
〈女子〉中学新人単①森かおり(城南中)
【第13回大会】1994(平成 6)年
〈男子〉中学新人単⑤岩下裕一(三宅中)
〈女子〉中学新人単⑤木村佳苗(岡垣中)

全九州社会人選手権大会

【第31回大会】1985(昭和60)年
〈女子〉青年複①桶本(日本生命)・石井(北九州ク) ③磯村・中村(ベスト電器)
青年単②桶本(日本生命) ③磯村(ベスト電器)
〈混合〉複①浜司・香月(直方ク)
【第33回大会】1987(昭和62)年
〈男子〉青年複①山田・東(ベスト電器) 単③山田(ベスト電器) 30歳以上複②日高(九大ク)・中村(東区ク) 単③中村(東区ク) 40歳以上複②野見山(県庁)・副島(九大ク)
〈女子〉青年複③磯村・藤(ベスト電器) 単③磯村(ベスト電器) 40歳以上単②宮部(早良区)
【第34回大会】1988(昭和63)年
〈男子〉一般複③山田・東(ベスト電器) 30歳以上複②日高(九大ク)・中村(福間町役場)
40歳以上複②副島(九大ク)・野見山(筑紫野市) 単②副島(九大ク) 50歳以上複②宮部(九州相互銀)・松本(宮崎市) 単③宮部(九州相互銀)
〈女子〉一般複③藤・渡辺(ベスト電器)③崎本・田頭(同) 単②藤(ベスト電器)
【第35回大会】1989(平成1)年
〈男子〉一般複③沙・石井(ベスト電器)③椋本(西部ガス)・堀(雪印) 単③沙(ベスト電器) 30歳以上複②浜司(直方ク)・馬場(諫早ク) 単①伊藤(ＪＲ九州) 40歳以上複①副島・池田(九大ク)②津留崎(久留米)・銘苅(春日協会) 単②森(ベスト電器) 50歳以上複①後藤(九大ク)・村尾(本城中) 単①村尾(本城中)
〈女子〉一般複②清水・田頭(ベスト電器) 単①清水(ベスト電器) 30歳以上複①桶本(日本生命)・有田(北九州ク) 単①桶本(日本生命)②嶋田(玄界) 50歳以上複①岩本(新幹線ク)・橋本(篠栗ク)②友永・西大篠(若久ク)③江原・中嶋(百道ク)
【第36回大会】1990(平成2)年
〈男子〉一般複①東・石井(ベスト電器)②山田・石田(同)③中村(西銀)・椋本(西部ガス) 単①沙(同)②松浦(同)③中村(西銀) 30歳以上複②浜司(直方ク)・岸垣(豊前ク) 単③岸垣(豊前ク) 40歳以上複③副島・池田(九大ク) 単③森(ベスト電器) 50歳以上単②村尾(本城中)③宮部(九州銀)
〈女子〉一般複①清水・田頭(ベスト電器)
40歳以上複②藤・伊藤(同)
〈混合〉複①藤本・米山(ベスト電器)②桜井・真名子(同)③松浦・渡辺(同)
【第37回大会】1991(平成3)年
〈男子〉一般複①沙・徐(ベスト電器)③山田・石田(同) 単①徐(ベスト電器)③松浦(同)
30歳以上単③岸垣(豊前ク) 40歳以上複①副島・森(ベスト電器) 50歳以上複①香島(南長崎小)・木下(シティ銀) 単①北田(ベスト電器)
〈女子〉一般複①渡辺・片岡(ベスト電器)
40歳以上複③瓜生・井本(百道ク) 50歳以上複②山崎・中村(百道ク)
〈混合〉複①許・米山(ベスト電器)②山田・真名子(同)③尾上・小森(同)
【第38回大会】1992(平成4)年
〈男子〉青年複①徐・許(ベスト電器)③山田・石田(同) 単①許(同)②松浦(同)③石井(同)
30歳以上複①北田・沙(同)③浜司・榎田(豊前ク) 単②岸垣(豊前ク)③上村(同) 40歳以上単③浜司(直方ク) 50歳以上複③木下(福岡シティ銀)・香島(南長崎小) 単②北田(ベスト電器) 60歳以上複①宮部(栄泉ク)・後藤(九大ク) 単①宮部(栄泉ク)
〈女子〉青年複①桜本・川添(ベスト電器)②金・

片渕(同) 単①金(ベスト電器) 40歳以上複②鬼木・若狭(百道ク) 50歳以上複①山崎・中村(同)

〈混合〉 複③山田・手島(ベスト電器)③金城・長野(同)

中国・四国・九州学生選手権大会

【第25回大会】1986(昭和61)年

〈男子〉 団体①福岡大A 複①中村・桜井(久留米大)②東・山田(福岡大)③松川・宮崎(同) 単①中村(久留米大)②三次(福岡大)③野中(同)

〈女子〉 団体①福岡大A②東筑紫短大 複①宮崎・早川(福岡大) 単②早川(福岡大)③宮崎(同)

全九州総合選手権大会

【第33回大会】1986(昭和61)年

〈男子〉 複③椋本・南(福岡) 単③中村(福岡)

〈女子〉 複②浜・白石(福岡) 単③早川(福岡)

〈混合〉 複①一松・松本(福岡)③冨村・石本(福岡)

【第34回大会】1987(昭和62)年

〈男子〉 複①権藤(第一高)・堺(東野中) ②佐田・中村(西銀) ③松川・宮崎(福岡大)

〈混合〉 複②一松・松本(豊前ク)

【第37回大会】1990(平成2)年

〈男子〉 複②中村・荒木(福岡) 単②中村(福岡)

〈女子〉 複①清水・田村(福岡) 単②田村(福岡)

【第39回大会】1992(平成4)年

〈男子〉 複①藤原・水島(福岡) ②山田・石田(福岡)

〈女子〉 複③清水・田頭(福岡)

〈混合〉 複②椋本(福岡)・山崎(大分)

福岡県社会人大会

【第7回大会】1984(昭和59)年

〈男子〉 一般複①伊藤・安藤(国鉄小倉) 単①佐田(西銀) 30歳以上複①水摩・山本(直方) 単①鎗水(浮羽ク) 40歳以上複①平井・大鳥(田川協会) 単①前田(浮羽ク) 50歳以上複①安部・黒木(原北ク)単①中川(豊前市役所)

〈女子〉 一般複①北村・阿武屋(西銀) 単①浜崎(大牟田ク) 30歳以上複①酒井・山下(水鳥ク) 40歳以上複①財部(若久ク)・南(高見ク)

〈混合〉 ①八色・米倉(あいしんスポーツ)

【第8回大会】1985(昭和60)年

〈男子〉 一般複①佐田(西銀)・奥山(ベスト電器) 単①佐田(西銀) 30歳以上複①水摩(鞍手)・山本(直方) 単①内山(ヤング若松) 40歳以上複①和田(鞍手)・水田(直方) 単①副島(九大ク) 50歳以上複①阿部・山田(どんぐりク) 単①柴田(福岡東ク)

〈女子〉 一般複①桶本(日本生命)・石井(新北九ク) 単①石井(新北九ク) 30歳以上複①酒井・小野(水鳥ク) 単①高尾(ヤング若松) 40歳以上複①山田・利根(宗像ク) 単①宮部(原北ク)

〈混合〉 ①真谷・里(住友金属)

【第9回大会】1986(昭和61)年

〈男子〉 一般複①目野・荒木(三橋ク) 単①目野(同) 30歳以上複①野田(三井東圧)・小宮(大牟田ク) 単①小宮(同) 40歳以上複①副島(九大ク)・池田(福岡南区) 単①新見(美和台ク) 50歳以上複①黒木・宮部(九州相互銀) 単①宮部(同)

〈女子〉 一般複①浜・高見(西銀) 単①藤(ベスト電器) 30歳以上複①高尾・鶴(若松ヤングプラザ) 単①高尾(同) 40歳以上複①宮部・

山下(原北ク) 単①堀(若松ヤングプラザ)
〈混合〉①原・田中(大牟田バド協会)
【第10回大会】1987(昭和62)年
〈男子〉一般複①佐田・中村(西銀) 単①椋本(西部ガス) 30歳以上複①浜司・井浦(直方ク) 単①浜司(同) 40歳以上複①赤木・福田(百道ク) 単①新美(美和台ク) 50歳以上複①木下(福相銀)・中村(百道ク) 単①宮部(九州相互銀)
〈女子〉一般複①石井(さつき会)・完山(芦屋ク) 単①磯村(ベスト電器) 30歳以上複①江口(百道ク)・西(東ク) 単①高尾(若松ヤング) 40歳以上複①山崎・福田(百道ク) 単①堀(若松ヤング)
〈混合〉①一松・松本(豊前ク)
【第11回大会】1988(昭和63)年
〈男子〉青年複①佐田・中村(西銀) 単①中村(同) 30歳以上複①浜司(直方協)・馬場(飯塚協) 単①馬場(飯塚協) 40歳以上複①副島・池田(九大ク) 単①新美(美和台ク) 50歳以上複①宮部(九州相互銀)・黒木(太宰府ク) 単①宮部(九州相互銀)
〈女子〉青年複①崎本・田頭(ベスト電器) 単①渡辺(同) 30歳以上複①浜司(直方協)・矢野(芦屋ク) 単①矢野(芦屋ク) 40歳以上複①相川(築城自衛)・松本(豊前ク) 単①堀(若松ヤングプラザ)
〈混合〉①八色・米倉(あいしんスポーツ)
【第12回大会】1989(平成1)年
〈男子〉青年複①沙・山田(ベスト電器) 単①沙(同) 30歳以上複①野田・入江(三井東圧) 単①村上(アサヒコ) 40歳以上複①津留崎(大善寺)・銘苅(春日協) 単①森(ベスト電器) 50歳以上複①宮部(九州相互銀)・黒木(太宰府ク) 単①寺岡(苅田協)
〈女子〉青年複①清水・田頭(ベスト電器) 単①清水(同) 40歳以上複①江原・中嶋(百道ク)
〈混合〉①真谷・里(住友金属)
【第13回大会】1990(平成2)年
〈男子〉青年複①藤本・桜井(ベスト電器) 単①石井(同) 30歳以上複①野田(三井東圧)・小宮(大牟田ク) 単①小宮(大牟田ク) 40歳以上複①江口(日産自)・城井(宇部興産) 単①森(ベスト電器) 50歳以上複①阿部・山田(どんぐりク) 単①片山(住友金属)
〈女子〉青年複①白石(西銀)・南(九国大付属) 単①米山(ベスト電器) 30歳以上複①浜司・太田(直方ク)
【第14回大会】1991(平成3)年
〈男子〉青年複①東・石井(ベスト電器) 単①石井(同) 30歳以上複①野田(三井東圧)・小宮(大牟田ク) 単①岸垣(豊前ク) 40歳以上複①大窪・川述(春日ク) 単①浜司(直方ク)
〈女子〉青年複①川添・桜本(ベスト電器) 単①米山(同) 30歳以上複①武藤(とびうめク)・秋山(宗像ク) 40歳以上複①山崎・福田(百道ク)
【第15回大会】1992(平成4)年
〈男子〉青年複①中村・宮崎(西銀) 単①中村(西銀) 30歳以上複①沙・北田(ベスト電器) 単①小宮(大牟田ク) 40歳以上複①津留崎(大善寺)・西見(吉井体協) 単①田島(明善羽球) 50歳以上複①河野(県庁)・下村(堤ク) 単①細川(福岡市)
〈女子〉青年複①牛島・川添(ベスト電器) 単①川添(同) 30歳以上複①脇本(美和台ク)・梅田(千早ク) 40歳以上複①山崎・山崎(百道ク) 単①越智(福岡女子大ク)
〈混合〉①森・真名子(ベスト電器)
【第17回大会】1994(平成6)年
〈男子〉青年複①中村・五十嵐(ベスト電器) 単①五十嵐(同) 30歳以上複①北田・沙(同) 単①榎田(豊前ク) 40歳以上複①山内・内山(若松ヤング・ＪＲ九州) 単①浜司(直方ク)

50th Anniversary

50歳以上複①下村・河野(堤ク・県庁) 単①北田(ベスト電器)
〈女子〉青年複①田頭・石垣(ベスト電器) 単①佐藤(同) 40歳以上複①山崎・若狭(百道ク)

バドミントン日本リーグ

【第12回大会】1990(平成2)年
〈2部大会〉②ベスト電器女子
【第14回大会】1992(平成4)年
〈2部大会〉①ベスト電器女子
【第15回大会】1993(平成5)年
〈2部大会〉①ベスト電器男子
①ベスト電器女子
【第16回大会】1994(平成6)年
〈1部大会〉⑦ベスト電器男子
⑧ベスト電器女子
【第17回大会】1995(平成7)年
〈1部大会〉④ベスト電器男子

全日本社会人バドミントン選手権大会

【第33回大会】1991(平成3)年
〈女子〉複②清水尚美(ベスト電器)・田村富士美(ヨネックス)

全九州実業団選手権大会

【第31回大会】1985(昭和60)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器／②西日本銀行A
【第32回大会】1986(昭和61)年
〈男子〉②福岡市役所
〈女子〉①西日本銀行
【第35回大会】1989(平成1)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉②ベスト電器
【第38回大会】1992(平成4)年
〈男子〉①ベスト電器／③西日本銀行
〈女子〉②ベスト電器
【第39回大会】1993(平成5)年
〈男子〉①ＹＫＫ九州／②ベスト電器
〈女子〉①ＮＥＣ九州／②ベスト電器
【第40回大会】1994(平成6)年
〈男子〉①ＹＫＫ九州／②ベスト電器
〈女子〉①ＮＥＣ九州／②ベスト電器
【第41回大会】1995(平成7)年
〈男子〉①ＹＫＫ九州／②ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器／②ＮＥＣ九州
【第42回大会】1996(平成8)年
〈男子〉①ＹＫＫ九州／②ベスト電器
〈女子〉①ＮＥＣ九州／②ベスト電器

全日本実業団選手権大会

【第41回大会】1991(平成3)年
〈女子〉⑤ベスト電器
【第44回大会】1994(平成6)年
〈男子〉⑤ベスト電器
〈女子〉⑤ベスト電器

福岡県実業団大会

【第28回大会】1984(昭和59)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①西日本銀行
【第29回大会】1985(昭和60)年
〈男子〉①国鉄小倉A
〈女子〉①西日本銀行
【第30回大会】1986(昭和61)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①西日本銀行
【第31回大会】1987 (昭和62)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第32回大会】1988(昭和63)年
〈男子〉①ベスト電器
【第33回大会】1989(平成1)年
〈男子〉①ベスト電器
【第34回大会】1990(平成2)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第35回大会】1991(平成3)年
〈男子〉①ベスト電器

福岡県実業団選手権大会　リーグ戦

【第1回大会】1993(平成5)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第2回大会】1994(平成6)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第3回大会】1995(平成7)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第4回大会】1996(平成8)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器

福岡県実業団選手権大会 トーナメント戦

【第1回大会】1993(平成5)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第2回大会】1994(平成6)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第3回大会】1995(平成7)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器
【第4回大会】1996(平成8)年
〈男子〉①ベスト電器
〈女子〉①ベスト電器

50th Anniversary

参考資料および引用文献

「福岡県体育協会史」
「福岡県体育協会50年史」
「30年の歩み　（財）北九州市体育協会30年史」
「バドミントンマガジン」（ベースボール・マガジン社）
「福岡県バドミントン協会10年史」
「福岡県バドミントン協会30年のあゆみ」
「毎日新聞」
「夕刊フクニチ」
「新日本スポーツ新聞」
「西日本新聞」

資料提供者（50年史編集委員以外）

和田　寿　　平木　武美　　今雪美千恵　　淵上　秀紀　　浜司　晃
楠本百合子　　伊藤　篤治　　後藤　研　　松島　慧　　山本　一雄
山下　哲也　　田中　英彦　　細川　孝雄　　吉田　信子　　江崎　千鶴

編　集　後　記

□　1996（平成８）年３月20日、この「福岡県バドミントン協会50年史」の編纂は始まった。県協会のことについて全く無知であった私は、とにかく手探りで資料を集め、それまで存じ上げなかった方々に執筆依頼や聞き取り取材、そして資料請求を行った。途中こんな失敗があった。返却期日が大変遅れていた資料をあわてて返送したら、樽野さんに返却しなければならない資料を桶本さんに送ってしまい、双方からお叱りを受けてしまった。（深謝）

□　福岡県バドミントン協会の半世紀の歩みを纏めた。この半世紀は第二次世界大戦後の激動の昭和に始まり、元号が代わった平成も10年を迎えようとしている。その中にあって福岡県バドミントン協会は着々と歩みを進めてきた。その努力は正しく継承しなければならない。

□　よく歴史はステンドグラスにたとえられる。一枚一枚形も色も違うガラスを並べ、ひとつの作品に仕上げるように、過去の事実をその色ガラスのように並べ、ひとつの歴史を作る。しかしながらそのガラスは当為としてその色と形を呈している。その姿をこの50年史全体に見てほしい。

□　ここに50年史を上梓するにあたり、多くの方々に写真や資料を提供していただき、感謝の意を表します。また編集にあたって、原稿を執筆してくださった編集委員はもとより関係者各位には、心より御礼を申し上げたい。さらに編集の補佐として「栄光の記録」のほとんどを纏めてくださった土田珠紀さん、入手不可能と思われた和田寿編「福岡県バドミントン協会10年史」（松島慧氏が所有していた）を探し当ててきた高尾孔氏、原稿提出が相当に遅れて時間との競争であったにも関わらず、大変に丁寧で正確な作業をしてくださった正光印刷（株）には、特に御礼を申し上げたい。

福岡県バドミントン協会50年史編集委員長
藤　本　俊　史

福岡県バドミントン協会50年史編集委員

編集委員長	藤本俊史		
編集委員	横溝安伸	野見山弘次	苣木　章
	村尾　隆	市川之善	小川末子
	小谷桂一	緒方蓉子	

福岡県バドミントン協会50年史

1997年10月20日　印刷
1997年10月31日　発行
編集／福岡県バドミントン協会50年史編集委員会
発行／福岡県バドミントン協会
〒810　福岡市中央区天神１丁目８番１号
印刷／正光印刷株式会社
〒891－03　福岡市西区周船寺3-28-1